

令和2（2020）年度
伊丹市人権・男女共同参画に関する
市民意識調査結果報告書

令和3年（2021年）2月

伊丹市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果のまとめ（人権）	3
1	人権全般について	3
2	人権啓発について	4
III	調査結果のまとめ（男女共同参画）	5
1	男女共同参画について	5
2	セクハラ・DVについて	6
IV	調査結果	8
(1)	人権問題について	8
(2)	男女共同参画について	84
(3)	セクハラ・DV（配偶者・恋人などからの暴力）について	120
(4)	人権・男女共同参画に関する市の施策について	135
(5)	回答者属性	139
V	自由記述	148
VI	調査票	149

I 調査の概要

1 調査の目的

人権と男女共同参画に関する市民意識の現状を把握するとともに、今後の人権教育・啓発推進に関する基本方針及び男女共同参画計画の推進・見直しの基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

伊丹市在住の15歳以上を無作為抽出

3 調査期間

令和2年（2020年）10月13日から令和2年（2020年）11月12日
※これ以降は、元号で表記しています。

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000通	1,384通	46.1%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、クロス項目に回答していない人を除いているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。（例えば、性別のクロス集計の場合、性別の間に無回答の人は除外されるため、「男性」「女性」「その他」それぞれの計と全体の回答者数とは異なります。）なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

- ・過去調査との比較で参照した調査は、下表のとおりです。

分野	比較対象	実施調査
人権問題	平成 27 年度調査	伊丹市人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書 (平成 28 年 2 月発行)
	平成 21 年度調査	伊丹市人権に関する市民意識調査結果報告書 (平成 22 年 2 月発行)
	兵庫県調査	人権に関する県民意識調査調査結果報告書 (平成 31 年 3 月発行)
	全国調査	人権擁護に関する世論調査 (平成 29 年 10 月調査)
男女共同参画	平成 27 年度調査	伊丹市人権・男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書 (平成 28 年 2 月発行)
	兵庫県調査	第 2 回県民モニターアンケート調査「男女共同参画に関する意識調査」 (令和元年 7 月調査)
	全国調査	男女共同参画社会に関する世論調査 (令和元年 9 月調査)
	全国調査 (DV)	男女間における暴力に関する調査 (平成 29 年度調査)

伊丹市が行った「男女共同参画に関する市民意識調査」について

伊丹市は過去 6 回、「男女共同参画に関する市民意識調査」を行っています。令和 2 年度調査は第 7 回目の調査です。

第 1 回	平成 3 年度	「女と男の暮らしと意識」調査
第 2 回	平成 8 年度	「第 2 回男女共同参加型社会づくりに関する市民意識調査」
第 3 回	平成 13 年度	「第 3 回男女平等に関する市民意識調査」
第 4 回	平成 16 年度	「第 4 回男女平等に関する市民意識調査」
第 5 回	平成 22 年度	「第 5 回男女共同参画に関する市民意識調査」
第 6 回	平成 27 年度	「人権・男女共同参画に関する市民意識調査」

II 調査結果のまとめ（人権）

1 人権全般について

「人権」を身近な問題と感じるかといった人権全般に関する親近感については、「非常に身近に感じる」と「かなり身近に感じる」を合わせた“身近に感じる”の割合が33.8%、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」を合わせた“身近に感じない”の割合が34.0%となっています。平成27年度調査、平成21年度調査と比較して、大きな変化はみられず、性別による差もありません。ただし、年齢別では、10代は身近に感じる人の割合が多く、20代以降は年齢が高くなるにつれ、身近に感じる割合が増加する傾向がうかがえます。（問1）

一方、「今の日本は、人権が尊重されている社会である」について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、“そう思う”の割合が53.1%、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が18.2%となっています。平成27年度調査と比べ大きな変化はありませんが、平成21年度調査と比較すると“そうは思わない”否定層より“そう思う”肯定層が大きくなっています。（問2①）

また、市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっているかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、“そう思う”の割合が44.6%、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が16.5%となっています。平成27年度調査と比較して5.1ポイント、平成21年度調査と比較して4.8ポイント、高くなっており、市民の人権全般に関する意識が高まっていることがうかがえます。（問2②）

そして、5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っているかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、“そう思う”の割合が35.7%、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が22.1%となっています。平成27年度調査、平成21年度調査と比較して2.5ポイント、高くなっており、人権が侵害されていることは減っていると思う人が増えてきていることがうかがえます。（問2③）

今までに、自分の人権が侵害されたと思ったことがあるかについて、「ない」の割合が58.7%と最も高く、次いで「ある」の割合が22.1%、「わからない」の割合が18.1%となっています。平成27年度調査、平成21年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。（問3）

人権侵害を受けたときの対処方法について、「何もできなかった」の割合が32.4%、「どのようにしたらいいのかわからなかった」の割合が19.1%となっています。平成27年度調査と比較すると、「何もできなかった」「どのようにしたらいいのかわからなかった」の割合が増加しています。このことから、公的機関の相談窓口などの周知啓発が一層必要であるとうかがえます。（問3-2）

今までに、他人の人権を侵害したことがあるかについて、「ないと思う」の割合が43.7%と最も高く、次いで「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」の割合が40.1%となっています。平成27年度調査と比べ、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」の割合が3.1ポイント高くなっており、「ないと思う」の割合が4.7ポイント低くなっています。（問4）

さらに、関心の高い人権問題については、「インターネットによる人権侵害の問題」の割合が46.7%と最も高く、次いで「障がいのある人に関する問題」の割合が37.2%、「女性に関する問題」の割合が34.2%となっています。兵庫県調査と比べ、関心の傾向は似た傾向となっています。

このことから、さまざまな人権課題に関する関心は、多様化していることがうかがえます。(問5)

2 人権啓発について

人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思われるものについて、「小学校時代の人権教育」の割合が32.6%と最も高く、次いで「家族でのふれあいの中から」の割合が32.0%、「中学校時代の人権教育」の割合が23.4%となっています。「人権」を身近に感じる程度別でみると、他に比べ、“身近に感じる”人で「職場での人権研修会」の割合が高くなっています。このことから、人権尊重の考え方を身に着ける効果的な手法としては、幼い頃から人権教育や様々な立場の人々との交流等の機会を通じて人権尊重意識を高めていくことが必要であるとうかがえます。(問26)

人権啓発を進めるために、効果的な啓発活動について、「テレビ・ラジオ」の割合が37.0%と最も高く、次いで「県・市の広報紙」の割合が21.5%、「SNS(ツイッター、フェイスブックなど)、メールマガジン、ホームページなどのインターネット」の割合が20.2%となっています。年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「映画・ビデオ」の割合が、15～19歳から30～39歳で「SNS(ツイッター、フェイスブックなど)、メールマガジン、ホームページなどのインターネット」の割合が高く、70歳以上で「県・市の広報紙」の割合が高くなっています。人権意識が高まっていると思う程度別でみると、どちらかといえばそう思わない人で「SNS(ツイッター、フェイスブックなど)、メールマガジン、ホームページなどのインターネット」の割合が高くなっています。このことから、自分にとって身近な情報ツールで情報を得る人が多いため、SNSなど各種情報媒体を活用し、あらゆる人に対して、人権啓発についての情報発信や体験型の人権学習など効果的な手法で、学校、地域、家庭、職場などあらゆる場で人権教育・啓発への取組が必要であることがうかがえます。(問27)

Ⅲ 調査結果のまとめ（男女共同参画）

1 男女共同参画について

日常的な家事・仕事などの役割分担について、①生活費の確保では、理想に比べて現状で、「主に夫」の割合が高くなっています。②炊事・掃除・洗濯などの家事、③近所とのつきあい、④子育て、⑤高齢者の介護では、理想に比べて現状で、「主に妻」の割合が高くなっており、平成 27 年度調査と同じ傾向が続いています。また、「夫婦同程度」についてみると、理想と現状の乖離は、④子育て、⑤高齢者の介護で大きく、理想と現状で約 40 ポイントの差がみられます。このことから、家庭生活においては、依然として理想と現状の乖離が大きく、多くの役割を女性が担っている現状がうかがえます。（問 29）

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が 39.9%、「どちらかといえば賛成しない」と「賛成しない」を合わせた“賛成しない”の割合が 58.0%となっています。性別でみると、女性に比べ、男性で“賛成する”の割合が高くなっています。平成 27 年度調査と比較すると、“賛成しない”の割合が増加しており、“賛成する”の割合が減少しています。全国調査と比較すると、“賛成する”の割合が 5.8 ポイント（平成 27 年度調査では、11.2 ポイント）高くなっています。このことから、固定的な性別役割分担意識を持つ人は少なくなっている状況がうかがえます。（問 30）

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方について、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が 51.1%、「どちらかといえば賛成しない」と「賛成しない」を合わせた“賛成しない”の割合が 46.8%となっています。性別でみると、女性に比べ、男性で“賛成する”の割合が高くなっています。平成 27 年度調査と比較すると、“賛成しない”の割合が増加し、“賛成する”の割合が減少しています。（問 31）

男性と女性の地位は平等になっていると思うかについて、「①学校教育では」で、平等感が高くなっています。一方、「②雇用の機会や職場での賃金・待遇では」「⑦政治（政策決定）・経済活動の場では」において、平等感が低くなっています。全国調査と比較すると、「①学校教育では」、「④地域、ボランティア活動では」で、「平等である」の割合が高くなっています。また、兵庫県と比較すると、すべての項目で、「平等である」の割合が高くなっています（県の調査項目の対象外である「⑧全体として、男女の地位は」の項目を除く）。（問 33）

一般的に女性が仕事をもつことへの考えについて、「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が 36.1%と最も高く、平成 27 年度調査と比べ増加しており、女性が仕事を続ける方がよいとする考えが広がりつつあることがうかがえます。（問 34）

生活の中での「仕事」と「家庭生活や地域活動」の優先度について、『仕事』と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている」の割合が希望では 43.3%、現状では 13.7%となっています。一方、『仕事』を優先している」と「どちらかといえば『仕事』を優先している」をあわせた“「仕事」を優先している”の割合が希望では 15.3%、現状では 37.3%となっています。このことから、希望と現実にまだ大きな差がある状況がうかがえます。（問 35）

女性が再就職や起業、地域活動、地域貢献など様々な活動に参画するために必要なことについては、「家族の支援」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「育児に関する支援」の割合が 38.9%、「再就職や地域活動などに関する相談の充実」の割合が 27.7%となっています。（問 41）

女性が出産などを理由に離職せず、同じ職場で働きつづけるために、必要なことについては、

「保育所や学童保育（児童クラブ）など、子どもを預けられる環境の整備」の割合が 72.7%と最も高く、次いで「育児支援の充実」の割合が 42.6%、「男性の家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革」の割合が 42.3%となっています。このことから、子育てと仕事の両立支援策の充実が求められるとともに、男性が家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革が必要です。

（問 42）

出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活躍する形としては、「仕事と生活の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「これまでの知識・経験を生かして働けるよう、正社員として再就職する」の割合が 47.1%、「これまでの知識・経験を生かして、かつ働く時間を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が 34.1%となっています。このことから、今後も多様な再就職のニーズに対応した支援を求められることがうかがえます。（問 43）

政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるために必要なことは、「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参画してもらうこと」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「市、企業、各関係機関・団体などが女性の登用を推進すること」の割合が 40.3%、「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」の割合が 34.3%となっています。このことから、男女の比率が偏りなく意思決定過程に参画できるような仕組みづくりや、意識決定過程への女性の参画を呼びかけることが必要です。（問 44）

男性の育児や介護、地域活動への参加を進めるために有効なことは、「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」の割合が 69.4%と最も高く、次いで「男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる」の割合が 55.6%、「長時間労働を抑制する」の割合が 37.7%となっています。このことから、男性が制度を利用できる職場環境づくりを促進するとともに、長時間労働を抑制することが有効であることがうかがえます。（問 45）

2 セクハラ・DVについて

セクシュアル・ハラスメントの被害の有無について、自分自身では「ある」の割合が 13.5%、「ない」の割合が 79.9%となっています。性別で見ると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。また、友人や職場の仲間など、自分の周り的人では「ある」の割合が 18.4%、「ない」の割合が 73.5%となっています。このことから、男性に比べて女性で被害者が多い状況がうかがえます。（問 46）

配偶者や交際相手からのDV被害の経験があった割合（「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせた割合）は、①なぐる、けるなどの身体的暴力で 10.5%、②ののしる、おどすなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神的暴力で 22.0%、③性行為の強要、避妊に協力しないなどの性的暴力で 7.9%、④生活費を渡さない、仕事に就くことを禁じるなどの経済的暴力で 4.5%、⑤実家や友人とのつきあいや本人の行動を監視、制限する社会的暴力で 7.2%となっています。（問 48）

配偶者や交際相手からのDV被害の経験があった時の相談相手について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が 50.8%と最も高くなっています。平成 27 年度調査と比較すると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が増加しています。（問 48-2）

相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思った」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがある」の割合が 31.1%、「相談しても無駄だと思った」

の割合が20.0%となっています。(問48-3)

配偶者や交際相手からのDV被害を見たり、聞いたりしたことが「ある」の割合が18.8%となっています。(問49)

配偶者や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援のために、必要なことについて、「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」の割合が53.2%と最も高く、次いで「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」の割合が49.9%、「避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する」の割合が49.1%となっています。(問50)

これらのことから、被害者が安全に安心して相談できる体制の充実を図るとともに、被害を受けた場合は、自分の被害を過小に評価することなく相談できるよう、相談窓口の周知啓発が必要です。

IV 調査結果

(1) 人権問題について

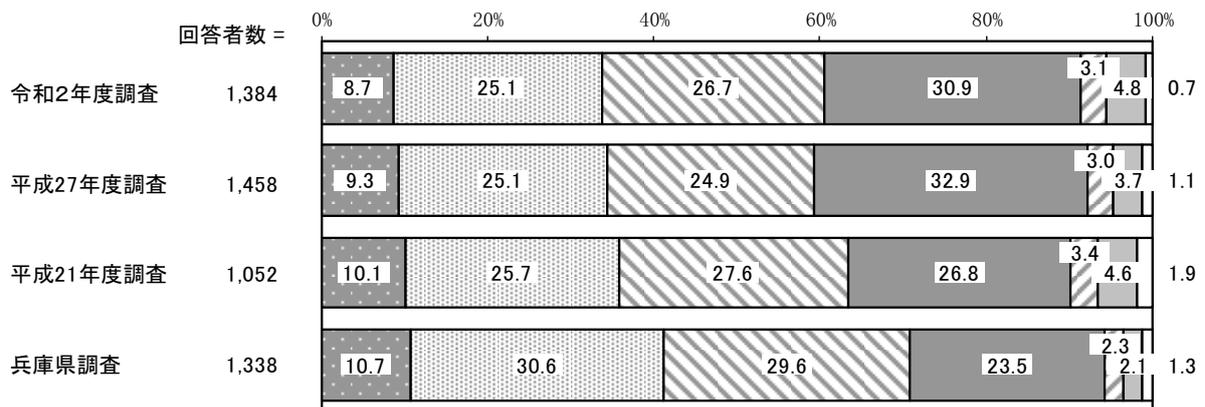
問1 あなたは、「人権」を、どのくらい身近な問題として感じていますか。
(〇は1つ)

「非常に身近に感じる」と「かなり身近に感じる」を合わせた“身近に感じる”の割合が33.8%、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」を合わせた“身近に感じない”の割合が34.0%となっています。

平成27年度調査、平成21年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

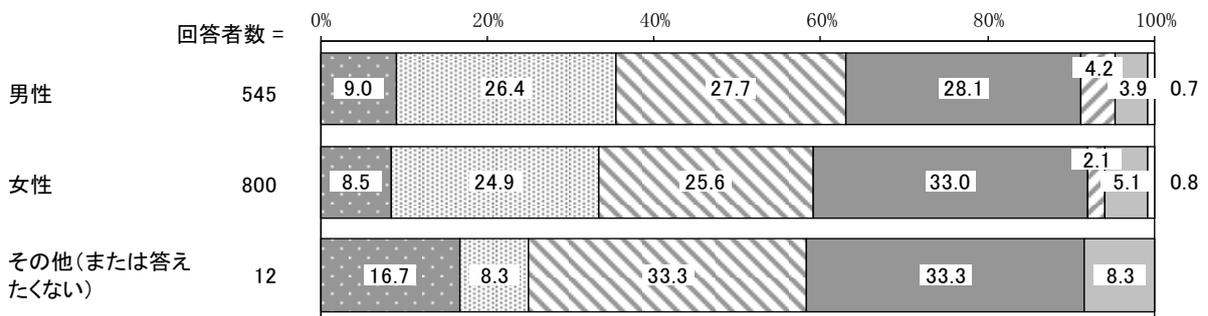
兵庫県調査と比較すると、「あまり身近に感じない」の割合が7.4ポイント高く、「かなり身近に感じる」の割合が5.5ポイント低くなっています。

- 非常に身近に感じる ▨ かなり身近に感じる ▩ どちらとも言えない ■ あまり身近に感じない
- ▤ まったく身近に感じない □ わからない □ 無回答



【性別】

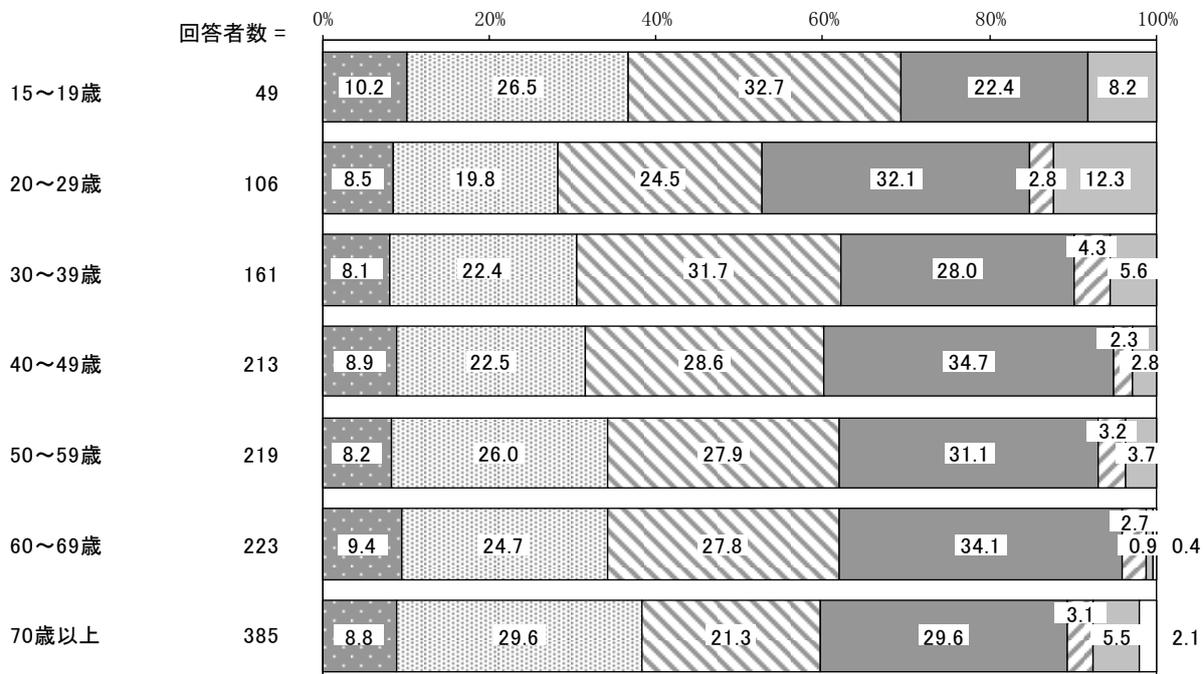
性別でみると、男女で大きな差異はみられません。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20歳以上で年齢が高くなるにつれ“身近に感じる”の割合が高くなる傾向がみられます。

非常に身近に感じる
 かなり身近に感じる
 どちらとも言えない
 あまり身近に感じない
 まったく身近に感じない
 わからない
 無回答



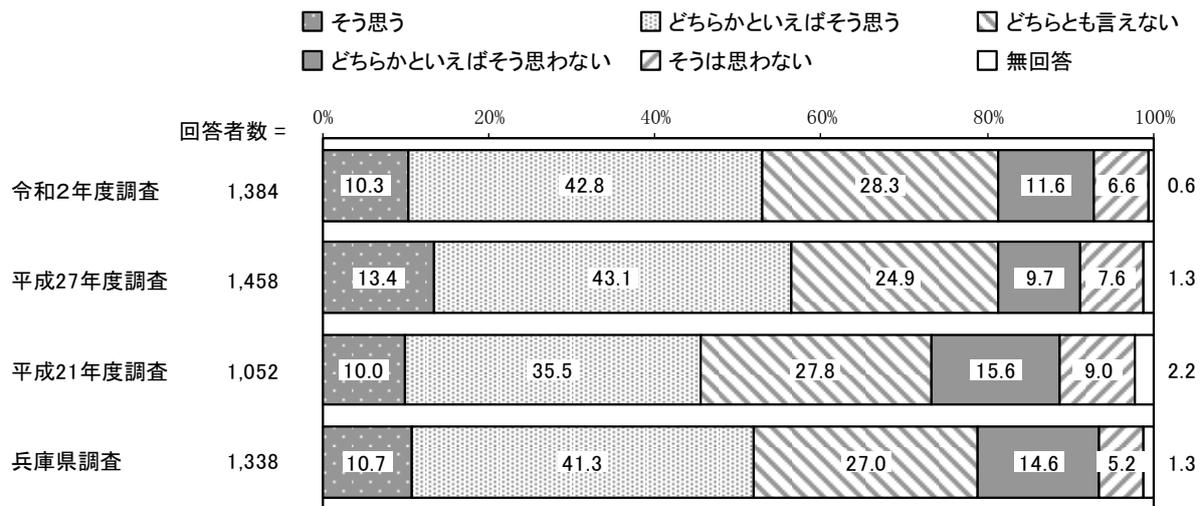
問2 次の①～③のそれぞれについて、あなたはどのように思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

① 今の日本は、人権が尊重されている社会である

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、“そう思う”の割合が53.1%、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が18.2%となっています。

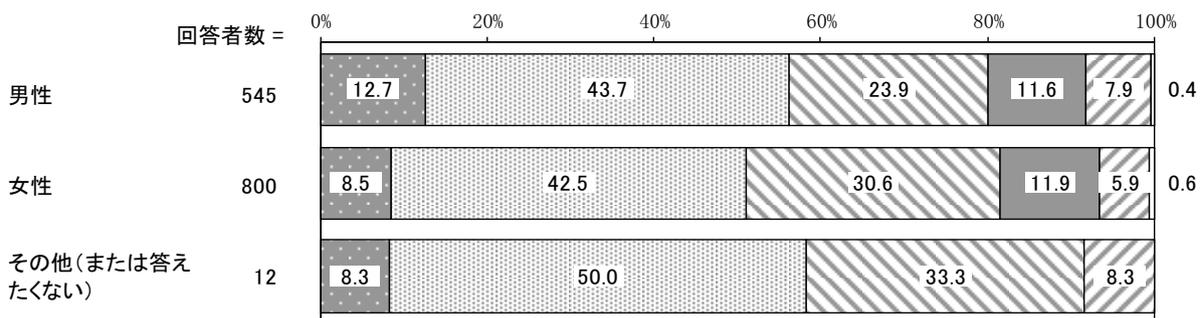
平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。平成21年度調査と比較すると“そう思う”の割合が7.6ポイント高くなっています。

兵庫県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



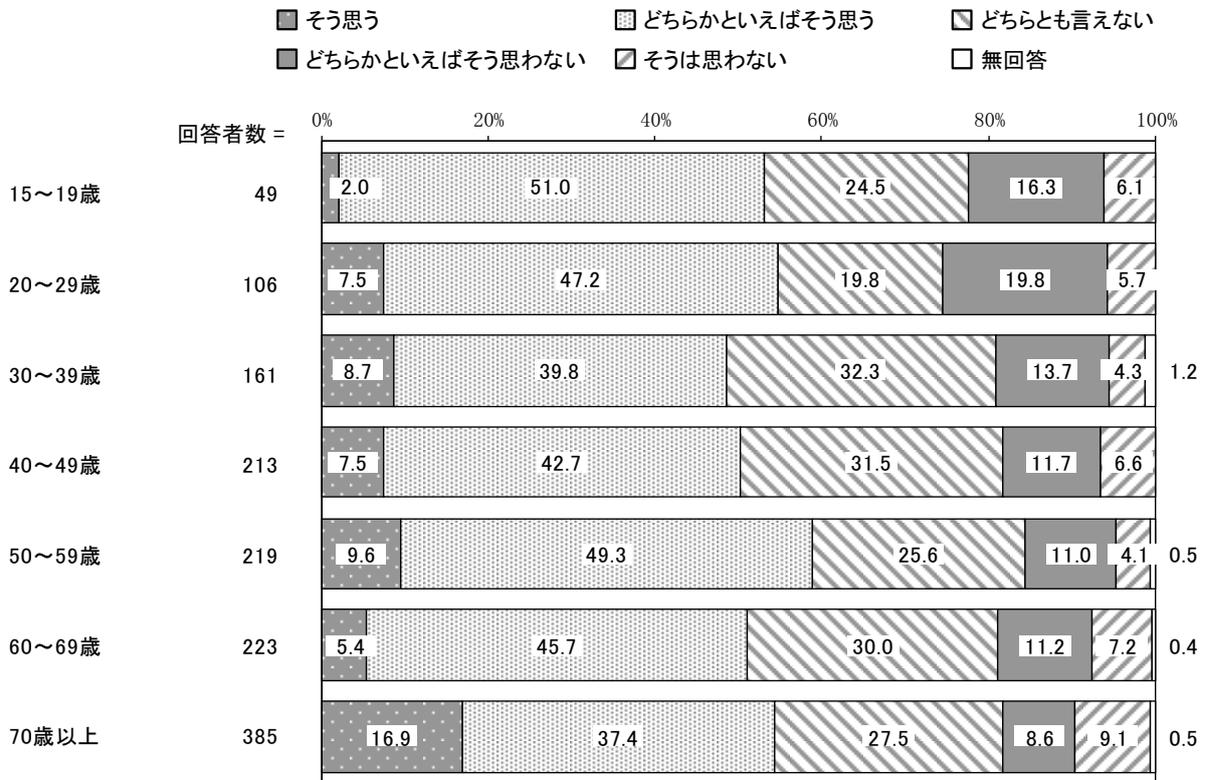
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50～59歳で“そう思う”の割合が高くなっています。

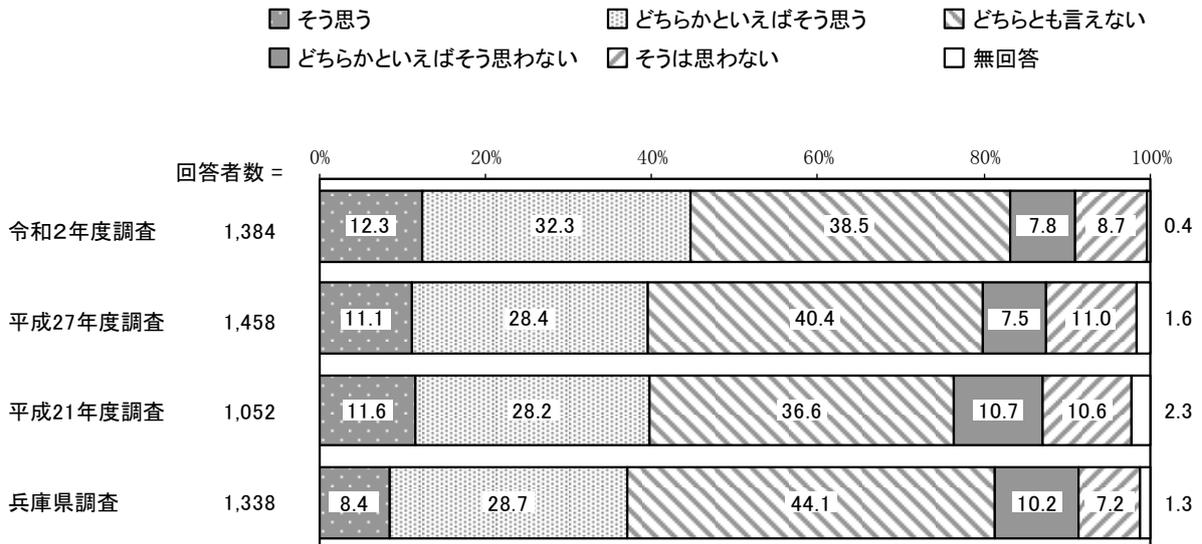


② 市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、“そう思う”の割合が44.6%、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が16.5%となっています。

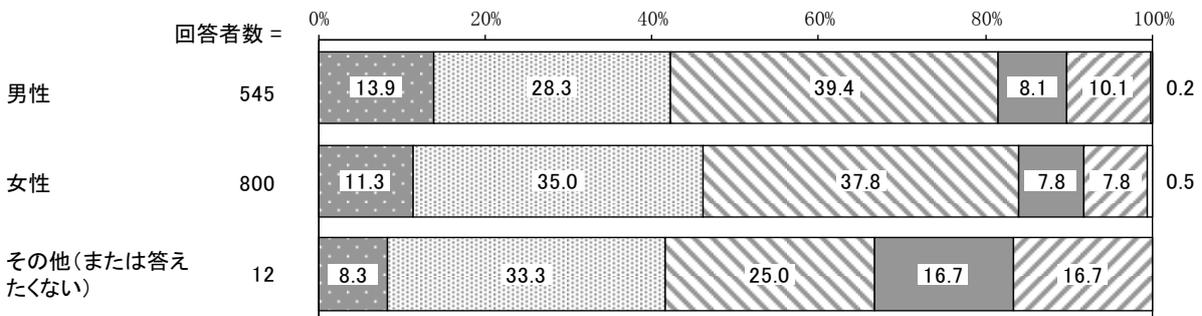
平成27年度調査、平成21年度調査と比較すると“そう思う”の割合が5.1ポイント、4.8ポイント高くなっています。

兵庫県調査と比較すると、「どちらとも言えない」の割合が5.6ポイント低くなっています。



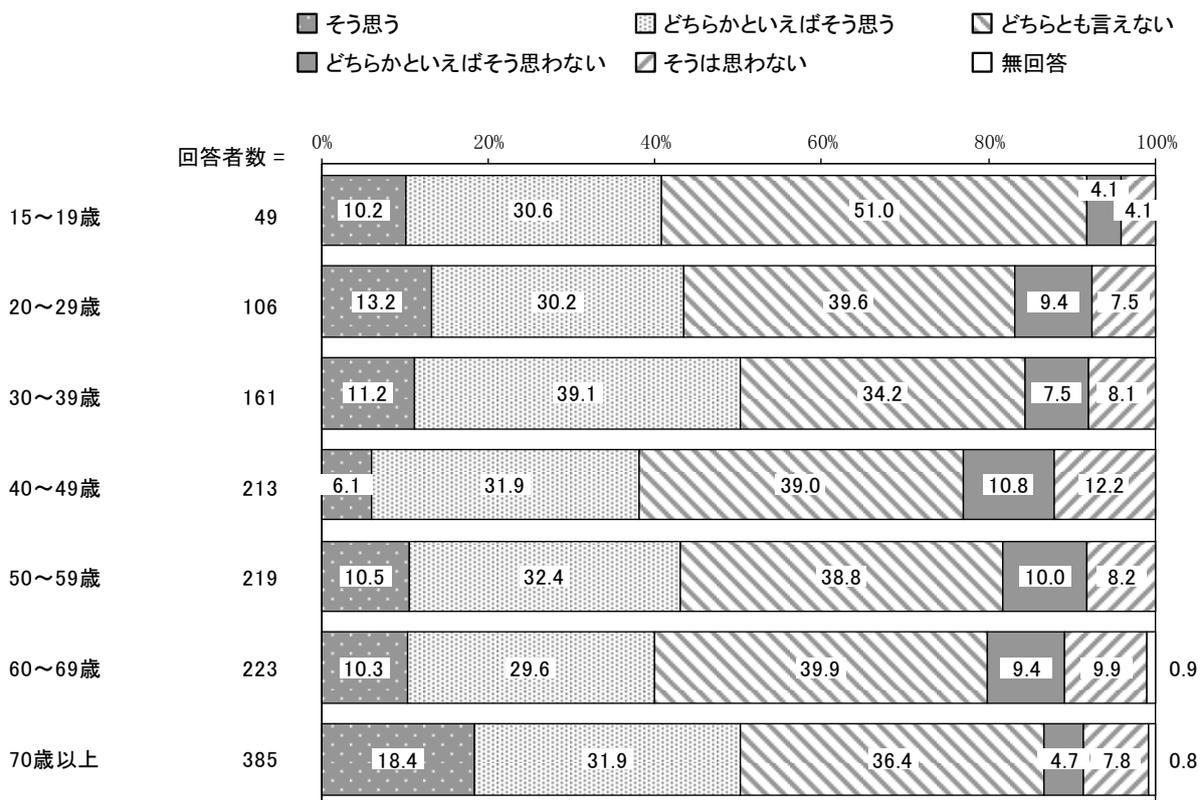
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳、70歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。

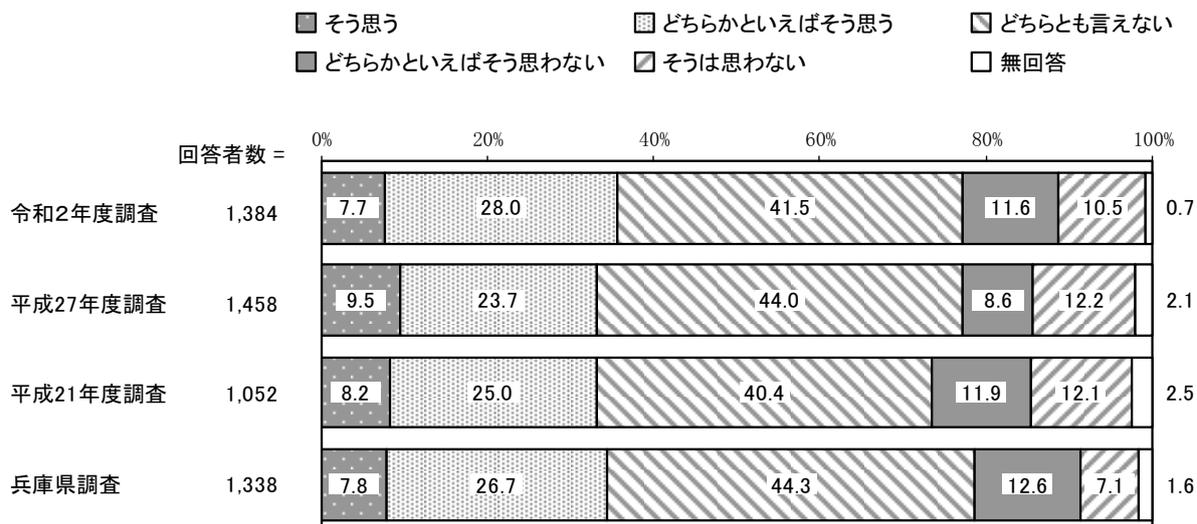


③ 5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、“そう思う”の割合が35.7%、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた“そうは思わない”の割合が22.1%となっています。

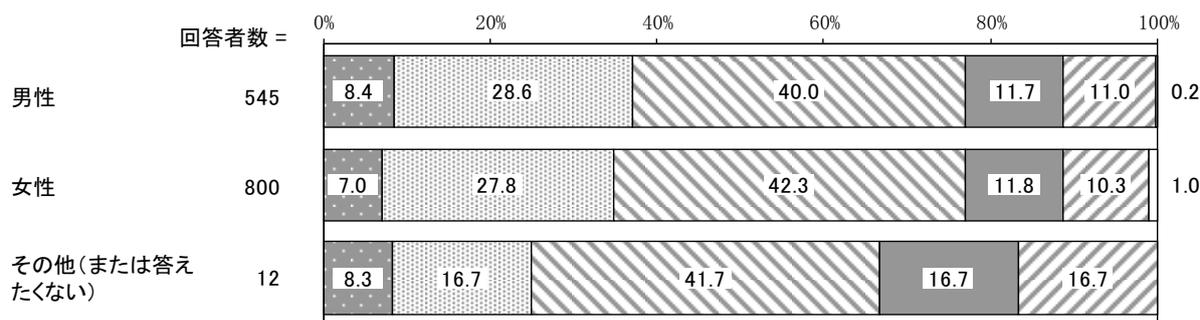
平成27年度調査、平成21年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が2.5ポイント高くなっています。

兵庫県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



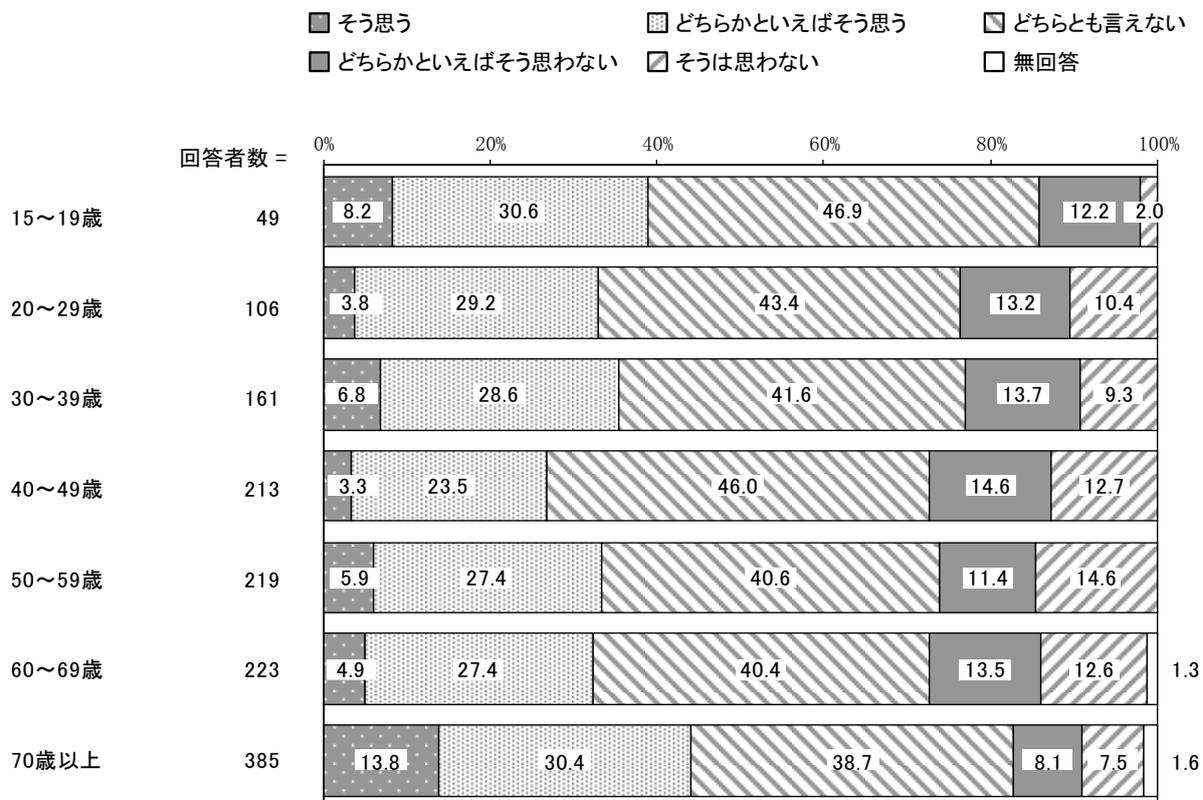
【性別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。



【年齢別】

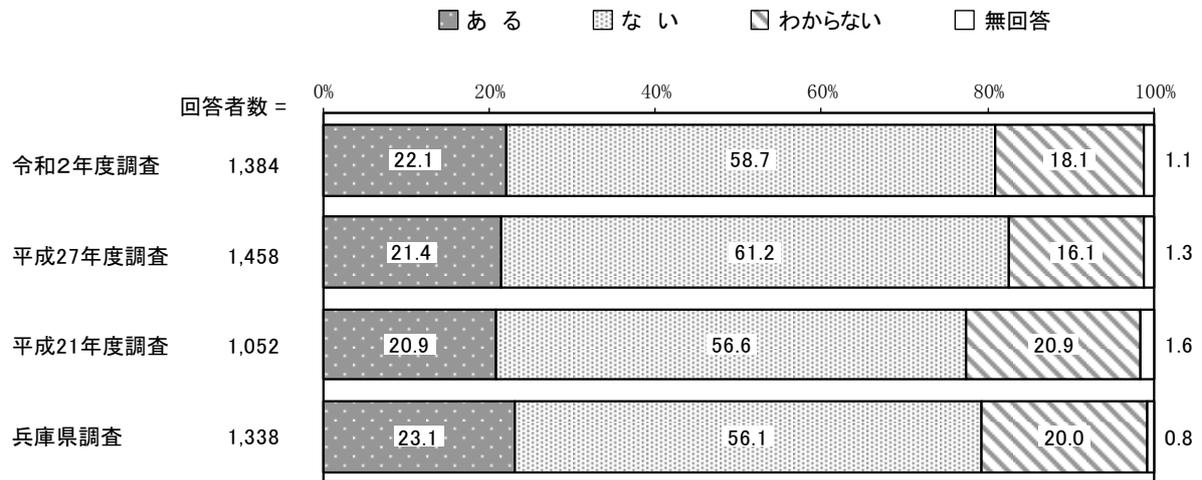
年齢別でみると、他に比べ、70歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。一方、40～49歳で“そう思わない”の割合が高くなっています。



問3 あなたは、今までに、自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。
(○は1つ)

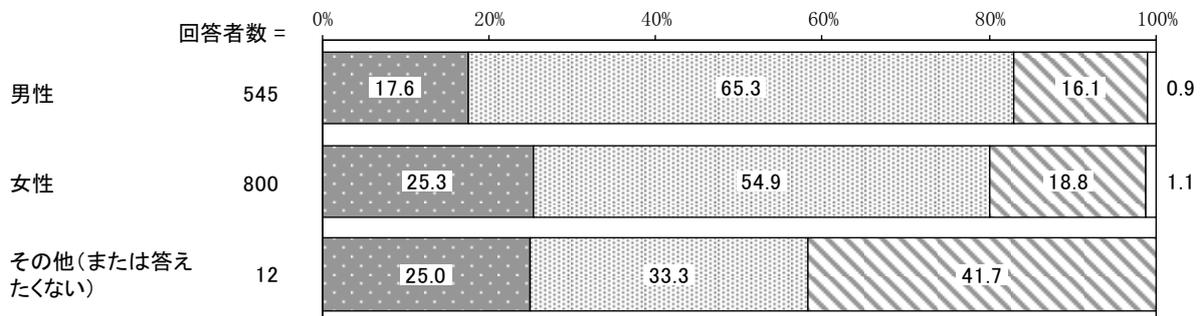
「ない」の割合が58.7%と最も高く、次いで「ある」の割合が22.1%、「わからない」の割合が18.1%となっています。

平成27年度調査、平成21年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。
兵庫県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



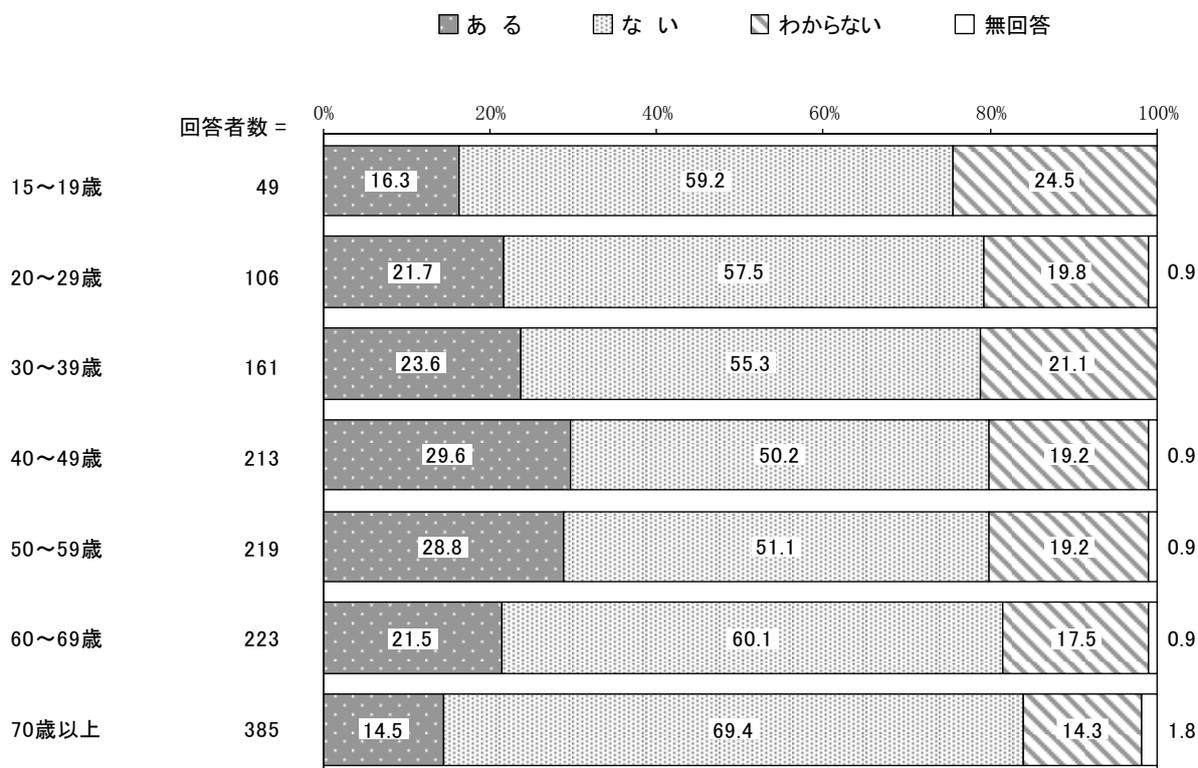
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳、50～59歳で「ある」の割合が高くなっています。一方、70歳以上で「ない」の割合が高くなっています。

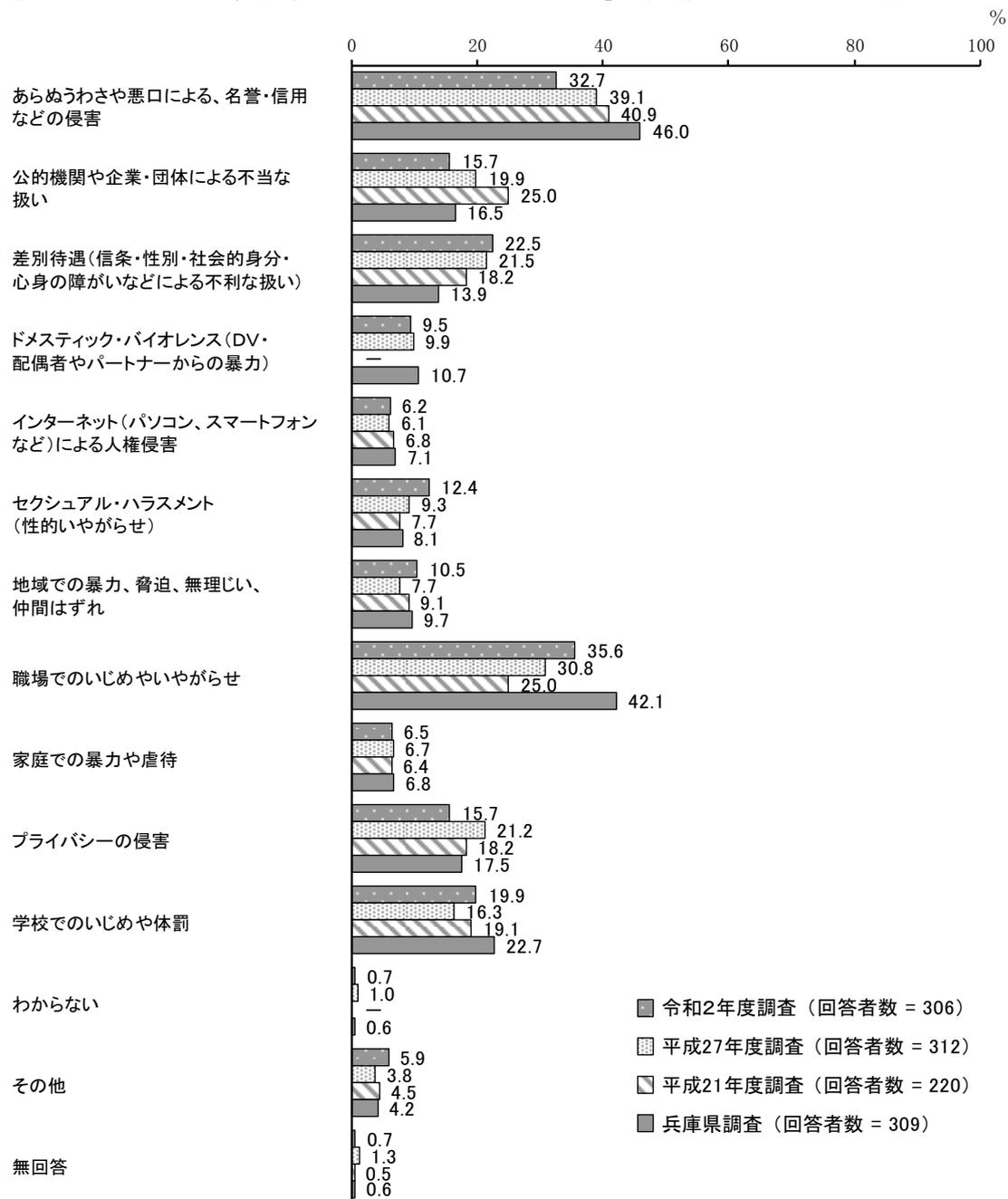


問3-1 問3で「1. ある」を選ばれた方におうかがいします。
それは、どのような人権侵害でしたか。(〇はいくつでも)

「職場でのいじめやいやがらせ」の割合が35.6%と最も高く、次いで「あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」の割合が32.7%、「差別待遇（信条・性別・社会的身分・心身の障がいなどによる不利な扱い）」の割合が22.5%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」の割合が6.4ポイント、「プライバシーの侵害」の割合が5.5ポイント低くなっています。

兵庫県調査と比較すると、「差別待遇（信条・性別・社会的身分・心身の障がいなどによる不利な扱い）」の割合が8.6ポイント高く、「あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」の割合が13.3ポイント、「職場でのいじめやいやがらせ」の割合が6.5ポイント低くなっています。



※平成21年度調査の項目に「ドメスティック・バイオレンス(DV・配偶者やパートナーからの暴力)」、「わからない」はありませんでした。また「職場でのいじめやいやがらせ」は「パワー・ハラスメント(職務権限などを用いて行ういじめやいやがらせ)」となっていました。

【性別・年齢別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「公的機関や企業・団体による不当な扱い」「職場でのいじめやいやがらせ」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「ドメスティック・バイオレンス（DV・配偶者やパートナーからの暴力）」「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が高くなっています。

年齢別で見ると、年齢が低くなるにつれ「学校でのいじめや体罰」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳では最も高くなっています。また、70歳以上では「あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害」の割合が最も高く、他の年代と比べても高くなっています。

単位：％

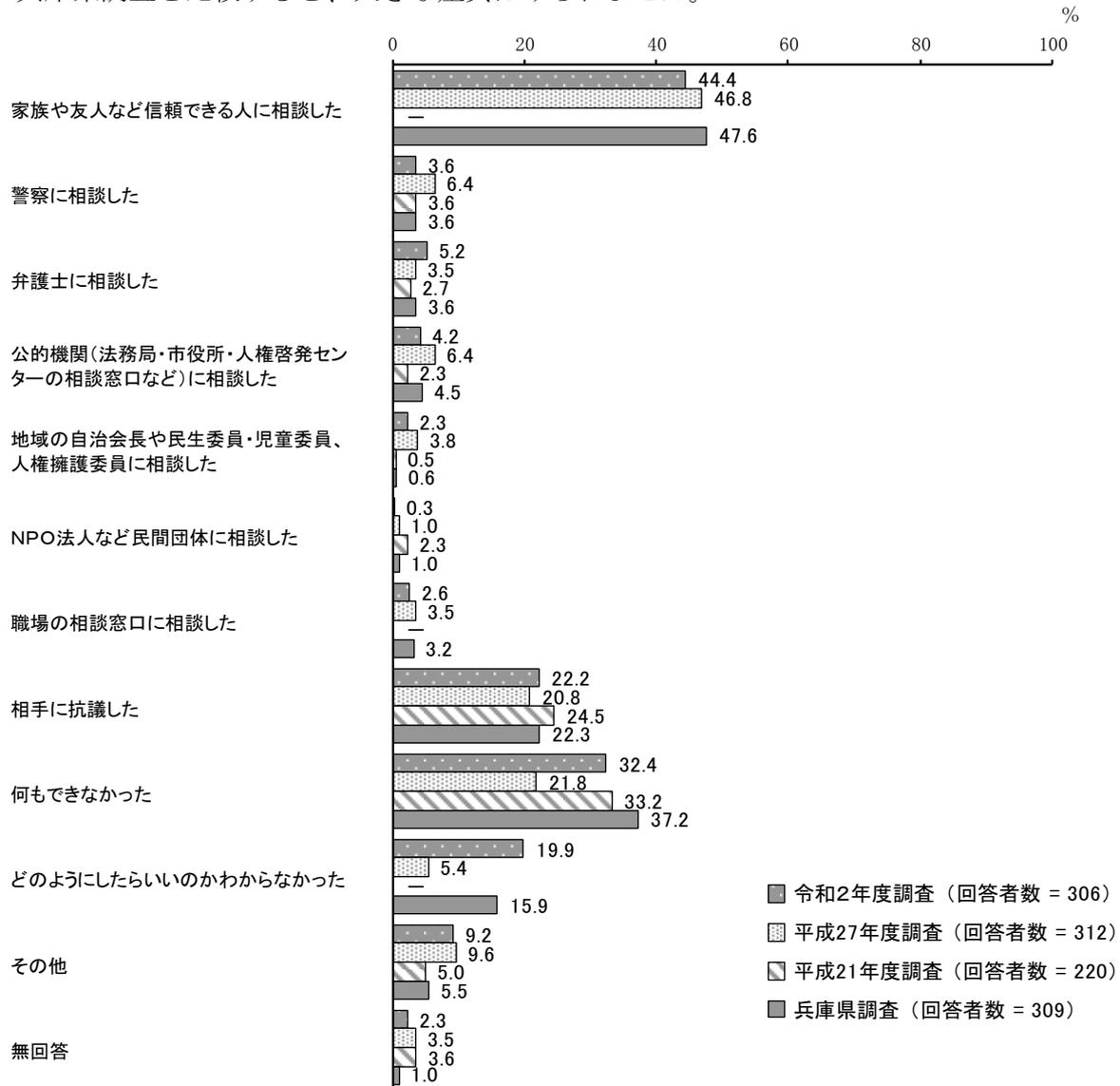
区分		有効回答数（件）	あらぬうわさや悪口による、名誉・信用などの侵害	公的機関や企業・団体による不当な扱い	差別待遇（信条・性別・社会的身分・心身の障がいなどによる不利な扱い）	配偶者やパートナーからの暴力（DV・ドメスティック・バイオレンス）	インターネット（パソコン、スマートフォンなど）による人権侵害	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	仲間はずれ	地域での暴力、脅迫、無理じい、	職場でのいじめやいやがらせ	家庭での暴力や虐待	プライバシーの侵害	学校でのいじめや体罰	わからない	その他	無回答
性別	男性	96	33.3	31.3	22.9	3.1	7.3	—	13.5	46.9	5.2	17.7	17.7	2.1	4.2	1.0	
	女性	202	32.7	8.4	22.3	12.4	5.9	18.8	8.4	30.7	7.4	14.9	20.8	—	6.9	0.5	
	その他（または答えたくない）	3	—	—	33.3	33.3	—	—	—	33.3	—	—	33.3	—	—	—	
年齢別	15～19歳	8	25.0	—	12.5	—	12.5	12.5	—	—	—	12.5	62.5	—	12.5	—	
	20～29歳	23	26.1	8.7	17.4	4.3	8.7	13.0	8.7	26.1	17.4	21.7	60.9	—	8.7	—	
	30～39歳	38	28.9	15.8	18.4	2.6	13.2	15.8	2.6	44.7	10.5	15.8	23.7	—	10.5	—	
	40～49歳	63	33.3	14.3	30.2	11.1	7.9	19.0	9.5	36.5	9.5	20.6	23.8	—	4.8	—	
	50～59歳	63	27.0	17.5	22.2	12.7	4.8	15.9	17.5	42.9	6.3	11.1	15.9	—	6.3	—	
	60～69歳	48	35.4	16.7	18.8	14.6	4.2	8.3	14.6	39.6	—	10.4	6.3	—	2.1	2.1	
	70歳以上	56	42.9	19.6	25.0	8.9	1.8	3.6	5.4	28.6	3.6	17.9	5.4	3.6	5.4	—	

問3-2 問3で「1. ある」を選ばれた方におうかがいします。
人権侵害を受けたとき、あなたはどうしましたか。(〇はいくつでも)

「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が44.4%と最も高く、次いで「何もできなかった」の割合が32.4%、「相手に抗議した」の割合が22.2%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「何もできなかった」の割合が10.6ポイント、「どのようにしたらいいのかわからなかった」の割合が14.5ポイント増加しています。

兵庫県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※「家族や友人など信頼できる人に相談した」は平成21年度調査では、「家族、親類に相談した」、「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」となっています。
また、「地域の自治会長や民生委員・児童委員、人権擁護委員に相談した」は平成21年度調査では、「人権擁護委員に相談した」となっています。

【性別・年齢別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「何もできなかった」「どのようにしたらいいのかわからなかった」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族や友人など信頼できる人に相談した」の割合が高くなっています。

年齢別で見ると、他に比べ、40～49歳で「何もできなかった」「どのようにしたらいいのかわからなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数(件)	家族や友人など信頼できる人に相談した	警察に相談した	弁護士に相談した	公的機関(法務局・市役所・人権啓発センター)の相談窓口などに相談した	地域の自治会長や民生委員・児童委員、人権擁護委員に相談した	NPO法人など民間団体に相談した	職場の相談窓口に相談した	相手に抗議した	何もできなかった	どのようにしたらいいのかわからなかった	その他	無回答
性別	男性	96	28.1	2.1	5.2	6.3	3.1	1.0	1.0	22.9	37.5	24.0	7.3	2.1
	女性	202	52.5	4.5	5.0	3.0	1.5	—	3.5	21.3	30.2	18.3	10.4	2.5
	その他(または答えたくない)	3	33.3	—	33.3	33.3	—	—	—	—	33.3	—	—	—
年齢別	15～19歳	8	62.5	12.5	—	—	—	—	—	12.5	12.5	—	12.5	—
	20～29歳	23	78.3	—	—	—	—	—	4.3	17.4	26.1	21.7	4.3	—
	30～39歳	38	52.6	2.6	—	2.6	2.6	—	2.6	13.2	26.3	18.4	10.5	—
	40～49歳	63	39.7	1.6	3.2	6.3	1.6	—	—	23.8	42.9	33.3	6.3	1.6
	50～59歳	63	52.4	6.3	12.7	6.3	1.6	—	7.9	23.8	31.7	25.4	6.3	1.6
	60～69歳	48	35.4	4.2	6.3	4.2	2.1	—	—	18.8	29.2	8.3	16.7	4.2
	70歳以上	56	26.8	3.6	5.4	3.6	3.6	1.8	1.8	28.6	35.7	10.7	10.7	5.4

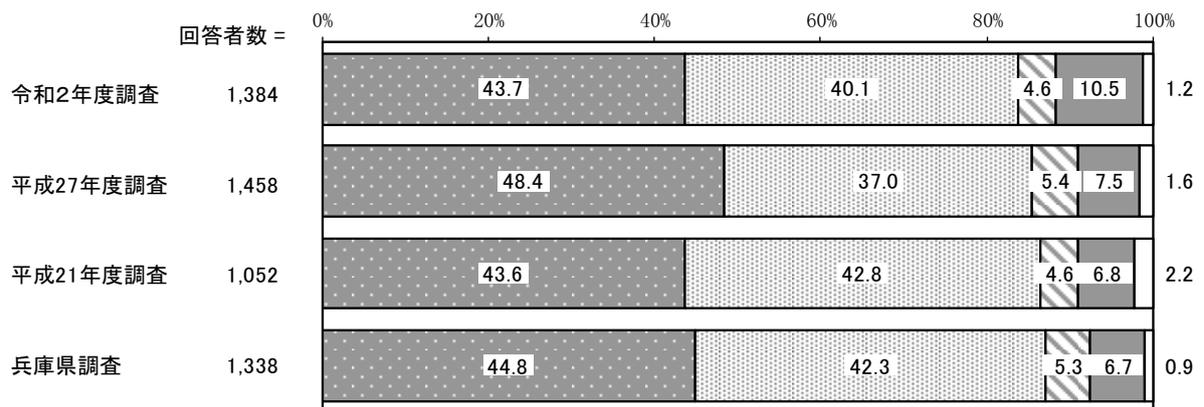
問4 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。
(○は1つ)

「ないと思う」の割合が43.7%と最も高く、次いで「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」の割合が40.1%、「わからない」の割合が10.5%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「ないと思う」の割合が4.7ポイント低くなっており、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」の割合が3.1ポイント高くなっています。

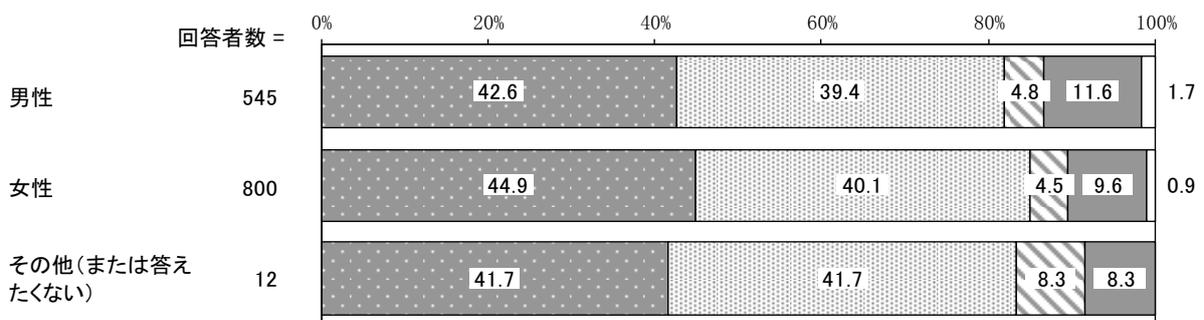
兵庫県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

■ ないと思う ■ 自分では気づかなかったが、あるかもしれない ■ あると思う ■ わからない □ 無回答



【性別】

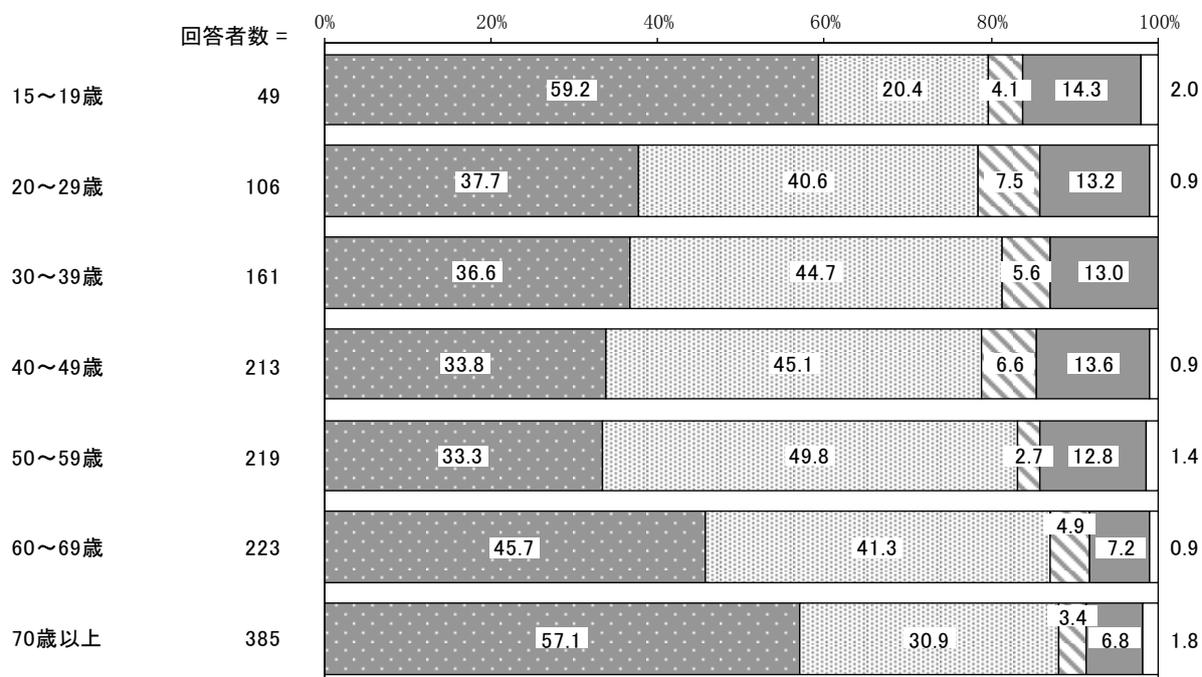
性別でみると、男女で大きな差異はみられません。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50～59歳で「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」の割合が高くなっています。

■ ないと思う ■ 自分では気づかなかったが、あるかもしれない ■ あると思う ■ わからない □ 無回答

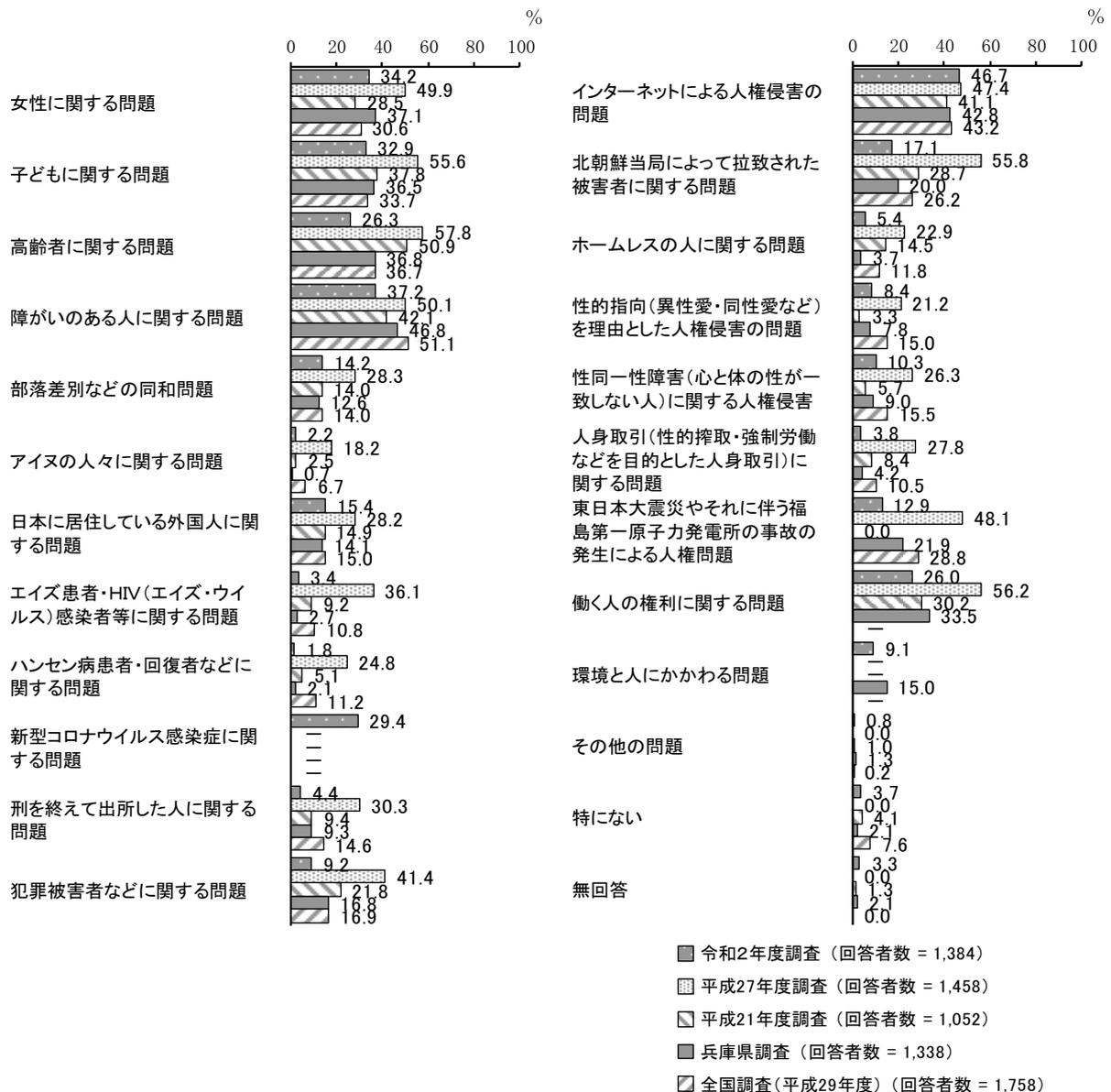


問5 日本の社会には、人権にかかわるさまざまな問題がありますが、あなたが特に関心をお持ちのものはどのようなことですか。（〇は5つまで）

「インターネットによる人権侵害の問題」の割合が46.7%と最も高く、次いで「障がいのある人に関する問題」の割合が37.2%、「女性に関する問題」の割合が34.2%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「高齢者に関する問題」「障がいのある人に関する問題」「犯罪被害者などに関する問題」「東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による人権問題」「働く人の権利に関する問題」の割合が低くなっています。

全国調査では、「障がいのある人に関する問題」の割合が51.1%と最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害の問題」の割合が43.2%、「高齢者に関する問題」の割合が36.7%となっています。



※平成27年度調査は、各項目それぞれについて関心度を問う設問であったため、令和2年度調査と関心度が大きく異なります。

※平成27年度調査、平成21年度調査では「新型コロナウイルス感染症に関する問題」「環境と人にかかわる問題」については設問がありません。また、平成21年度調査では「東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による人権問題」の設問はありません。

※兵庫県調査、全国調査ともに「新型コロナウイルス感染症に関する問題」の選択肢はありません。

また、全国調査には「働く人の権利に関する問題」「環境と人にかかわる問題」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性に関する問題」の割合が高くなっています。また、男性で「働く人の権利に関する問題」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「性的指向（異性愛・同性愛など）を理由とした人権侵害の問題」「性同一性障害（心と体の性が一致しない人）に関する人権侵害」の割合が高くなっています。また、30～39歳、40～49歳で「子どもに関する問題」の割合が、60～69歳、70歳以上で「高齢者に関する問題」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数（件）	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がいのある人に関する問題	部落差別などの同和問題	アイヌの人々に関する問題	日本に居住している外国人に関する問題	感染者等に関する問題	エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）	ハンセン病患者・回復者などに関する問題	新型コロナウイルス感染症に関する問題	刑を終えて出所した人に関する問題	犯罪被害者などに関する問題
性別	男性	545	25.3	28.1	28.3	39.6	17.6	2.9	19.4	4.2	2.6	27.3	4.8	10.8	
	女性	800	41.1	36.8	24.9	35.4	11.9	1.8	12.5	2.9	1.3	31.4	4.1	8.5	
	その他（または答えたくない）	12	16.7	33.3	25.0	41.7	16.7	—	33.3	—	—	16.7	—	8.3	
年齢別	15～19歳	49	44.9	18.4	14.3	49.0	6.1	2.0	18.4	4.1	—	30.6	6.1	4.1	
	20～29歳	106	43.4	36.8	13.2	38.7	8.5	1.9	18.9	0.9	—	28.3	2.8	4.7	
	30～39歳	161	44.1	47.2	12.4	31.1	10.6	—	14.9	2.5	—	29.2	0.6	9.3	
	40～49歳	213	41.8	40.8	16.4	33.8	11.7	2.3	20.2	3.8	0.9	31.0	3.8	12.7	
	50～59歳	219	32.9	32.0	21.9	37.0	14.6	3.2	14.6	4.1	3.2	32.9	4.1	13.7	
	60～69歳	223	35.4	30.9	37.7	43.9	20.2	2.2	13.9	2.7	1.8	31.4	4.0	7.2	
	70歳以上	385	23.1	26.0	37.9	35.8	16.4	2.6	13.5	4.2	2.9	26.2	6.8	8.6	

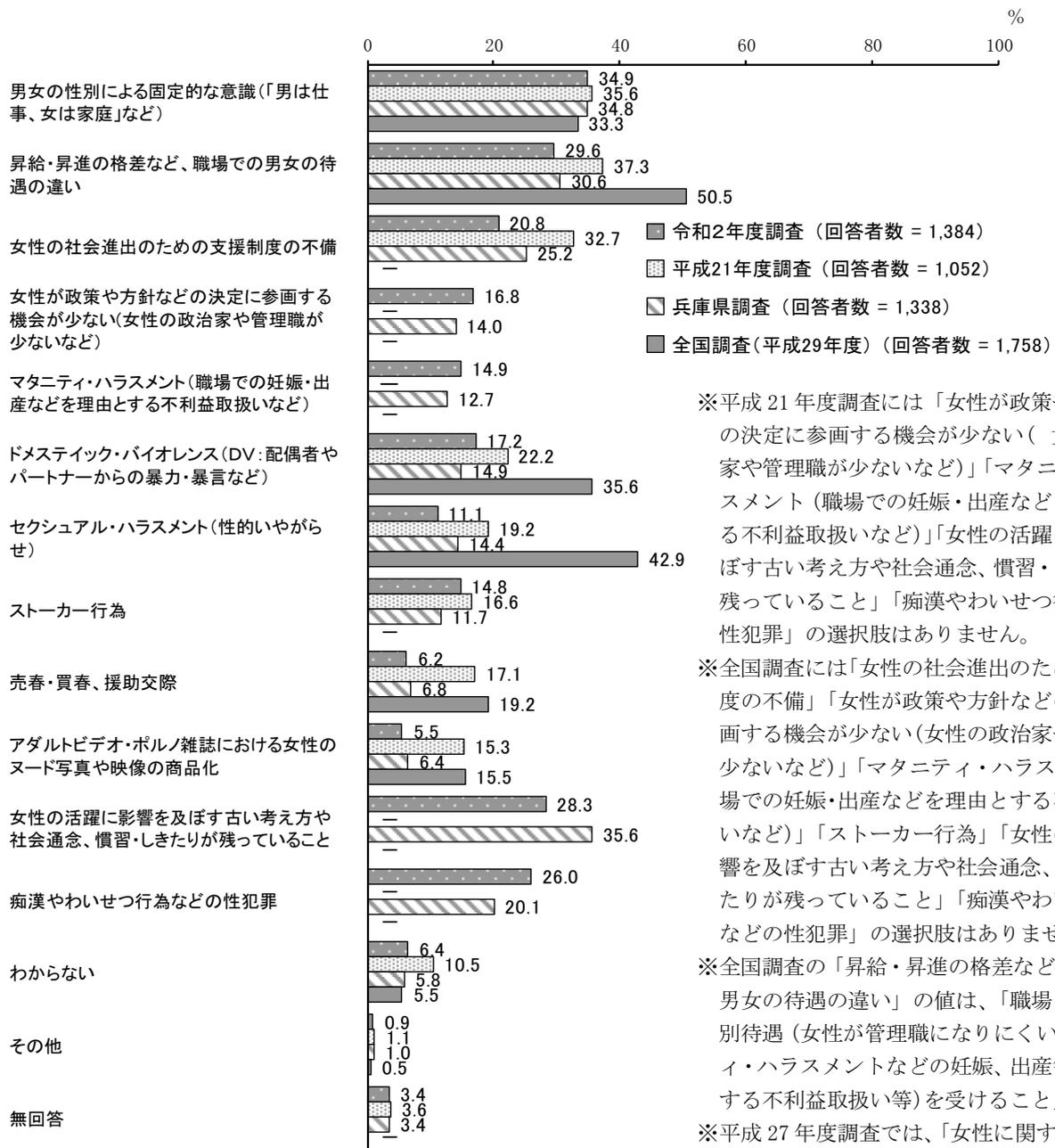
区分		インターネットによる人権侵害の問題	北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題	ホームレスの人に関する問題	性的指向（異性愛・同性愛など）を理由とした人権侵害の問題	性同一性障害（心と体の性が一致しない人）に関する人権侵害	人身取引（性的搾取・強制労働などを目的とした人身取引）に関する問題	東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による人権問題	働く人の権利に関する問題	環境と人にかかわる問題	その他の問題	特になし	無回答
性別	男性	48.8	16.7	7.0	6.6	7.7	4.2	14.1	32.5	10.5	1.1	3.5	3.1
	女性	45.8	17.6	4.1	9.9	12.1	3.4	12.4	22.3	8.3	0.6	3.8	3.0
	その他（または答えたくない）	50.0	—	—	8.3	16.7	—	8.3	—	8.3	—	8.3	8.3
年齢別	15～19歳	42.9	4.1	6.1	34.7	30.6	4.1	4.1	8.2	8.2	2.0	2.0	4.1
	20～29歳	49.1	5.7	8.5	27.4	22.6	4.7	5.7	28.3	4.7	0.9	2.8	2.8
	30～39歳	48.4	3.7	4.3	11.2	8.7	2.5	8.7	33.5	6.8	1.2	4.3	2.5
	40～49歳	51.2	11.3	2.8	9.9	14.6	2.8	3.8	26.8	7.0	0.9	2.8	2.3
	50～59歳	56.2	13.7	3.7	5.0	11.4	5.5	12.3	28.8	9.1	0.9	2.7	2.7
	60～69歳	51.1	19.7	7.6	5.4	9.4	4.0	15.2	29.6	10.8	0.9	2.2	0.9
	70歳以上	36.6	31.4	5.5	2.1	2.9	3.1	22.3	21.0	11.7	0.3	6.0	5.2

問6 女性に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「男女の性別による固定的な意識(「男は仕事、女は家庭」など)」の割合が34.9%と最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」の割合が29.6%、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」の割合が28.3%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「痴漢やわいせつ行為などの性犯罪」の割合が高く、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」の割合が低くなっています。

全国調査では、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」の割合が50.5%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」の割合が42.9%、「ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者やパートナーからの暴力・暴言など)」の割合が35.6%となっています。



※平成21年度調査には「女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない(女性の政治家や管理職が少ないなど)」「マタニティ・ハラスメント(職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど)」「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」「痴漢やわいせつ行為などの性犯罪」の選択肢はありません。

※全国調査には「女性の社会進出のための支援制度の不備」「女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない(女性の政治家や管理職が少ないなど)」「マタニティ・ハラスメント(職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど)」「ストーカー行為」「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」「痴漢やわいせつ行為などの性犯罪」の選択肢はありません。

※全国調査の「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」の値は、「職場において差別待遇(女性が管理職になりにくい、マタニティ・ハラスメントなどの妊娠、出産等を理由とする不利益取扱い等)を受けること」の値です。
 ※平成27年度調査では、「女性に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男女の性別による固定的な意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「男女の性別による固定的な意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数（件）	男女の性別による固定的な意識（「男は仕事、女は家庭」など）	昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い	女性の社会進出のための支援制度の不備	女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない（女性の政治家や管理職が少ないなど）	女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない（女性の政治家や管理職が少ないなど）	マタニティ・ハラスメント（職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど）	ドメスティック・バイオレンス（DV…配偶者やパートナーからの暴力・暴言など）	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
性別	男性	545	31.4	31.2	17.6	18.9	13.2	16.3	13.8	
	女性	800	37.6	29.1	23.1	15.9	16.1	18.0	9.0	
	その他（または答えたくない）	12	16.7	16.7	33.3	8.3	16.7	25.0	33.3	
年齢別	15～19歳	49	53.1	40.8	8.2	20.4	20.4	16.3	10.2	
	20～29歳	106	52.8	27.4	21.7	13.2	32.1	12.3	17.9	
	30～39歳	161	37.9	29.8	29.2	11.8	27.3	12.4	14.9	
	40～49歳	213	37.6	24.4	23.9	14.1	16.4	20.7	11.7	
	50～59歳	219	29.7	28.3	17.4	13.7	10.5	27.4	14.2	
	60～69歳	223	34.5	27.4	24.2	21.5	11.2	19.3	10.3	
	70歳以上	385	28.3	34.5	17.4	20.5	8.3	12.5	6.2	

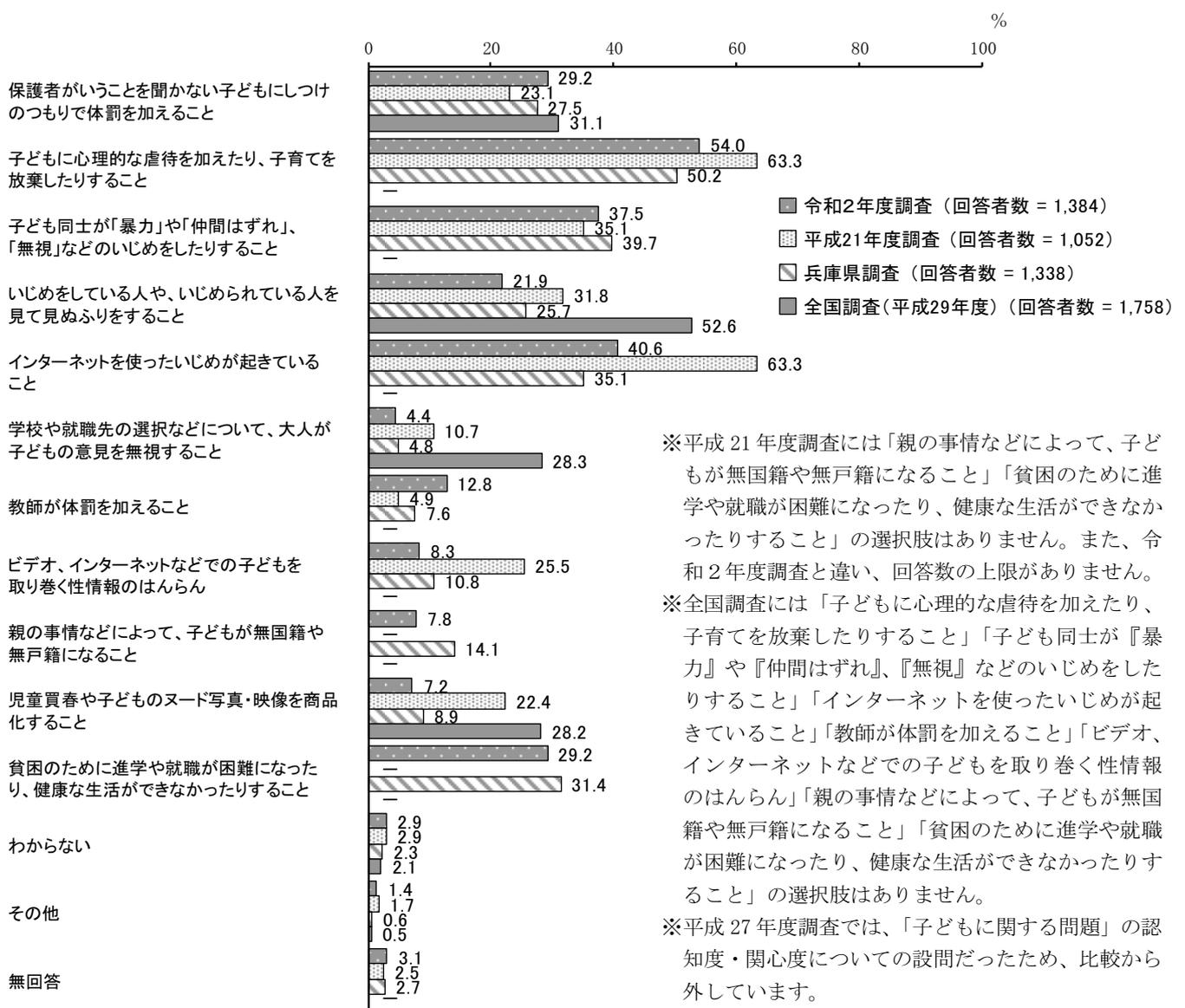
区分		ストーカー行為	売春・買春、援助交際	アダルトビデオ・ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の商品化	女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること	痴漢やわいせつ行為などの性犯罪	わからない	その他	無回答
性別	男性	16.7	6.8	4.2	26.1	24.8	5.9	1.3	3.9
	女性	13.6	5.9	6.5	30.1	27.5	6.1	0.5	3.0
	その他（または答えたくない）	25.0	8.3	8.3	8.3	25.0	16.7	8.3	—
年齢別	15～19歳	8.2	2.0	—	24.5	20.4	6.1	—	—
	20～29歳	6.6	3.8	1.9	19.8	23.6	5.7	0.9	4.7
	30～39歳	8.7	3.7	0.6	28.0	23.6	6.2	1.2	3.7
	40～49歳	14.1	7.5	4.7	25.4	30.5	4.7	1.9	3.3
	50～59歳	21.9	6.4	5.0	30.6	29.2	4.1	0.5	2.3
	60～69歳	15.7	7.6	8.1	33.2	24.7	4.9	0.4	1.3
	70歳以上	16.9	7.0	8.8	28.8	26.0	9.1	0.8	4.7

問7 子どもに関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること」の割合が54.0%と最も高く、次いで「インターネットを使ったいじめが起きていること」の割合が40.6%、「子ども同士が『暴力』や『仲間はずれ』、『無視』などのいじめをしたりすること」の割合が37.5%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「インターネットを使ったいじめが起きていること」「教師が体罰を加えること」の割合が高く、「親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること」の割合が低くなっています。

全国調査では、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」の割合が52.6%と最も高く、次いで「保護者がいうことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を加えること」の割合が31.1%、「学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること」の割合が28.3%となっています。



※平成21年度調査には「親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること」「貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること」の選択肢はありません。また、令和2年度調査と違い、回答数の上限がありません。

※全国調査には「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること」「子ども同士が『暴力』や『仲間はずれ』、『無視』などのいじめをしたりすること」「インターネットを使ったいじめが起きていること」「教師が体罰を加えること」「ビデオ、インターネットなどでの子どもを取り巻く性情報のはんらん」「親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること」「貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること」の選択肢はありません。

※平成27年度調査では、「子どもに関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳、40～49歳で「インターネットを使っていたいじめが起きていること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	保護者がいじめを聞きかたい子どもにしつけのつもりで体罰を加えること	子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること	子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをしたりすること	いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする	インターネットを使っていたいじめが起きていること	学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること	教師が体罰を加えること
男性	545	32.1	55.4	37.1	22.8	38.5	4.4	13.2
女性	800	27.6	53.3	38.8	21.3	42.1	4.5	12.9
その他(または答えたくない)	12	16.7	58.3	33.3	16.7	75.0	—	—
15～19歳	49	24.5	61.2	32.7	26.5	38.8	16.3	26.5
20～29歳	106	34.9	57.5	34.0	19.8	40.6	6.6	17.9
30～39歳	161	26.1	54.7	36.6	16.8	56.5	4.3	5.6
40～49歳	213	22.1	54.0	39.4	16.0	51.2	5.2	5.6
50～59歳	219	27.4	50.2	39.7	21.5	47.5	3.2	9.6
60～69歳	223	32.7	58.7	33.6	26.9	41.7	3.6	13.5
70歳以上	385	33.0	51.4	40.8	24.2	25.2	3.1	18.2

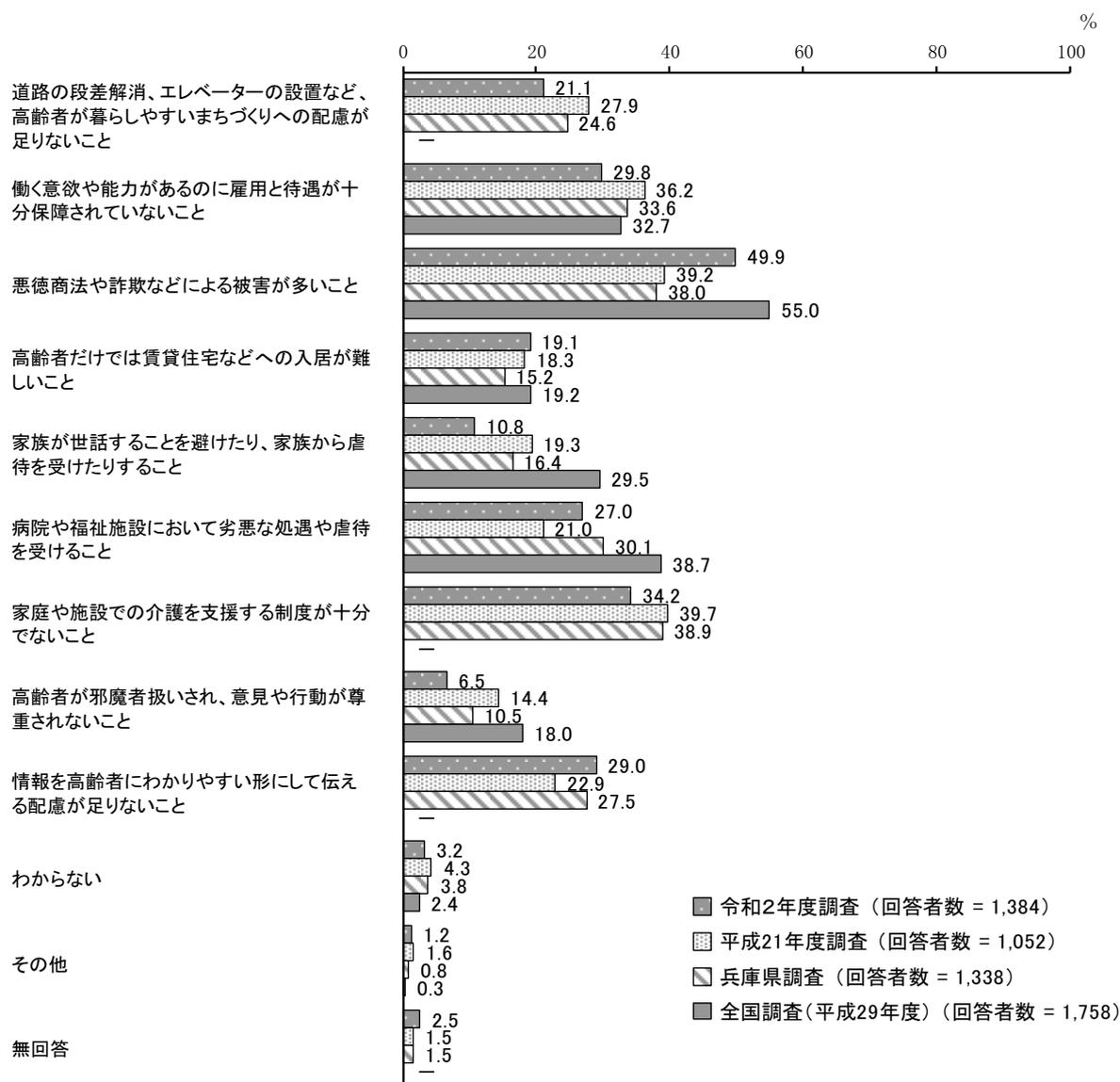
区分	ビデオ、インターネットなどで子どもを取り巻く性情報のはらん	親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること	児童買春や子どものヌード写真・映像を商品化すること	貧困のために進学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかったりすること	わからない	その他	無回答
男性	7.3	8.1	4.6	25.7	3.5	1.5	2.6
女性	9.0	7.8	9.3	31.9	2.0	1.3	3.3
その他(または答えたくない)	16.7	—	—	25.0	8.3	8.3	—
15～19歳	6.1	4.1	4.1	14.3	—	—	—
20～29歳	4.7	7.5	5.7	21.7	1.9	0.9	3.8
30～39歳	8.1	5.6	6.8	28.0	2.5	4.3	1.9
40～49歳	10.8	11.7	7.5	31.5	2.8	1.9	1.9
50～59歳	7.8	9.6	8.2	32.4	2.3	—	3.2
60～69歳	7.2	6.7	7.2	34.1	1.3	0.4	2.2
70歳以上	9.6	7.0	7.8	28.3	4.4	1.3	4.7

問8 高齢者に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」の割合が49.9%と最も高く、次いで「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」の割合が34.2%、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」の割合が29.8%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」の割合が高く、「家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること」の割合が低くなっています。

全国調査では、「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」の割合が55.0%と最も高く、次いで「病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」の割合が38.7%、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」の割合が32.7%となっています。



※平成21年度調査は、令和2年度調査と違い、回答数の上限がありません。

※全国調査には「道路の段差解消、エレベーターの設置など、高齢者が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」

「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の選択肢はありません。

※平成27年度調査では、「高齢者に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、60～69歳、70歳以上で「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合が高くなっています。

単位：%

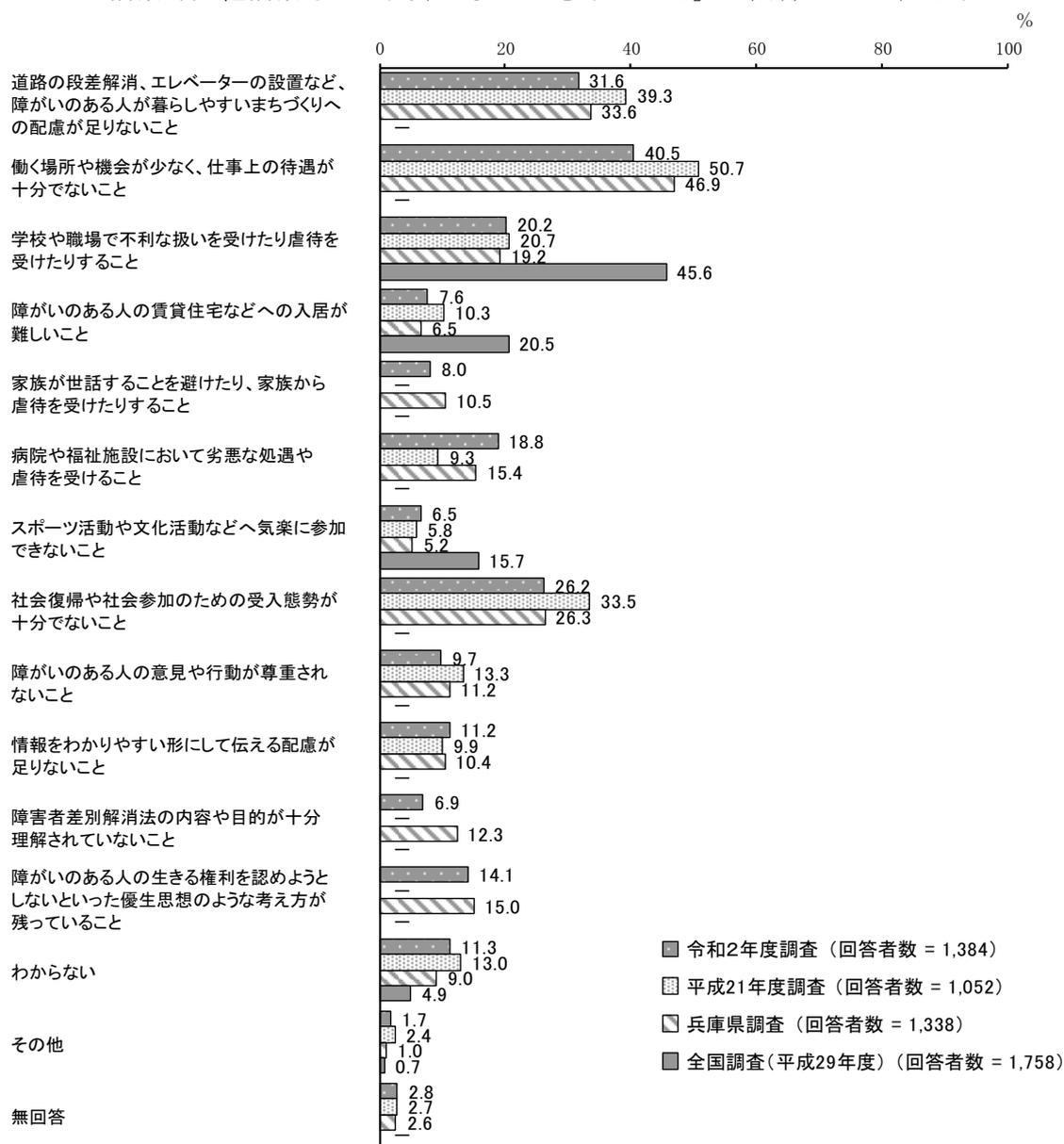
区分		有効回答数(件)	道路の段差解消、エレベーターの設置などが暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと	働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと	悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと	高齢者だけでは賃貸住宅などへの入居が難しいこと	家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたこと	病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること	家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと	高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと	情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	21.3	33.9	50.8	19.1	11.0	22.4	33.8	6.2	23.7	3.5	1.3	2.2
	女性	800	20.3	27.0	49.6	19.4	11.3	30.8	34.6	6.8	32.9	2.8	1.1	2.4
	その他(または答えたくない)	12	16.7	41.7	58.3	—	—	25.0	58.3	—	16.7	16.7	8.3	—
年齢別	15～19歳	49	20.4	30.6	42.9	6.1	12.2	24.5	32.7	10.2	16.3	4.1	—	2.0
	20～29歳	106	16.0	18.9	48.1	6.6	18.9	38.7	36.8	12.3	22.6	3.8	1.9	—
	30～39歳	161	16.8	33.5	46.6	15.5	9.9	26.7	37.3	3.7	17.4	6.2	1.2	1.9
	40～49歳	213	20.2	31.9	51.6	19.2	8.0	24.9	32.9	6.6	27.2	4.2	0.5	1.9
	50～59歳	219	18.3	33.3	50.2	19.6	11.9	35.2	35.2	3.7	27.4	1.4	2.3	2.7
	60～69歳	223	21.5	36.8	48.0	22.4	10.3	27.8	37.2	9.4	34.1	0.9	0.9	1.8
	70歳以上	385	24.7	24.4	53.2	23.4	10.9	21.6	31.2	5.5	36.6	3.4	1.0	3.4

問9 障がいのある人に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」の割合が40.5%と最も高く、次いで「道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと」の割合が31.6%、「社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと」の割合が26.2%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」「障害者差別解消法の内容や目的が十分理解されていないこと」の割合が低くなっています。

全国調査では、「学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること」の割合が45.6%と最も高く、次いで「障がいのある人の賃貸住宅などへの入居が難しいこと」の割合が20.5%、「スポーツ活動や文化活動などへ気楽に参加できないこと」の割合が15.7%となっています。



※平成21年度調査には、「家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること」「障害者差別解消法の内容や目的が十分理解されていないこと」「障がいのある人の生きる権利を認めようとしないといった優生思想のような考え方が残っていること」の選択肢はありません。また、令和2年度調査と違い、回答数の上限がありません。

※全国調査には「学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること」「スポーツ活動や文化活動などへ気楽に参加できないこと」以外の選択肢はありません。

※平成27年度調査では、「障がいのある人に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること」「障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数(件)	道路の段差解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと	働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと	学校や職場で不利な扱いを受けたり虐待を受けたりすること	障がいのある人の賃貸住宅などへの入居が難しいこと	家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること	病院や福祉施設において劣悪な処遇や虐待を受けること	スポーツ活動や文化活動などへ気楽に参加できないこと
性別	男性	545	29.2	43.3	20.9	7.5	7.5	18.2	7.0
	女性	800	33.4	39.0	20.3	7.5	8.0	20.0	6.4
	その他(または答えたくない)	12	16.7	41.7	25.0	16.7	8.3	—	—
年齢別	15～19歳	49	22.4	42.9	36.7	6.1	6.1	16.3	8.2
	20～29歳	106	17.9	32.1	36.8	6.6	16.0	21.7	7.5
	30～39歳	161	26.1	41.0	22.4	7.5	11.2	19.3	3.7
	40～49歳	213	34.7	45.5	17.8	5.2	4.2	19.7	6.1
	50～59歳	219	32.0	49.8	17.8	5.5	7.3	21.9	4.6
	60～69歳	223	35.0	38.6	23.3	7.2	5.8	18.8	7.2
	70歳以上	385	34.8	36.4	14.8	10.9	7.8	16.6	8.1

区分		社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと	障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと	情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	障害者差別解消法の内容や目的が十分理解されていないこと	障がいのある人の生きる権利を認めようとしないといった優生思想のような考え方が残っていること	わからない	その他	無回答
性別	男性	26.6	9.9	11.9	8.8	13.0	11.2	1.5	2.8
	女性	26.1	9.8	10.9	5.6	14.8	11.3	1.8	2.4
	その他(または答えたくない)	33.3	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	—
年齢別	15～19歳	24.5	18.4	6.1	6.1	16.3	2.0	—	2.0
	20～29歳	24.5	19.8	13.2	6.6	17.9	5.7	1.9	1.9
	30～39歳	31.7	9.9	7.5	7.5	6.2	14.9	1.9	1.2
	40～49歳	24.4	7.5	8.9	4.7	16.9	9.4	2.3	0.5
	50～59歳	26.0	10.5	11.0	8.2	14.6	11.9	2.7	1.8
	60～69歳	27.8	8.1	13.9	12.1	17.9	6.7	0.4	1.8
	70歳以上	24.9	8.1	13.2	4.7	11.7	15.3	1.6	5.5

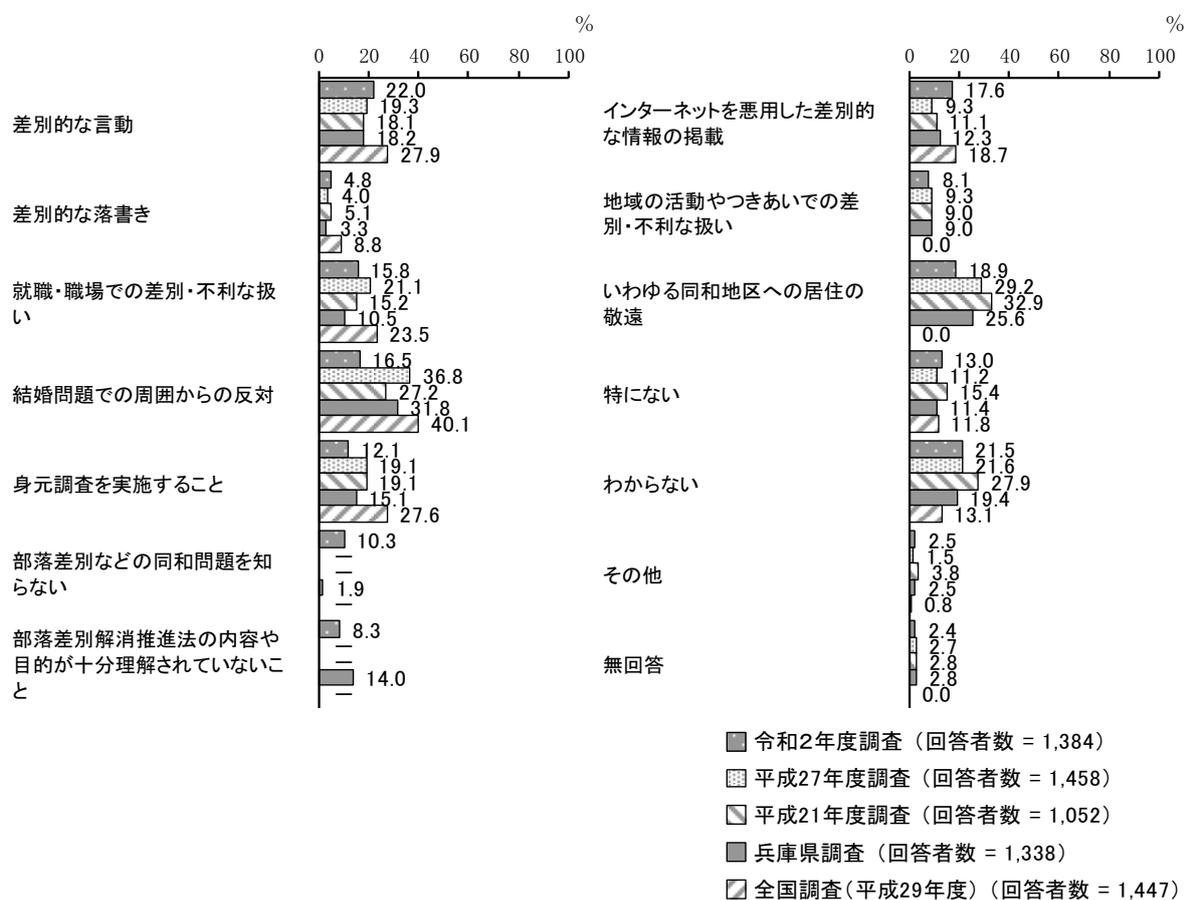
問 10 同和問題について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「差別的な言動」の割合が22.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が21.5%、「いわゆる同和地区への居住の敬遠」の割合が18.9%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「インターネットを悪用した差別的な情報の掲載」の割合が増加しています。一方、「就職・職場での差別・不利な扱い」「結婚問題での周囲からの反対」「身元調査を実施すること」「いわゆる同和地区への居住の敬遠」の割合が減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「就職・職場での差別・不利な扱い」「部落差別などの同和問題を知らない」「インターネットを悪用した差別的な情報の掲載」の割合が高くなっています。一方、「結婚問題での周囲からの反対」「部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと」「いわゆる同和地区への居住の敬遠」の割合が低くなっています。

全国調査では、「結婚問題での周囲からの反対」の割合が40.1%と最も高く、次いで「差別的な言動」の割合が27.9%、「身元調査を実施すること」の割合が27.6%となっています。



※平成21年度調査は、令和2年度調査と違い、回答数の上限がありません。
 ※平成21年度調査、平成27年度調査に「部落差別などの同和問題を知らない」「部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと」の選択肢はありません。
 ※全国調査に「部落差別などの同和問題を知らない」「部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと」「地域の活動やつきあいでの差別・不利な扱い」「いわゆる同和地区への居住の敬遠」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳、30～39歳で「差別的な言動」「インターネットを悪用した差別的な情報の掲載」の割合が高くなっています。

単位：%

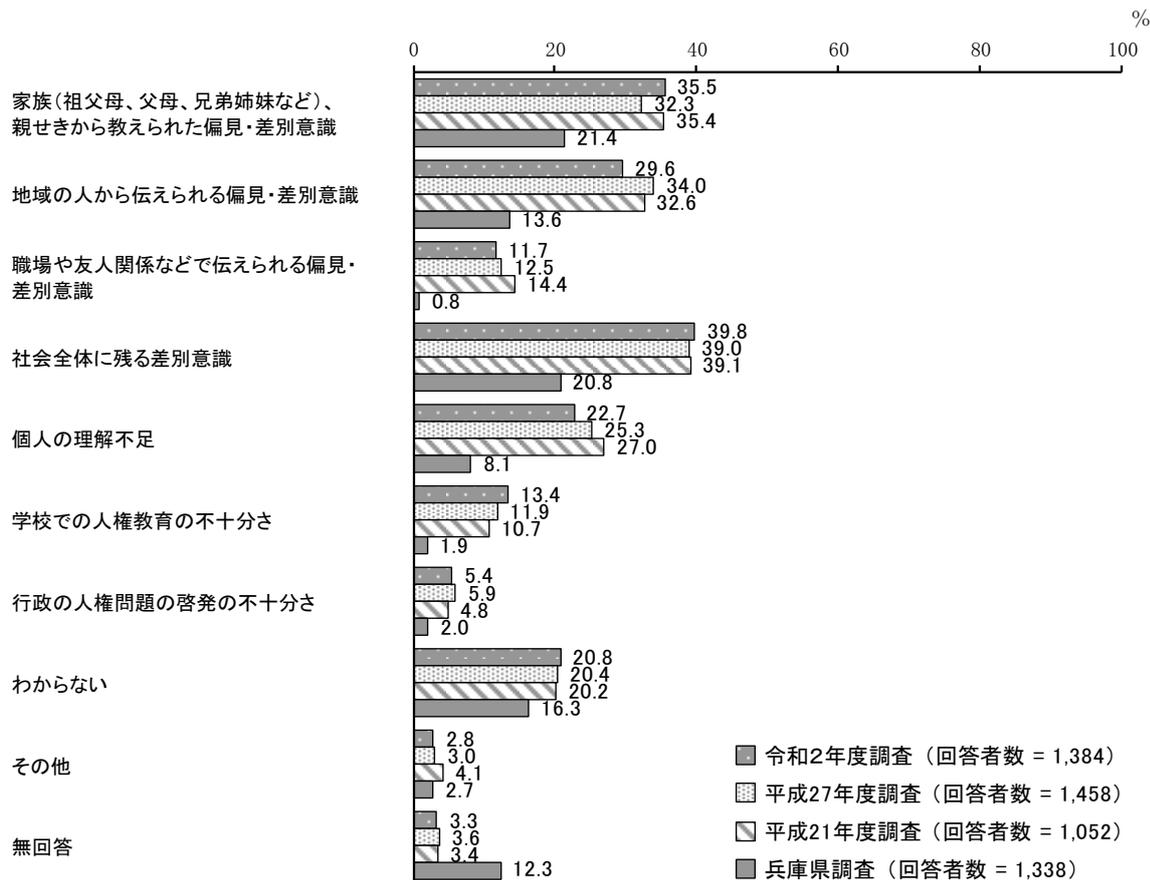
区分		有効回答数(件)	差別的な言動	差別的な落書き	就職・職場での差別・不利な扱い	結婚問題での周囲からの反対	身元調査を実施すること	部落差別などの同和問題を知らない	部落差別解消推進法の内容や目的が十分理解されていないこと	部落差別などの同和問題を知らない	インターネットを悪用した差別的な情報の掲載	地域の活動やつきあいでの差別・不利な扱い	遠い地域の活動やつきあいで	特にな	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	20.9	6.2	16.7	15.6	11.9	11.9	10.6	19.8	9.7	18.5	13.9	18.7	2.8	2.0	
	女性	800	23.3	3.9	15.4	16.8	12.6	9.5	6.1	16.3	7.0	19.1	11.9	23.6	2.3	2.5	
	その他(または答えたくない)	12	25.0	8.3	16.7	16.7	—	—	16.7	25.0	16.7	8.3	16.7	16.7	—	—	
年齢別	15～19歳	49	36.7	8.2	18.4	14.3	10.2	10.2	4.1	28.6	8.2	8.2	6.1	24.5	2.0	—	
	20～29歳	106	33.0	5.7	23.6	17.0	7.5	10.4	5.7	23.6	7.5	17.0	5.7	19.8	0.9	0.9	
	30～39歳	161	31.7	6.2	18.0	16.8	10.6	14.3	6.2	22.4	14.3	12.4	8.7	19.3	3.1	1.2	
	40～49歳	213	25.8	4.7	14.6	11.7	13.6	10.8	5.2	20.7	8.9	17.8	13.1	21.1	1.9	0.9	
	50～59歳	219	18.7	6.4	18.7	19.6	10.5	9.6	7.3	21.9	7.8	19.6	12.3	21.5	1.4	1.8	
	60～69歳	223	15.2	3.6	16.6	17.0	13.5	15.2	12.6	17.0	6.7	24.7	10.8	20.6	4.0	1.8	
	70歳以上	385	17.9	3.6	11.4	16.1	14.0	6.5	9.4	9.4	6.5	20.3	18.7	23.4	2.6	4.7	

問 10-1 同和問題が生じる原因や背景として、特に思い当たるのはどれですか。
(〇は3つまで)

「社会全体に残る差別意識」の割合が39.8%と最も高く、次いで「家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親せきから教えられた偏見・差別意識」の割合が35.5%、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」の割合が29.6%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査との比較は、兵庫県と回答上限数が異なるため参考とします。



※兵庫県調査は、単数回答となっています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、50～59歳で「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親せきから教えられた偏見・差別意識」の割合が、60～69歳で「社会全体に残る差別意識」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数（件）	家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親せきから教えられた偏見・差別意識	地域の人から伝えられる偏見・差別意識	職場や友人関係などで伝えられる偏見・差別意識	社会全体に残る差別意識	個人の理解不足	学校での人権教育の不十分さ	行政の人権問題の啓発の不十分さ	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	31.4	31.6	13.0	39.3	24.8	12.5	6.2	21.5	3.9	3.3
	女性	800	38.0	28.9	11.0	41.4	21.1	14.4	4.6	20.4	2.0	2.6
	その他（または答えたくない）	12	58.3	—	8.3	8.3	33.3	8.3	8.3	16.7	8.3	—
年齢別	15～19歳	49	30.6	26.5	16.3	34.7	22.4	16.3	6.1	26.5	2.0	2.0
	20～29歳	106	39.6	22.6	13.2	33.0	27.4	19.8	2.8	25.5	2.8	1.9
	30～39歳	161	39.1	34.2	10.6	39.8	23.6	16.1	3.1	23.6	1.9	1.2
	40～49歳	213	37.6	33.8	10.3	36.6	23.0	18.3	5.6	18.3	2.8	0.9
	50～59歳	219	45.7	30.6	13.2	42.9	21.5	11.9	5.0	13.7	3.2	1.4
	60～69歳	223	37.2	25.6	14.3	49.3	28.7	13.9	8.1	14.3	2.2	1.8
	70歳以上	385	26.0	29.9	9.9	38.4	17.9	8.6	5.2	26.5	3.4	6.8

問 10-2 結婚についてお聞きします。

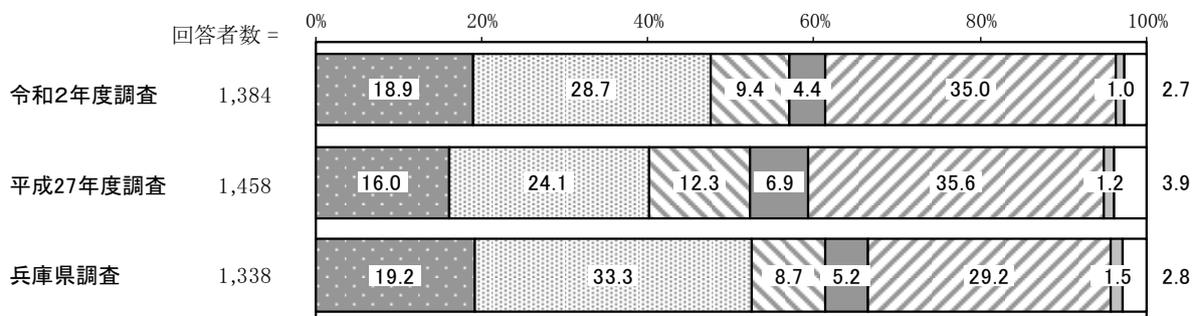
(1) たとえば、あなたが結婚しようとする相手が、いわゆる同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうされますか。(〇は1つ)

「わからない」を除き、「家族や親せきの反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」の割合が28.7%と最も高く、次いで「自分の意思を貫いて結婚する」の割合が18.9%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「自分の意思を貫いて結婚する」と「家族や親せきの反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」を合わせた“自分の意思を貫いて結婚する”の割合が7.5ポイント高くなっています。

兵庫県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- 自分の意思を貫いて結婚する
- 家族や親せきの反対があれば、結婚しない
- わからない
- 無回答
- 家族や親せきの反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する
- 絶対に結婚しない
- その他



【性別・年齢別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「自分の意思を貫いて結婚する」の割合が高くなっています。

年齢別で見ると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「自分の意思を貫いて結婚する」の割合が高くなっています。また、20～29歳、30～39歳で「家族や親せきの反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	自分の意思を貫いて結婚する	家族や親せきの反対があっても説得に全力を傾け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する	絶対に結婚しない	わからない	その他	無回答		
性別	男性	545	25.5	29.2	6.8	4.4	30.5	1.1	2.6
	女性	800	14.4	28.8	11.5	4.5	37.5	0.9	2.5
	その他(または答えたくない)	12	8.3	33.3	—	8.3	50.0	—	—
年齢別	15～19歳	49	36.7	30.6	2.0	2.0	24.5	2.0	2.0
	20～29歳	106	28.3	37.7	4.7	0.9	27.4	0.9	—
	30～39歳	161	22.4	36.6	8.7	5.6	26.7	—	—
	40～49歳	213	21.6	28.6	8.0	4.2	34.3	1.4	1.9
	50～59歳	219	15.1	33.3	7.3	3.2	39.3	0.9	0.9
	60～69歳	223	15.2	26.5	10.8	6.7	37.2	1.3	2.2
	70歳以上	385	15.1	22.3	13.5	4.9	37.9	0.8	5.5

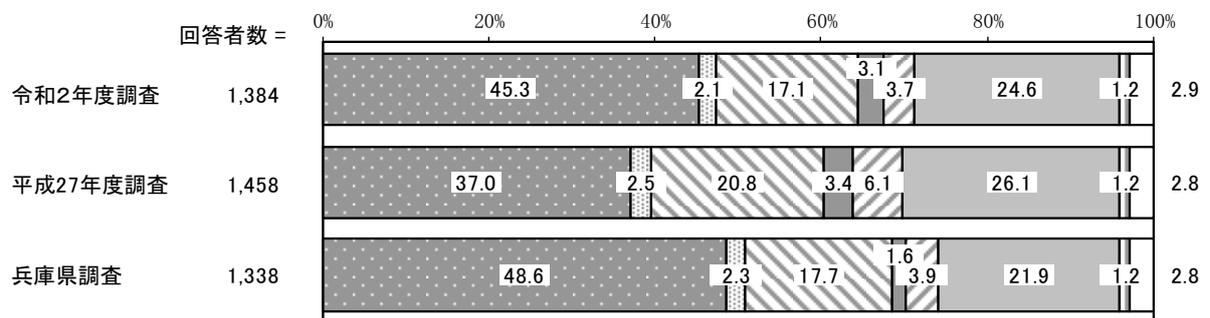
(2) たとえば、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、いわゆる同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどのようにされますか。(○は1つ)

「わからない」を除き、「子どもの意思を尊重する」の割合が45.3%と最も高く、次いで「親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない」の割合が17.1%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「子どもの意思を尊重する」の割合が8.3ポイント高くなっています。

兵庫県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- 子どもの意思を尊重する
- 親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない
- 絶対に結婚を認めない
- その他
- ためらったら勇気づける
- 家族や親せきの反対があれば、結婚を認めない
- わからない
- 無回答



【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「子どもの意思を尊重する」の割合が高くなっています。年齢別でみると、年齢が低くなるにつれて「子どもの意思を尊重する」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：%

区分		有効回答数(件)	子どもの意思を尊重する	ためらったら勇気づける	親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない	家族や親せきの反対があれば、結婚を認めない	絶対に結婚を認めない	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	53.2	3.7	13.4	2.4	3.7	20.2	0.9	2.6
	女性	800	40.5	1.1	19.6	3.8	3.6	27.5	1.3	2.6
	その他(または答えたくない)	12	33.3	—	16.7	—	8.3	41.7	—	—
年齢	15～19歳	49	59.2	2.0	8.2	—	2.0	26.5	—	2.0
	20～29歳	106	55.7	5.7	10.4	0.9	0.9	23.6	0.9	1.9
	30～39歳	161	49.7	1.9	14.3	3.7	6.2	23.6	0.6	—
	40～49歳	213	45.5	2.3	14.1	3.3	2.8	28.2	1.4	2.3
	50～59歳	219	47.5	0.9	14.6	2.7	2.3	30.1	0.5	1.4
	60～69歳	223	43.9	1.3	17.5	3.1	6.7	23.3	1.3	2.7
	70歳以上	385	39.0	2.3	24.4	4.2	3.1	20.5	1.6	4.9

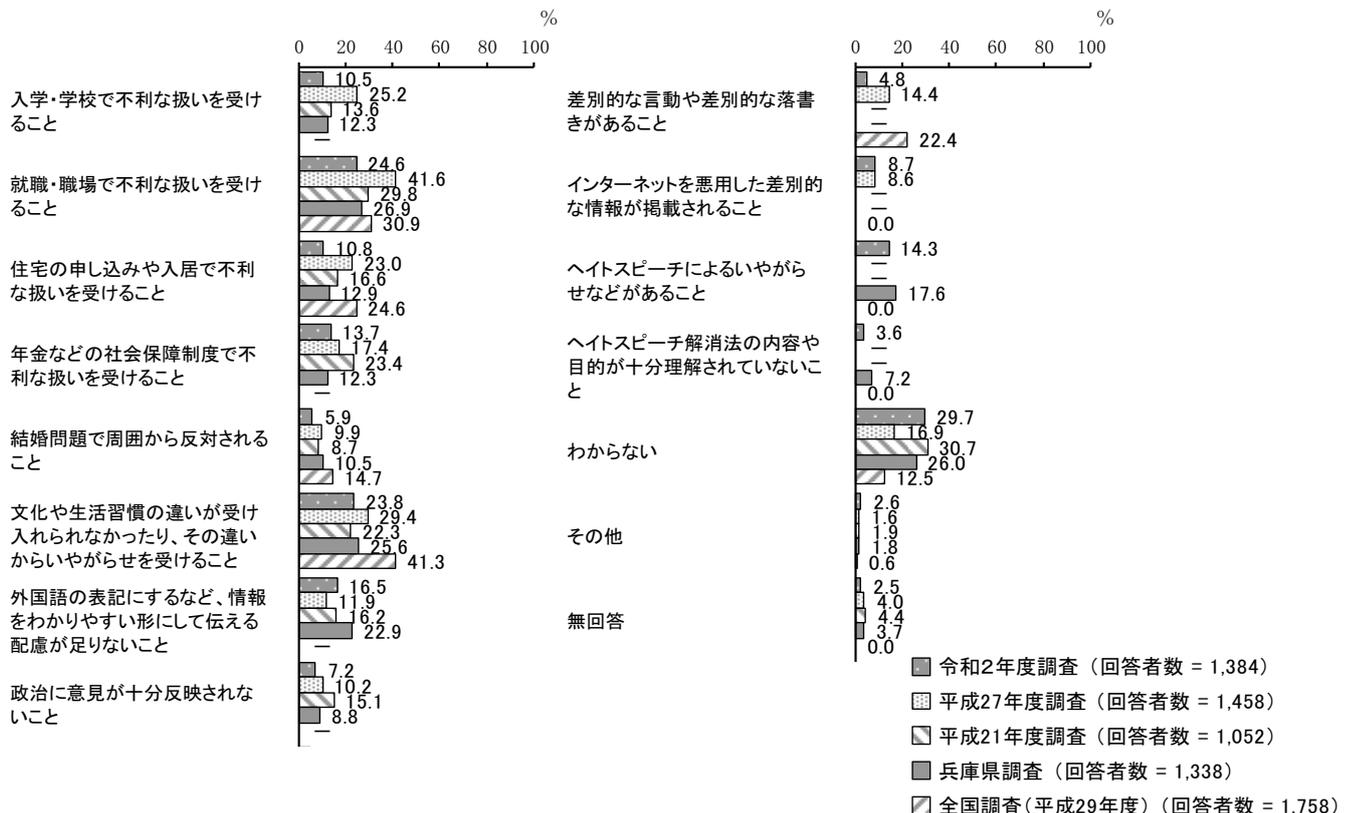
問 11 日本に居住している外国人に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「わからない」の割合が29.7%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が24.6%、「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」の割合が23.8%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「入学・学校で不利な扱いを受けること」「就職・職場で不利な扱いを受けること」「住宅の申し込みや入居で不利な扱いを受けること」「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」「差別的な言動や差別的な落書きがあること」の割合が減少しています。

兵庫県調査と比較すると、「外国語の表記にするなど、情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合が低くなっています。

全国調査では、「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」の割合が41.3%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が30.9%、「住宅の申し込みや入居で不利な扱いを受けること」の割合が24.6%となっています。



※平成27年度調査に「ヘイトスピーチによるいやがらせなどがあること」「ヘイトスピーチ解消法の内容や目的が十分理解されていないこと」の選択肢はありません。

※平成21年度調査に「差別的な言動や差別的な落書きがあること」「インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること」「ヘイトスピーチによるいやがらせなどがあること」「ヘイトスピーチ解消法の内容や目的が十分理解されていないこと」の選択肢はありません。

※兵庫県調査に「差別的な言動や差別的な落書きがあること」「インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること」の選択肢はありません。

※全国調査に「入学・学校で不利な扱いを受けること」「年金などの社会保障制度で不利な扱いを受けること」「外国語の表記にするなど、情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」「政治に意見が十分反映されないこと」「インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること」「ヘイトスピーチによるいやがらせなどがあること」「ヘイトスピーチ解消法の内容や目的が十分理解されていないこと」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「入学・学校で不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。また、20～29歳で「文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること」の割合が、20～29歳、30～39歳で「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。

単位：％

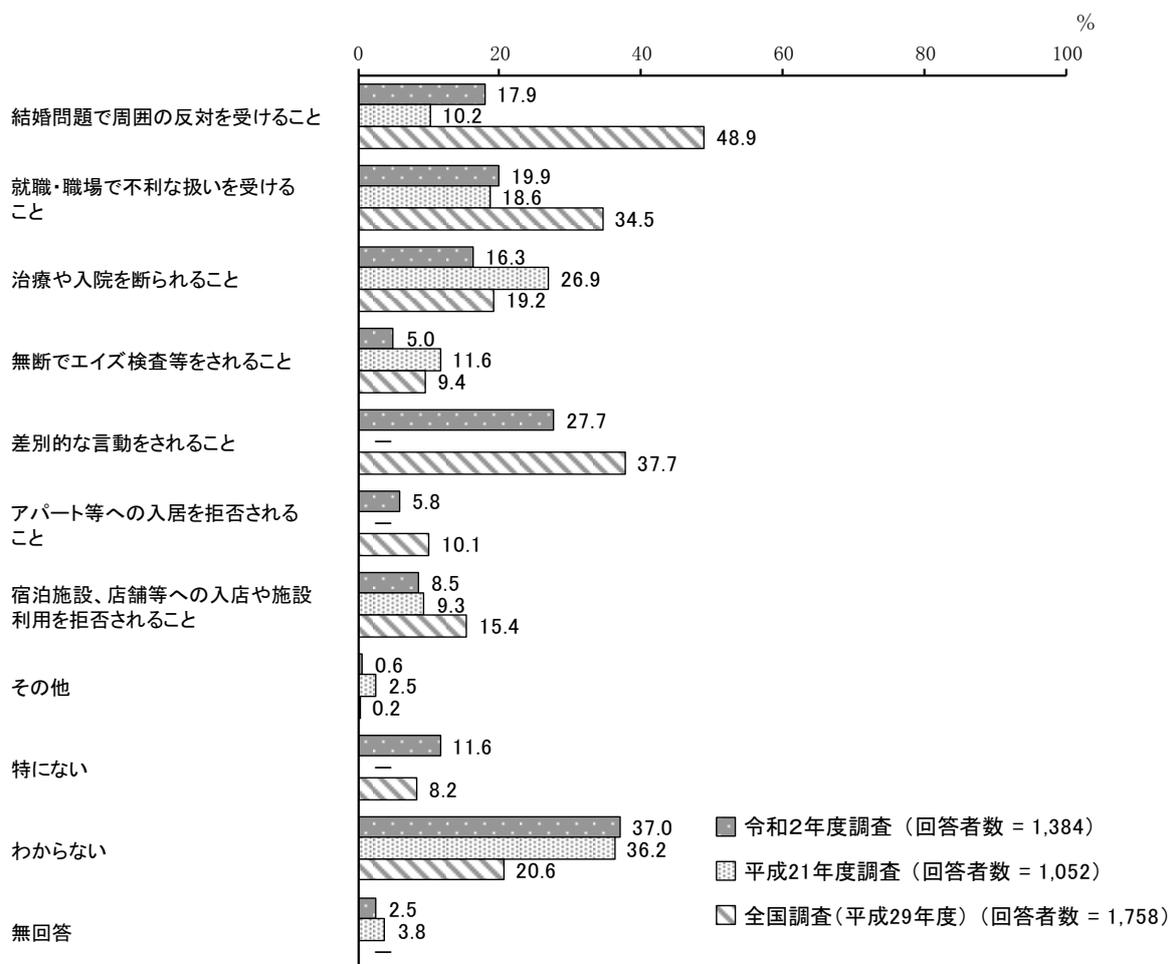
区分		有効回答数(件)	入学・学校で不利な扱いを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	住宅の申し込みや入居で不利な扱いを受けること	年金などの社会保障制度で不利な扱いを受けること	結婚問題で周囲から反対されること	文化や生活習慣の違いが受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること	外国語の表記にするなど、情報がわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
性別	男性	545	10.5	27.0	10.3	12.8	7.0	25.3	16.5
	女性	800	10.8	23.9	11.3	14.5	5.4	23.4	16.8
	その他(または答えたくない)	12	16.7	8.3	16.7	16.7	—	16.7	8.3
年齢別	15～19歳	49	20.4	28.6	10.2	12.2	4.1	28.6	18.4
	20～29歳	106	17.0	29.2	6.6	4.7	11.3	40.6	22.6
	30～39歳	161	13.0	31.1	13.7	15.5	8.7	28.0	11.8
	40～49歳	213	14.1	25.4	12.2	8.9	5.2	23.0	16.0
	50～59歳	219	11.9	23.7	14.2	14.2	2.7	26.5	18.7
	60～69歳	223	4.0	24.7	7.2	16.6	4.9	28.3	20.2
	70歳以上	385	8.1	21.6	10.6	16.9	6.8	14.5	13.8

区分		政治に意見が十分反映されないこと	差別的な言動や差別的な落書きがあること	インターネットを悪用した差別的な情報が掲載されること	ヘイトスピーチによるいやがらせなどがあること	ヘイトスピーチ解消法の内容や目的が十分理解されていないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	8.4	5.3	9.4	13.9	4.2	27.3	3.3	2.4
	女性	6.5	4.6	8.3	14.8	3.3	30.5	2.1	2.3
	その他(または答えたくない)	—	—	8.3	25.0	—	25.0	8.3	—
年齢別	15～19歳	12.2	12.2	16.3	6.1	—	20.4	6.1	2.0
	20～29歳	4.7	9.4	9.4	12.3	2.8	19.8	0.9	3.8
	30～39歳	7.5	4.3	7.5	15.5	2.5	23.6	1.9	0.6
	40～49歳	6.1	3.8	7.5	19.2	3.3	26.8	1.9	0.9
	50～59歳	7.3	6.8	7.8	17.8	5.5	26.0	1.8	2.3
	60～69歳	9.0	5.4	12.1	15.7	4.5	25.6	3.1	3.1
	70歳以上	6.8	2.1	7.5	10.6	3.4	40.5	3.4	2.6

問 12 エイズ患者・HIV感染者やその家族について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「わからない」の割合が37.0%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」の割合が27.7%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が19.9%となっています。

全国調査では、「結婚問題で周囲の反対を受けること」の割合が48.9%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」の割合が37.7%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が34.5%となっています。



※平成27年度調査では、「エイズ患者・HIV(エイズ・ウイルス)感染者に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

※平成21年度調査には、「差別的な言動をされること」「アパート等への入居を拒否されること」「特にない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳、30～39歳で「差別的な言動をされること」の割合が高くなっています。

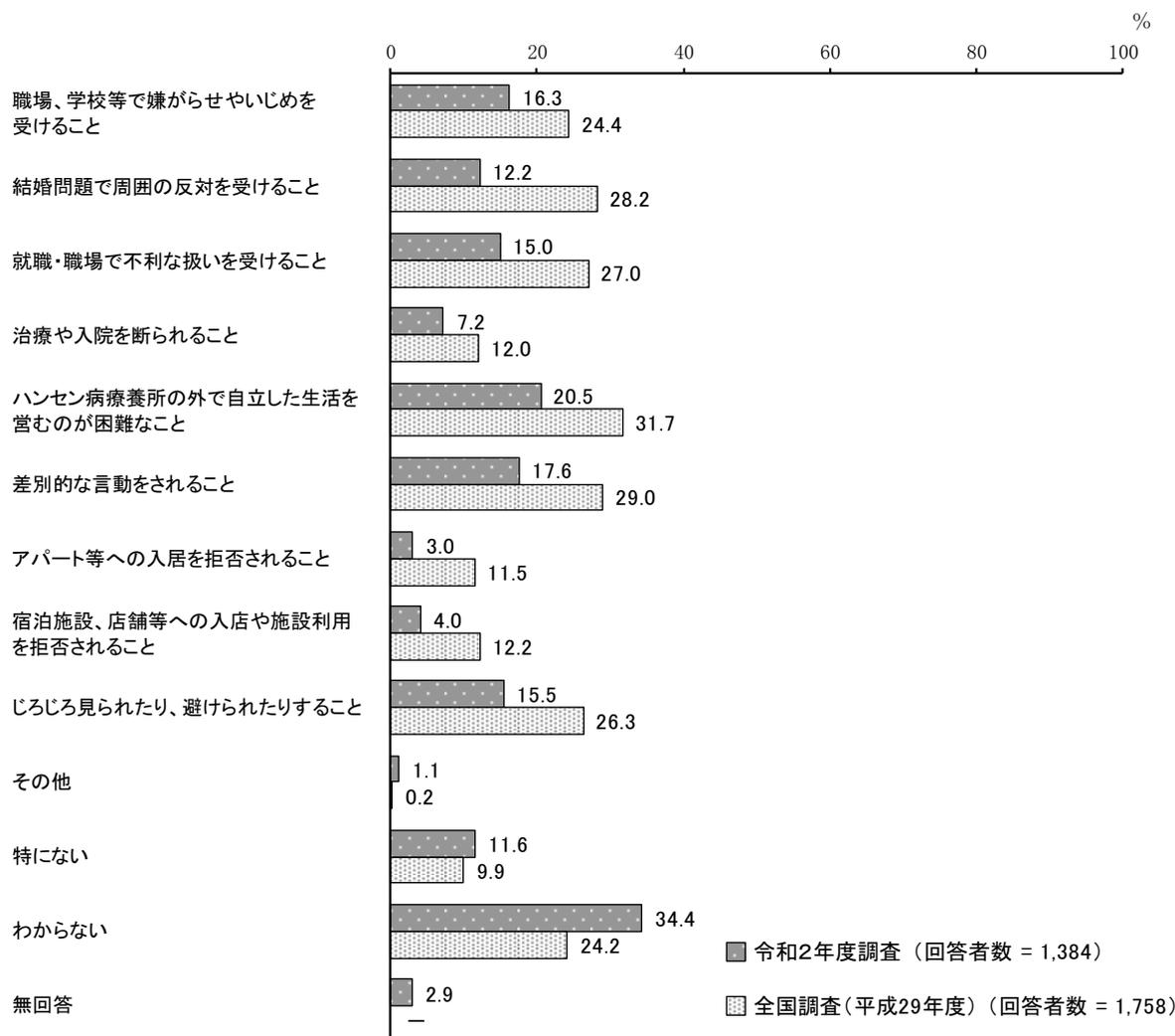
単位：％

区分		有効回答数(件)	結婚問題で周囲の反対を受け ること	就職・職場で不利な扱いを受 けること	治療や入院を断られること	無断でエイズ検査等をされる こと	差別的な言動をされること	アパート等への入居を拒否さ れること	宿泊施設、店舗等への入店や 施設利用を拒否されること	その他	特にな い	わからない	無回 答
性別	男性	545	18.3	20.9	16.5	5.0	27.5	5.7	7.9	0.4	15.0	34.7	2.4
	女性	800	17.5	19.3	16.8	4.9	28.3	5.9	8.9	0.8	9.0	38.4	2.4
	その他(または 答えたくない)	12	16.7	25.0	—	8.3	25.0	16.7	8.3	—	25.0	33.3	—
年齢別	15～19歳	49	24.5	18.4	18.4	8.2	30.6	12.2	16.3	—	4.1	32.7	2.0
	20～29歳	106	18.9	16.0	11.3	7.5	40.6	8.5	13.2	—	10.4	27.4	1.9
	30～39歳	161	20.5	18.6	19.9	7.5	37.3	6.2	10.6	1.2	9.9	28.6	0.6
	40～49歳	213	16.4	17.4	17.4	4.2	29.6	8.5	9.4	0.9	9.9	38.5	1.9
	50～59歳	219	15.1	21.5	17.8	4.6	31.1	5.5	8.2	0.5	11.4	36.1	1.4
	60～69歳	223	18.4	23.3	18.4	3.6	28.7	2.2	7.6	0.4	13.0	35.4	2.2
	70歳以上	385	17.9	20.8	14.0	4.2	17.4	5.2	5.5	0.5	13.8	43.6	3.9

問 13 ハンセン病患者・回復者やその家族に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「わからない」の割合が34.4%と最も高く、次いで「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が20.5%、「差別的な言動をされること」の割合が17.6%となっています。

全国調査では、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」の割合が31.7%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」の割合が29.0%、「結婚問題で周囲の反対を受けること」の割合が28.2%となっています。



※平成27年度調査では、「ハンセン病患者・回復者などに関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「差別的な言動をされること」の割合が高くなっています。

単位：％

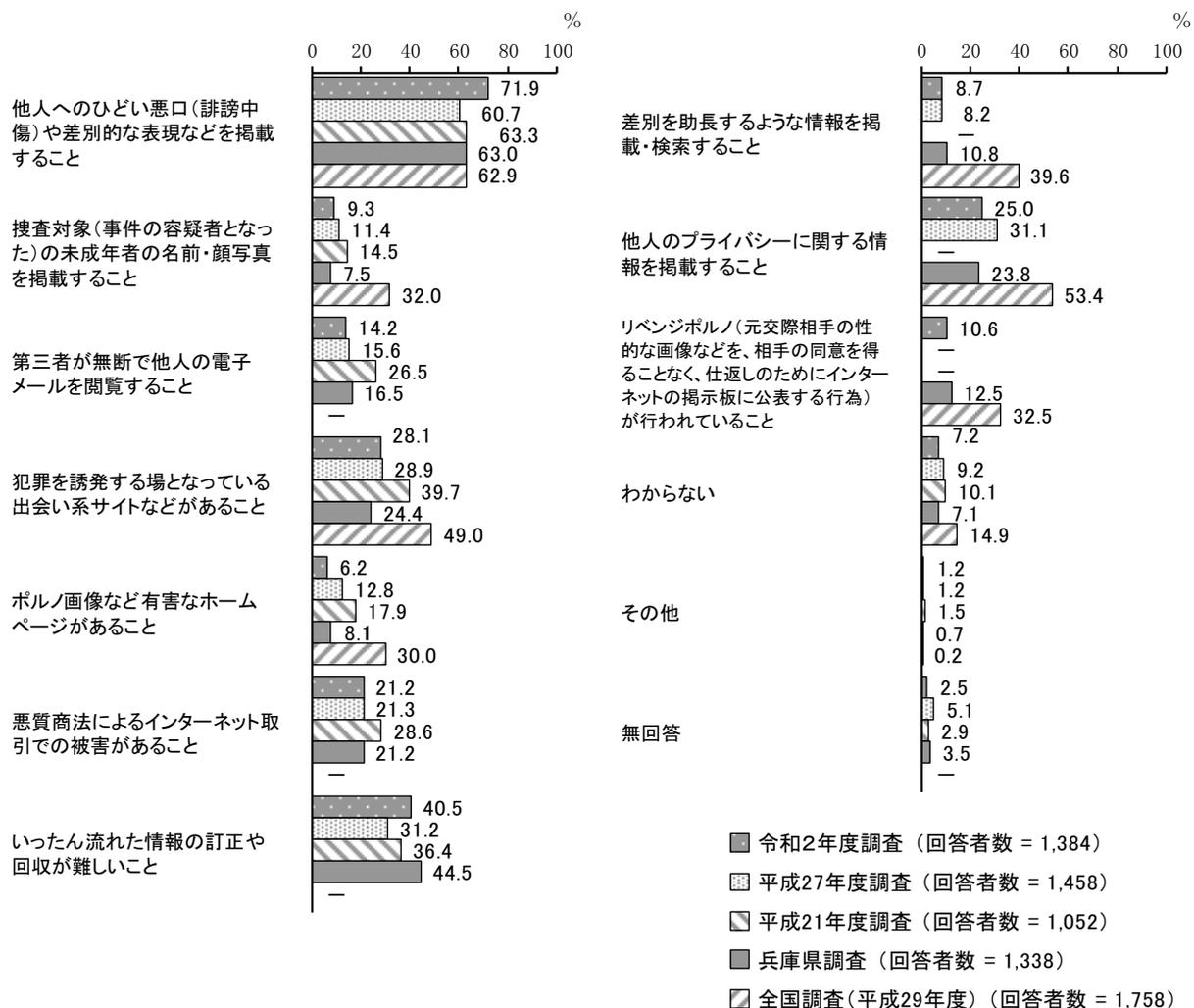
区分		有効回答数(件)	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	結婚問題で周囲の反対を受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	治療や入院を断られること	ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	差別的な言動をされること	アパート等への入居を拒否されること	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたいすること	その他	特にない	わからない	無回答
性別	男性	545	17.8	13.4	18.7	6.4	20.2	15.6	3.1	4.8	13.8	0.7	15.2	30.6	2.8
	女性	800	15.6	11.6	12.9	8.1	21.3	19.1	2.8	3.6	16.5	1.4	8.5	36.9	2.8
	その他(または答えたくない)	12	16.7	—	16.7	—	16.7	16.7	8.3	—	16.7	—	25.0	33.3	—
年齢別	15～19歳	49	32.7	8.2	10.2	8.2	6.1	26.5	—	8.2	12.2	—	8.2	40.8	2.0
	20～29歳	106	21.7	7.5	15.1	3.8	16.0	25.5	4.7	3.8	22.6	—	8.5	35.8	2.8
	30～39歳	161	19.9	8.7	18.6	8.7	14.9	18.0	1.9	5.6	8.1	0.6	14.3	36.6	—
	40～49歳	213	12.7	10.8	14.1	8.0	18.3	16.9	1.9	3.8	16.9	1.4	11.7	35.2	2.3
	50～59歳	219	14.6	11.9	16.0	7.8	24.2	20.1	2.7	2.7	15.1	1.4	11.0	32.0	2.7
	60～69歳	223	17.5	12.6	17.0	8.5	27.4	20.2	3.6	4.0	16.6	1.3	8.1	30.0	3.6
	70歳以上	385	14.3	16.4	13.8	6.5	21.6	11.7	3.6	3.9	15.1	1.3	13.5	35.8	3.4

問 14 インターネット（パソコン、スマートフォンなど）を悪用した人権侵害について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（〇は3つまで）

「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」の割合が71.9%と最も高く、次いで「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」の割合が40.5%、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」の割合が28.1%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」の割合が高くなっています。

全国調査では、「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」の割合が62.9%と最も高く、次いで「他人のプライバシーに関する情報を掲載すること」の割合が53.4%、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」の割合が49.0%となっています。



※平成 27 年度調査に「リベンジポルノ（元交際相手の～）」の選択肢はありません。

※平成 21 年度調査に「差別を助長するような情報を掲載・検索すること」「他人のプライバシーに関する情報を掲載すること」「リベンジポルノ（元交際相手の～）」の選択肢はありません。

※全国調査に「第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること」「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳で「他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること」の割合が高くなっています。また、20～29歳、40～49歳、50～59歳で「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」の割合が、60～69歳、70歳以上で「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」の割合が高くなっています。

単位：％

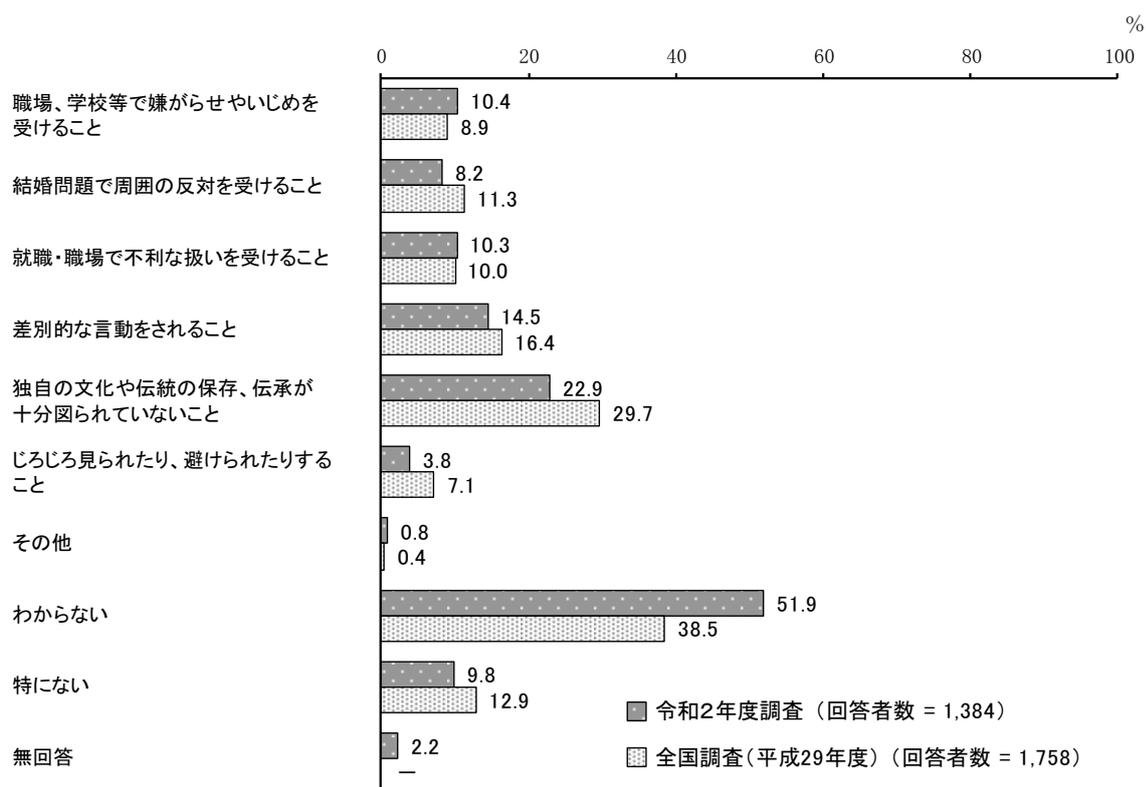
区分		有効回答数（件）	他人へのひどい悪口（誹謗中傷）や差別的な表現などを掲載すること	捜査対象（事件の容疑者となった）の未成年者の名前・顔写真を掲載すること	第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること	犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること	ポルノ画像など有害なホームページがあること	悪質商法によるインターネット取引での被害があること
性別	男性	545	71.2	8.8	15.0	29.2	4.8	22.8
	女性	800	72.8	10.1	13.3	28.4	7.1	20.5
	その他（または答えたくない）	12	83.3	—	16.7	8.3	8.3	25.0
年齢別	15～19歳	49	85.7	18.4	8.2	12.2	6.1	22.4
	20～29歳	106	76.4	10.4	13.2	20.8	5.7	16.0
	30～39歳	161	78.3	11.8	12.4	23.6	6.8	15.5
	40～49歳	213	75.6	7.5	12.7	24.4	3.8	21.1
	50～59歳	219	77.2	11.4	13.2	27.4	6.8	22.4
	60～69歳	223	79.8	10.3	12.1	34.5	7.2	22.0
	70歳以上	385	57.7	6.8	17.7	34.3	6.2	24.2

区分		いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと	差別を助長するような情報を掲載・検索すること	他人のプライバシーに関する情報を掲載すること	リベンジポルノが行われていること	わからない	その他	無回答
性別	男性	37.8	9.9	22.9	9.2	7.3	0.9	2.6
	女性	43.1	8.1	26.4	11.9	6.6	1.3	2.1
	その他（または答えたくない）	25.0	8.3	33.3	16.7	8.3	—	—
年齢別	15～19歳	32.7	8.2	28.6	6.1	4.1	4.1	2.0
	20～29歳	46.2	10.4	28.3	14.2	4.7	1.9	1.9
	30～39歳	43.5	11.8	32.3	12.4	3.1	1.2	0.6
	40～49歳	53.5	11.3	30.5	11.3	1.4	0.9	1.9
	50～59歳	47.9	6.4	21.9	14.6	3.7	0.5	2.3
	60～69歳	40.4	10.8	26.9	9.0	2.7	—	2.2
	70歳以上	28.1	6.2	18.7	8.6	17.1	1.6	3.4

問 15 アイヌの人々に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「わからない」の割合が51.9%と最も高く、次いで「独自の文化や伝統の保存、伝承が十分図られていないこと」の割合が22.9%、「差別的な言動をされること」の割合が14.5%となっています。

全国調査では、「独自の文化や伝統の保存、伝承が十分図られていないこと」の割合が29.7%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」の割合が16.4%、「結婚問題で周囲の反対を受けること」の割合が11.3%となっています。



※平成27年度調査では、「アイヌの人々に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

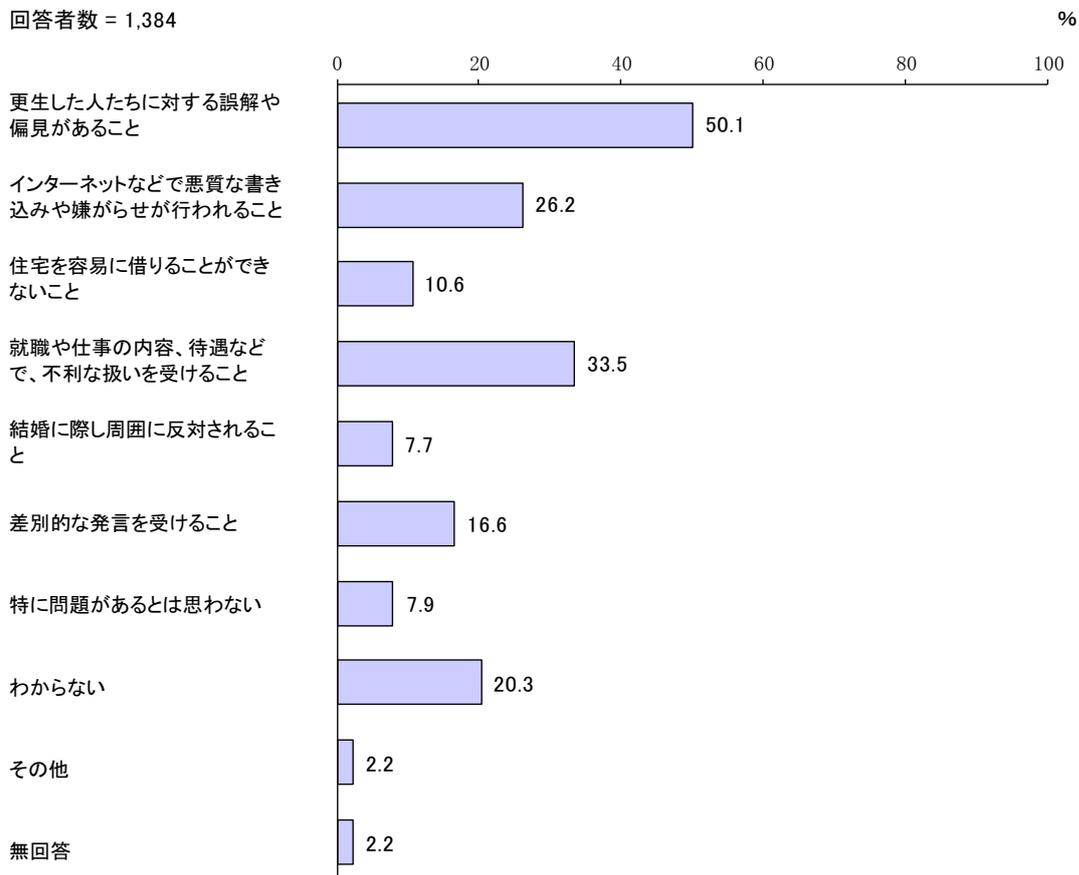
年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳、30～39歳で「差別的な言動をされること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		有効回答数(件)	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	結婚問題で周囲の反対を受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	独自の文化や伝統の保存、伝承が十分図られていないこと	じろじろ見られたり、避けられたりすること	その他	わからない	特にない	無回答
性別	男性	545	9.7	7.9	10.5	13.4	21.8	3.9	0.7	51.6	11.9	2.4
	女性	800	11.1	8.5	10.5	15.4	23.9	3.5	0.8	51.9	8.4	1.9
	その他(または答えたくない)	12	8.3	8.3	—	16.7	41.7	—	8.3	50.0	—	—
年齢別	15～19歳	49	14.3	10.2	16.3	26.5	18.4	2.0	2.0	57.1	2.0	2.0
	20～29歳	106	12.3	9.4	8.5	19.8	26.4	3.8	—	52.8	4.7	1.9
	30～39歳	161	11.8	4.3	11.8	19.3	24.2	5.0	—	50.3	8.1	0.6
	40～49歳	213	12.2	5.6	10.8	14.6	21.6	2.3	1.4	50.7	11.3	1.9
	50～59歳	219	8.2	5.5	10.0	10.0	20.5	1.8	1.8	59.4	9.6	1.4
	60～69歳	223	11.2	8.5	11.2	14.8	28.3	3.1	0.9	46.6	9.4	3.1
	70歳以上	385	9.1	12.2	9.1	12.2	21.8	5.2	0.3	50.4	12.5	2.6

問 16 罪や非行を犯した人が、罪をつぐなって社会復帰を図ろうとした場合について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」の割合が 50.1%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が 33.5%、「インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること」の割合が 26.2%となっています。



※平成 27 年度調査では、「刑を終えて出所した人に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳で「更生した人たちに対する誤解や偏見があること」「インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること」「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。

単位：%

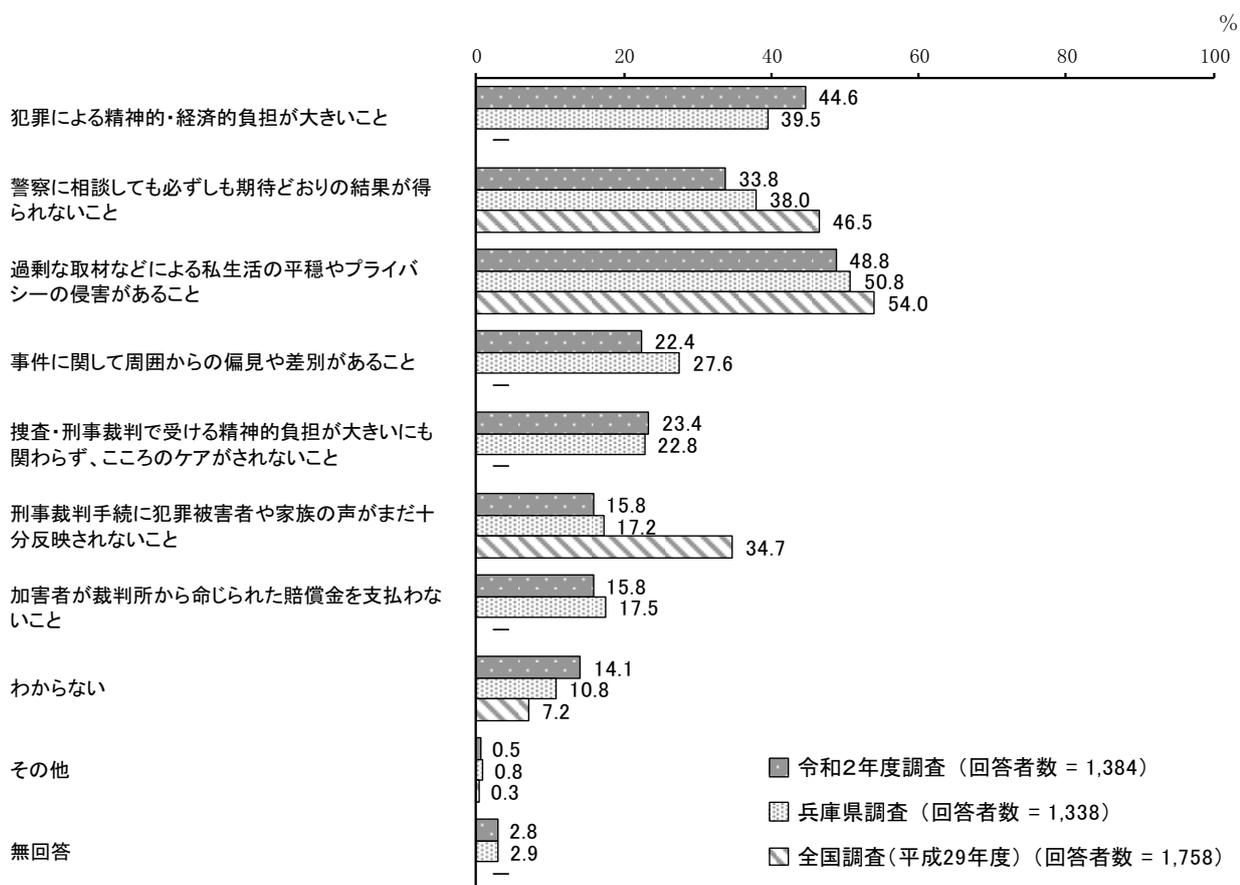
区分		有効回答数(件)	更生した人たちに対する誤解や偏見があること	インターネットなどで悪質な書き込みや嫌がらせが行われること	住宅を容易に借りることができないこと	就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること	結婚に際し周囲に反対されること	差別的な発言を受けること	特に問題があるとは思わない	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	48.8	23.7	9.2	34.9	7.2	16.0	10.1	20.2	3.1	2.0
	女性	800	51.6	28.1	11.8	32.5	8.0	17.0	6.8	20.3	1.3	2.0
	その他(または答えたくない)	12	41.7	25.0	—	16.7	8.3	25.0	—	25.0	16.7	—
年齢別	15～19歳	49	65.3	38.8	10.2	44.9	14.3	22.4	8.2	6.1	—	—
	20～29歳	106	39.6	29.2	7.5	31.1	12.3	23.6	8.5	22.6	—	0.9
	30～39歳	161	38.5	30.4	8.7	30.4	8.7	19.9	12.4	18.0	3.1	0.6
	40～49歳	213	45.1	27.7	9.4	24.9	2.8	16.9	12.7	18.3	4.2	0.9
	50～59歳	219	52.5	26.0	7.8	30.1	6.8	9.1	6.4	26.0	1.4	1.4
	60～69歳	223	57.8	29.6	9.4	34.5	5.8	23.8	6.7	16.6	2.2	1.3
	70歳以上	385	54.3	20.0	15.3	39.5	9.4	13.0	5.2	22.3	1.6	4.2

問 17 犯罪被害者の方やその家族の人権侵害について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は3つまで）

「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」の割合が 44.6%、「警察に相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと」の割合が 33.8%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」の割合が高く、「事件に関して周囲からの偏見や差別があること」の割合が低くなっています。

全国調査では、「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「警察に相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと」の割合が 46.5%、「刑事裁判手続に犯罪被害者や家族の声がまだ十分反映されないこと」の割合が 34.7%となっています。



※全国調査には「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」「事件に関して周囲からの偏見や差別があること」「捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいにも関わらず、こころのケアがされないこと」「加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと」の選択肢はありません。

※平成 27 年度調査では、「犯罪被害者などに関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「刑事裁判手続に犯罪被害者や家族の声がまだ十分反映されないこと」「加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいにも関わらず、こころのケアがされないこと」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳から50～59歳で「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

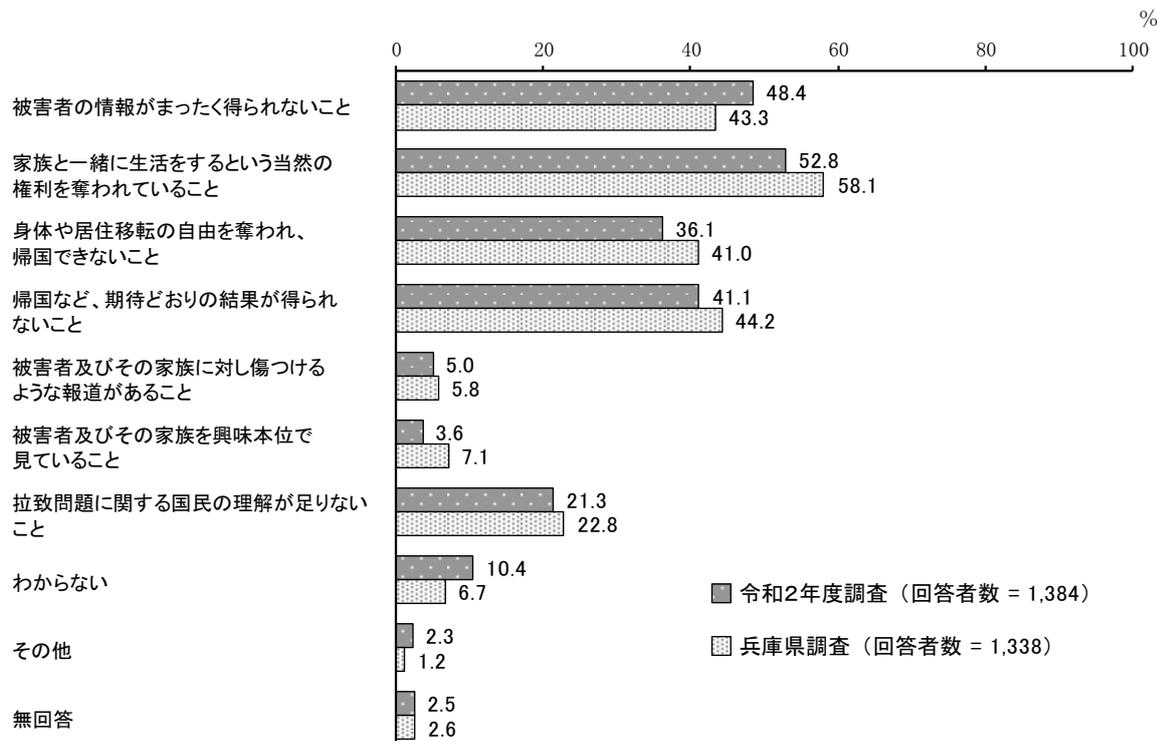
単位：％

区分		有効回答数(件)	犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと	警察に相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られないこと	過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること	事件に関して周囲からの偏見や差別があること	捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいにも関わらず、こころのケアがされないこと	捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいにも関わらず、こころのケアがされないこと	刑事裁判手続に犯罪被害者や家族の声がまだ十分反映されないこと	加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	44.4	33.8	47.3	20.6	20.0	21.1	20.7	14.9	0.2	2.2	
	女性	800	44.8	34.0	50.3	24.4	26.0	12.5	12.6	13.3	0.8	2.9	
	その他(または答えたくない)	12	75.0	33.3	50.0	—	33.3	8.3	—	8.3	—	—	
年齢別	15～19歳	49	28.6	42.9	49.0	32.7	16.3	14.3	2.0	18.4	2.0	—	
	20～29歳	106	47.2	43.4	59.4	29.2	27.4	11.3	13.2	6.6	—	0.9	
	30～39歳	161	53.4	30.4	59.0	23.0	23.6	16.8	16.8	7.5	—	1.2	
	40～49歳	213	50.2	39.0	54.5	24.4	25.8	16.4	20.2	5.6	0.5	0.9	
	50～59歳	219	50.7	34.7	55.3	22.8	27.4	16.4	19.6	8.2	0.5	2.3	
	60～69歳	223	45.7	34.5	47.1	19.7	30.0	22.0	17.0	10.8	0.9	1.8	
	70歳以上	385	36.1	28.1	36.6	20.3	16.6	12.7	12.5	27.5	0.5	5.5	

問 18 北朝鮮当局によって拉致された被害者などについて、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」の割合が 52.8%と最も高く、次いで「被害者の情報がまったく得られないこと」の割合が 48.4%、「帰国など、期待どおりの結果が得られないこと」の割合が 41.1%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「被害者の情報がまったく得られないこと」の割合が高く、「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」の割合が低くなっています。



※平成 27 年度調査では、「北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳で「わからない」の割合が高くなっています。また、50～59歳、60～69歳で「家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること」の割合が高くなっています。

単位：％

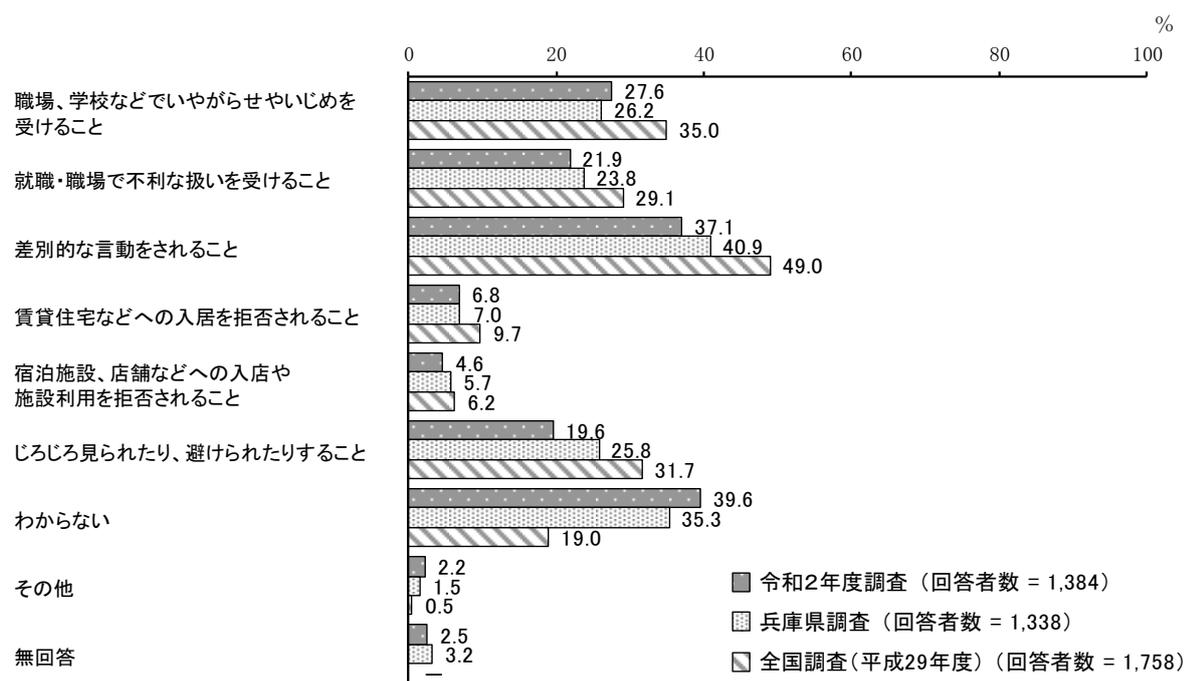
区分		有効回答数(件)	被害者の情報がまったく得られないこと	家族と一緒に生活をするという当然の権利を奪われていること	身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと	帰国など、期待どおりの結果が得られないこと	被害者及びその家族に対し傷つけるような報道があること	被害者及びその家族を興味本位で見ていること	拉致問題に関する国民の理解が足りないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	46.2	48.8	34.9	42.4	3.9	4.0	22.8	11.2	3.1	2.4
	女性	800	50.5	56.4	37.6	40.9	6.0	3.5	20.4	9.4	1.9	2.1
	その他(または答えたくない)	12	41.7	50.0	8.3	50.0	—	—	8.3	25.0	—	—
年齢別	15～19歳	49	46.9	34.7	22.4	22.4	6.1	10.2	18.4	24.5	2.0	—
	20～29歳	106	48.1	50.9	39.6	35.8	7.5	5.7	22.6	12.3	0.9	0.9
	30～39歳	161	42.2	49.7	33.5	38.5	6.8	2.5	16.1	16.1	3.7	1.2
	40～49歳	213	53.5	49.3	36.2	39.9	6.1	3.3	18.8	10.8	1.4	1.4
	50～59歳	219	37.9	60.3	44.7	46.1	5.5	3.7	18.7	8.2	0.5	1.8
	60～69歳	223	51.6	58.3	38.1	45.7	5.8	4.0	25.1	4.5	3.1	1.3
	70歳以上	385	53.5	52.5	32.7	42.1	2.3	2.9	24.4	9.6	3.4	4.4

問 19 異性愛、同性愛などといった性的指向について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は3つまで）

「わからない」の割合が39.6%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」の割合が37.1%、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」の割合が27.6%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が低くなっています。

全国調査では、「差別的な言動をされること」の割合が49.0%と最も高く、次いで「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」の割合が35.0%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が31.7%となっています。



【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「わからない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「差別的な言動をされること」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「差別的な言動をされること」の割合が高くなっています。また、15～19歳、20～29歳、30～39歳で「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」の割合が、70歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：%

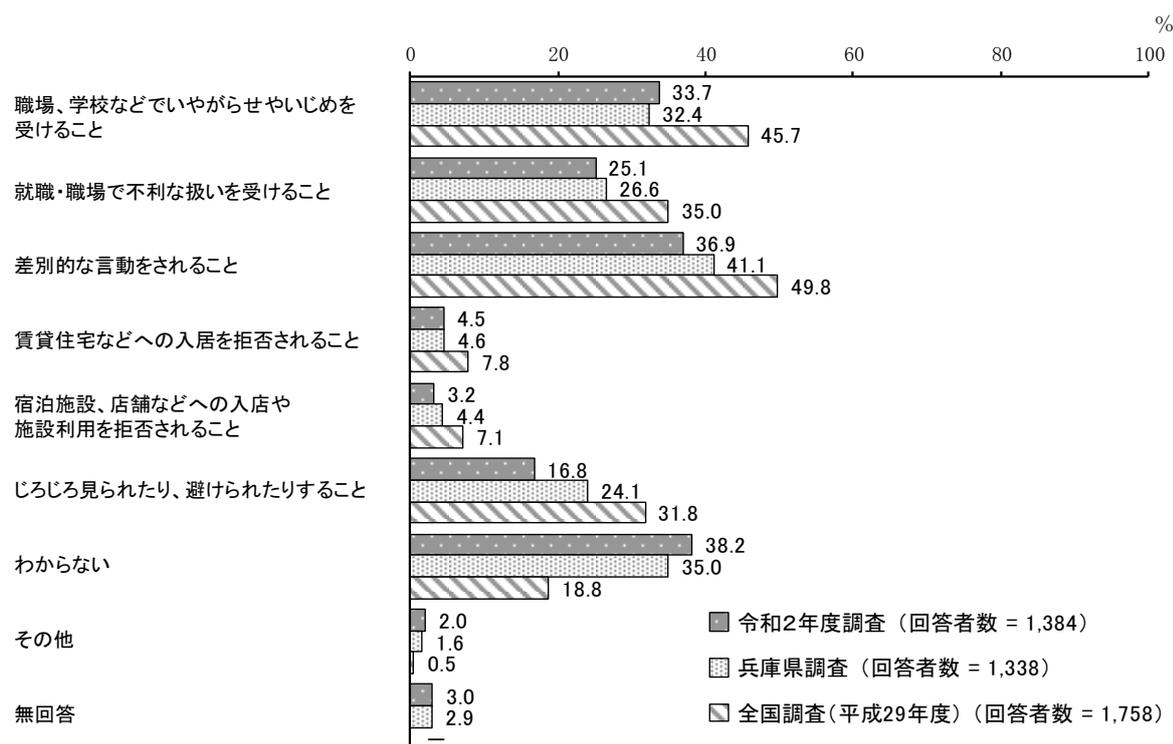
区分		有効回答数(件)	職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	賃貸住宅などへの入居を拒否されること	宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	27.5	19.6	33.8	3.9	5.1	17.1	44.2	1.7	2.6
	女性	800	28.3	24.0	40.1	9.0	4.5	21.4	35.8	2.5	2.3
	その他(または答えたくない)	12	25.0	16.7	33.3	—	—	16.7	33.3	8.3	—
年齢別	15～19歳	49	34.7	18.4	61.2	6.1	8.2	44.9	16.3	—	2.0
	20～29歳	106	49.1	26.4	64.2	7.5	2.8	37.7	15.1	0.9	0.9
	30～39歳	161	37.9	23.0	47.2	7.5	7.5	23.0	24.8	5.0	1.2
	40～49歳	213	30.5	24.4	43.2	8.0	5.6	22.1	30.0	3.3	0.5
	50～59歳	219	26.5	21.9	32.4	11.0	4.6	15.1	41.1	1.8	1.4
	60～69歳	223	27.8	26.5	40.4	3.1	3.1	16.1	41.7	1.8	2.2
	70歳以上	385	16.6	17.7	21.6	6.0	4.2	13.2	57.1	1.3	4.7

問 20 生物学的な性とところの性が一致しない性同一性障害者について、あなたが、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「わからない」の割合が 38.2%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」の割合が 36.9%、「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」の割合が 33.7%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が低くなっています。

全国調査では、「差別的な言動をされること」の割合が 49.8%と最も高く、次いで「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」の割合が 45.7%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が 35.0%となっています。



【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「わからない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「差別的な言動をされること」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳、30～39歳で「職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること」の割合が高くなっています。また、15～19歳、20～29歳で「差別的な言動をされること」の割合が、70歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

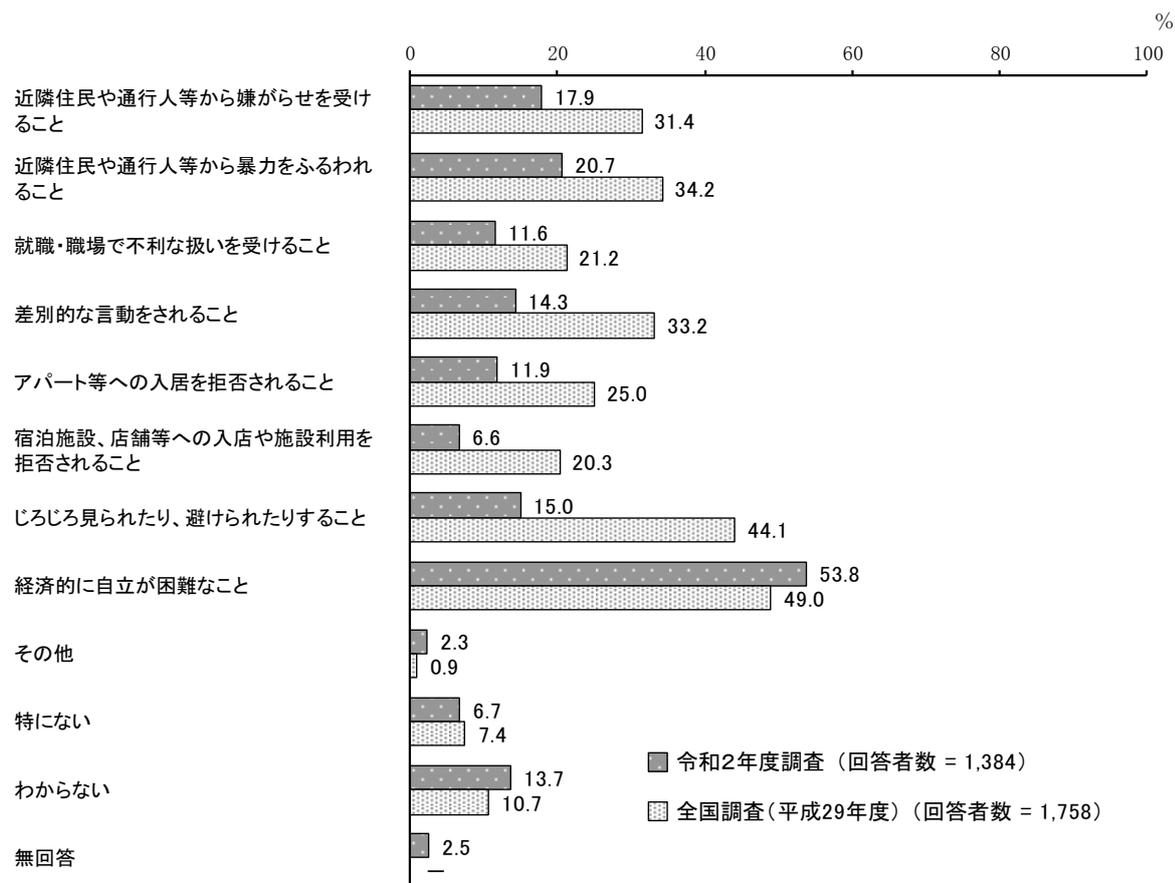
単位：%

区分		有効回答数(件)	職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	賃貸住宅などへの入居を拒否されること	宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたりする	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	32.1	22.9	32.3	2.6	4.0	16.5	42.8	1.8	2.8
	女性	800	35.8	27.4	40.6	5.9	2.8	17.1	34.3	2.0	2.8
	その他(または答えたくない)	12	16.7	8.3	33.3	—	—	25.0	33.3	16.7	—
年齢別	15～19歳	49	42.9	26.5	63.3	2.0	6.1	32.7	16.3	2.0	—
	20～29歳	106	53.8	31.1	59.4	3.8	1.9	29.2	16.0	1.9	0.9
	30～39歳	161	46.0	26.1	44.1	5.0	5.6	19.3	21.7	3.7	1.9
	40～49歳	213	37.6	29.1	43.7	5.6	3.3	17.4	30.5	4.2	0.5
	50～59歳	219	32.4	26.0	38.4	4.1	3.2	14.6	37.9	2.3	1.4
	60～69歳	223	34.1	26.9	37.7	3.6	1.8	14.8	37.7	0.9	4.0
	70歳以上	385	21.8	20.3	20.8	5.2	3.1	13.0	56.9	0.5	4.9

問 21 ホームレスについて、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「経済的に自立が困難なこと」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「近隣住民や通行人等から暴力をふるわれること」の割合が 20.7%、「近隣住民や通行人等から嫌がらせを受けること」の割合が 17.9%となっています。

全国調査では、「経済的に自立が困難なこと」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が 44.1%、「近隣住民や通行人等から暴力をふるわれること」の割合が 34.2%となっています。



※平成 27 年度調査では、「ホームレスの人に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「近隣住民や通行人等から暴力をふるわれること」の割合が高くなっています。

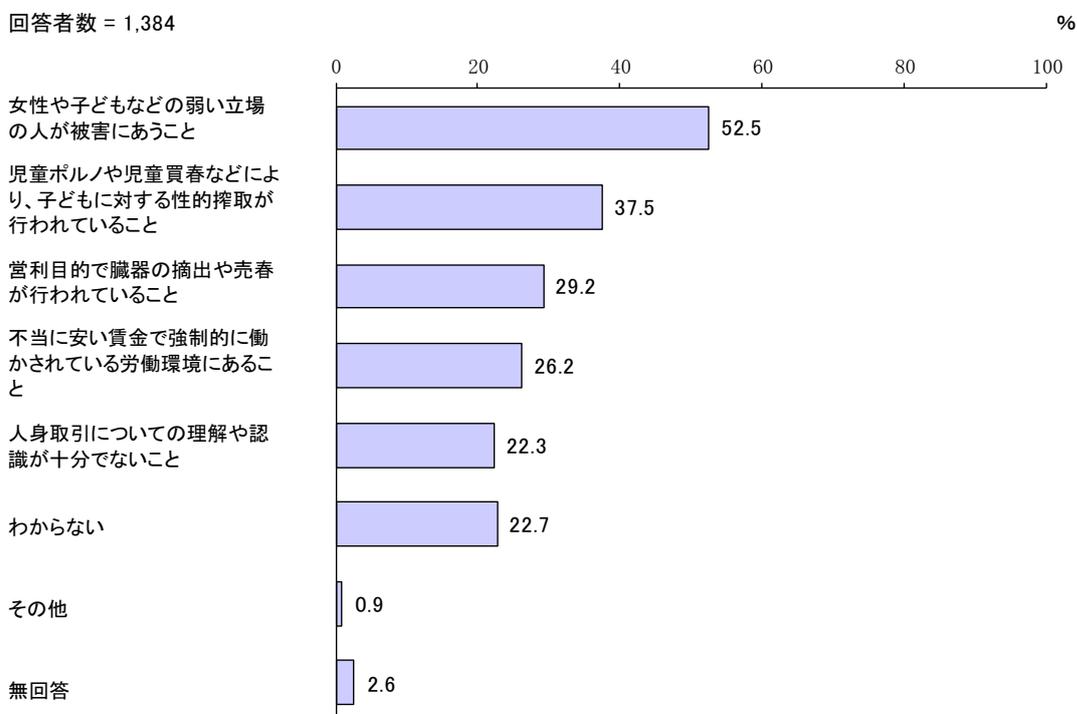
年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		有効回答数(件)	近隣住民や通行人等から嫌がらせを受けること	近隣住民や通行人等から暴力をふるわれること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	アパート等への入居を拒否されること	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	経済的に自立が困難なこと	その他	特にない	わからない	無回答
性別	男性	545	20.9	17.6	11.9	16.0	9.4	6.8	16.0	51.0	1.8	8.3	13.6	2.4
	女性	800	15.9	23.3	11.6	13.3	13.6	6.5	14.4	56.5	2.4	5.3	13.8	2.4
	その他(または答えたくない)	12	16.7	25.0	—	25.0	8.3	16.7	8.3	58.3	—	8.3	8.3	—
年齢別	15～19歳	49	20.4	20.4	8.2	20.4	10.2	8.2	32.7	53.1	2.0	6.1	12.2	—
	20～29歳	106	21.7	26.4	12.3	18.9	6.6	5.7	28.3	50.0	1.9	5.7	8.5	1.9
	30～39歳	161	22.4	28.6	8.1	13.0	10.6	6.2	18.0	58.4	1.2	10.6	7.5	0.6
	40～49歳	213	16.9	26.3	7.0	12.2	12.2	3.8	13.1	53.5	4.7	7.0	12.2	0.9
	50～59歳	219	18.7	25.6	7.8	11.9	10.5	5.5	11.0	62.1	1.4	4.6	13.2	1.4
	60～69歳	223	12.1	15.2	13.0	17.5	9.9	9.0	14.8	55.6	1.8	7.2	11.2	1.8
	70歳以上	385	18.2	14.3	17.4	14.0	15.8	7.8	10.9	48.8	2.1	5.7	20.3	4.9

問 22 人身取引の問題について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「女性や子どもなどの弱い立場の人が被害にあうこと」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「児童ポルノや児童買春などにより、子どもに対する性的搾取が行われていること」の割合が 37.5%、「営利目的で臓器の摘出や売春が行われていること」の割合が 29.2%となっています。



※平成 27 年度調査では、「人身取引（性的搾取・強制労働などを目的とした人身取引）に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性や子どもなどの弱い立場の人が被害にあうこと」「児童ポルノや児童買春などにより、子どもに対する性的搾取が行われていること」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳から40～49歳で「女性や子どもなどの弱い立場の人が被害にあうこと」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：％

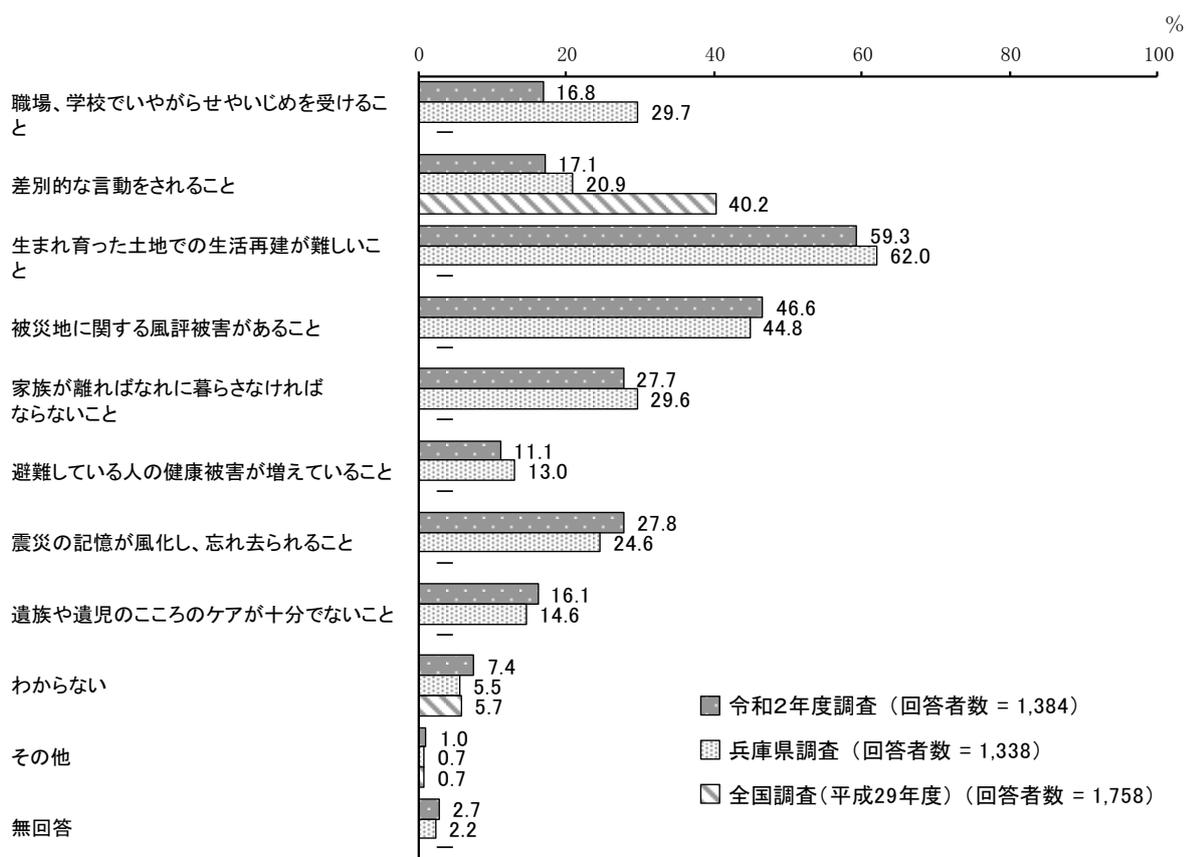
区分		有効回答数(件)	女性や子どもなどの弱い立場の人が被害にあうこと	児童ポルノや児童買春などにより、子どもに対する性的搾取が行われていること	営利目的で臓器の摘出や売春が行われていること	不当に安い賃金で強制的に働かされている労働環境にあること	人身取引についての理解や認識が十分でないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	47.9	35.0	27.7	26.4	22.0	25.0	0.9	2.4
	女性	800	56.6	40.3	30.6	26.1	22.9	20.4	0.9	2.3
	その他(または答えたくない)	12	33.3	33.3	25.0	33.3	25.0	33.3	—	—
年齢別	15～19歳	49	57.1	30.6	22.4	28.6	24.5	22.4	—	—
	20～29歳	106	61.3	31.1	27.4	32.1	19.8	18.9	0.9	0.9
	30～39歳	161	60.2	44.1	29.2	28.0	26.7	18.6	0.6	1.2
	40～49歳	213	57.3	40.8	32.4	29.6	24.9	16.9	1.4	0.5
	50～59歳	219	50.2	45.2	35.2	27.4	20.1	20.1	1.4	0.9
	60～69歳	223	51.6	39.0	32.3	25.1	30.5	17.9	0.9	2.2
	70歳以上	385	47.0	32.5	24.2	22.1	16.6	31.7	0.5	5.2

問 23 東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故による被災者について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(○は3つまで)

「生まれ育った土地での生活再建が難しいこと」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「被災地に関する風評被害があること」の割合が 46.6%、「震災の記憶が風化し、忘れ去られること」の割合が 27.8%となっています。

兵庫県調査と比較すると、「職場、学校でいやがらせやいじめを受けること」の割合が低くなっています。

全国調査では、「差別的な言動をされること」の割合が 40.2%と最も高くなっています。



※全国調査には「差別的な言動をされること」「わからない」「その他」を除く選択肢はありません。

※平成 27 年度調査では、「東日本大震災に伴う人権問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳で「差別的な言動をされること」の割合が高くなっています。また、15～19歳、20～29歳で「遺族や遺児のこころのケアが十分でないこと」の割合が、60～69歳、70歳以上で「生まれ育った土地での生活再建が難しいこと」の割合が高くなっています。

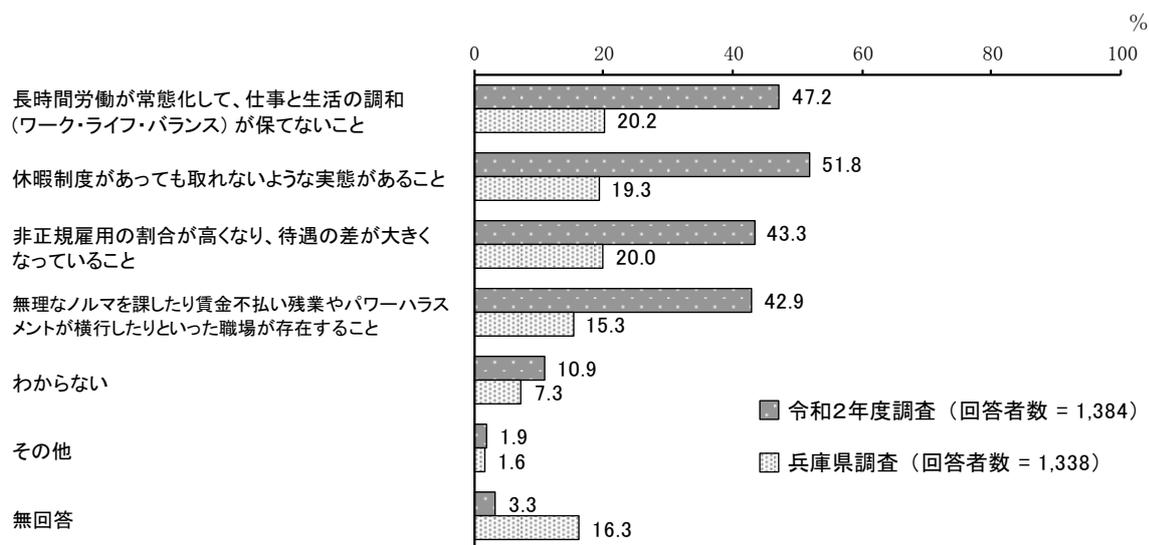
単位：％

区分		有効回答数(件)	職場、学校でいやがらせやいじめを受けること	差別的な言動をされること	生まれ育った土地での生活再建が難しいこと	被災地に関する風評被害があること	家族が離ればなれに暮らさなければならぬこと	避難している人の健康被害が増えていること	震災の記憶が風化し、忘れ去られること	遺族や遺児のこころのケアが十分でないこと	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	16.0	16.5	61.7	45.7	28.3	8.8	26.1	14.1	8.4	2.2	2.6
	女性	800	17.4	18.0	58.1	48.3	27.3	13.1	29.3	17.4	6.4	0.3	2.5
	その他(または答えたくない)	12	16.7	8.3	66.7	41.7	25.0	—	25.0	33.3	8.3	—	—
年齢別	15～19歳	49	20.4	34.7	28.6	40.8	12.2	8.2	16.3	22.4	8.2	—	2.0
	20～29歳	106	19.8	19.8	45.3	43.4	20.8	8.5	32.1	24.5	11.3	0.9	—
	30～39歳	161	16.1	19.9	48.4	44.1	23.0	13.0	22.4	18.6	11.2	0.6	2.5
	40～49歳	213	20.7	23.0	58.7	50.7	25.8	11.7	20.7	15.5	5.2	0.9	2.8
	50～59歳	219	21.5	20.5	54.3	55.3	25.6	9.1	24.7	17.8	8.2	0.9	1.8
	60～69歳	223	13.0	13.0	70.9	53.8	30.5	9.9	29.1	14.8	3.6	1.8	2.2
	70歳以上	385	13.2	10.6	69.1	39.2	34.0	13.5	35.6	12.2	7.0	1.0	3.9

問 24 働く人の人権について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「休暇制度があっても取れないような実態があること」の割合が 51.8%と最も高く、次いで「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てないこと」の割合が 47.2%、「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること」の割合が 43.3%となっています。

兵庫県調査との比較は、兵庫県と回答上限数が異なるため参考とします。



※兵庫県調査は、単数回答となっています。

※平成 27 年度調査では、「働く人の権利に関する問題」の認知度・関心度についての設問だったため、比較から外しています。

【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てないこと」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳、30～39歳で「長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てないこと」の割合が高くなっています。また、50～59歳、60～69歳、70歳以上で「非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること」の割合が高くなっています。

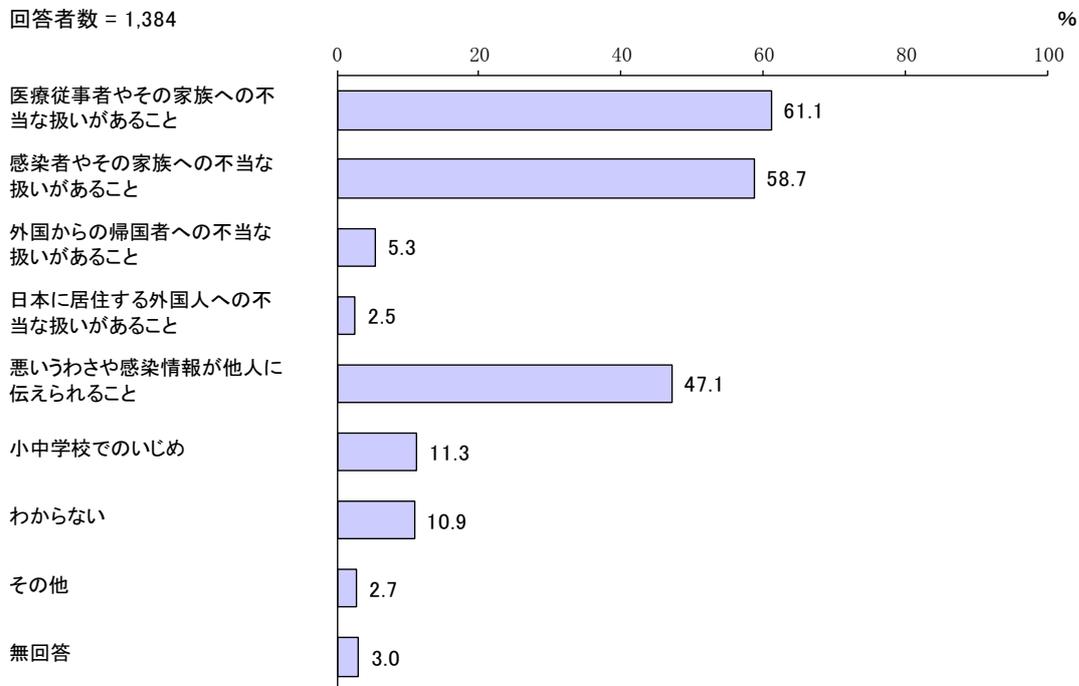
単位：%

区分		有効回答数(件)	長時間労働が常態化して、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が保てないこと	休暇制度があっても取れないような実態があること	非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が大きくなっていること	無理なノルマを課したり賃金不払い残業やパワーハラスメントが横行したりといった職場が存在すること	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	51.2	50.8	46.6	44.0	10.8	1.7	2.2
	女性	800	45.4	52.6	41.6	41.9	10.9	2.1	3.4
	その他(または答えたくない)	12	33.3	50.0	58.3	58.3	8.3	—	—
年齢別	15～19歳	49	61.2	46.9	26.5	42.9	12.2	4.1	4.1
	20～29歳	106	72.6	66.0	25.5	50.0	2.8	0.9	—
	30～39歳	161	68.3	60.2	31.7	46.0	7.5	3.1	0.6
	40～49歳	213	53.1	57.3	35.7	42.7	6.6	3.8	2.8
	50～59歳	219	45.7	52.5	49.3	42.0	8.7	3.2	1.8
	60～69歳	223	34.1	48.0	59.6	48.4	9.0	0.4	3.1
	70歳以上	385	36.4	43.4	47.5	36.9	18.7	0.5	5.7

問 25 新型コロナウイルス感染症について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「医療従事者やその家族への不当な扱いがあること」の割合が 61.1%と最も高く、次いで「感染者やその家族への不当な扱いがあること」の割合が 58.7%、「悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること」の割合が 47.1%となっています。

回答者数 = 1,384



【性別・年齢別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「医療従事者やその家族への不当な扱いがあること」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳で「外国からの帰国者への不当な扱いがあること」の割合が高くなっています。また、20～29歳で「日本に居住する外国人への不当な扱いがあること」の割合が、30～39歳で「小中学校でのいじめ」の割合が高くなっています。

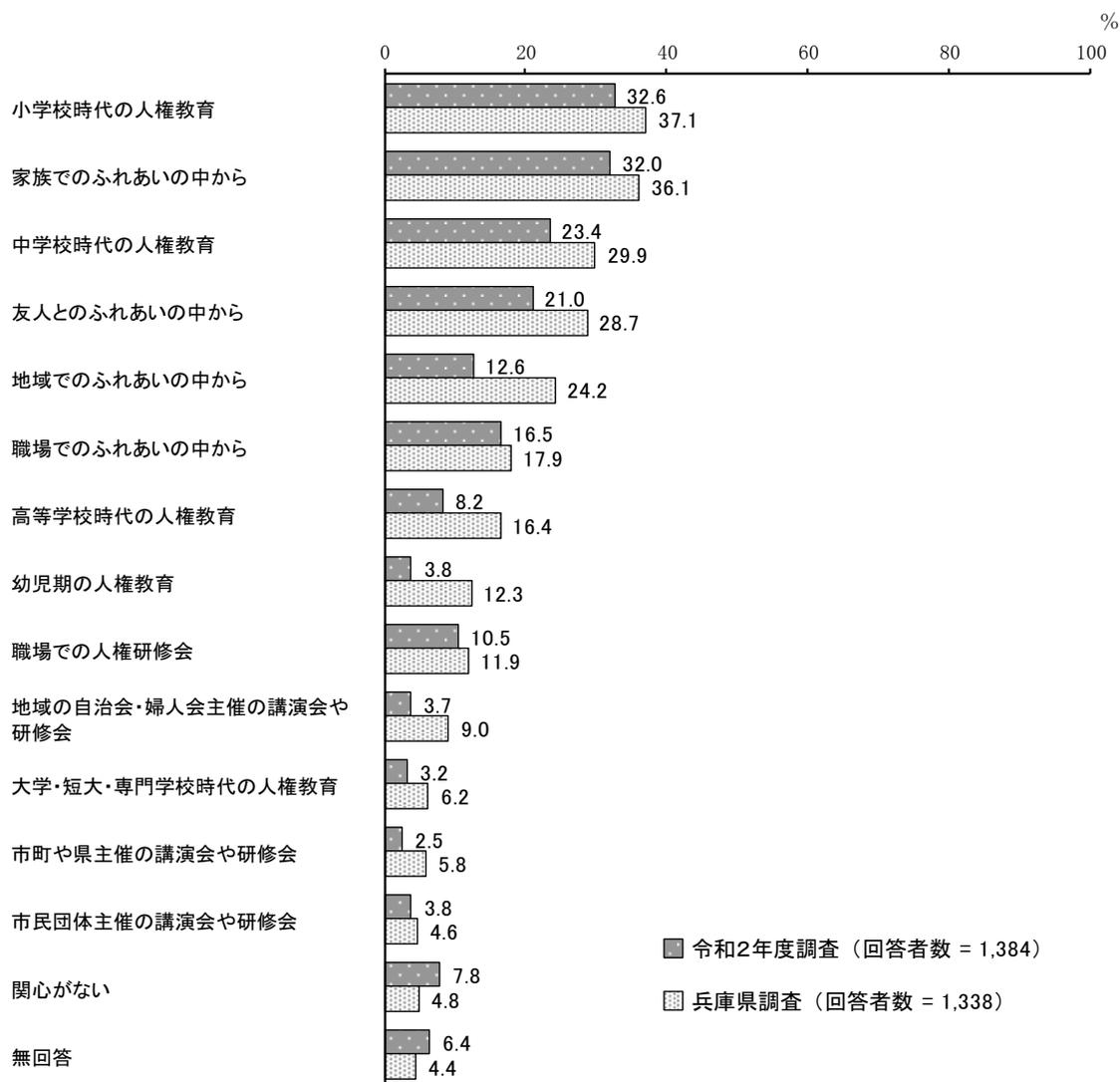
単位：％

区分		有効回答数(件)	医療従事者やその家族への不当な扱いがあること	感染者やその家族への不当な扱いがあること	外国からの帰国者への不当な扱いがあること	日本に居住する外国人への不当な扱いがあること	悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること	小中学校でのいじめ	わからない	その他	無回答
性別	男性	545	57.1	56.3	4.8	2.8	46.4	9.7	14.3	2.9	2.2
	女性	800	64.5	60.6	5.9	2.5	47.6	12.8	8.1	2.6	3.1
	その他(または答えたくない)	12	58.3	50.0	—	—	58.3	8.3	16.7	—	—
年齢別	15～19歳	49	51.0	51.0	14.3	6.1	44.9	4.1	16.3	6.1	2.0
	20～29歳	106	58.5	59.4	8.5	10.4	48.1	14.2	6.6	3.8	—
	30～39歳	161	58.4	63.4	3.7	3.1	57.8	21.1	4.3	5.0	0.6
	40～49歳	213	62.9	58.2	3.3	1.9	42.7	15.0	11.3	2.8	3.3
	50～59歳	219	63.5	59.8	5.0	0.9	54.3	10.5	8.7	2.3	1.8
	60～69歳	223	67.7	60.5	4.9	2.2	48.0	9.4	8.1	1.8	2.2
	70歳以上	385	59.0	56.4	5.7	1.3	40.5	7.5	16.4	1.8	5.2

問 26 あなたが、人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思われるものは次のどれですか。当てはまるものを選んでください。(○は3つまで)

「小学校時代の人権教育」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「家族でのふれあいの中から」の割合が 32.0%、「中学校時代の人権教育」の割合が 23.4%となっています。

兵庫県調査では、「小学校時代の人権教育」の割合が 37.1%と最も高く、次いで「家族でのふれあいの中から」の割合が 36.1%、「中学校時代の人権教育」の割合が 29.9%となっています。



【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「中学校時代の人権教育」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族でのふれあいの中から」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「中学校時代の人権教育」の割合が高くなっています。また、30～39歳、40～49歳、50～59歳で「小学校時代の人権教育」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数 (件)	小学校時代の人権教育	家族でのふれあいの 中から	中学校時代の人権教育	友人とのふれあいの 中から	地域でのふれあいの 中から	職場でのふれあいの 中から	高等学校時代の人権教育
性別	男性	545	33.4	27.5	27.3	20.0	13.0	19.6	8.1
	女性	800	32.8	35.5	21.1	21.8	12.8	14.6	8.5
	その他(または答 えたくない)	12	16.7	50.0	8.3	25.0	—	16.7	—
年齢別	15～19歳	49	36.7	14.3	46.9	30.6	6.1	6.1	28.6
	20～29歳	106	32.1	34.9	32.1	28.3	7.5	17.9	17.0
	30～39歳	161	47.2	37.3	25.5	24.8	13.0	18.0	5.6
	40～49歳	213	54.5	37.6	26.8	20.7	8.0	15.0	4.7
	50～59歳	219	44.7	36.5	20.5	20.1	11.4	15.1	7.3
	60～69歳	223	17.5	33.6	21.5	18.4	13.0	20.6	11.2
	70歳以上	385	16.9	25.7	18.4	18.2	18.2	16.4	5.5

区分		幼児期の人権教育	職場での人権研修会	地域の自治会・婦人会 主催の講演会や研修会	大学・短大・専門学校 時代の人権教育	市町や県主催の講演会や 研修会	市民団体主催の講演会や 研修会	関心がない	無回答
性別	男性	3.3	13.6	2.2	2.4	2.0	3.1	8.6	6.2
	女性	4.1	8.6	4.8	3.9	2.9	4.3	6.6	5.9
	その他(または答 えたくない)	8.3	8.3	—	—	—	8.3	8.3	16.7
年齢別	15～19歳	2.0	—	—	6.1	2.0	2.0	2.0	4.1
	20～29歳	2.8	7.5	0.9	4.7	—	—	9.4	3.8
	30～39歳	5.0	8.1	1.2	3.7	1.2	3.1	6.8	2.5
	40～49歳	3.3	8.9	0.9	3.8	2.8	2.3	5.2	2.8
	50～59歳	4.6	11.0	1.4	1.8	2.7	1.8	5.0	4.6
	60～69歳	2.7	16.1	4.9	2.7	4.0	7.6	3.1	5.8
	70歳以上	4.4	11.4	8.1	3.1	2.6	5.2	13.2	11.4

【「人権」を身近に感じる程度別】

「人権」を身近に感じる程度別でみると、他に比べ、“身近に感じる”人で「職場での人権研修会」の割合が高くなっています。

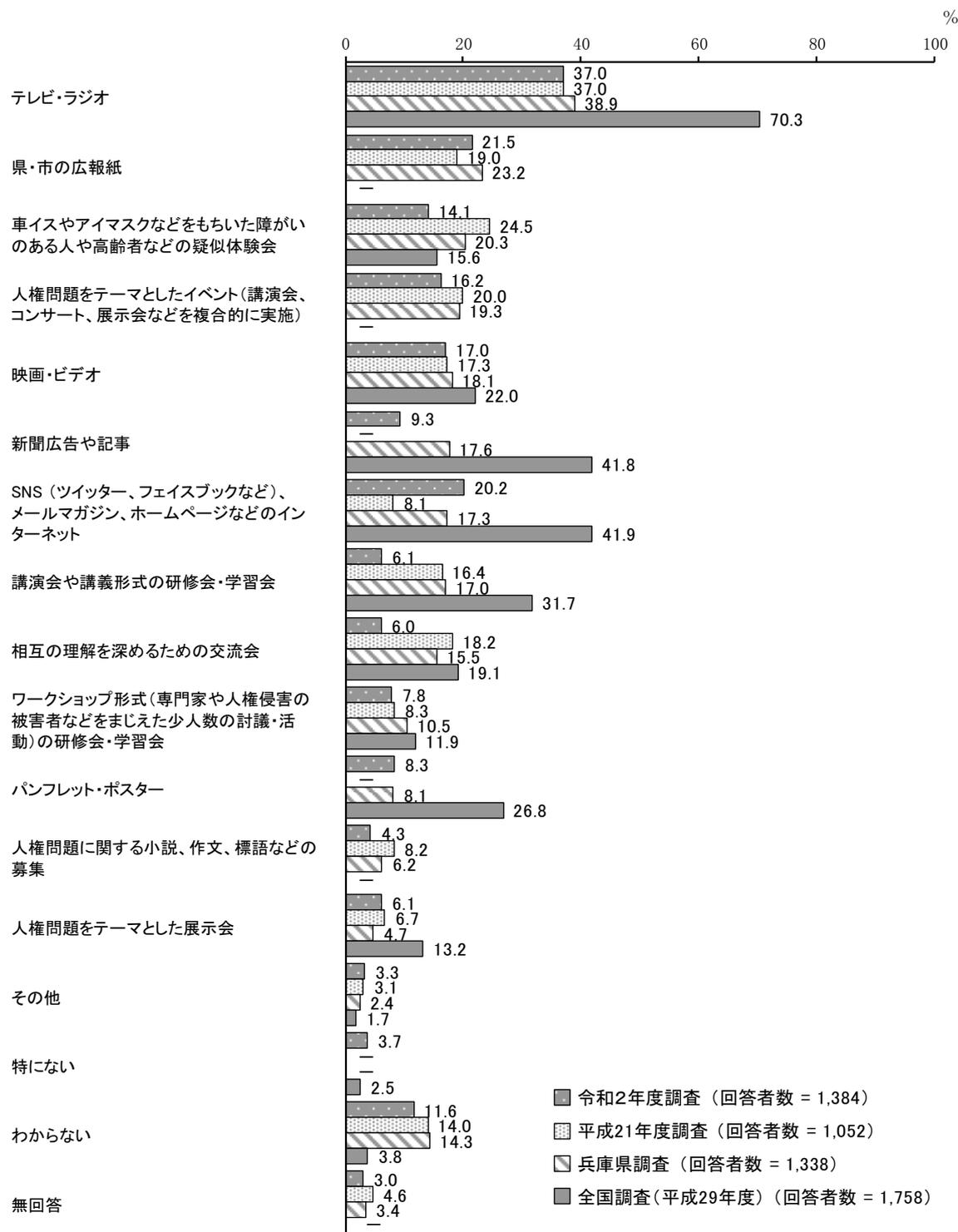
単位：%

区分	有効回答数 (件)	小学校時代の人権教育	家族でのふれあいの 中から	中学校時代の人権教育	友人とのふれあいの 中から	地域でのふれあいの 中から	職場でのふれあいの 中から	高等学校時代の人権教育
非常に身近に感じる	121	30.6	31.4	26.4	22.3	14.0	19.0	9.9
かなり身近に感じる	348	31.0	36.2	24.1	22.4	13.5	21.3	8.3
どちらとも言えない	369	35.8	30.4	24.4	24.1	12.2	16.5	8.7
あまり身近に感じない	427	34.2	30.4	23.2	17.3	12.4	13.3	8.9
まったく身近に感じない	43	27.9	39.5	11.6	23.3	4.7	11.6	4.7
わからない	66	22.7	24.2	19.7	16.7	13.6	10.6	1.5

区分	幼児期の人権教育	職場での人権研修会	地域の自治会・婦人会 主催の講演会や研修会	大学・短大・専門学校 時代の人権教育	市町や県主催の講演会や 研修会	市民団体主催の講演会や 研修会	関心がない	無回答
非常に身近に感じる	5.8	17.4	7.4	5.0	5.8	9.1	1.7	10.7
かなり身近に感じる	5.5	16.4	4.3	5.7	3.4	5.5	3.4	5.2
どちらとも言えない	2.7	9.2	2.2	2.2	2.2	2.7	8.1	6.0
あまり身近に感じない	3.0	7.0	3.0	2.1	1.2	1.9	9.8	4.7
まったく身近に感じない	4.7	2.3	4.7	—	—	7.0	14.0	9.3
わからない	3.0	3.0	6.1	—	1.5	—	24.2	10.6

問 27 人権啓発を進めるために、あなたは、市民に対してどのような啓発活動が効果的と思われますか。(〇は3つまで)

「テレビ・ラジオ」の割合が37.0%と最も高く、次いで「県・市の広報紙」の割合が21.5%、「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）、メールマガジン、ホームページなどのインターネット」の割合が20.2%となっています。



※平成 21 年度調査には「新聞広告や記事」「パンフレット・ポスター」の選択肢はありません。

※平成 21 年度調査の「県・市の広報紙」は「広報紙・パンフレット・ポスター」の値です。

※兵庫県調査には、「特にない」の選択肢はありません。

※全国調査に「県・市の広報紙」「人権問題をテーマとしたイベント(講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施)」「人権問題に関する小説、作文、標語などの募集」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「人権問題をテーマとしたイベント（講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施）」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「映画・ビデオ」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で「映画・ビデオ」の割合が、15～19歳から30～39歳で「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）、メールマガジン、ホームページなどのインターネット」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「県・市の広報紙」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		有効回答数(件)	テレビ・ラジオ	県・市の広報紙	障がいのある人や高齢者などの疑似体験会	車イスやアイマスクなどをもちいた障がいのある人や高齢者などの疑似体験会	人権問題をテーマとしたイベント（講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施）	映画・ビデオ	新聞広告や記事	SNS（ツイッター、フェイスブックなど）、メールマガジン、ホームページなどのインターネット	講演会や講義形式の研修会・学習会
性別	男性	545	38.2	20.2	12.3	20.0	13.6	11.9	21.3	7.2	
	女性	800	36.3	22.3	15.4	13.5	19.1	7.9	20.0	5.6	
	その他(または答えたくない)	12	33.3	33.3	16.7	25.0	41.7	8.3	25.0	—	
年齢別	15～19歳	49	40.8	10.2	16.3	2.0	38.8	4.1	57.1	6.1	
	20～29歳	106	34.0	14.2	12.3	9.4	25.5	7.5	45.3	5.7	
	30～39歳	161	44.7	19.3	18.6	14.9	20.5	8.7	34.8	4.3	
	40～49歳	213	40.4	15.0	17.8	9.9	19.7	6.1	23.9	4.7	
	50～59歳	219	39.3	16.0	15.5	16.4	19.6	11.9	23.7	3.2	
	60～69歳	223	37.7	21.5	14.3	23.8	15.7	9.9	12.6	9.9	
	70歳以上	385	30.4	32.5	9.6	19.7	8.6	11.2	4.2	7.5	

区分		相互の理解を深めるための交流会	ワークショップ形式（専門家や人権侵害の被害者などをまじえた少人数の討議・活動）の研修会・学習会	パンフレット・ポスター	人権問題に関する小説、作文、標語などの募集	人権問題をテーマとした展示会	その他	特にない	わからない	無回答
性別	男性	5.5	7.3	8.3	3.9	7.2	4.4	3.1	11.6	2.2
	女性	6.5	8.4	8.3	4.6	5.5	2.8	3.8	11.8	3.1
	その他(または答えたくない)	8.3	8.3	8.3	—	—	—	—	8.3	—
年齢別	15～19歳	2.0	2.0	12.2	8.2	2.0	6.1	2.0	2.0	2.0
	20～29歳	8.5	4.7	11.3	4.7	2.8	3.8	4.7	7.5	—
	30～39歳	1.2	8.1	9.3	4.3	5.6	3.7	2.5	10.6	1.2
	40～49歳	7.0	7.5	7.5	3.3	5.2	2.3	3.3	12.2	1.9
	50～59歳	7.3	9.6	6.8	1.8	4.1	4.1	4.6	9.1	1.4
	60～69歳	7.6	9.0	8.1	7.2	5.4	4.0	4.0	7.2	2.2
	70歳以上	6.0	8.3	8.1	3.9	9.9	2.6	2.9	17.9	6.0

【人権意識が高まっていると思う程度別】

人権意識が高まっていると思う程度別でみると、どちらかといえばそう思わない人で「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）、メールマガジン、ホームページなどのインターネット」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	テレビ・ラジオ	県・市の広報紙	車イスやアイマスクなどをもちいた障がいのある人や高齢者などの疑似体験会	人権問題をテーマとしたイベント（講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施）	映画・ビデオ	新聞広告や記事	SNS（ツイッター、フェイスブックなど）、メールマガジン、ホームページなどのインターネット	講演会や講義形式の研修会・学習会
そう思う	170	39.4	23.5	8.2	18.2	18.2	11.2	15.9	4.1
どちらかといえば そう思う	447	39.1	22.8	18.1	14.5	19.2	8.3	23.3	6.3
どちらとも言えない	533	35.1	22.1	12.4	16.7	15.6	9.8	18.0	6.9
どちらかといえば そう思わない	108	36.1	13.9	14.8	15.7	18.5	6.5	29.6	7.4
そうは思わない	121	35.5	16.5	14.0	17.4	11.6	11.6	17.4	4.1

区分	相互の理解を深めるための交流会	ワークショップ形式（専門家や人権侵害の被害者などをまじえた少人数の討議・活動）の研修会・学習会	パンフレット・ポスター	人権問題に関する小説、作文、標語などの募集	人権問題をテーマとした展示会	その他	特にな	わからない	無回答
そう思う	5.9	8.2	7.6	6.5	8.2	2.4	3.5	9.4	2.4
どちらかといえば そう思う	7.8	8.3	9.6	4.9	6.3	3.1	3.1	8.3	3.4
どちらとも言えない	4.7	5.8	8.3	2.6	5.6	2.4	4.5	15.0	3.4
どちらかといえば そう思わない	5.6	14.8	3.7	8.3	4.6	5.6	1.9	10.2	1.9
そうは思わない	5.8	8.3	9.1	2.5	5.8	7.4	4.1	13.2	1.7

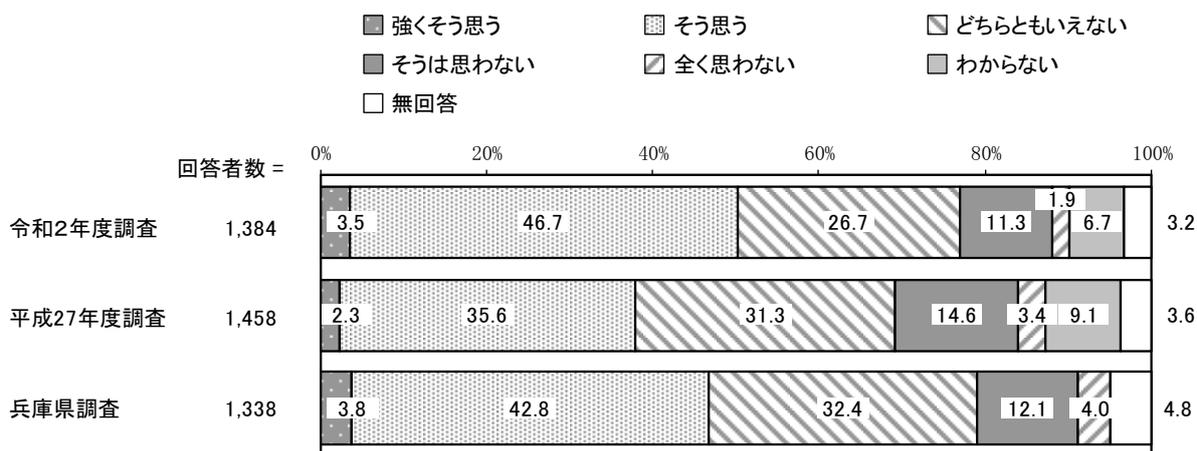
問 28 次の①から⑧にあげる考え方について、あなたはどのように思われますか。直感で○をつけてください。(①～⑧について○はそれぞれ1つ)

①人権講演会や研修会に参加することで、人権尊重の意識は強まる

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が50.2%、「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が13.2%となっています。

平成27年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が増加しています。

兵庫県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※兵庫県調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で“そう思う”の割合が高くなっています。

単位：%

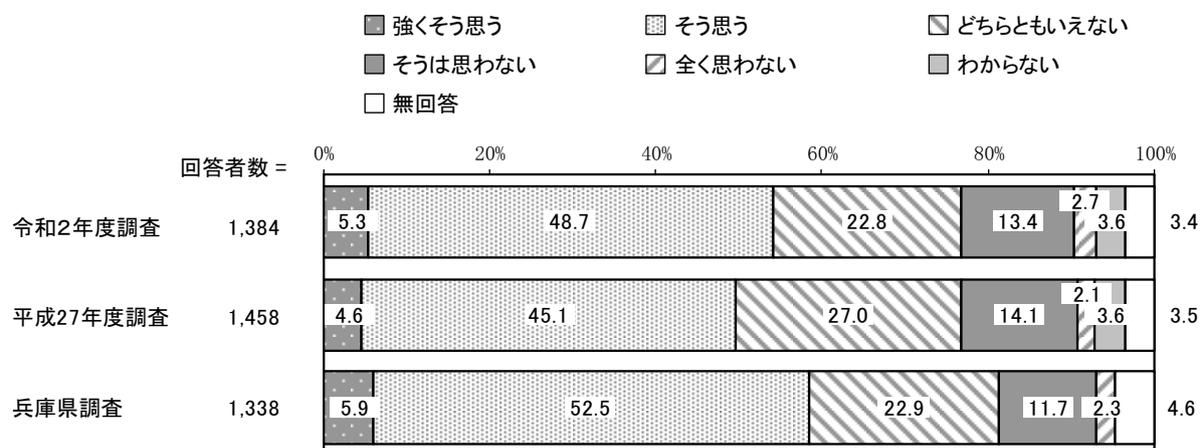
区分	有効回答数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	545	3.3	45.7	25.3	12.1	2.4	8.3	2.9
	女性	800	3.8	48.4	27.4	10.8	1.5	5.4	2.9
	その他(または答えたくない)	12	—	41.7	33.3	—	8.3	16.7	—
年齢別	15～19歳	49	6.1	40.8	30.6	16.3	2.0	2.0	2.0
	20～29歳	106	7.5	52.8	19.8	15.1	4.7	—	—
	30～39歳	161	2.5	52.8	22.4	12.4	3.7	5.0	1.2
	40～49歳	213	2.8	41.3	34.7	13.1	0.9	4.7	2.3
	50～59歳	219	2.7	51.1	26.5	12.8	1.8	4.1	0.9
	60～69歳	223	2.2	52.0	24.2	10.3	0.4	8.5	2.2
	70歳以上	385	4.2	42.3	27.0	7.3	1.8	11.2	6.2

②競争社会だから能力による格差が生じるのは仕方がない

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が54.0%、「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が16.1%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※兵庫県調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で“そう思う”の割合が高くなっています。

年齢別で見ると、他に比べ、20～29歳から50～59歳で“そう思う”の割合が高くなっています。

単位：%

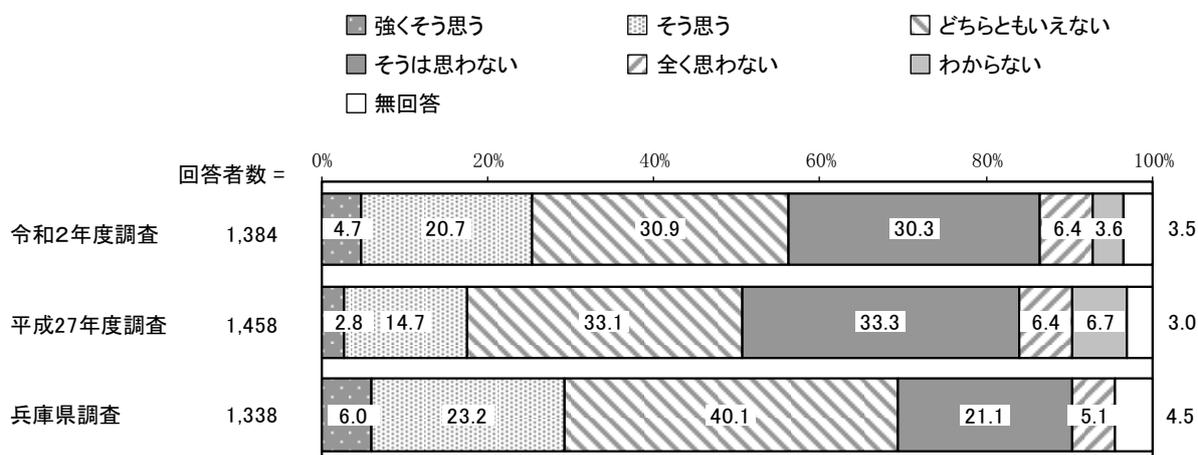
区分		有効回答数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答
性別	男性	545	7.0	50.8	19.6	12.8	3.7	2.9	3.1
	女性	800	4.3	48.4	24.9	13.4	2.3	3.8	3.1
	その他(または答えたくない)	12	8.3	33.3	41.7	8.3	-	8.3	-
年齢別	15～19歳	49	4.1	38.8	26.5	20.4	4.1	4.1	2.0
	20～29歳	106	17.0	41.5	19.8	15.1	3.8	2.8	-
	30～39歳	161	9.3	54.7	23.6	7.5	2.5	1.9	0.6
	40～49歳	213	4.7	57.3	21.1	10.8	2.3	1.4	2.3
	50～59歳	219	3.2	56.2	25.6	9.6	2.7	1.4	1.4
	60～69歳	223	2.2	43.0	28.3	17.9	1.8	4.5	2.2
	70歳以上	385	4.2	45.2	19.2	14.8	3.4	6.2	7.0

③学校で、いじめや差別をなくす人権教育を進めれば人権問題は解決する

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が25.4%、「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が36.7%となっています。

平成27年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が増加しています。

兵庫県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※兵庫県調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、60～69歳、70歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。

また、15～19歳、20～29歳で“思わない”の割合が高くなっています。

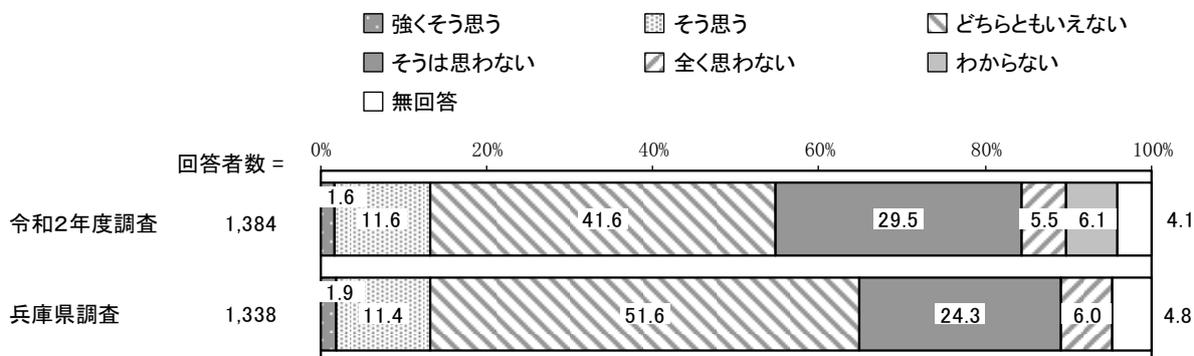
単位：%

区分		有効回答数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答
性別	男性	545	6.2	21.7	28.4	29.7	7.0	3.7	3.3
	女性	800	3.6	20.5	32.1	31.0	6.3	3.4	3.1
	その他(または答えたくない)	12	—	16.7	58.3	16.7	—	8.3	—
年齢別	15～19歳	49	8.2	10.2	16.3	55.1	8.2	—	2.0
	20～29歳	106	4.7	17.0	23.6	39.6	14.2	0.9	—
	30～39歳	161	2.5	17.4	36.0	31.7	11.2	—	1.2
	40～49歳	213	1.4	16.0	37.6	31.9	8.5	1.4	3.3
	50～59歳	219	4.1	17.4	34.2	34.2	4.6	4.1	1.4
	60～69歳	223	2.7	29.6	30.0	27.8	3.6	4.5	1.8
	70歳以上	385	8.3	24.2	27.3	22.9	3.9	6.8	6.8

④個人の権利より、地域みんなの利益が優先されるべきだ

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が13.2%、「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が35.0%となっています。

兵庫県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※兵庫県調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、70歳以上で“そう思う”の割合が高くなっています。また、15～19歳で“思わない”の割合が高くなっています。

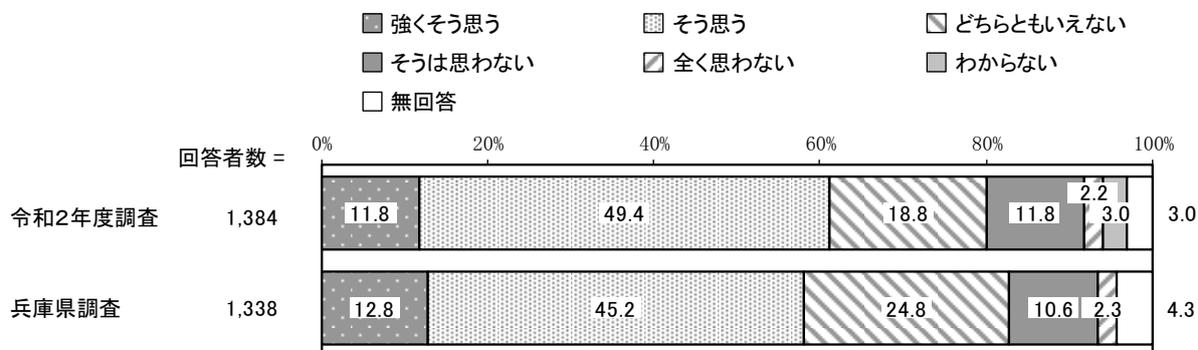
単位：%

区分		有効回答数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答
性別	男性	545	2.2	12.3	42.8	27.2	6.2	6.1	3.3
	女性	800	1.3	11.1	41.4	31.4	5.0	5.8	4.1
	その他(または答えたくない)	12	—	—	58.3	25.0	8.3	8.3	—
年齢別	15～19歳	49	—	10.2	30.6	38.8	10.2	8.2	2.0
	20～29歳	106	2.8	10.4	45.3	26.4	14.2	0.9	—
	30～39歳	161	1.2	12.4	44.7	31.1	6.2	3.1	1.2
	40～49歳	213	0.9	4.7	51.2	30.5	5.6	4.7	2.3
	50～59歳	219	0.9	6.4	52.1	30.1	4.1	5.0	1.4
	60～69歳	223	1.3	11.2	41.3	32.7	4.0	6.7	2.7
	70歳以上	385	2.6	18.4	31.7	25.7	3.6	9.1	8.8

⑤みんなが、思いやりや優しさを持てば人権問題は解決する

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が61.2%、「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が14.0%となっています。

兵庫県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※兵庫県調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で“思わない”の割合が高くなっています。

単位：%

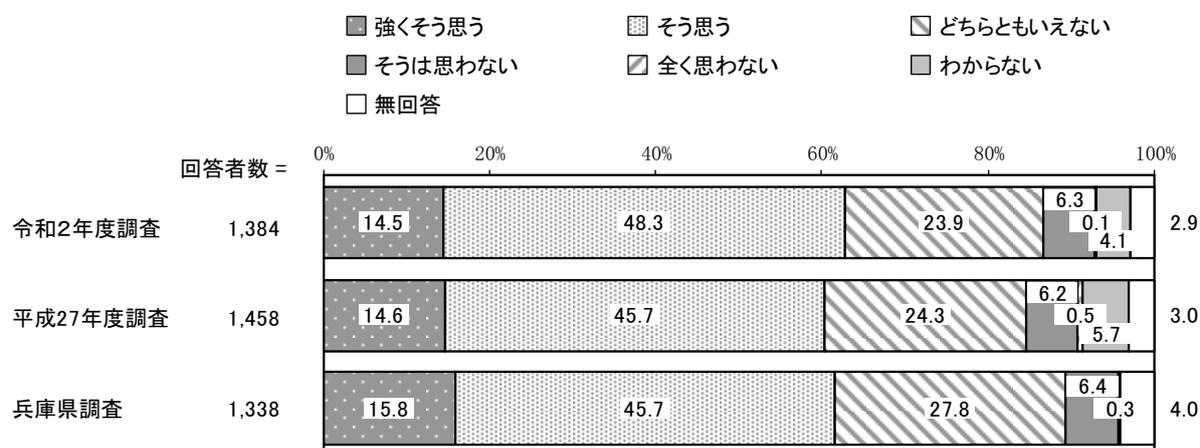
区分		有効回答数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答
性別	男性	545	12.3	48.1	19.8	11.7	2.8	2.8	2.6
	女性	800	11.8	50.6	18.3	11.8	1.9	3.0	2.8
	その他(または答えたくない)	12	8.3	41.7	25.0	16.7	-	8.3	-
年齢別	15～19歳	49	14.3	36.7	18.4	20.4	8.2	-	2.0
	20～29歳	106	18.9	37.7	18.9	16.0	6.6	0.9	0.9
	30～39歳	161	14.3	47.8	20.5	13.7	2.5	-	1.2
	40～49歳	213	12.2	51.2	18.8	12.2	1.9	1.4	2.3
	50～59歳	219	11.0	52.5	21.0	10.5	1.4	2.3	1.4
	60～69歳	223	7.6	55.2	17.9	11.7	2.2	3.1	2.2
	70歳以上	385	11.7	49.6	17.7	9.1	0.8	6.2	4.9

⑥自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えている

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が62.8%、「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が6.4%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※兵庫県調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別・年齢別】

性別で見ると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別で見ると、他に比べ、15～19歳で“そう思う”の割合が低くなっています。

単位：%

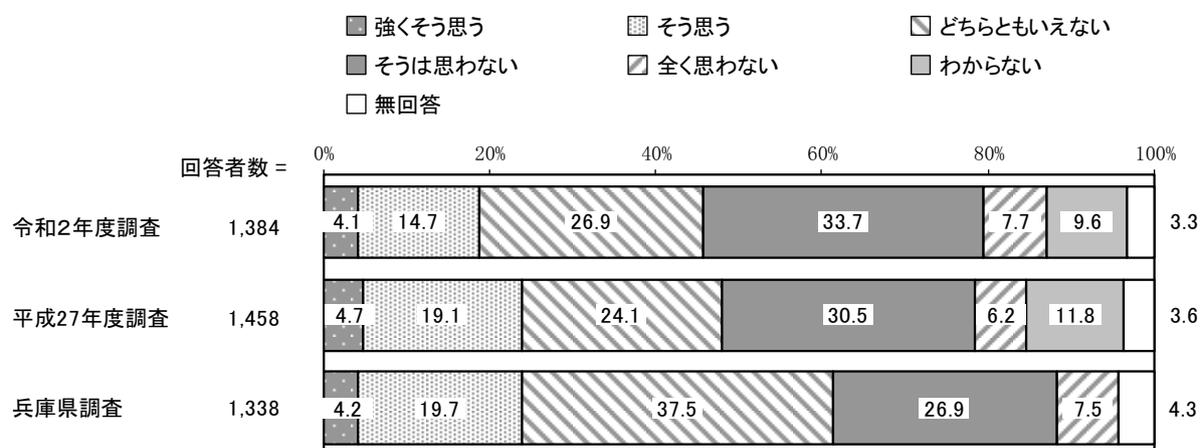
区分		有効回答数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答
性別	男性	545	16.7	47.7	21.1	7.9	—	3.9	2.8
	女性	800	12.9	49.3	26.1	5.3	0.1	3.9	2.5
	その他(または答えたくない)	12	16.7	33.3	33.3	—	—	16.7	—
年齢別	15～19歳	49	12.2	32.7	40.8	4.1	—	8.2	2.0
	20～29歳	106	16.0	47.2	29.2	4.7	0.9	1.9	—
	30～39歳	161	17.4	44.7	28.0	6.2	—	3.1	0.6
	40～49歳	213	16.0	48.4	24.4	7.5	—	1.4	2.3
	50～59歳	219	19.6	50.7	21.9	4.6	—	1.8	1.4
	60～69歳	223	10.3	57.0	22.0	5.8	—	2.7	2.2
	70歳以上	385	11.7	46.5	21.3	7.5	—	7.8	5.2

⑦同和問題は、口に出さないでそっとしていれば自然になくなる

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が18.8%、「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が41.4%となっています。

平成27年度調査と比較すると、“そう思う”の割合が減少しています。

兵庫県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※兵庫県調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳、60～69歳で“思わない”の割合が高くなっている。

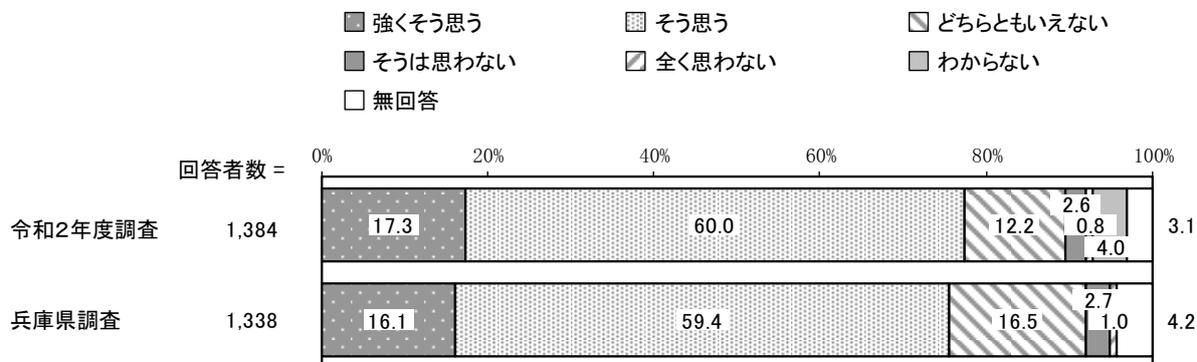
単位：%

区分		有効回答数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答
性別	男性	545	5.0	15.8	23.7	35.0	8.6	9.4	2.6
	女性	800	3.6	13.6	28.9	34.0	7.1	9.5	3.3
	その他(または答えたくない)	12	—	8.3	58.3	16.7	—	16.7	—
年齢別	15～19歳	49	10.2	8.2	32.7	16.3	10.2	20.4	2.0
	20～29歳	106	7.5	10.4	19.8	39.6	12.3	9.4	0.9
	30～39歳	161	5.6	15.5	31.1	28.6	8.7	9.9	0.6
	40～49歳	213	4.7	14.1	24.4	37.1	10.3	7.0	2.3
	50～59歳	219	2.3	11.4	32.4	38.4	7.8	6.4	1.4
	60～69歳	223	1.3	14.8	25.1	43.5	6.7	6.3	2.2
	70歳以上	385	4.2	17.9	26.0	28.1	4.7	13.2	6.0

⑧外国人も日本人と同じように人権は守られるべきだ

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた“そう思う”の割合が77.3%、「そうは思わない」と「全く思わない」を合わせた“思わない”の割合が3.4%となっています。

兵庫県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※兵庫県調査に「わからない」の選択肢はありません。

【性別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、他に比べ、15～19歳、20～29歳で“そう思う”の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	強くそう思う	そう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全く思わない	わからない	無回答	
性別	男性	545	18.5	58.0	12.5	3.5	0.9	3.9	2.8
	女性	800	16.8	62.0	12.0	2.0	0.5	3.8	3.0
	その他(または答えたくない)	12	16.7	33.3	16.7	8.3	8.3	16.7	-
年齢別	15～19歳	49	44.9	40.8	12.2	-	-	-	2.0
	20～29歳	106	34.9	52.8	10.4	0.9	0.9	-	-
	30～39歳	161	16.8	58.4	16.1	4.3	0.6	3.1	0.6
	40～49歳	213	16.4	55.4	16.0	5.6	1.9	2.3	2.3
	50～59歳	219	14.2	67.1	12.8	0.9	0.5	2.7	1.8
	60～69歳	223	14.3	66.4	9.4	2.2	0.9	4.9	1.8
	70歳以上	385	13.8	60.8	10.1	2.3	0.3	6.8	6.0

(2) 男女共同参画について

問 29 日常的な家事・仕事などの役割分担についておうかがいします。

「A. 理想」は全員の方がお答えください。

「B. 現状」は配偶者（法律上の婚姻は問いません）のいる方のみお答えください。また、子育て、高齢者の介護に関する項目は、該当する方のみお答えください。（○はそれぞれ1つ）

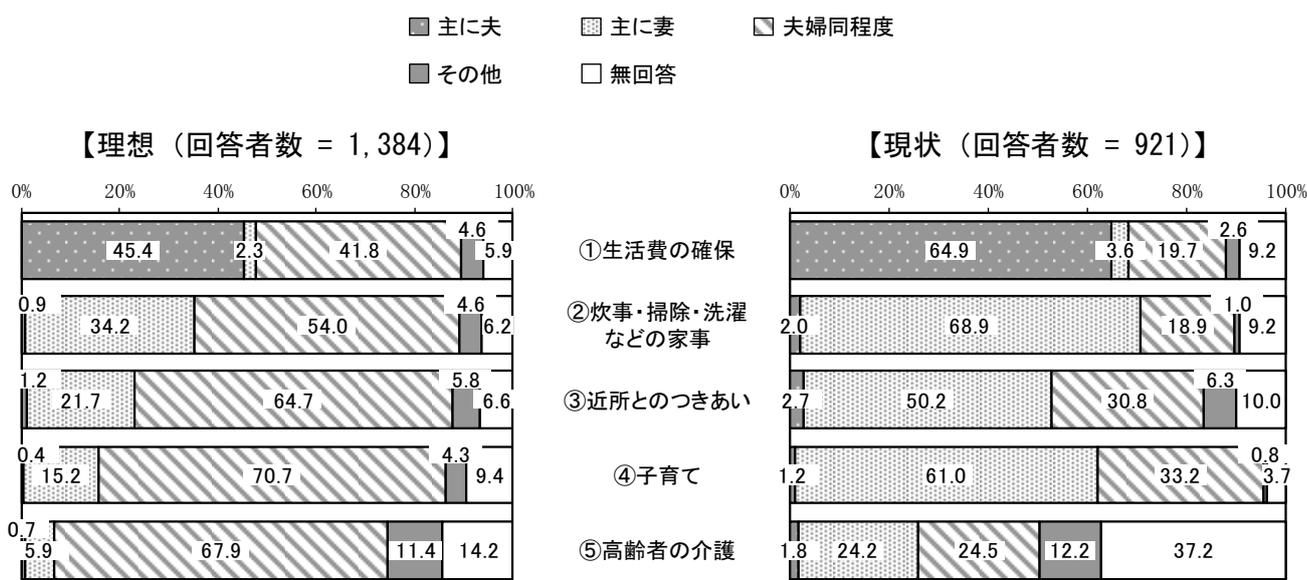
①生活費の確保では、理想に比べて現状で、「主に夫」の割合が高くなっています。

②炊事・掃除・洗濯などの家事、③近所とのつきあい、④子育て、⑤高齢者の介護では、理想に比べて現状で、「主に妻」の割合が高くなっており、平成 27 年度調査と同じ傾向が続いています。

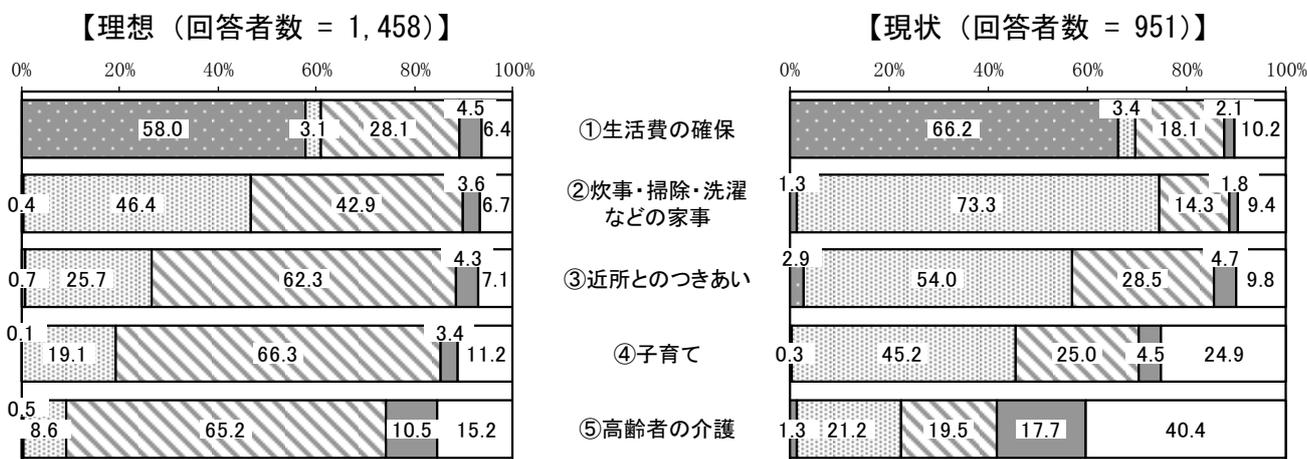
また、「夫婦同程度」についてみると、理想と現状の乖離は、④子育て、⑤高齢者の介護で大きく、理想と現状で約 40 ポイントの差がみられます。

平成 27 年度と調査と比較すると、理想では①生活費の確保での「主に夫」の割合が 12.6 ポイント減少し、「夫婦同程度」が 13.7 ポイント増加しています。また、現状では、概ね大きな変化はみられないものの、④子育てでの「主に妻」の割合については 15.8 ポイント増加しています。

【令和 2 年度調査】



【平成 27 年度調査】



【性別】

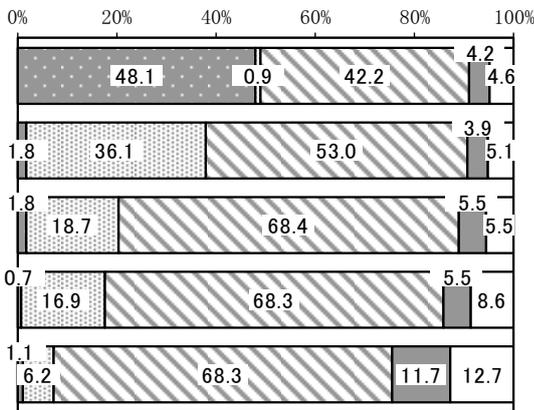
性別でみると、理想では男女での大きな差異はみられません。

現状では、②炊事・掃除・洗濯などの家事、③近所とのつきあい、⑤高齢者の介護では、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、10ポイント以上の差がみられます。また、③近所とのつきあい、⑤高齢者の介護では、女性に比べ、男性で「夫婦同程度」の割合が高くなっています。

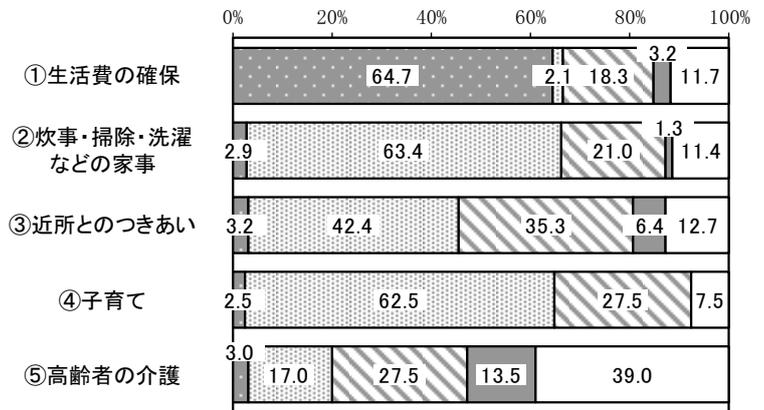


①男性

【理想 (回答者数 = 545)】

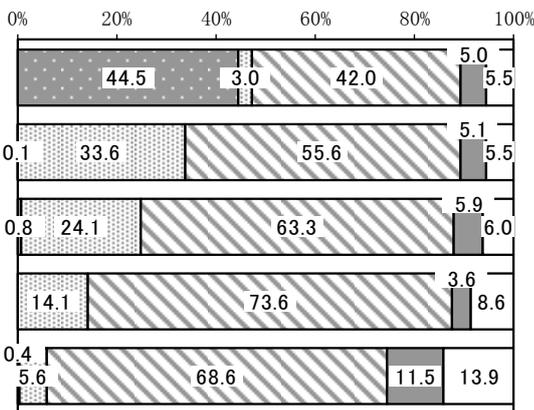


【現状 (回答者数 = 377)】

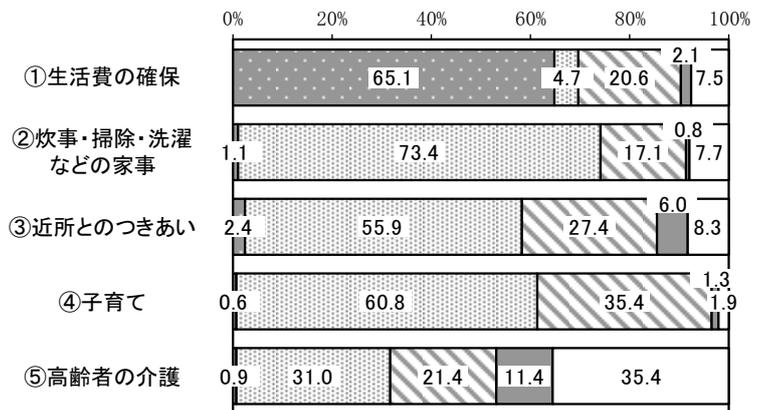


②女性

【理想 (回答者数 = 545)】



【現状 (回答者数 = 377)】

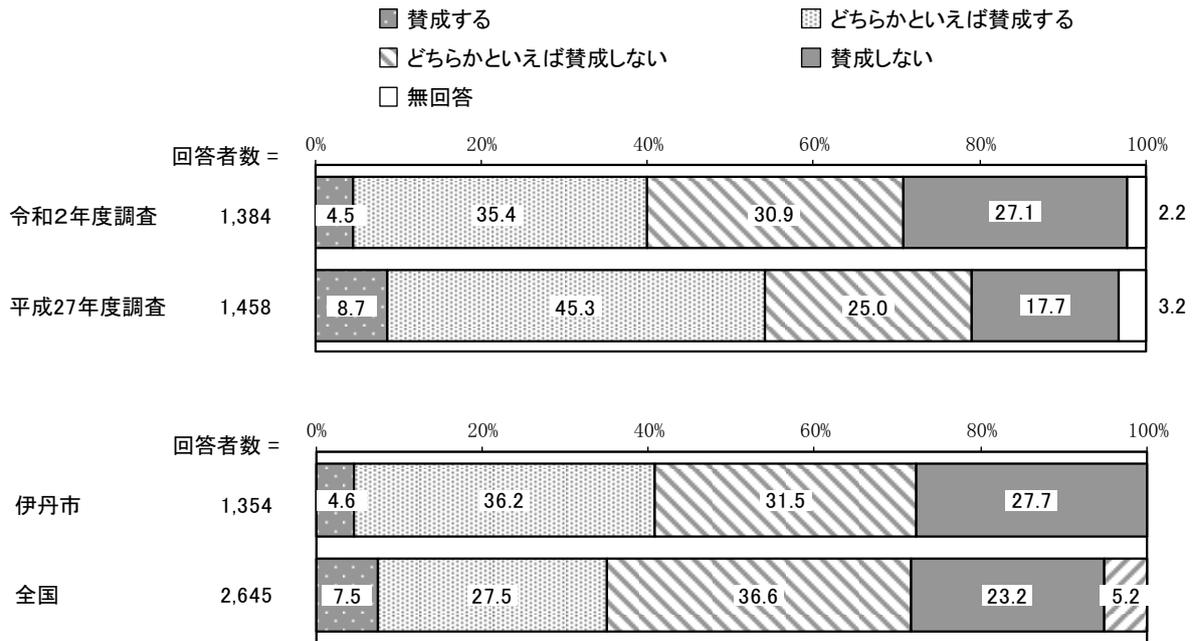


問 30 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に賛成しますか。(○は1つ)

「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が39.9%、「どちらかといえば賛成しない」と「賛成しない」を合わせた“賛成しない”の割合が58.0%となっています。

平成27年度調査と比較すると、“賛成しない”の割合が増加しており、“賛成する”の割合が減少しています。

全国調査と比較すると、“賛成する”の割合が5.8ポイント高くなっています。

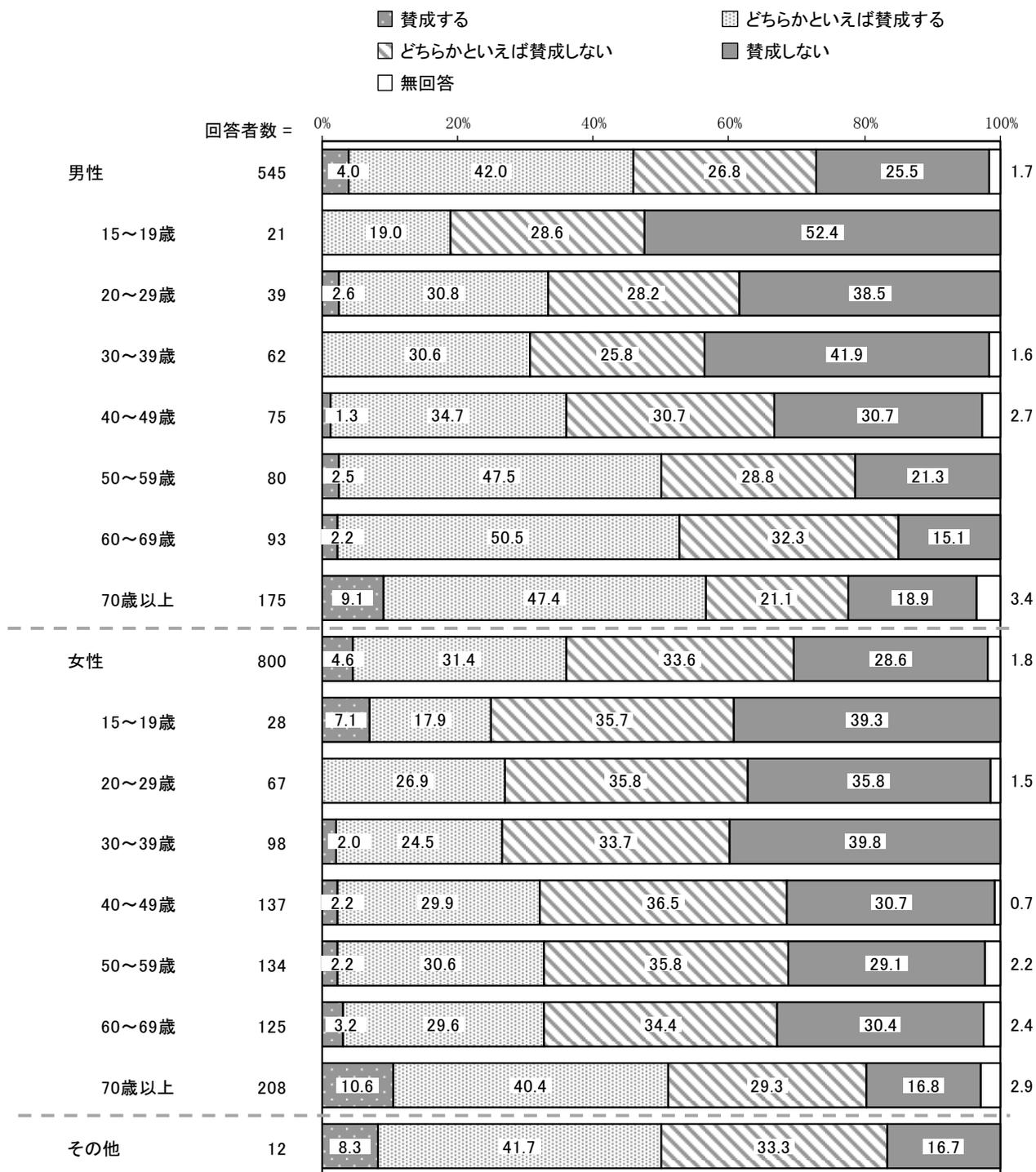


※全国と比較するため、無回答を除いています。(全国の5.2%は「わからない」)

【性・年齢別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“賛成する”の割合が高くなっています。

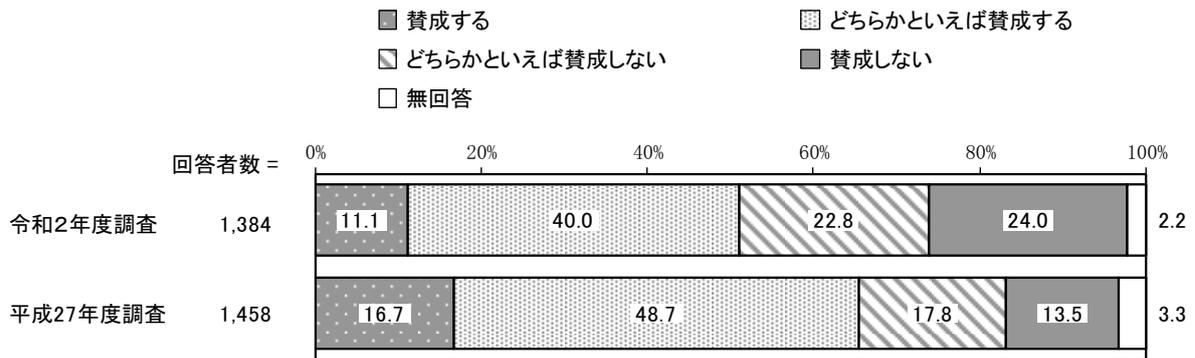
性・年齢別でみると、他に比べ、男性の50歳以上、女性の70歳以上で“賛成する”の割合が高くなっています。



問 31 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に賛成しますか。(○は1つ)

「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた“賛成する”の割合が 51.1%、「どちらかといえば賛成しない」と「賛成しない」を合わせた“賛成しない”の割合が 46.8%となっています。

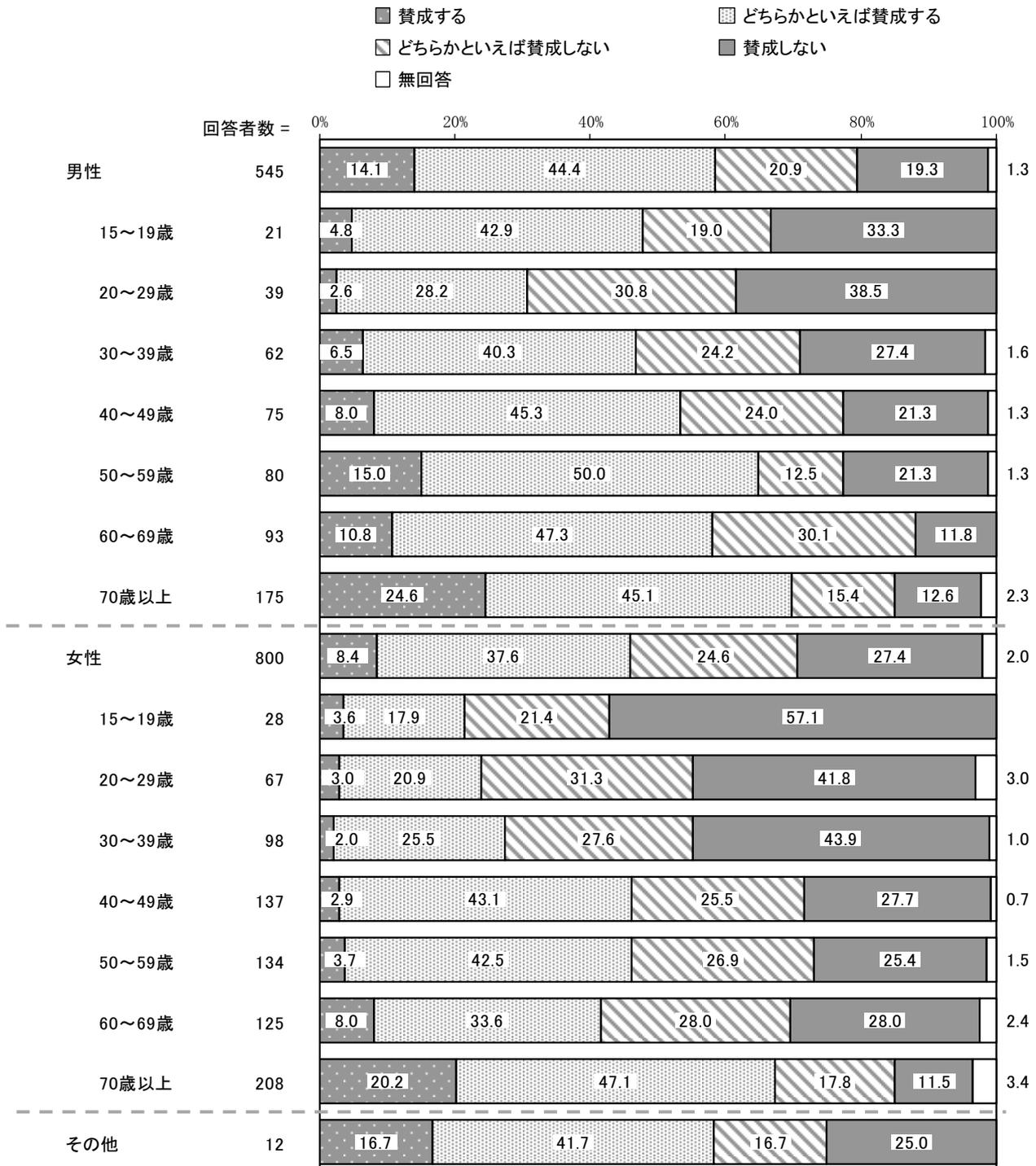
平成 27 年度調査と比較すると、“賛成しない”の割合が増加し、“賛成する”の割合が減少しています。



【性・年齢別】

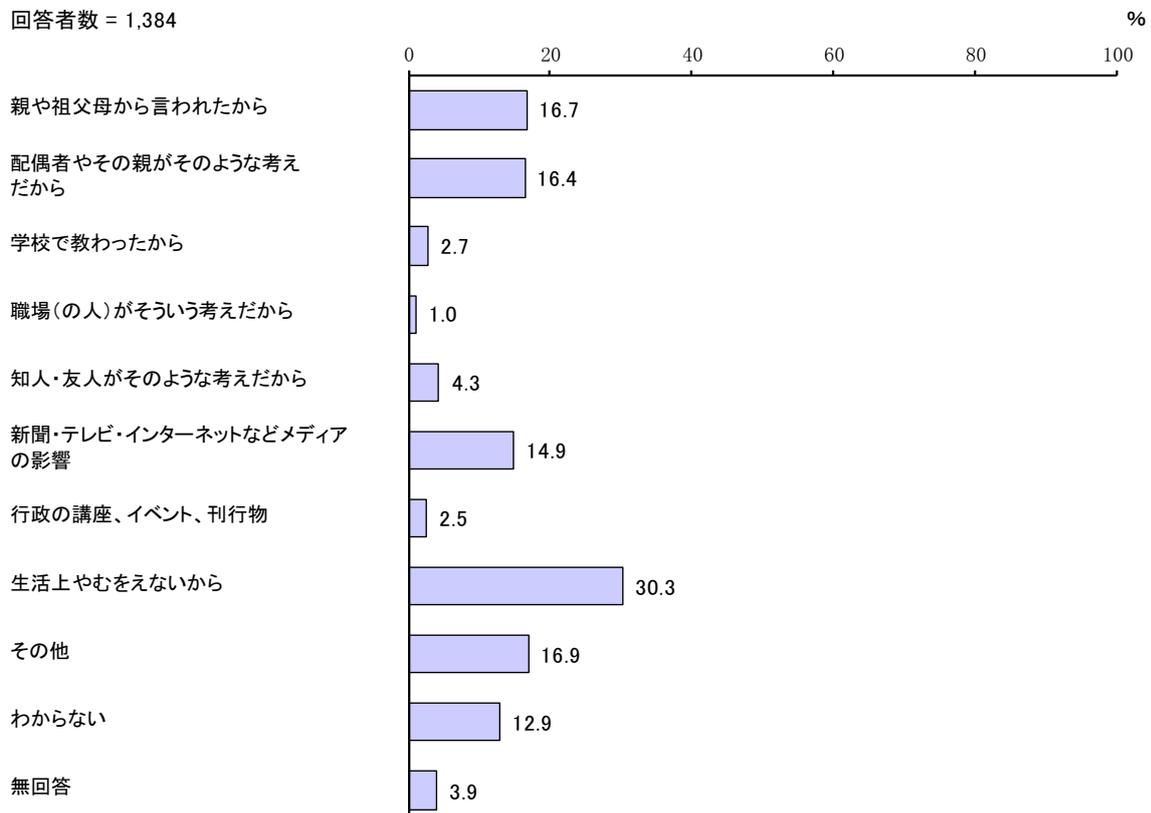
性別で見ると、女性に比べ、男性で“賛成する”の割合が高くなっています。

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の50歳以上、女性の70歳以上で“賛成する”の割合が高くなっています。



問 32 あなたが問 30 と問 31 で回答したお考えになったと思われる理由をお答えください。(○は2つまで)

「生活上やむをえないから」の割合が 30.3%と最も高く、次いで「親や祖父母から言われたから」の割合が 16.7%、「配偶者やその親がそのような考えだから」の割合が 16.4%となっています。



【「男は仕事、女は家事・育児」という考え方別】

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方別でみると、賛成している人ほど「親や祖父母から言われたから」「配偶者やその親がそのような考えだから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	親や祖父母から言われたから	配偶者やその親がそのような考えだから	学校で教わったから	職場(の人)がそういう考えだから	知人・友人がそのような考えだから	新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響	行政の講座、イベント、刊行物	生活上やむをえないから	その他	わからない	無回答
賛成する	62	30.6	29.0	3.2	1.6	3.2	6.5	3.2	29.0	12.9	4.8	6.5
どちらかといえば賛成する	490	22.7	19.6	1.8	0.4	2.7	7.3	1.0	46.1	14.7	8.2	1.6
どちらかといえば賛成しない	427	14.1	14.8	3.3	0.9	4.7	22.7	3.5	25.1	13.3	17.8	1.2
賛成しない	375	10.9	13.1	3.5	1.9	6.7	18.4	3.5	18.4	25.9	15.2	2.7

【「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方別】

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方別でみると、賛成している人ほど「配偶者やその親がそのような考えだから」の割合が高くなっています。また、“賛成する”で「生活上やむをえないから」の割合が、「どちらかといえば賛成しない」で「新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響」の割合が高くなっています。

単位：％

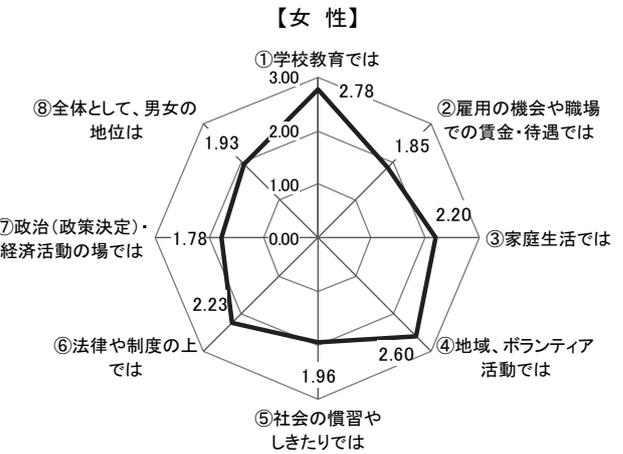
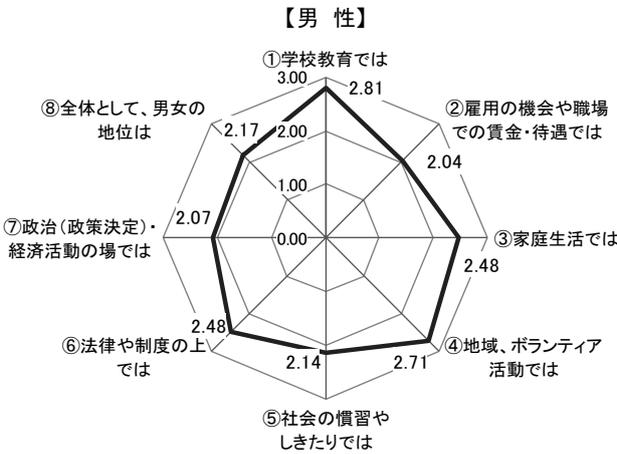
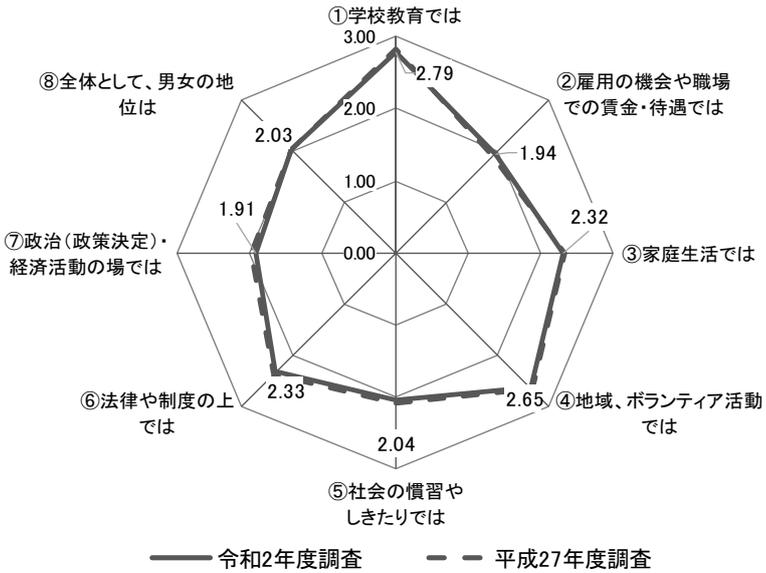
区分	有効回答数(件)	親や祖父母から言われたから	配偶者やその親がそのような考えだから	学校で教わったから	職場(の人)がそういう考えだから	知人・友人がそのような考えだから	新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響	行政の講座、イベント、刊行物	生活上やむをえないから	その他	わからない	無回答
賛成する	154	33.1	24.7	3.2	0.6	2.6	7.1	1.9	35.7	11.7	8.4	2.6
どちらかといえば賛成する	553	21.5	18.6	2.2	1.1	3.3	9.9	1.1	42.9	11.9	9.9	1.8
どちらかといえば賛成しない	315	9.8	15.2	2.5	0.6	5.1	25.4	3.8	21.9	16.8	17.8	1.9
賛成しない	332	8.7	11.4	3.9	1.5	6.6	18.1	4.2	17.2	29.2	15.4	2.7

問 33 あなたは、今の日本社会を見た場合、男性と女性の地位は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

男性と女性の地位は平等になっていると思うかについて、「①学校教育では」で、平等感が高くなっています。一方、「②雇用の機会や職場の賃金・待遇では」、「⑦政治（政策決定）・経済活動の場では」では、平等感が低くなっています。

平成 27 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別でみると、すべての項目で、女性に比べて男性で平等感が高くなっています。



■ 平等感の得点化 ■

平等感	得点
男性の方が非常に優遇されている	1点
どちらかといえば男性の方が優遇されている	2点
平等である	3点
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2点

得点
1点
2点
3点
2点

平等感	得点
女性の方が非常に優遇されている	1点
わからない	計算対象外
無回答	計算対象外

得点
1点
計算対象外
計算対象外

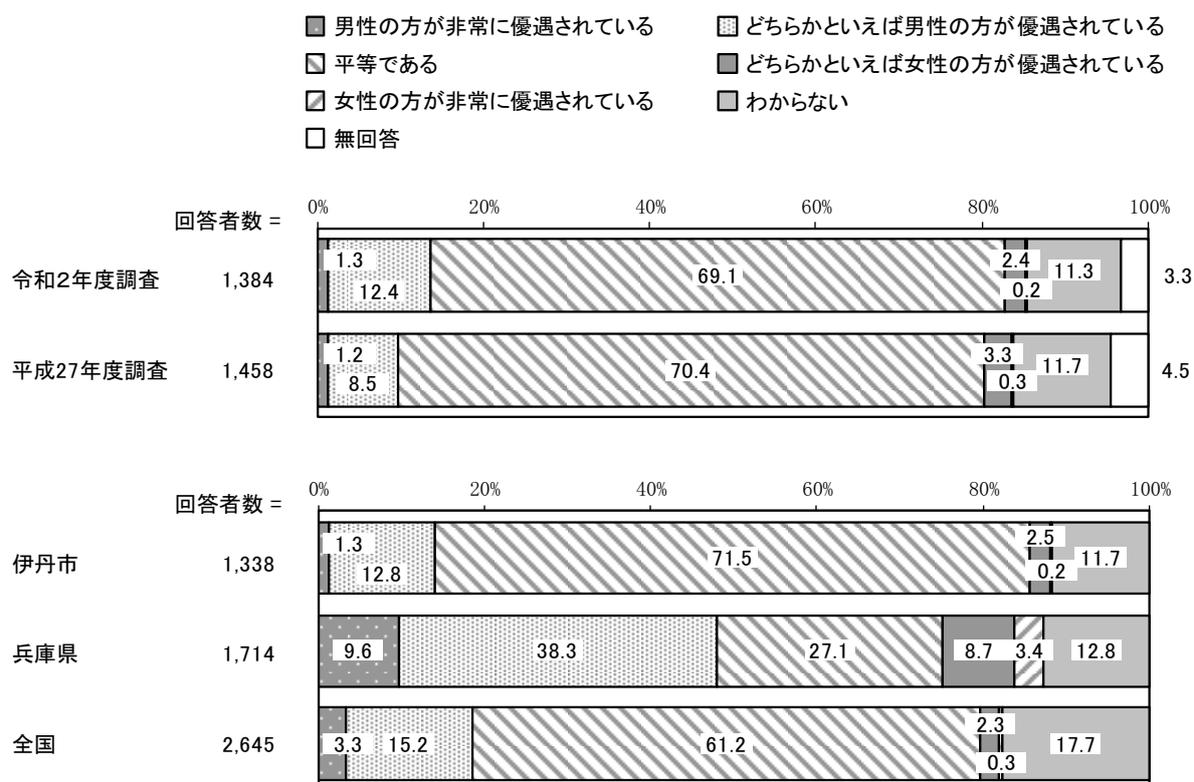
①学校教育では

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が13.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合が2.6%、「平等である」の割合が69.1%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県と比較すると、「平等である」の割合が高く、“男性の方が優遇されている”、“どちらかといえば女性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

全国と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。



※全国と比較するため、無回答を除いています。

出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

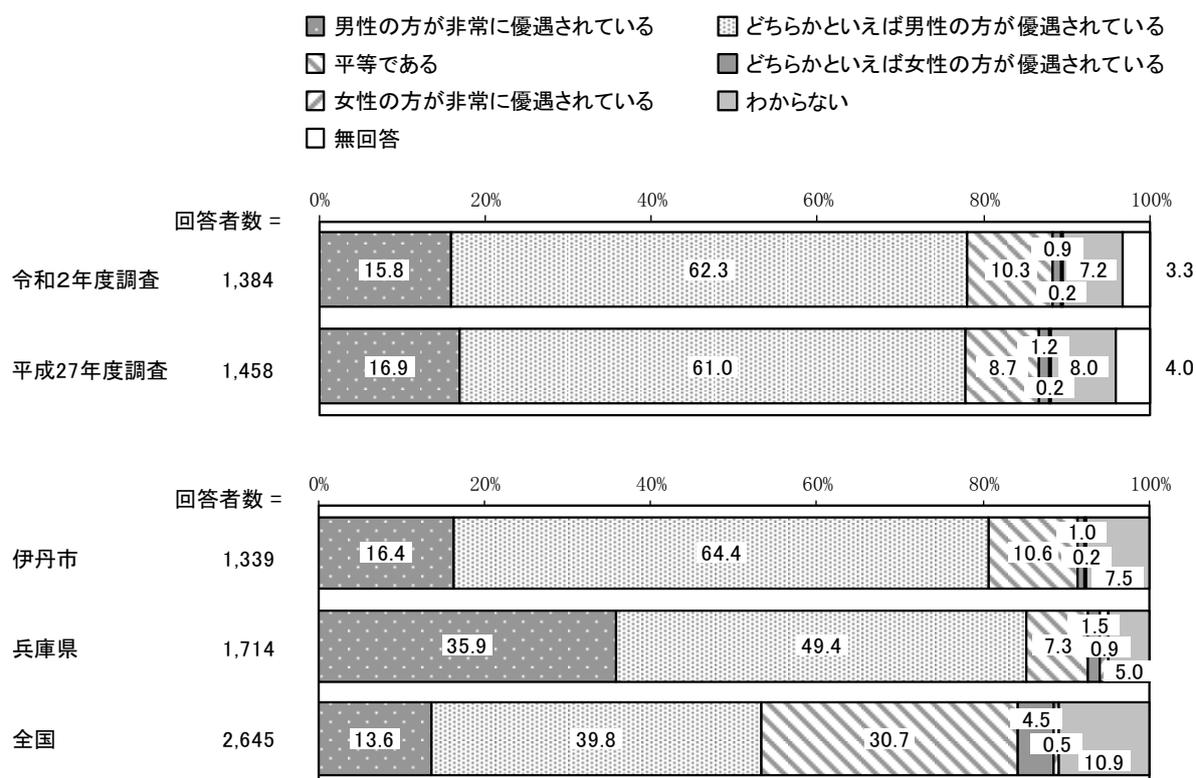
②雇用の機会や職場での賃金・待遇では

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が78.1%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合が1.1%、「平等である」の割合が10.3%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高く、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。



※全国と比較するため、無回答を除いています。

出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

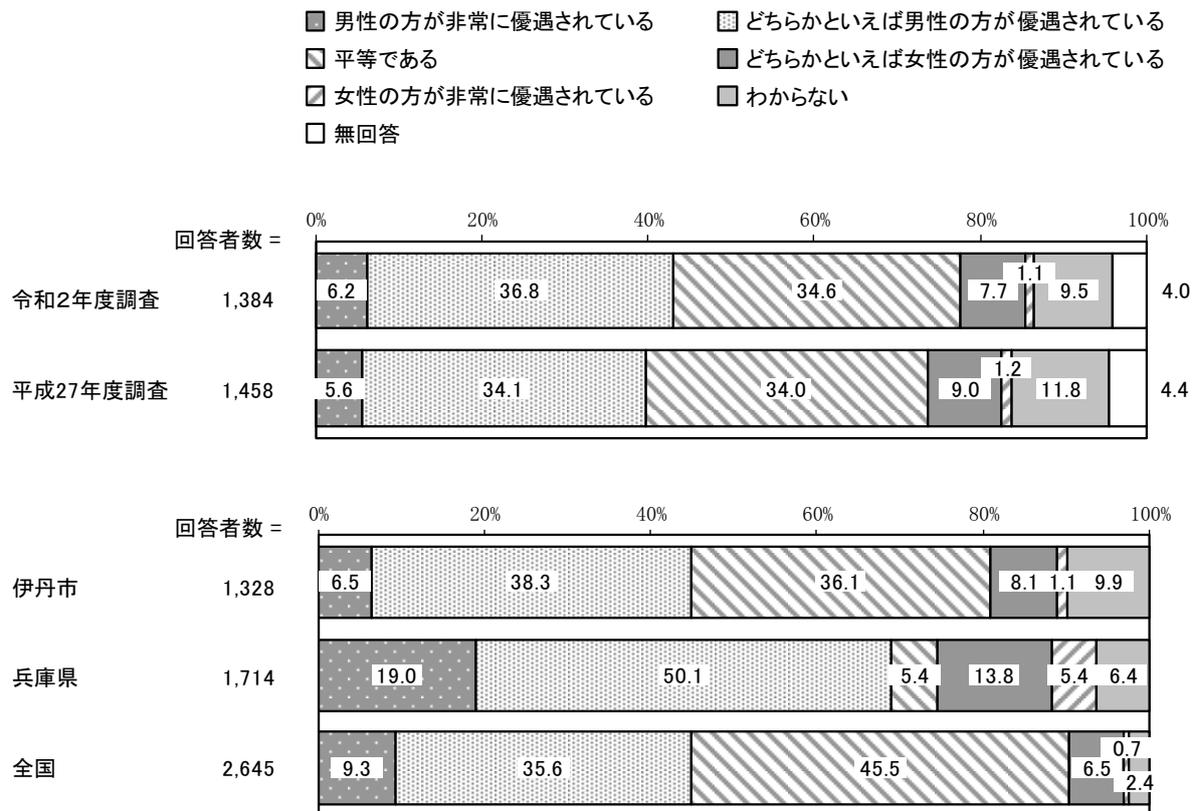
③家庭生活では

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が43.0%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合が8.8%、「平等である」の割合が34.6%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県と比較すると、「平等である」の割合が高く、“男性の方が優遇されている”、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

全国と比較すると、「平等である」の割合が低くなっています。



※全国と比較するため、無回答を除いています。

出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

※“男性が優遇されている”は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせたもの、“女性が優遇されている”は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせたもの。

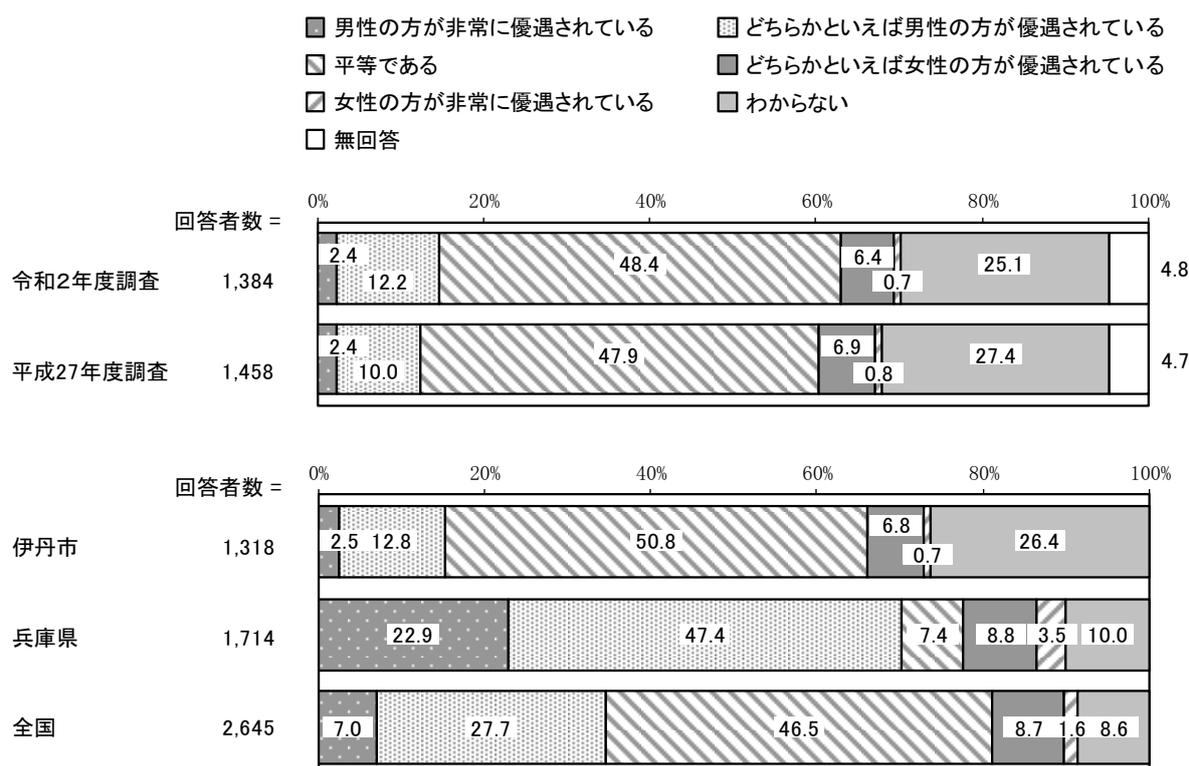
④地域、ボランティア活動では

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が14.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合が7.1%、「平等である」の割合が48.4%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県と比較すると、「平等である」の割合が高く、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。



※全国と比較するため、無回答を除いています。

出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

※“男性が優遇されている”は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせたもの、“女性が優遇されている”は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせたもの。

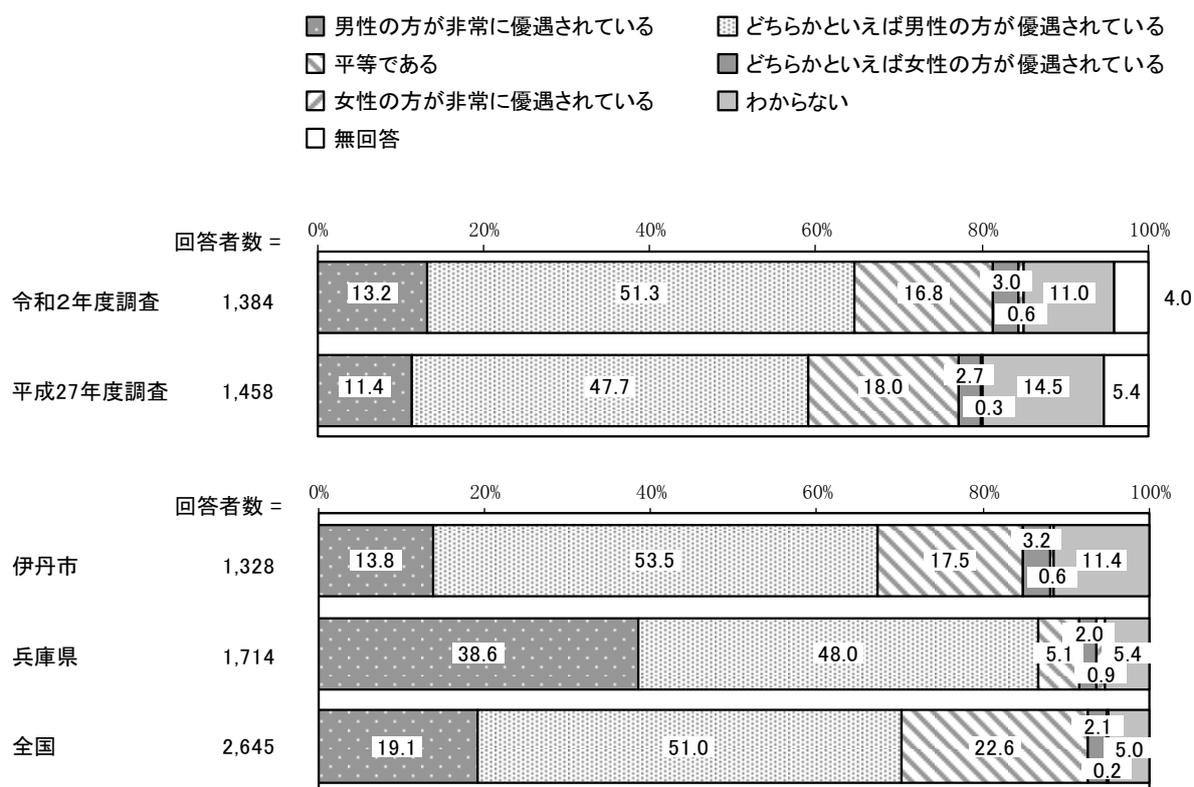
⑤社会の慣習やしきたりでは

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が64.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合が3.6%、「平等である」の割合が16.8%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県と比較すると、「平等である」の割合が高くなっています。一方、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

全国調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」「平等である」の割合が低くなっています。



※全国と比較するため、無回答を除いています。

出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

※“男性が優遇されている”は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせたもの、“女性が優遇されている”は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせたもの。

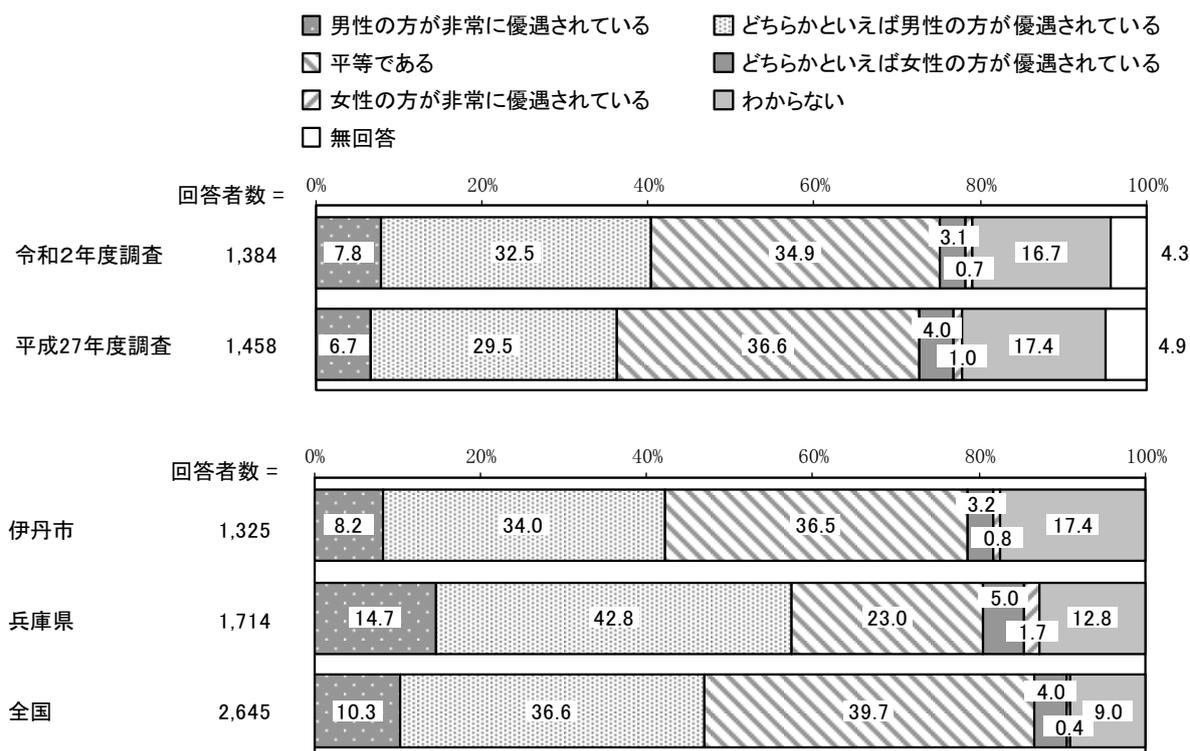
⑥法律や制度の上では

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が40.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合が3.8%、「平等である」の割合が34.9%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

兵庫県と比較すると、「平等である」の割合が高く、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

全国と比較すると、大きな差異はみられません。



※全国と比較するため、無回答を除いています。

出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

※“男性が優遇されている”は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせたもの、“女性が優遇されている”は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせたもの。

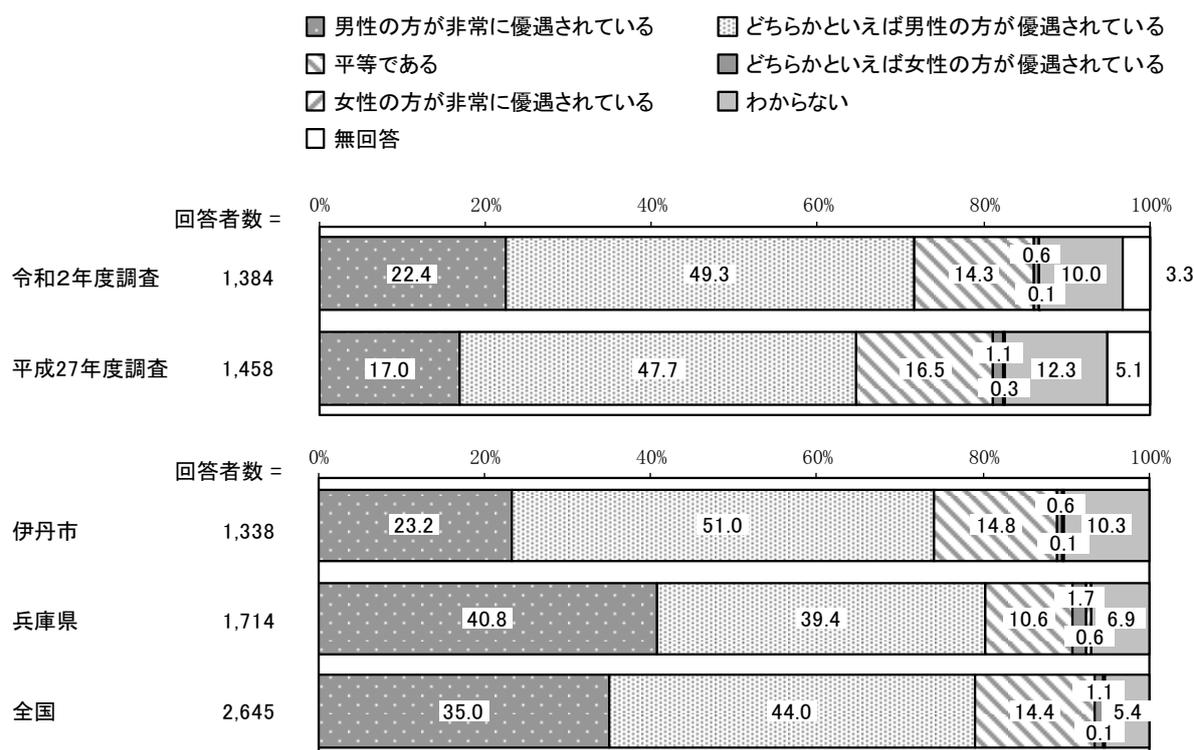
⑦政治（政策決定）・経済活動の場では

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が71.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合が0.7%、「平等である」の割合が14.3%となっています。

平成27年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が増加しています。

兵庫県と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

全国と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高く、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。



※全国と比較するため、無回答を除いています。

出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

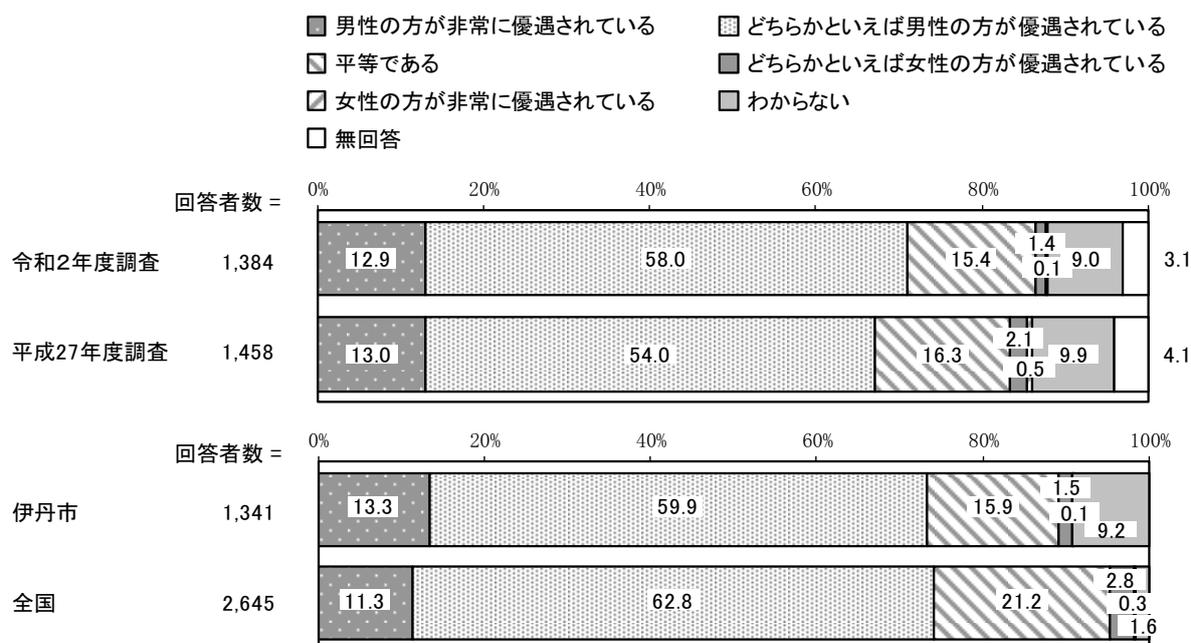
※“男性が優遇されている”は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせたもの、“女性が優遇されている”は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせたもの。

⑧全体として、男女の地位は

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性の方が優遇されている”の割合が70.9%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」を合わせた“女性の方が優遇されている”の割合が1.5%、「平等である」の割合が15.4%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

全国調査と比較すると、「平等である」の割合が低くなっています。



※全国と比較するため、無回答を除いています。

出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

※“男性が優遇されている”は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせたもの、“女性が優遇されている”は「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせたもの。

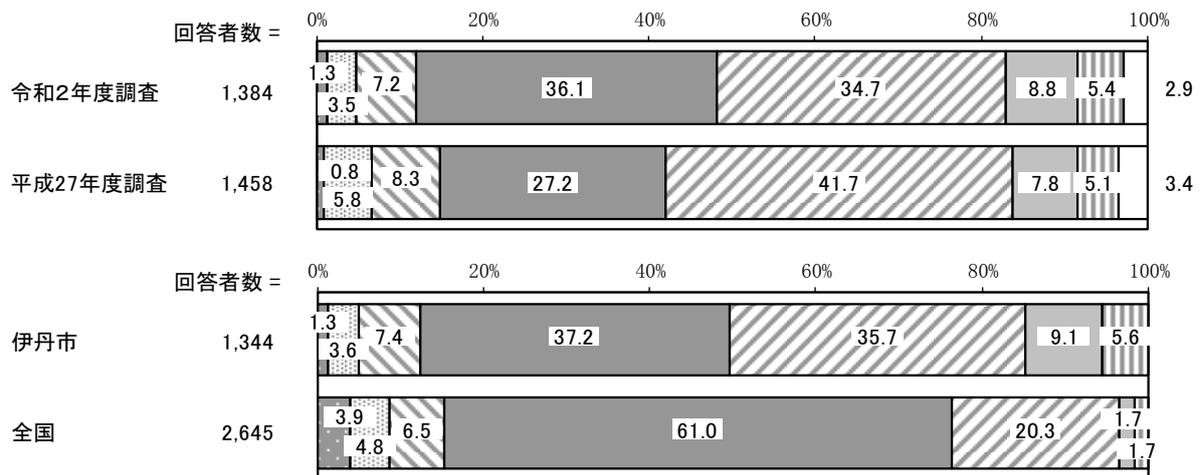
問 34 あなたは、一般的に女性が仕事をもつことについて、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇は1つ)

「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が36.1%と最も高く、次いで「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の割合が34.7%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が増加しています。一方、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の割合が減少しています。

全国調査と比較すると、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の割合が高く、「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が低くなっています。

- 女性は仕事をもたない方がよい
- 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- わからない
- 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい
- ずっと仕事を続ける方がよい
- その他
- 無回答



※全国と比較するため、無回答を除いています。

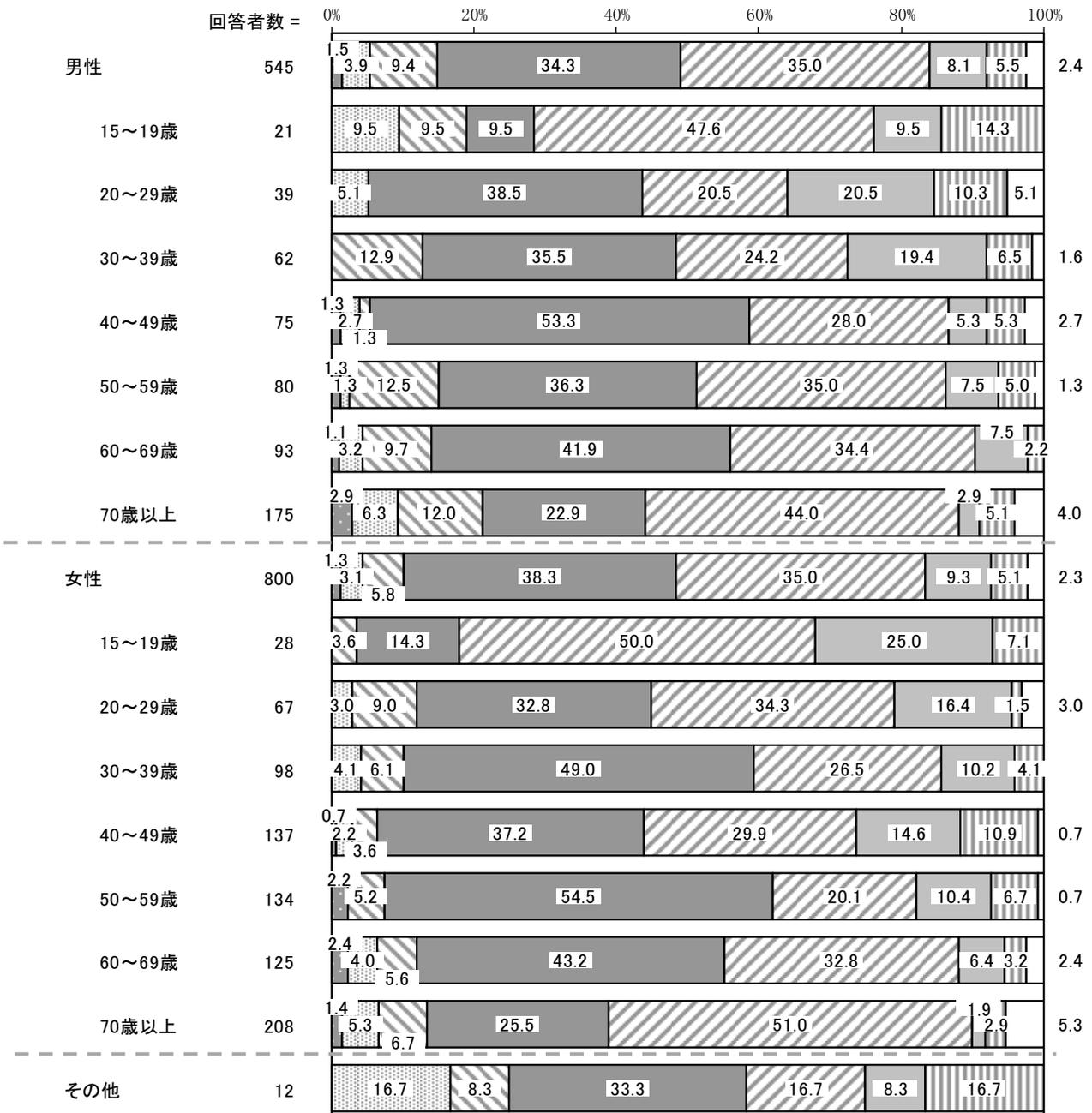
出典：「男女共同参画社会に関する世論調査」令和元年9月 内閣府男女共同参画局

【性・年齢別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の40～49歳、女性の30～39歳で「ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が高くなっています。また、男性の15～19歳、女性の15～19歳、70歳以上で「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

- 女性は仕事をもたない方がよい
- 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- わからない
- 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい
- ずっと仕事を続ける方がよい
- その他
- 無回答



問 35 生活の中での「仕事」と「家庭生活や地域活動」の優先度について、あなたの希望と現状に最も近いものを、お答えください。
 (〇はAとBでそれぞれ1つ)

A 希望

『仕事』を優先している」と「どちらかといえば『仕事』を優先している」をあわせた“「仕事」を優先している”の割合が15.3%、『仕事』と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている」の割合が43.3%、「どちらかといえば『家庭生活や地域活動』を優先している」と『家庭生活や地域活動』を優先している」をあわせた“「家庭生活や地域活動」を優先している”の割合が12.7%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で“「仕事」を優先している”の割合が高くなっています。平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

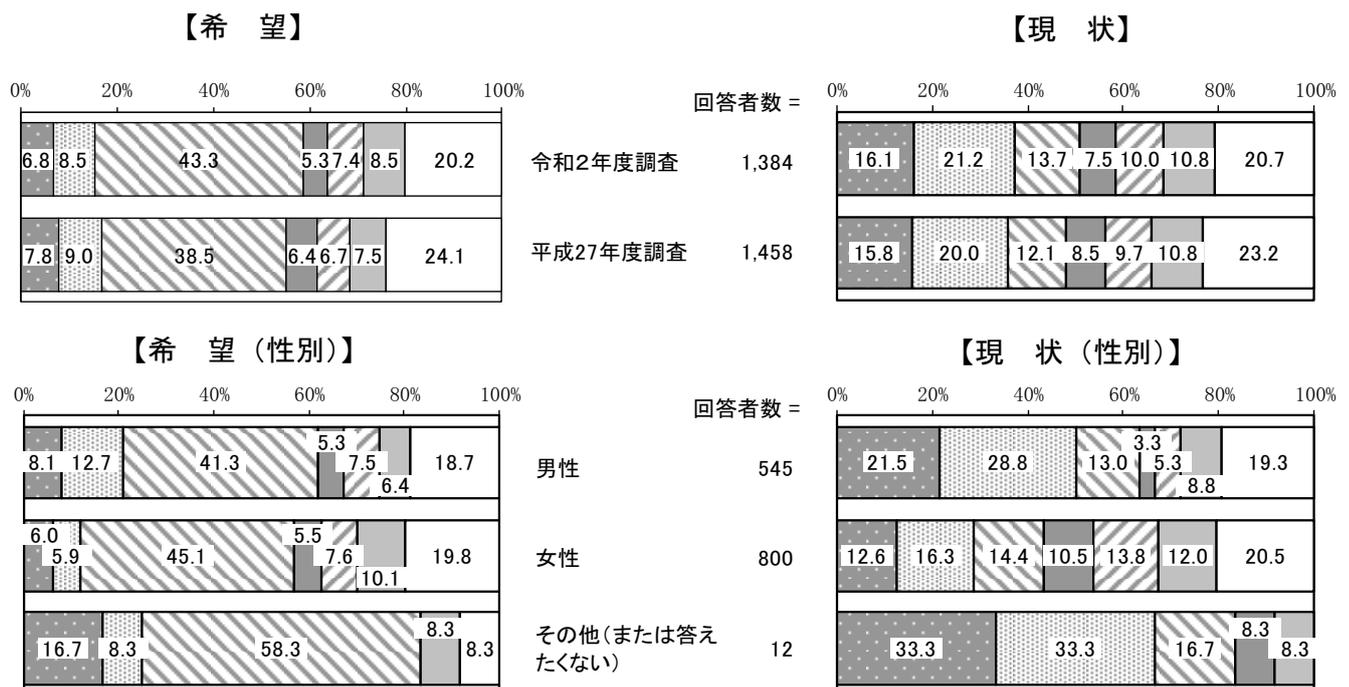
B 現状

“「仕事」を優先している”の割合が37.3%、『仕事』と『家庭生活や地域活動』のバランスをうまくとっている」の割合が13.7%、“「家庭生活や地域活動」を優先している”の割合が17.5%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で『仕事』を優先している」「どちらかといえば『仕事』を優先している」の割合が高くなっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

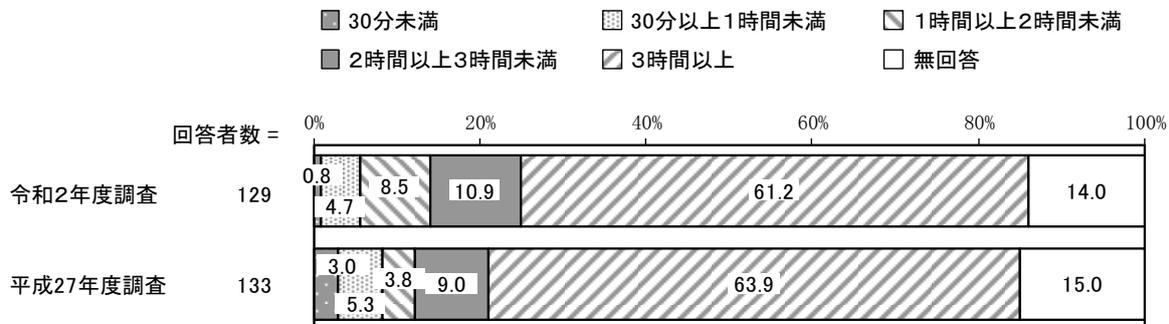
- 「仕事」を優先している
- ▨ どちらかといえば「仕事」を優先している
- ▨ 「仕事」と「家庭生活や地域活動」のバランスをうまくとっている
- どちらかといえば「家庭生活や地域活動」を優先している
- ▨ 「家庭生活や地域活動」を優先している
- わからない
- 無回答



問 36 小学校入学前のお子さんがある方におうかがいします。
育児に関わる時間は、週平均で1日どれくらいですか。(〇は1つ)

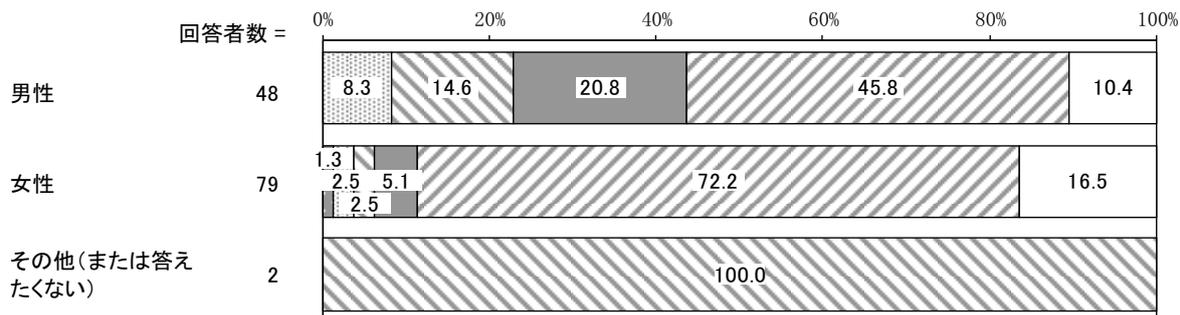
「3時間以上」の割合が61.2%と最も高く、次いで「2時間以上3時間未満」の割合が10.9%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「3時間以上」の割合が高くなっています。

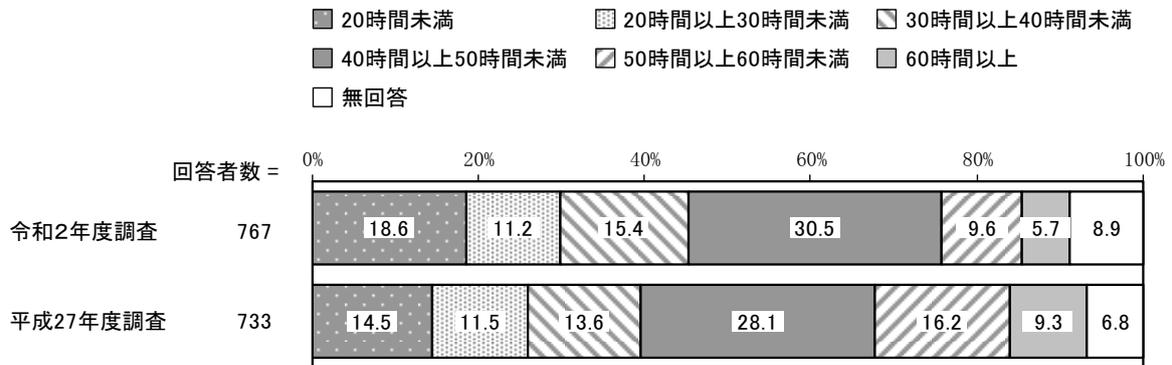


＜小学校入学前のお子さんがある方について＞
 F5で「乳幼児（小学校入学前）」と回答した人を抽出しています。

**問 37 現在、収入をともなう仕事をしている方におうかがいします。
現在残業も含めて週あたり何時間くらい仕事をしていますか。(○は1つ)**

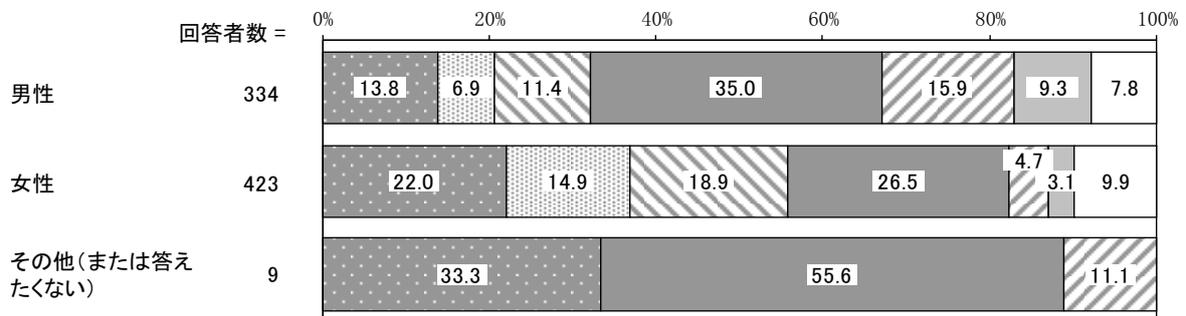
「40時間以上50時間未満」の割合が30.5%と最も高く、次いで「20時間未満」の割合が18.6%、「30時間以上40時間未満」の割合が15.4%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「50時間以上60時間未満」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「40時間以上50時間未満」「50時間以上60時間未満」「60時間以上」の割合が高くなっています。



問 38 育児休業・介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。あなたの考えに1番近いものをお答えください。(○はそれぞれ1つ)

A 育児休業 (○はそれぞれ1つ)

「夫も妻も取る方がよい」の割合が49.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば妻が取る方がよい」の割合が17.3%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「夫も妻も取る方がよい」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば妻が取る方がよい」の割合が減少しています。

B 介護休業 (○はそれぞれ1つ)

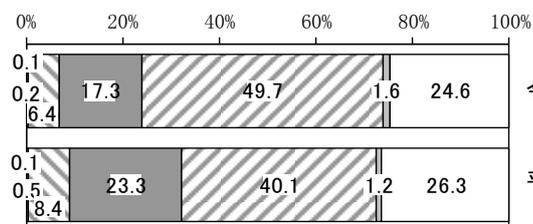
「夫も妻も取る方がよい」の割合が50.6%と最も高く、次いで「夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい」の割合が13.7%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

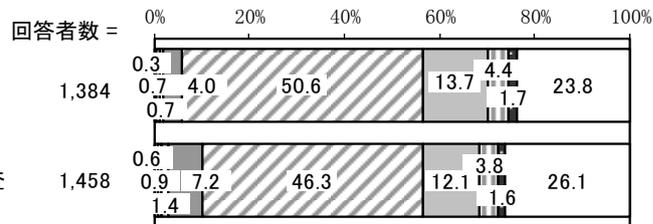
- 夫のみ取る方がよい
- ▨ どちらかといえば夫が取る方がよい
- ▩ 妻のみ取る方がよい
- ▧ どちらかといえば妻が取る方がよい
- ▦ 夫も妻も取る方がよい
- その他
- 無回答

- 夫のみ取る方がよい
- ▨ どちらかといえば夫が取る方がよい
- ▩ 妻のみ取る方がよい
- ▧ どちらかといえば妻が取る方がよい
- ▦ 夫も妻も取る方がよい
- ▥ 夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい
- ▤ 介護を受けるものと同性のものが取る方がよい
- その他
- 無回答

【育児休業】



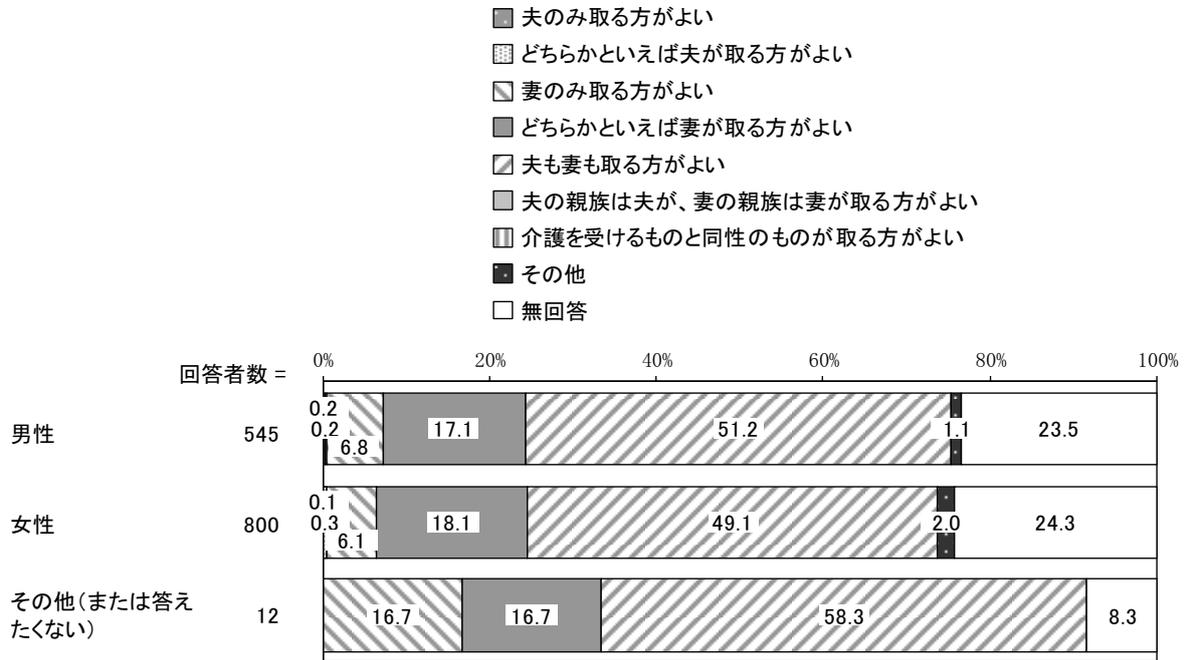
【介護休業】



A 育児休業（〇はそれぞれ1つ）

【性別】

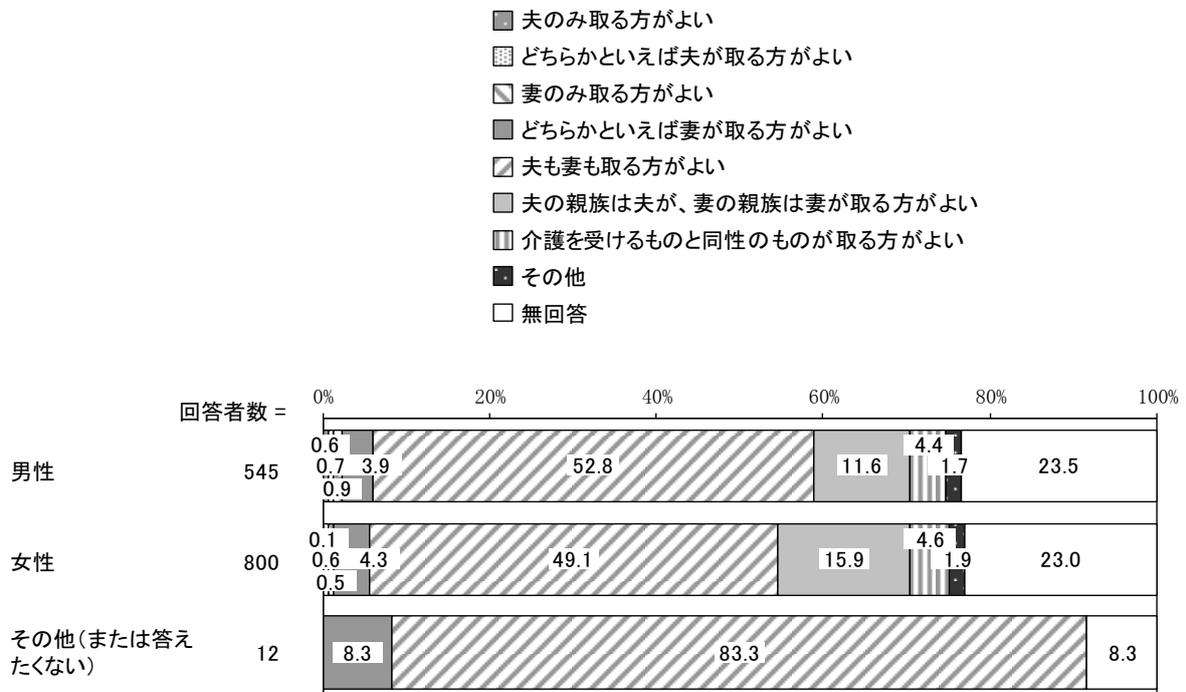
性別でみると、男女で大きな差異はみられません。



B 介護休業（〇はそれぞれ1つ）

【性別】

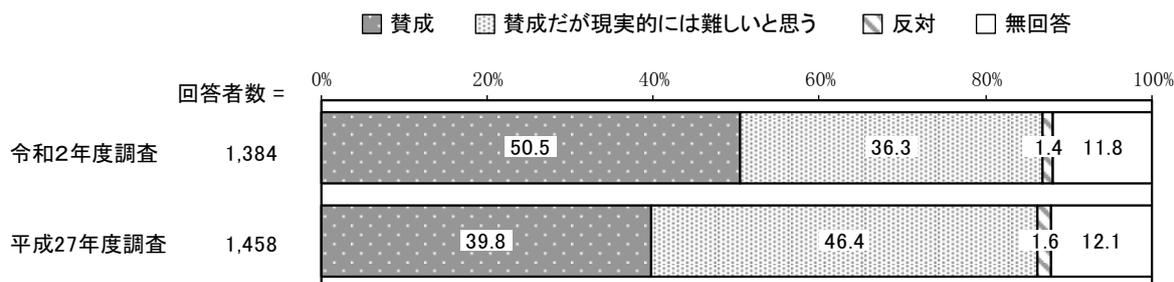
性別でみると、男女で大きな差異はみられません。



問 39 男性が育児休業・介護休業を取得することについてどう思いますか。「2. 賛成だが現実的には難しいと思う」「3. 反対」は理由もご記入ください。
(○は1つ)

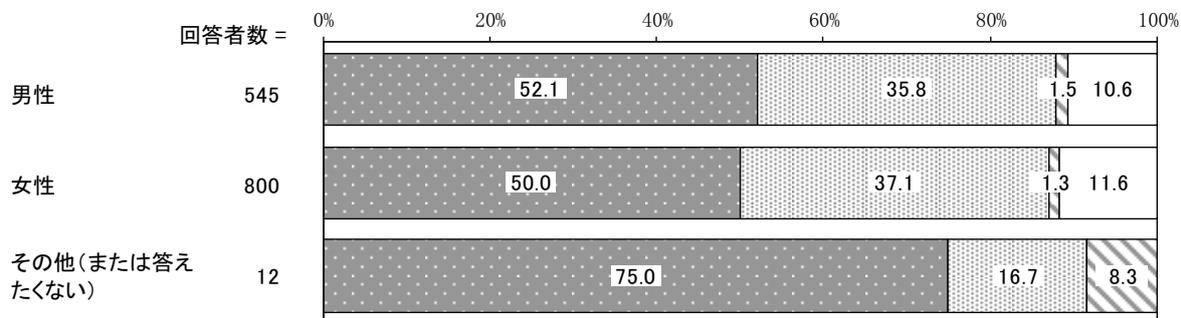
「賛成」の割合が 50.5%と最も高く、次いで「賛成だが現実的には難しいと思う」の割合が 36.3%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「賛成」の割合が増加し、「賛成だが現実的には難しいと思う」の割合が減少しています。



【性別】

性別で見ると、男女で大きな差異はみられません。

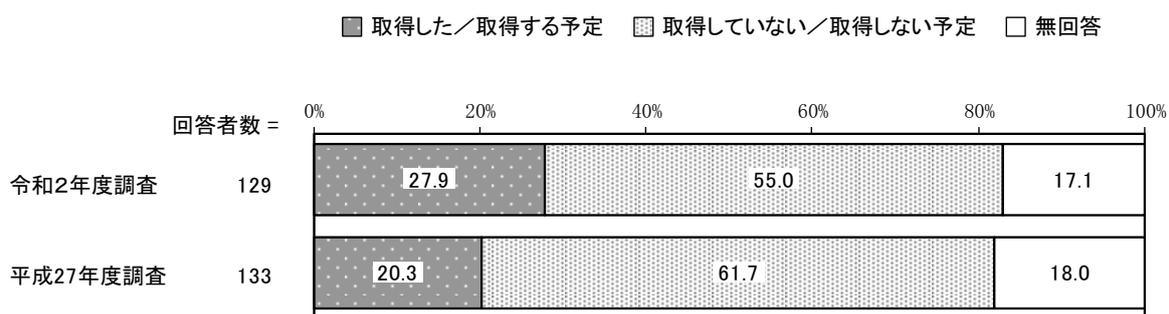


問 40 小学校入学前のお子さんがいる方（本人またはパートナーが妊娠中の方も含む）、または5年以内に介護の必要な親族がいる方（いた方）におうかがいします。
 あなたは、育児休業・介護休業を取得されましたか。また、その予定はありますか。（○はそれぞれ1つ）

①育児休業

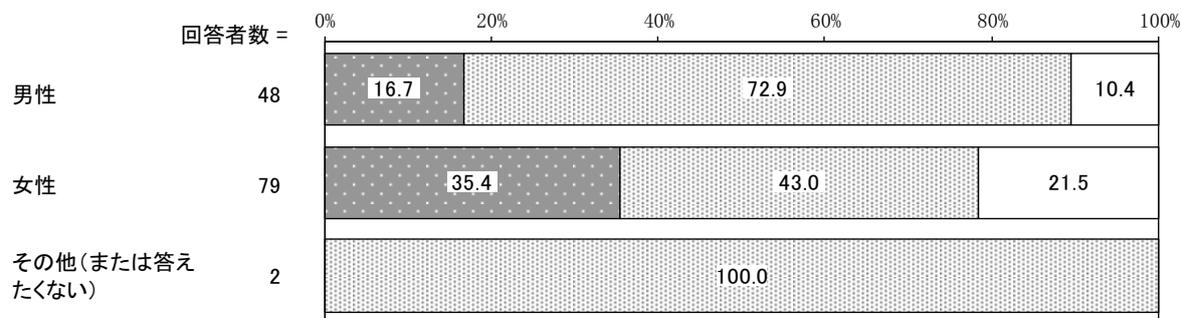
「取得した／取得する予定」の割合が 27.9%、「取得していない／取得しない予定」の割合が 55.0%となっています。

平成 27 年度調査との比較は、「取得した／取得する予定」の割合が増加しています。



【性別】

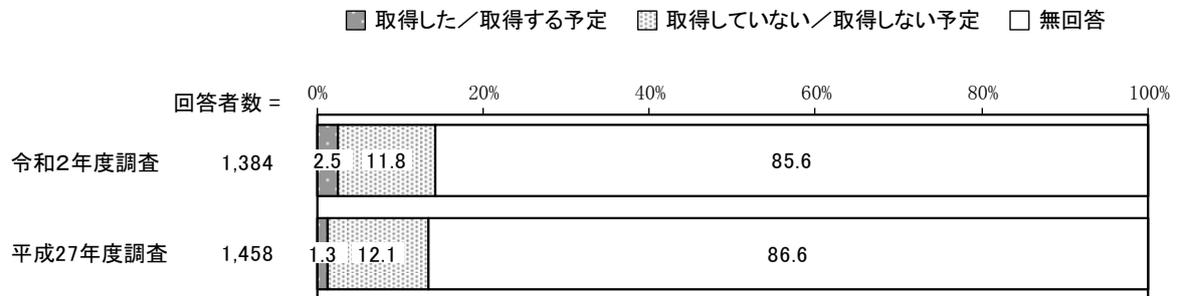
性別でみると、男性に比べ、女性で「取得した／取得する予定」の割合が高くなっています。



②介護休業

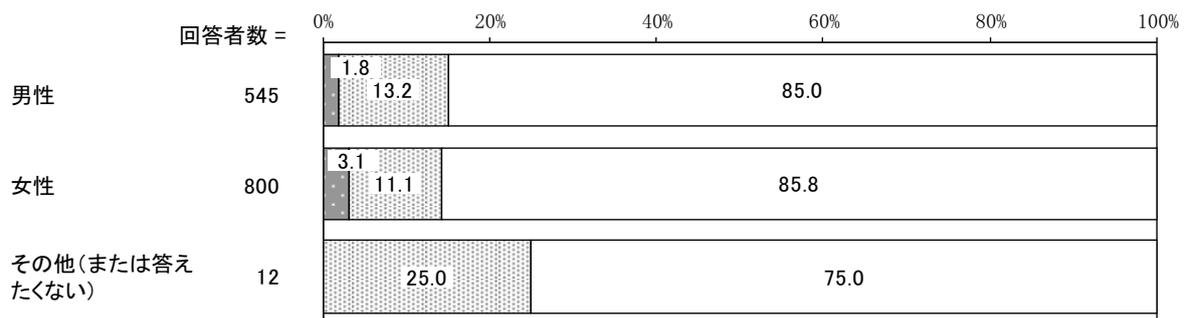
「取得した／取得する予定」の割合が 2.5%、「取得していない／取得しない予定」の割合が 11.8%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。



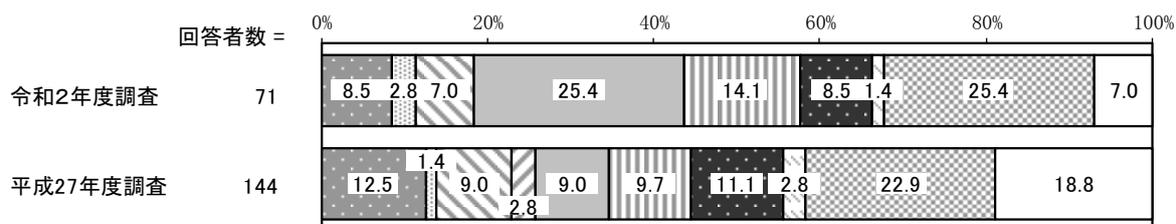
問 40-1 問 40 で「取得していない／取得しない予定」とお答えの方におうかがいします。
 取得しなかった理由について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

A 育児休業 (〇はそれぞれ1つ)

「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」の割合が 25.4%と最も高く、次いで「仕事に支障がでるから」の割合が 14.1%となっています。

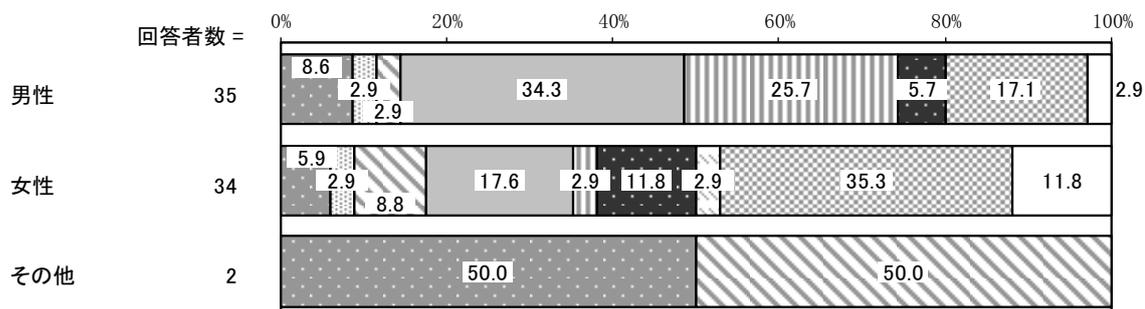
平成 27 年度調査と比較すると、「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」の割合が増加しています。

- 配偶者(パートナー)が取得した(する)ので
- 収入の少ない方が取るのがよいから
- 育児・介護は、妻が行う方が適しているから
- 育児・介護は、夫が行う方が適しているから
- 育児・介護休業を取ると昇進に差障りがあるから
- 職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから
- 仕事に支障がでるから
- 職場に育児・介護休業制度がないから
- 育児・介護をしたくないから
- 育児・介護の仕方がわからないから
- 親や祖父母がみてくれるから
- その他
- 無回答



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」「仕事に支障がでるから」の割合が高くなっています。

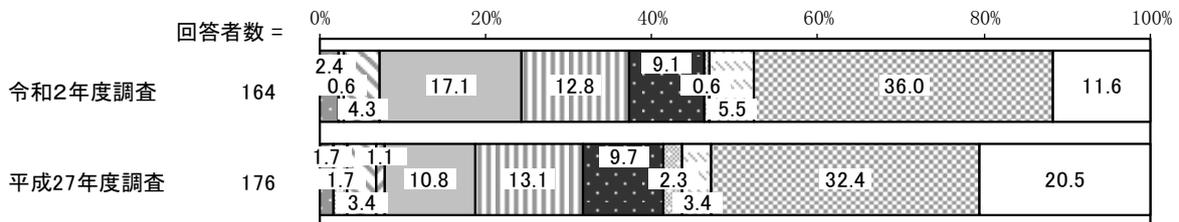


B 介護休業（〇はそれぞれ1つ）

「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」の割合が17.1%と最も高く、次いで「仕事に支障がでるから」の割合が12.8%となっています。

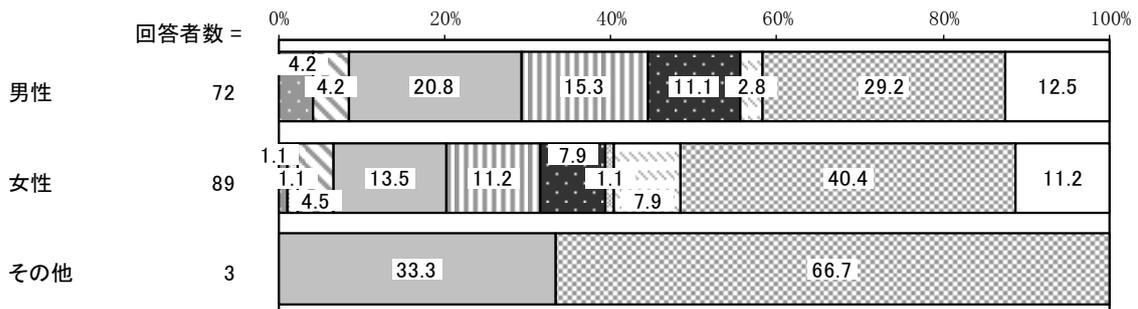
平成27年度調査と比較すると、「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」の割合が増加しています。

- 配偶者（パートナー）が取得した（する）ので
- 収入の少ない方が取るのがよいから
- 育児・介護は、妻が行う方が適しているから
- 育児・介護は、夫が行う方が適しているから
- 育児・介護休業を取ると昇進に差障りがあるから
- 職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから
- 仕事に支障がでるから
- 職場に育児・介護休業制度がないから
- 育児・介護をしたくないから
- 育児・介護の仕方がわからないから
- 親や祖父母がみてくれるから
- その他
- 無回答



【性別】

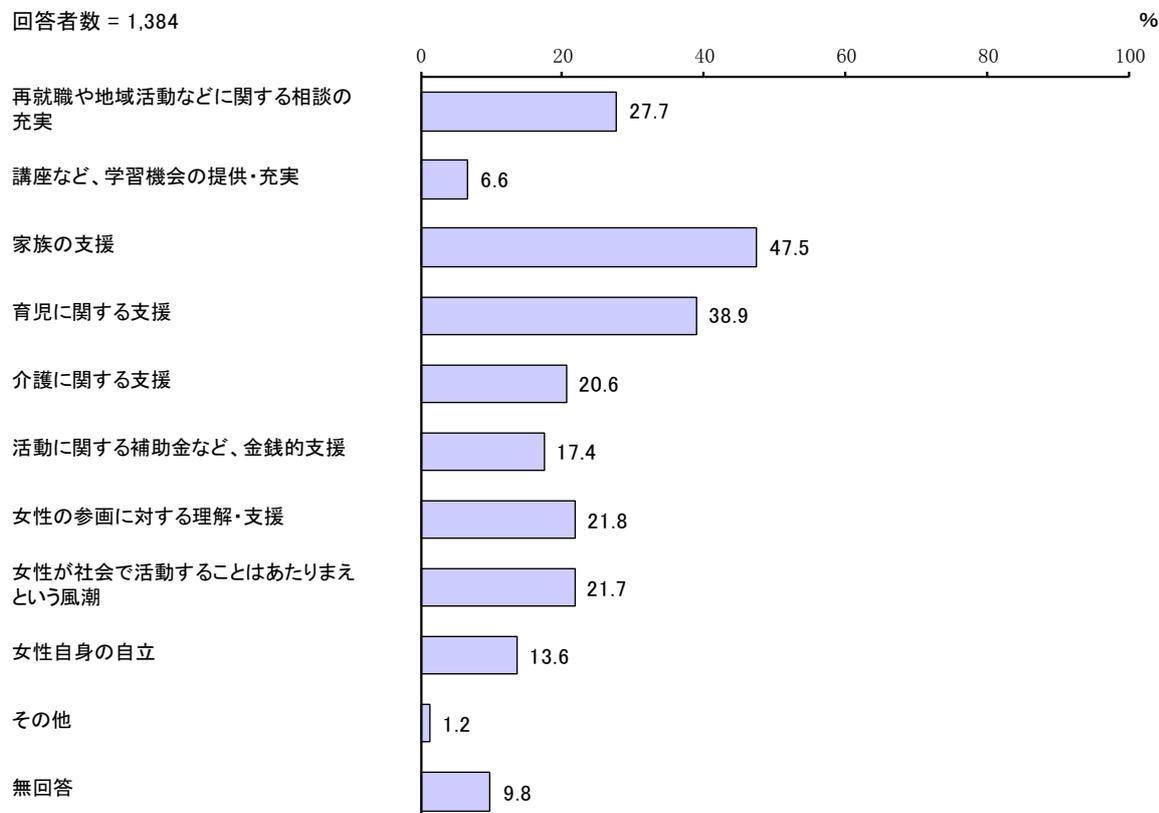
性別で見ると、女性に比べ、男性で「職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから」の割合が高くなっています。



問 41 女性が再就職や起業、地域活動、地域貢献など様々な活動に参加するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「家族の支援」の割合が47.5%と最も高く、次いで「育児に関する支援」の割合が38.9%、「再就職や地域活動などに関する相談の充実」の割合が27.7%となっています。

回答者数 = 1,384



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「女性の参画に対する理解・支援」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家族の支援」の割合が高くなっています。

単位：%

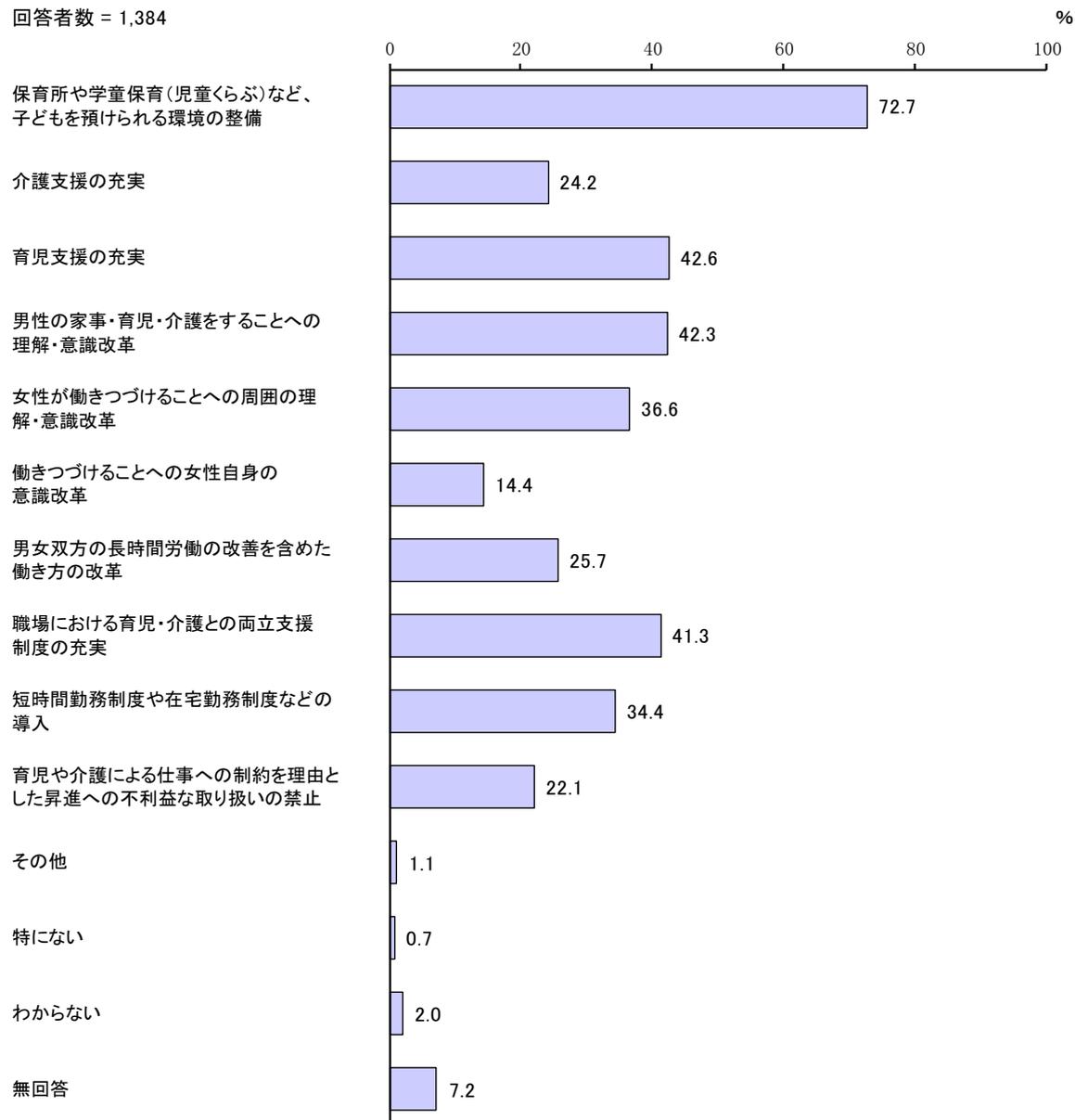
区分	有効回答数(件)	再就職や地域活動などに関する相談の充実	講座など、学習機会の提供・充実	家族の支援	育児に関する支援	介護に関する支援	活動に関する補助金など、金銭的支援	女性の参画に対する理解・支援	女性が社会で活動することはあたりまえという風潮	女性自身の自立	その他	無回答
男性	545	29.7	5.5	43.7	38.0	19.6	20.9	25.9	20.2	10.1	1.5	8.6
女性	800	26.6	7.5	50.6	40.1	21.6	15.5	19.4	23.5	16.1	0.8	9.5
その他(または答えたくない)	12	33.3	8.3	41.7	25.0	16.7	25.0	25.0	16.7	8.3	16.7	—

※第1位を■で、第2位を■で、第3位を■で網かけをしています。

問 42 女性が出産などを理由に離職せず、同じ職場で働きつづけるために、必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

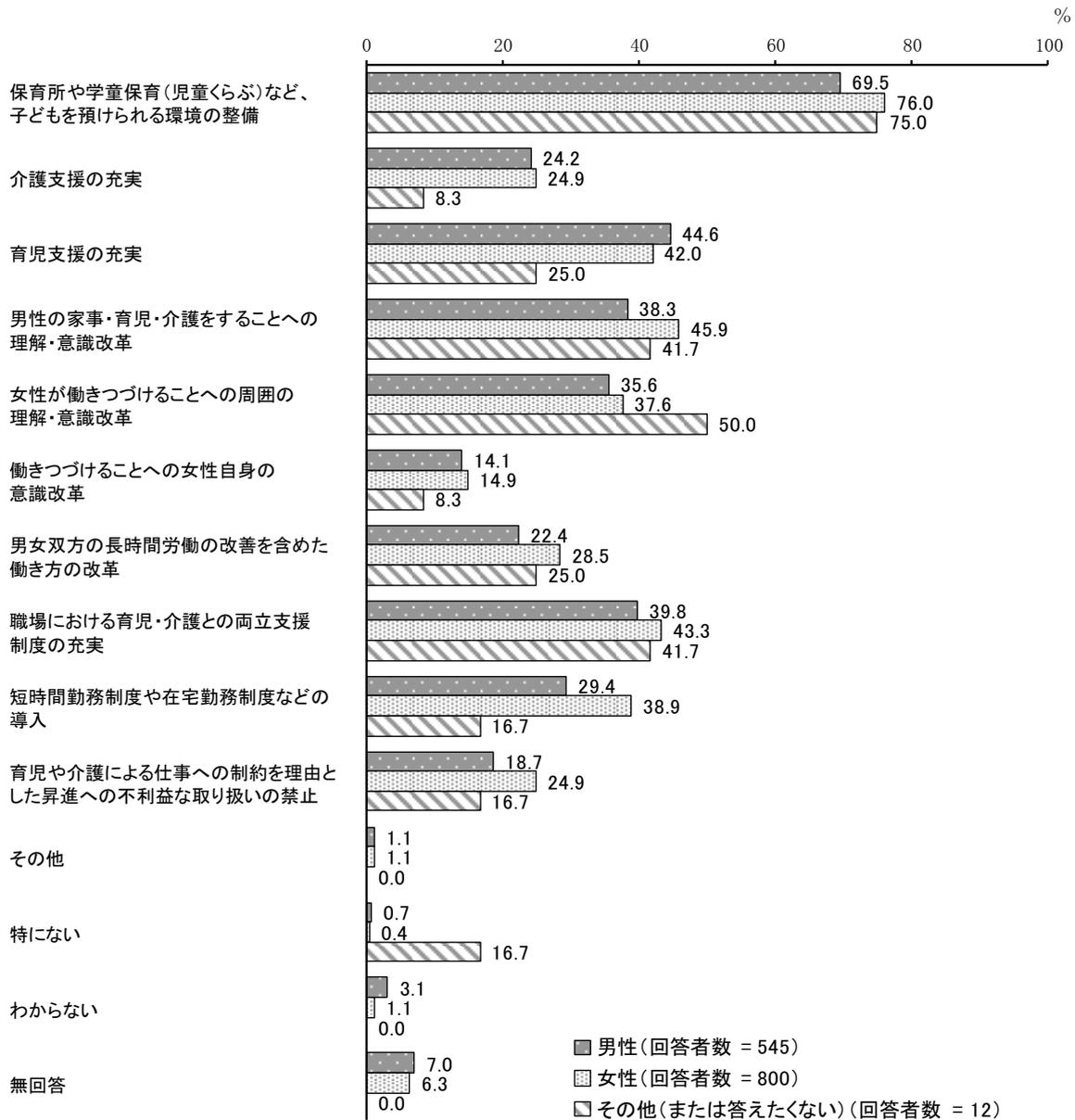
「保育所や学童保育（児童クラブ）など、子どもを預けられる環境の整備」の割合が 72.7%と最も高く、次いで「育児支援の充実」の割合が 42.6%、「男性の家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革」の割合が 42.3%となっています。

回答者数 = 1,384



【性別】

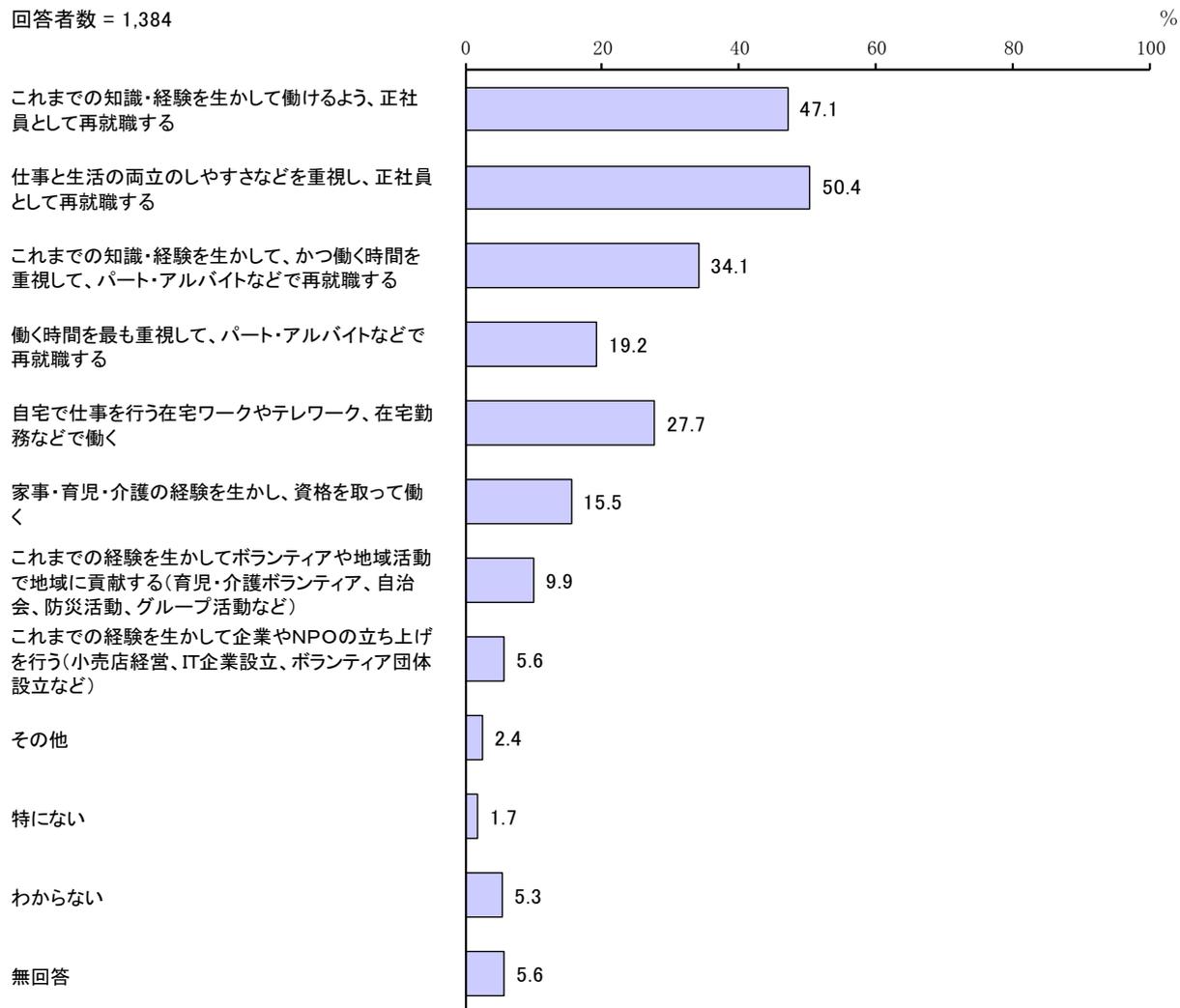
性別でみると、男性に比べ、女性で「保育所や学童保育（児童クラブ）など、子どもを預けられる環境の整備」「男性の家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」の割合が高くなっています。



問 43 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活躍する形として、あなたがいいと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

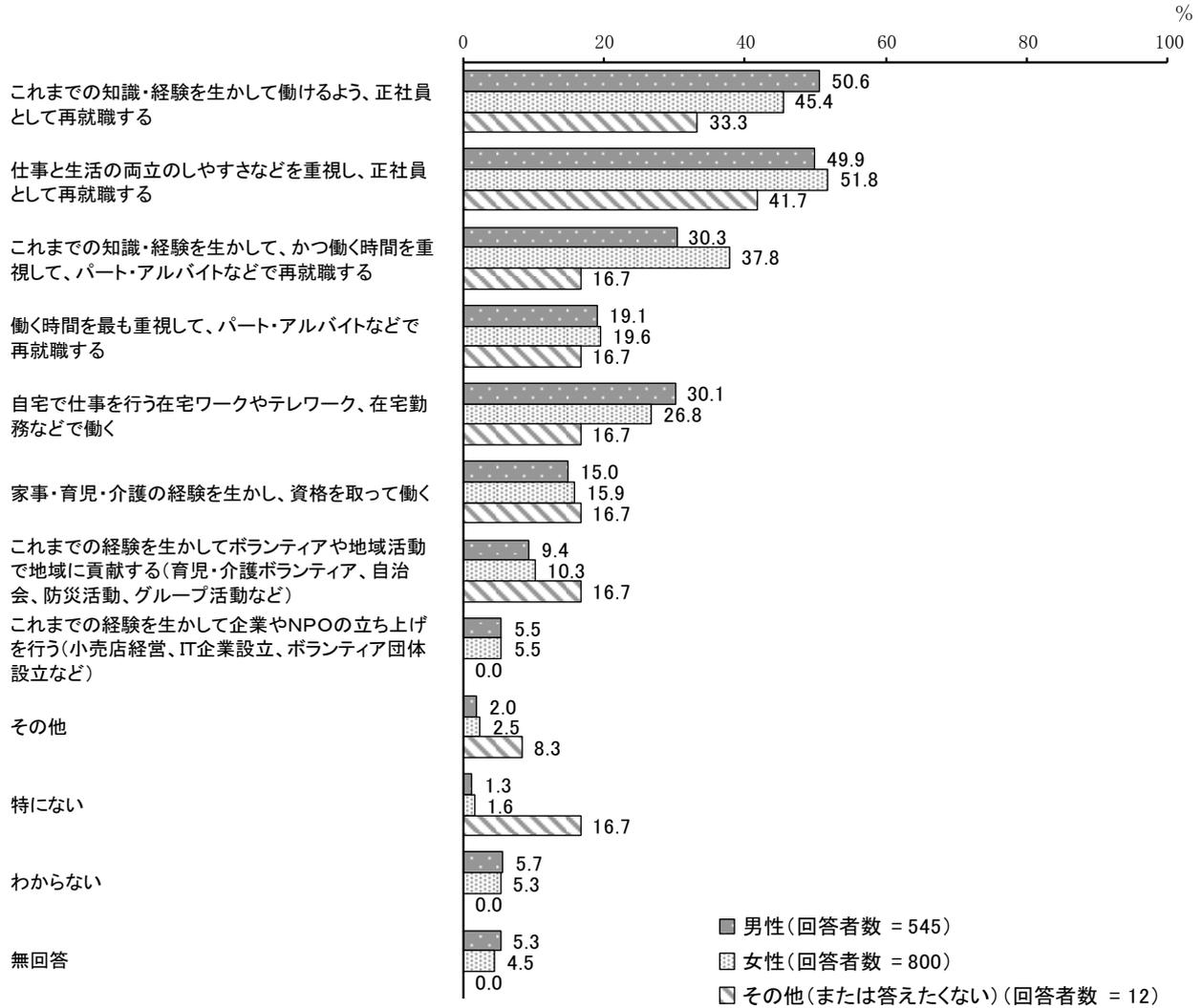
「仕事と生活の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「これまでの知識・経験を生かして働けるよう、正社員として再就職する」の割合が 47.1%、「これまでの知識・経験を生かして、かつ働く時間を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が 34.1%となっています。

回答者数 = 1,384



【性別】

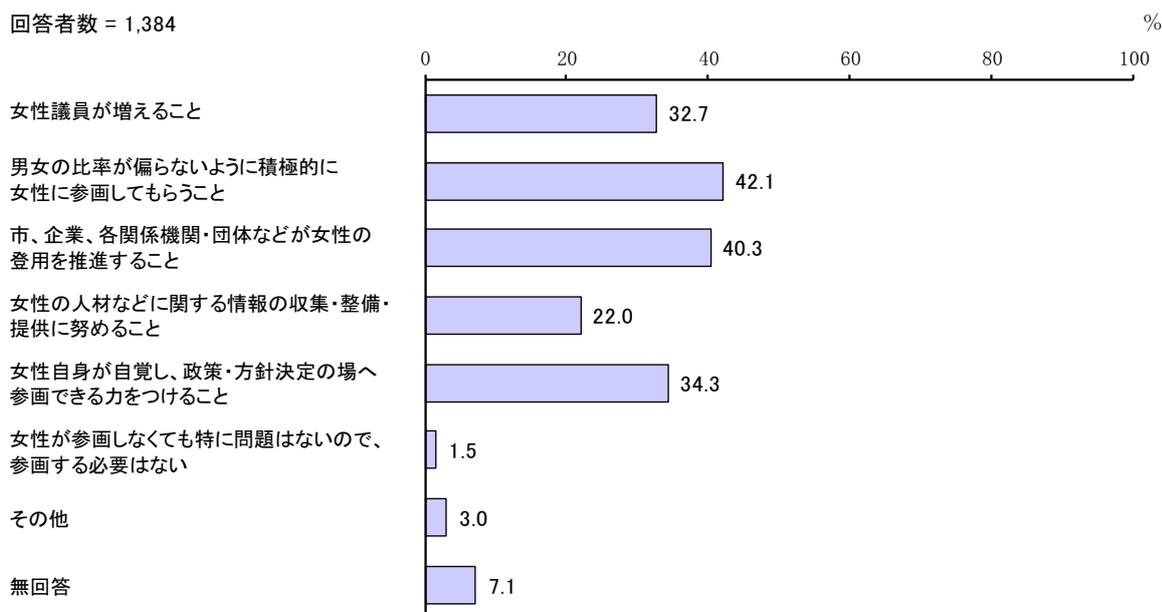
性別でみると、男性に比べ、女性で「これまでの知識・経験を生かして、かつ働く時間を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が高くなっています。



問 44 あなたは政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「男女の比率が偏らないように積極的に女性に参画してもらうこと」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「市、企業、各関係機関・団体などが女性の登用を推進すること」の割合が 40.3%、「女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること」の割合が 34.3%となっています。

回答者数 = 1,384



【性別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

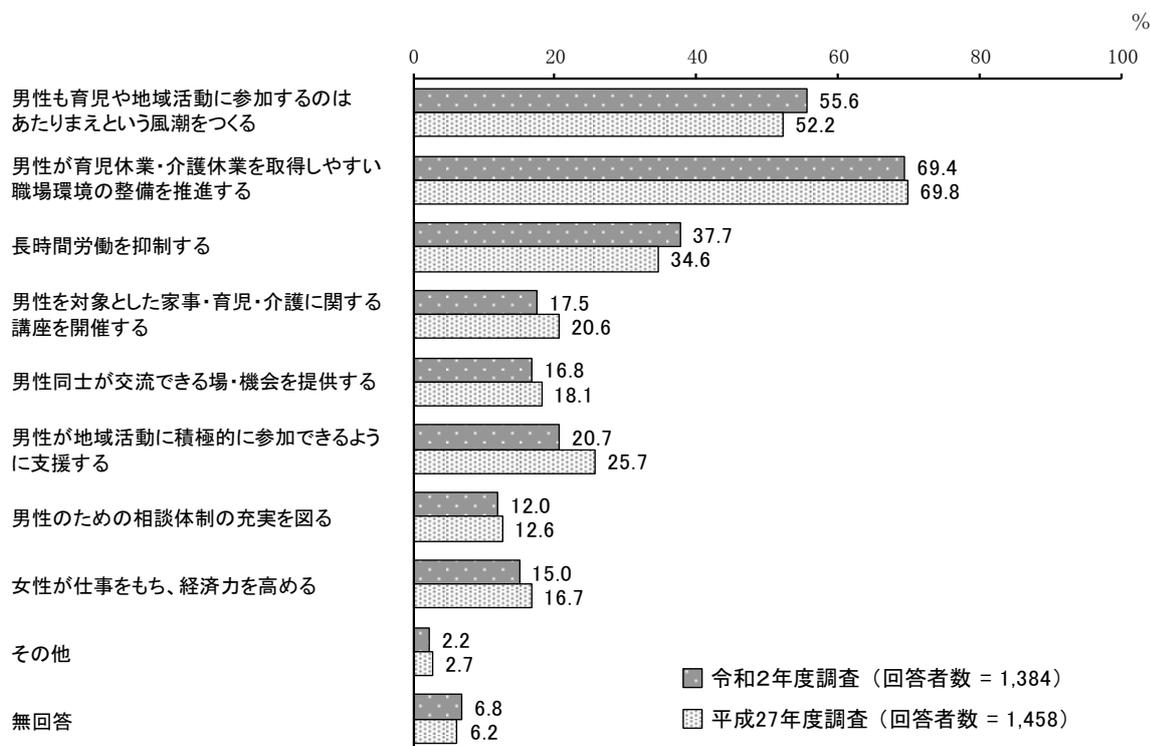
単位：%

区分	有効回答数(件)	女性議員が増えること	男女の比率が偏らないように積極的に女性に参画してもらうこと	市、企業、各関係機関・団体などが女性の登用を推進すること	女性の人材などに関する情報の収集・整備・提供に努めること	女性自身が自覚し、政策・方針決定の場へ参画できる力をつけること	女性が参画しなくても特に問題はないので、参画する必要はない	その他	無回答
男性	545	35.2	43.1	39.4	23.3	33.2	1.1	2.9	6.6
女性	800	32.0	42.3	41.9	21.3	35.5	1.6	3.0	6.0
その他(または答えたくない)	12	8.3	16.7	33.3	33.3	41.7	8.3	8.3	8.3

※第1位を■で、第2位を■で、第3位を■で網かけをしています。

問 45 男性の育児や介護、地域活動への参加が進んでいないといわれていますが、男性がそれらに関わるためには、何が有効だと思いますか。有効だと思うものをすべてお答えください。(〇はいくつでも)

「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」の割合が69.4%と最も高く、次いで「男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる」の割合が55.6%、「長時間労働を抑制する」の割合が37.7%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「長時間労働を抑制する」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる」の割合が高くなっています。

単位：%

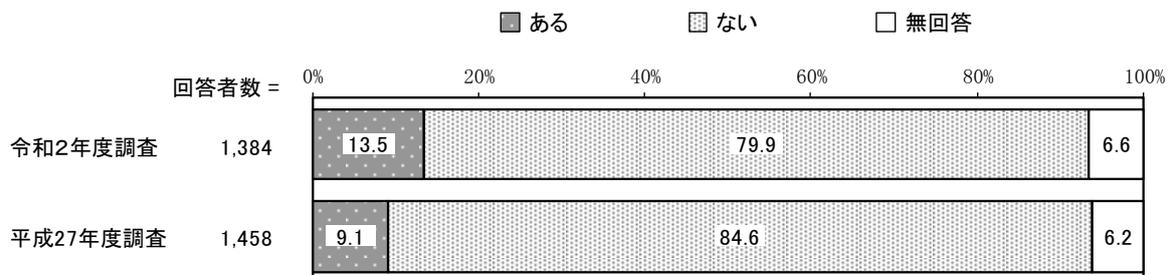
区分	有効回答数 (件)	男性も育児や地域活動に参加するのはあたりまえという風潮をつくる	男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する	長時間労働を抑制する	男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座を開催する	男性同士が交流できる場・機会を提供する	男性が地域活動に積極的に参加できるように支援する	男性のための相談体制の充実を図る	女性が仕事をもち、経済力を高める	その他	無回答
男性	545	50.6	71.0	41.8	16.3	11.6	21.8	12.7	16.9	2.6	6.1
女性	800	60.5	69.6	36.1	18.8	20.4	20.4	11.5	14.0	2.0	5.8
その他(または答えたくない)	12	41.7	58.3	8.3	—	16.7	16.7	8.3	25.0	8.3	8.3

(3) セクハラ・DV（配偶者・恋人などからの暴力）について

問 46 あなたは自身や周りの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。（○はそれぞれ1つ）

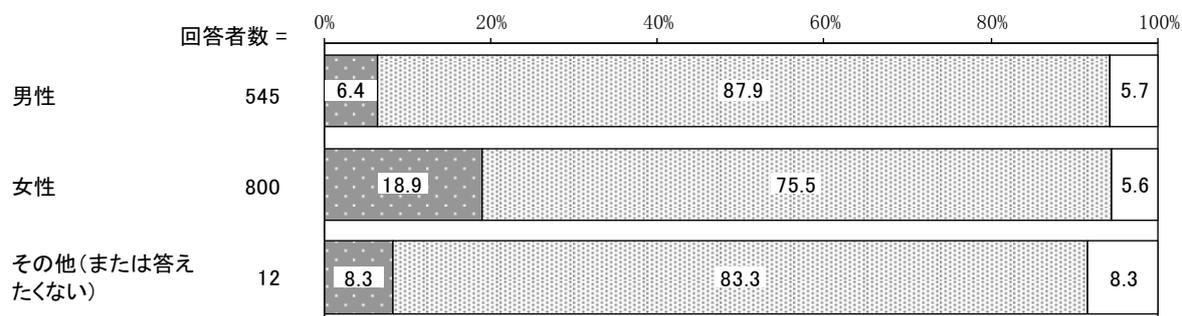
①自分自身

「ある」の割合が13.5%、「ない」の割合が79.9%となっています。
平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



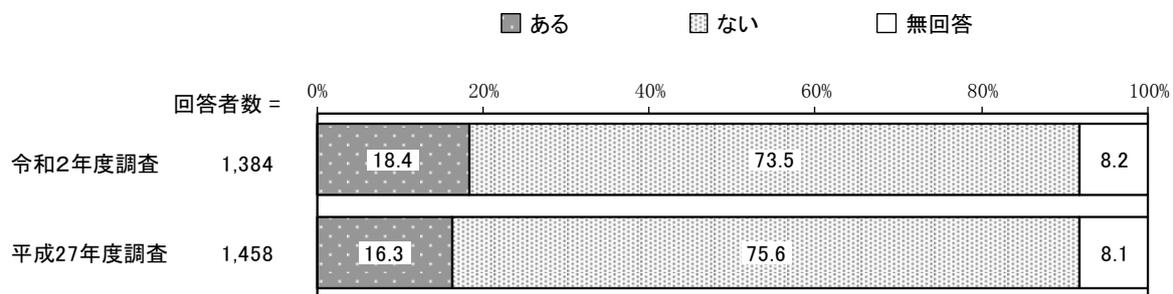
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。



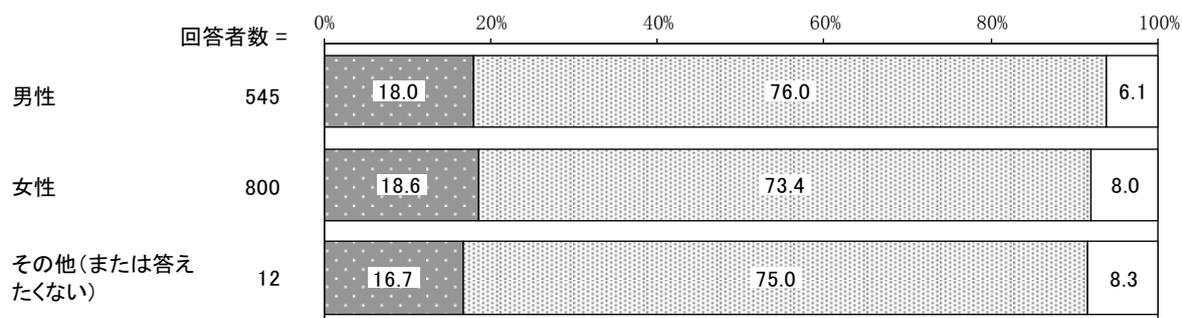
②友人や職場の仲間など、自分の周りの人

「ある」の割合が18.4%、「ない」の割合が73.5%となっています。
 平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

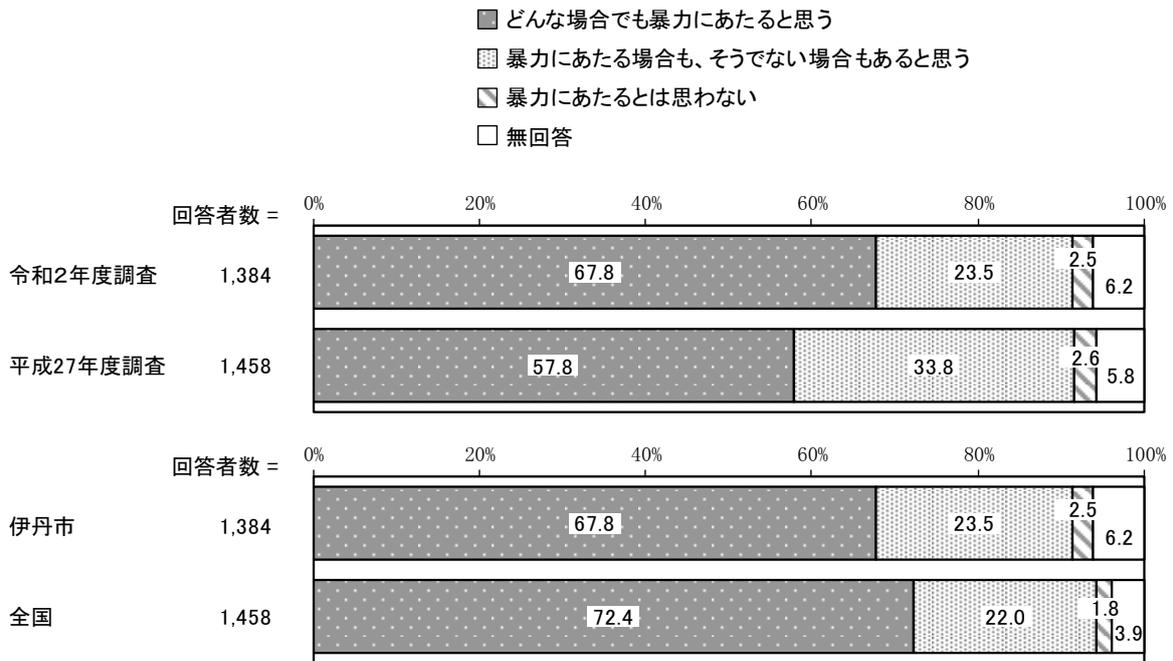


問 47 あなたは、次のようなことが配偶者間や交際相手で行われた場合、暴力にあたると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

①平手で打つ (〇はそれぞれ1つ)

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が 67.8%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が 23.5%となっています。

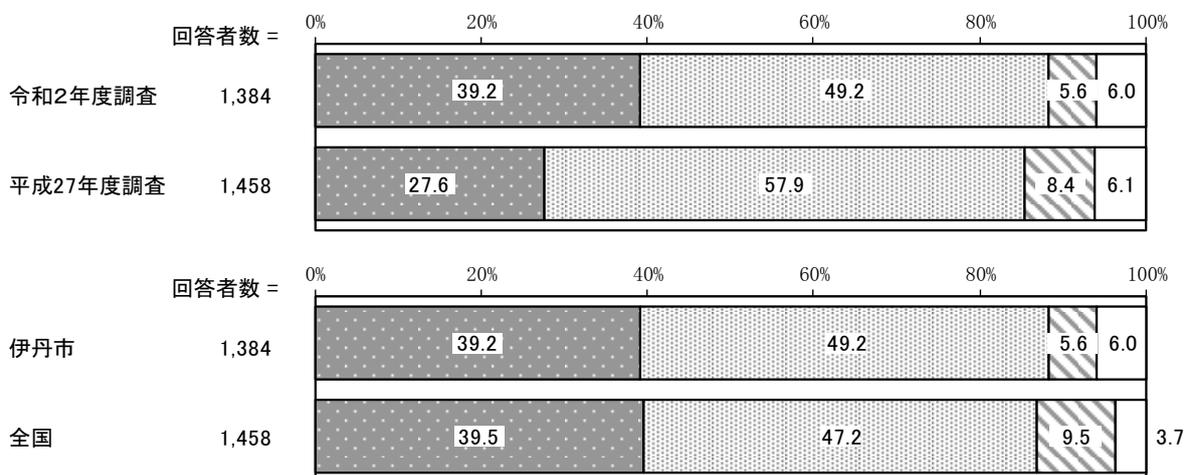
平成 27 年度調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が増加しています。一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が減少しています。



②大声でどなる

「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が 49.2%と最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が 39.2%となっています。

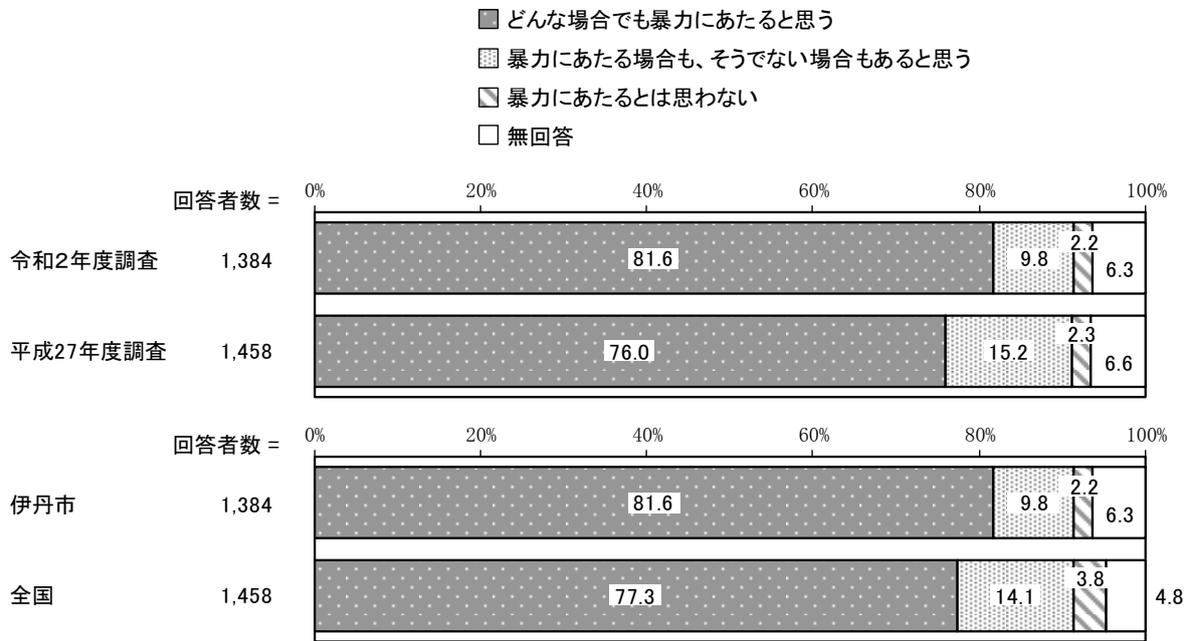
平成 27 年度調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が増加しています。一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が減少しています。



③いやがっているのに性的な行為を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が81.6%と最も高くなっています。

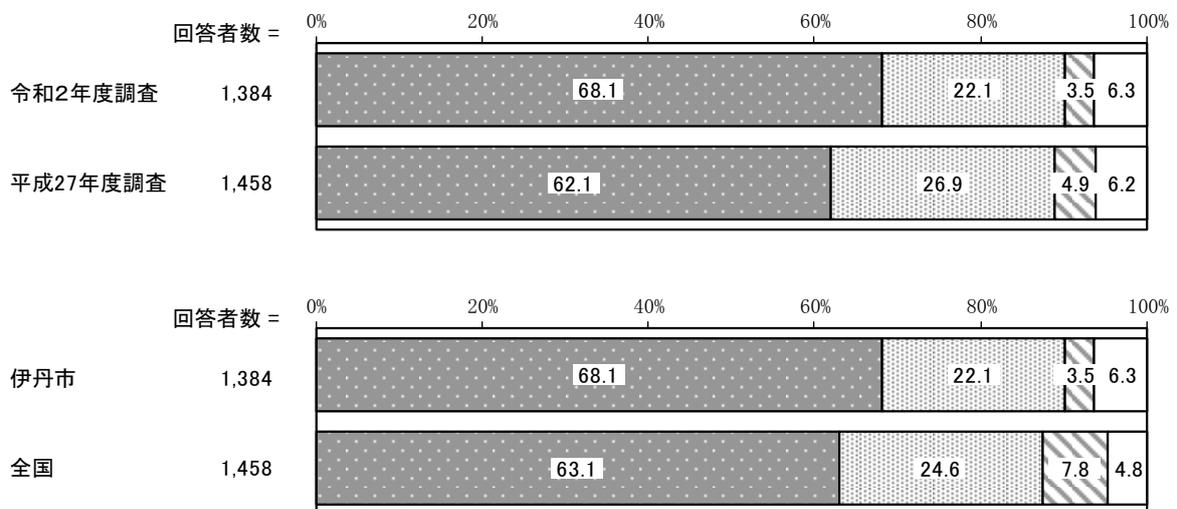
平成27年度調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が増加しています。一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が減少しています。



④「誰のおかげで生活していると思っているのか」「甲斐性なし」などと言う

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が68.1%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が22.1%となっています。

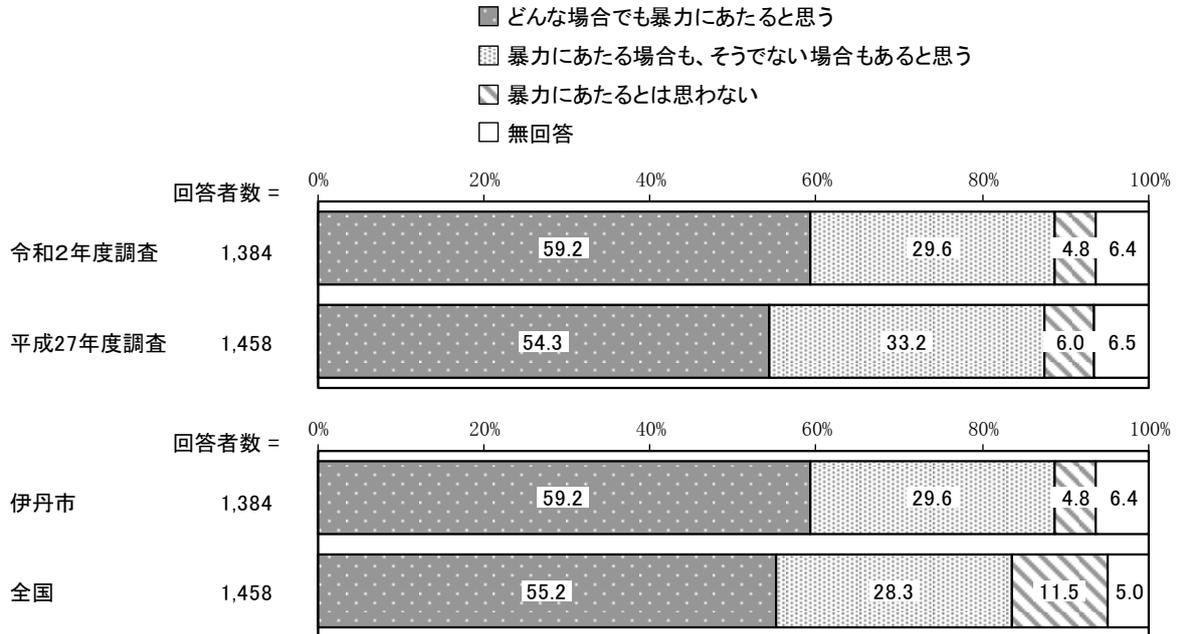
平成27年度調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が増加しています。



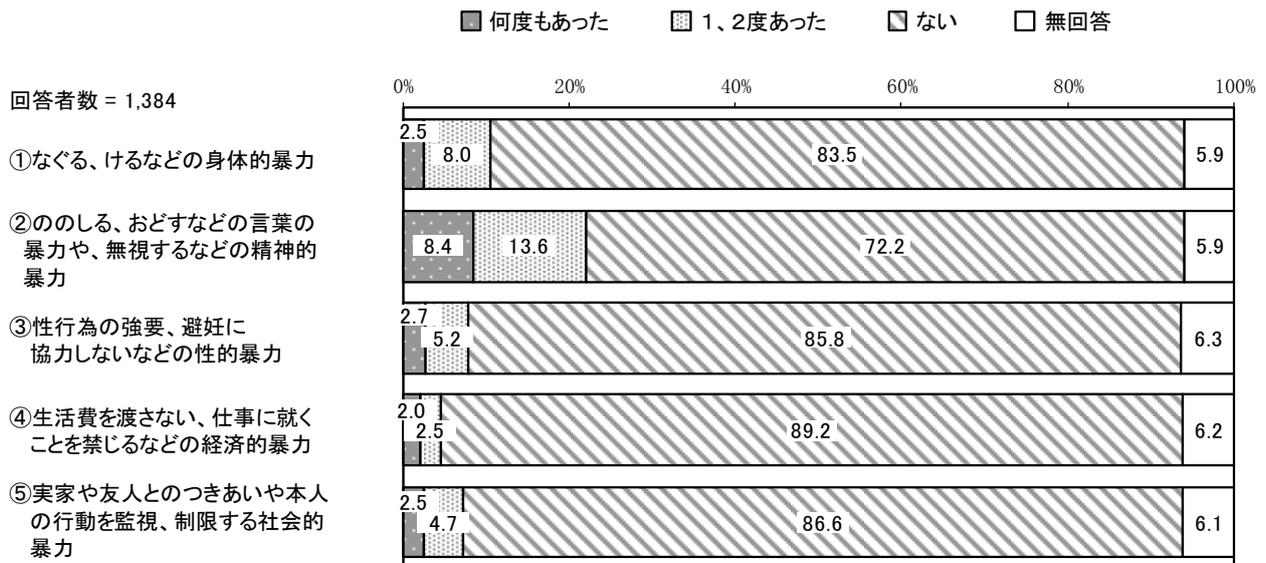
⑤交友関係や電話を細かく監視、制限する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が59.2%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が29.6%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 48 あなたは、配偶者や交際相手から次にあげるような暴力を1つでも受けたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)



＜配偶者や交際相手からのDV被害の割合＝経年比較＞

※「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせて“あった”と表記しています。

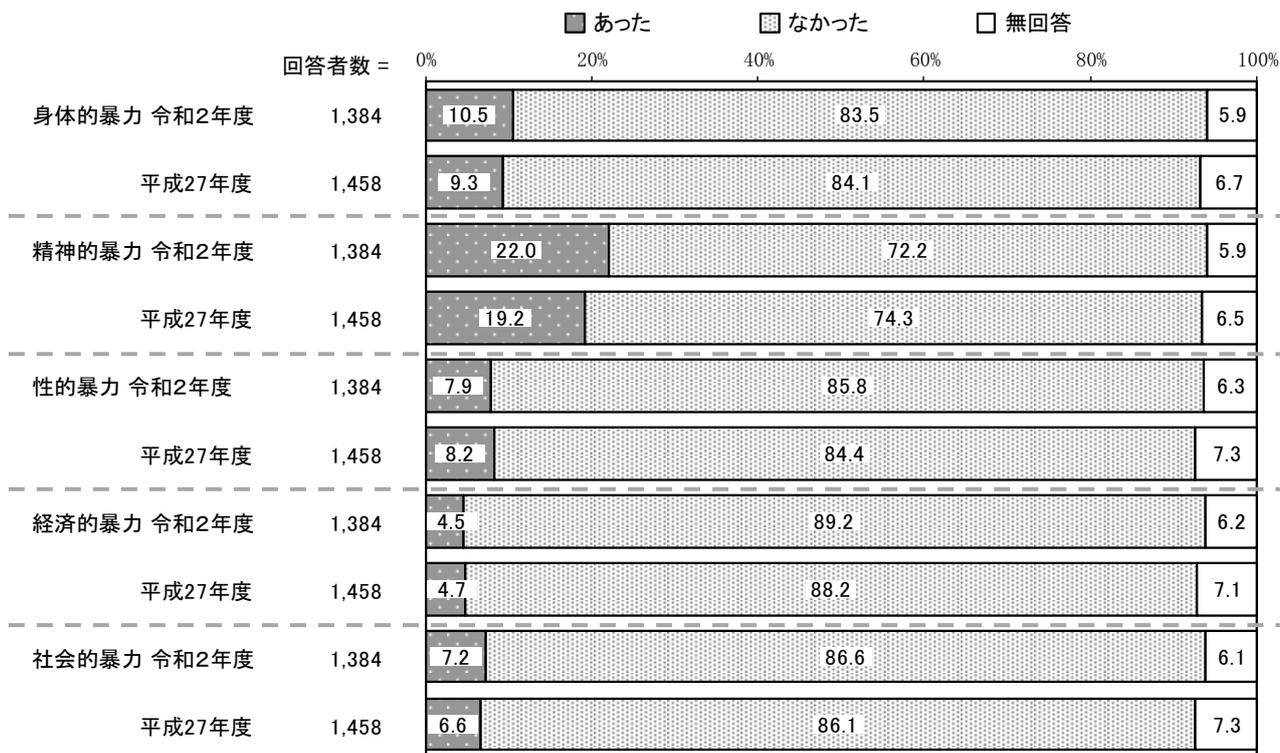
①なぐる、けるなどの身体的暴力では“あった”の割合が10.5%、約10人に1人となっています。女性では約7人に1人、男性では約20人に1人となっています。

②ののしる、おどすなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神的暴力では“あった”の割合が22.0%、約5人に1人となっています。また、全国調査に比べ、“あった”の割合が8.3ポイント高くなっています。女性では、平成27年度調査に比べ、“あった”の割合が増加しています。

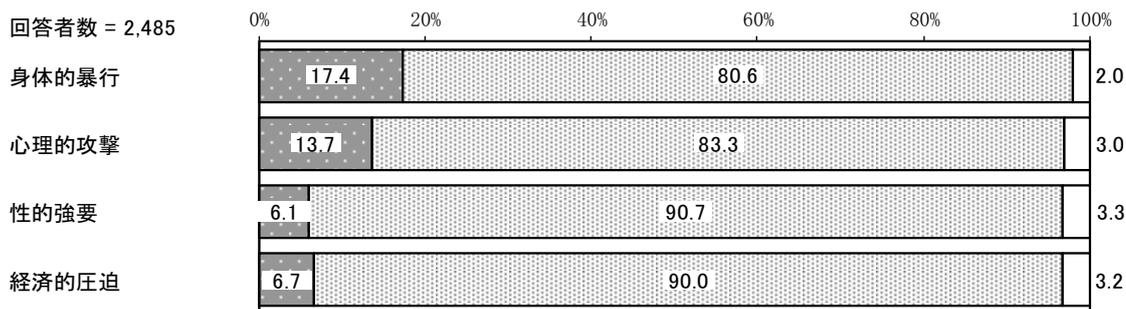
③性行為の強要、避妊に協力しないなどの性的暴力では、“あった”の割合が7.9%、約13人に1人となっています。

④生活費を渡さない、仕事に就くことを禁じるなどの経済的暴力では、“あった”の割合が4.5%、約25人に1人となっています。

⑤実家や友人とのつきあいや本人の行動を監視、制限する社会的暴力では、“あった”の割合が7.2%、約14人に1人となっています。

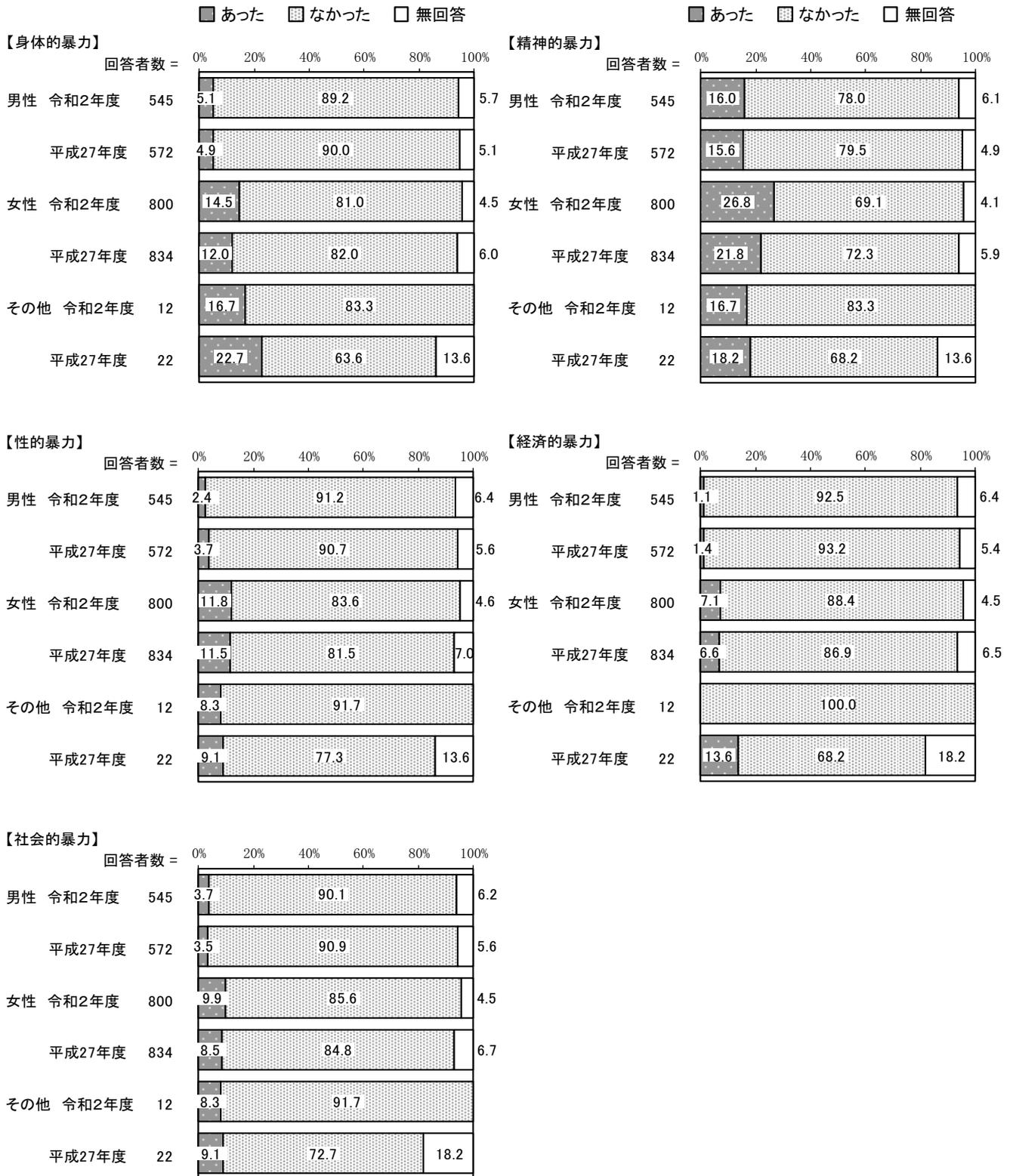


【全国調査（参考） 男女間における暴力に関する調査（平成29年度）より「配偶者からの被害経験」】



※「心理的攻撃」は本調査の「精神的暴力」「社会的暴力」に相当します。

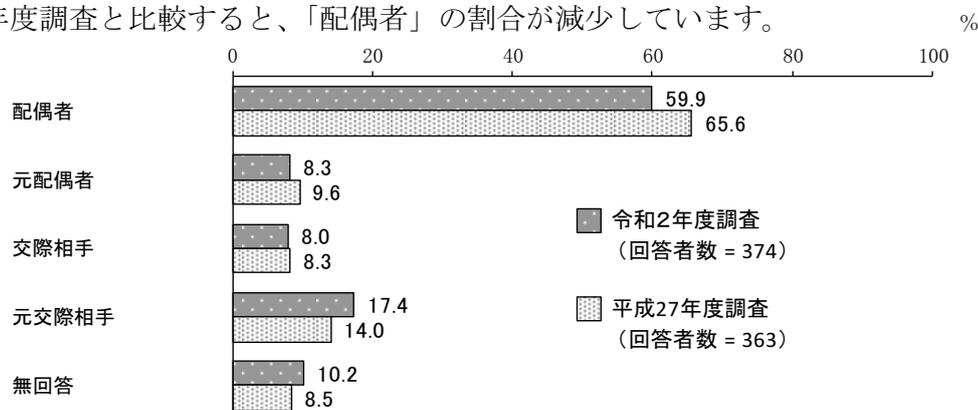
＜配偶者や交際相手からのDV被害の割合＝性別・経年比較＝＞



問 48-1 問 48 で「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におうかがいします。
 暴力があった時点でのあなたと相手との関係をお答えください。
 (〇はいくつでも)

「配偶者」の割合が 59.9%と最も高く、次いで「元交際相手」の割合が 17.4%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「配偶者」の割合が減少しています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の 20～29 歳、30～39 歳で「交際相手」「元交際相手」の割合が高くなっています。

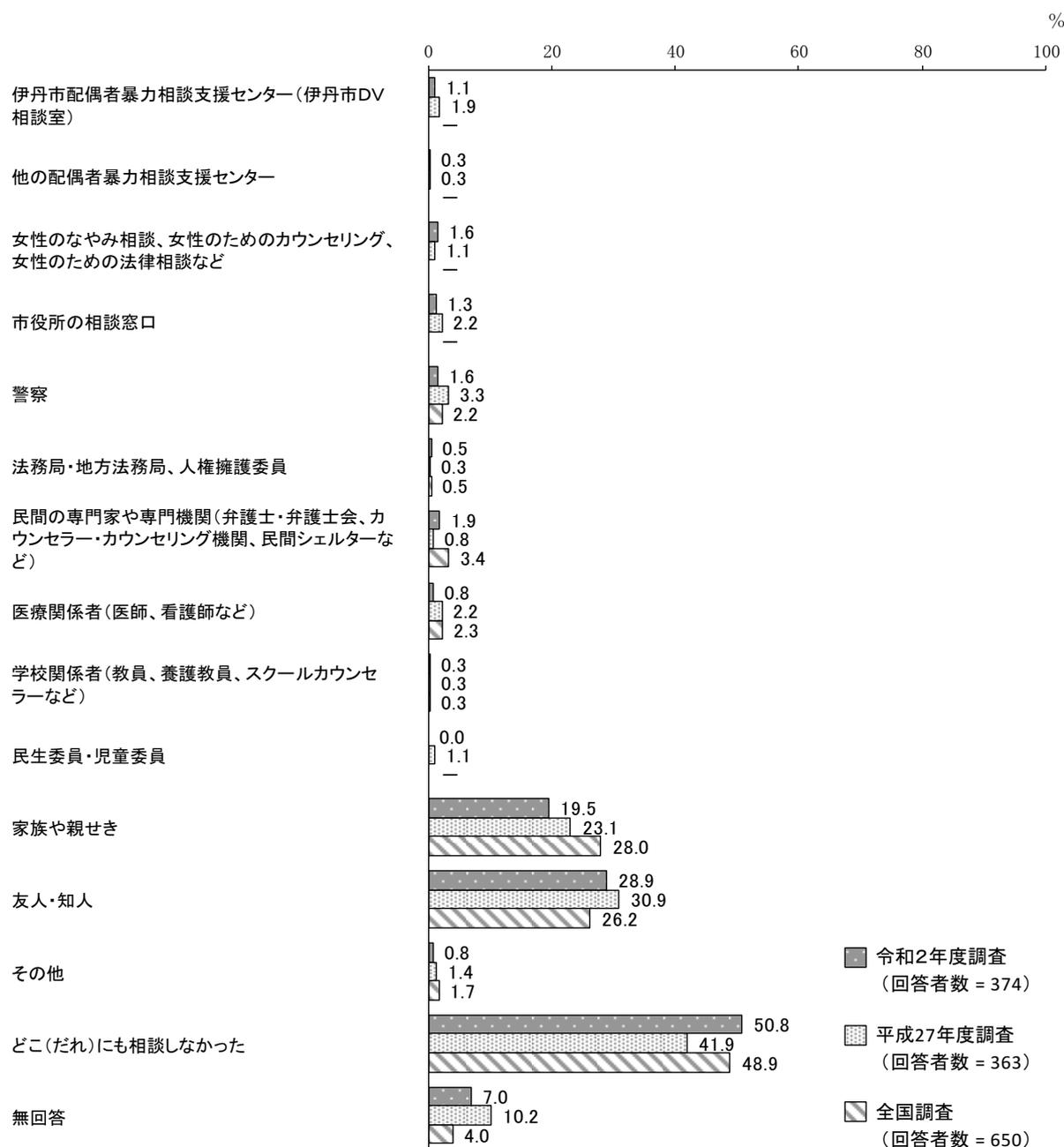
単位：%

区分	回答者数 (件)	配偶者	元配偶者	交際相手	元交際相手	無回答
男性	100	70.0	4.0	4.0	13.0	14.0
15～19 歳	4	50.0	—	—	50.0	—
20～29 歳	1	100.0	—	—	—	—
30～39 歳	18	66.7	5.6	—	16.7	11.1
40～49 歳	17	47.1	11.8	11.8	29.4	11.8
50～59 歳	14	71.4	—	—	14.3	21.4
60～69 歳	14	85.7	—	—	—	14.3
70 歳以上	32	78.1	3.1	6.3	3.1	15.6
女性	268	56.0	9.7	9.7	19.0	8.6
15～19 歳	1	—	—	—	100.0	—
20～29 歳	18	5.6	—	27.8	61.1	5.6
30～39 歳	36	38.9	—	19.4	52.8	—
40～49 歳	51	51.0	9.8	13.7	17.6	11.8
50～59 歳	54	61.1	14.8	9.3	16.7	—
60～69 歳	42	78.6	14.3	—	2.4	7.1
70 歳以上	66	65.2	10.6	3.0	1.5	19.7
その他	4	50.0	25.0	—	25.0	25.0

問 48-2 問 48 で「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におうかがいします。
暴力を受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(〇はいくつでも)

「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が50.8%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が28.9%、「家族や親せき」の割合が19.5%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合が増加しています。
全国調査と比較すると、「家族や親せき」の割合が低くなっています。



※全国調査では、「伊丹市配偶者暴力相談支援センター(伊丹市DV相談室)」、「他の配偶者暴力相談支援センター」、「女性のなやみ相談、女性のためのカウンセリング、女性のための法律相談など」、「市役所の相談窓口」、「民生委員・児童委員」の項目はありませんでした。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

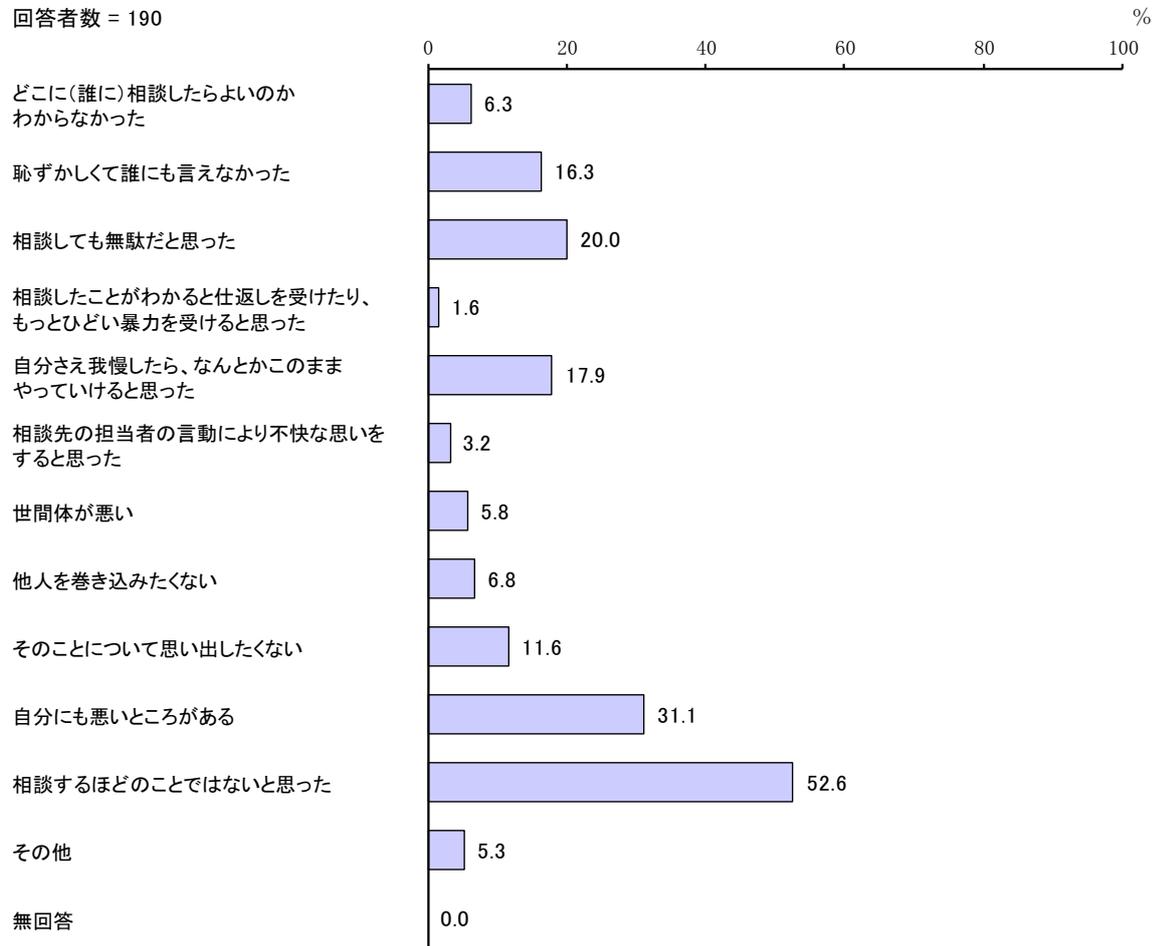
区分	有効回答数（件）	伊丹市配偶者暴力相談支援センター （伊丹市DV相談室）	他の配偶者暴力相談支援センター	女性のなやみ相談、女性のためのカウンセリング、女性のための法律相談など	市役所の相談窓口	警察	法務局・地方法務局、人権擁護委員	民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリグ機関、民間シェルターなど）
男性	100	1.0	1.0	—	1.0	—	—	—
女性	268	1.1	—	2.2	1.5	2.2	0.7	2.6
その他 （または答えたくない）	4	—	—	—	—	—	—	—

区分	医療関係者（医師、看護師など）	学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）	民生委員・児童委員	家族や親せき	友人・知人	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答
男性	—	—	—	12.0	20.0	—	62.0	11.0
女性	1.1	0.4	—	22.4	32.8	1.1	46.3	5.2
その他 （または答えたくない）	—	—	—	25.0	—	—	50.0	25.0

問 48-3 問 48-2で「どこ（だれ）にも相談しなかった」とお答えの方におうかがい
 します。
 あなたがどこにも相談しなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

「相談するほどのことではないと思った」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがある」の割合が 31.1%、「相談しても無駄だと思った」の割合が 20.0%となっています。

回答者数 = 190



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「自分にも悪いところがある」「相談するほどのことではないと思った」の割合が高くなっています。

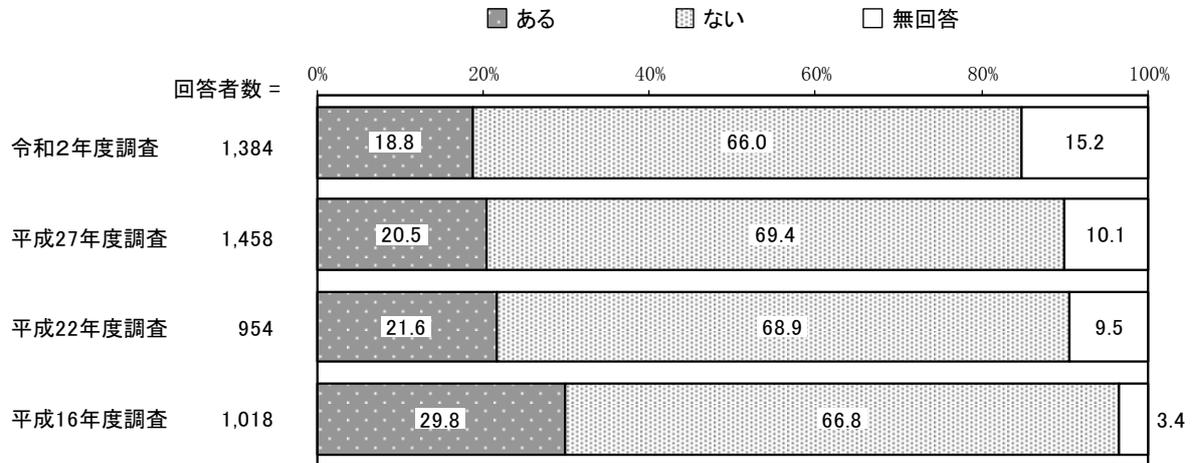
単位：%

区分	有効回答数(件)	どこに(誰に)相談したらよいかわからなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄だと思った	相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った	相談先の担当者の言動により不快な思いをすと思う
男性	62	3.2	11.3	19.4	—	11.3	1.6
女性	124	7.3	19.4	21.0	2.4	21.8	4.0
その他 (または答えたくない)	2	50.0	—	—	—	—	—

区分	世間体が悪い	他人を巻き込みたくない	そのことについて思い出したくない	自分にも悪いところがある	相談するほどのことではないと思った	その他	無回答
男性	4.8	6.5	4.8	48.4	69.4	3.2	—
女性	6.5	7.3	15.3	22.6	43.5	6.5	—
その他 (または答えたくない)	—	—	—	—	50.0	—	—

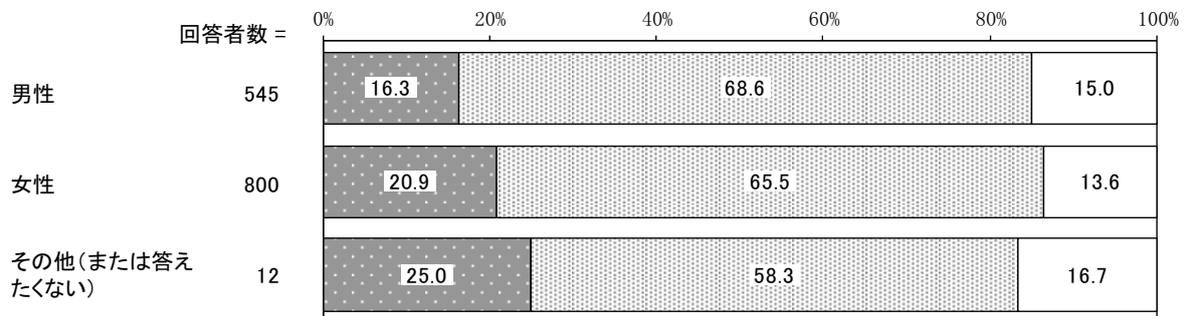
問 49 あなたの周囲（知人、近隣、親せき）で、問 48 であげているような暴力が起きているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。（○は1つ）

「ある」の割合が18.8%、「ない」の割合が66.0%となっています。
平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



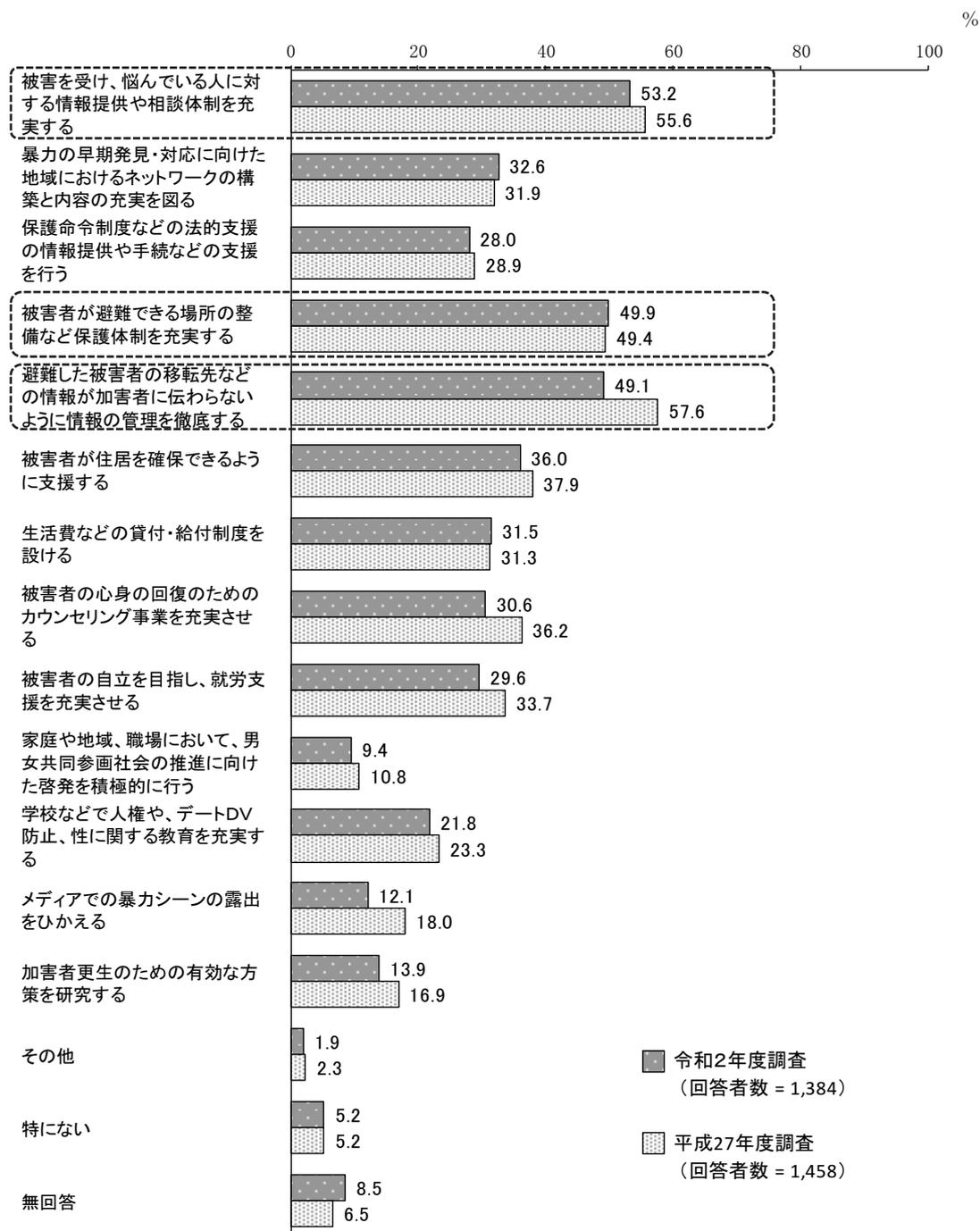
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「ある」の割合が高くなっています。



問 50 あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援のために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」の割合が53.2%と最も高く、次いで「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」の割合が49.9%、「避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する」の割合が49.1%となっています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」「被害者の自立を目指し、就労支援を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する	暴力の早期発見・対応に向けた地域におけるネットワークの構築と内容の充実を図る	保護命令制度などの法的支援の情報提供や手続などの支援を行う	被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する	避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する	被害者が住居を確保できるように支援する	生活費などの貸付・給付制度を設ける	被害者の心身の回復のためのカウンセリング事業を充実させる
男性	545	54.1	38.3	31.7	47.2	45.9	31.2	29.7	28.1
女性	800	53.6	29.5	26.4	52.8	52.4	39.6	33.3	32.9
その他(または答えたくない)	12	50.0	8.3	8.3	41.7	33.3	50.0	41.7	25.0

区分	被害者の自立を目指し、就労支援を充実させる	家庭や地域、職場において、男女共同参画社会の推進に向けた啓発を積極的に行う	学校などで人権や、デートDV防止、性に関する教育を充実する	メディアでの暴力シーンの露出をひかえる	加害者更生のための有効な方策を研究する	その他	特にない	無回答
男性	24.4	11.2	20.9	13.9	14.7	2.6	6.2	8.1
女性	33.8	8.4	23.1	10.9	13.9	1.5	4.1	7.5
その他(または答えたくない)	33.3	8.3	16.7	25.0	8.3	—	16.7	—

(4) 人権・男女共同参画に関する市の施策について

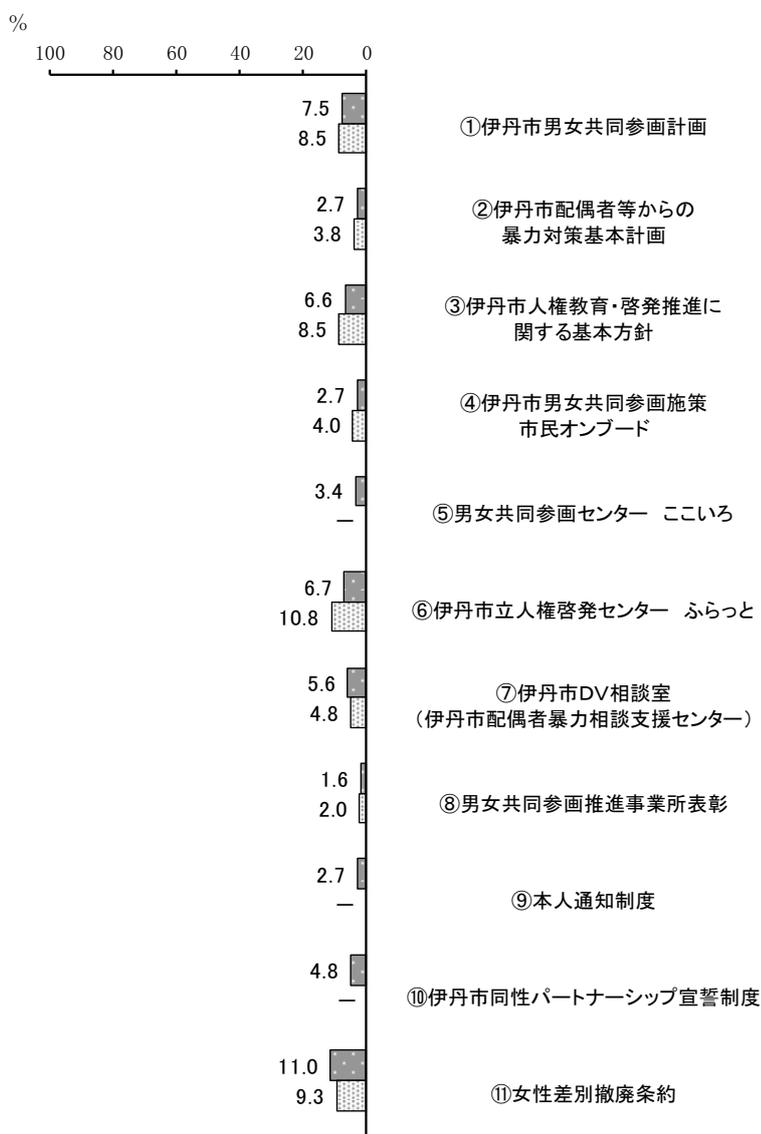
問 51 あなたは、次のような言葉や名称についてご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

内容の認知度を、平成 27 年度調査と比較すると、『⑩仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)』『⑫ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)』の割合が増加しています。

認知度を、平成 27 年度調査と比較すると、『⑦伊丹市DV相談室 (伊丹市配偶者暴力相談支援センター)』『⑩仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)』『⑫ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)』の割合が増加しています。

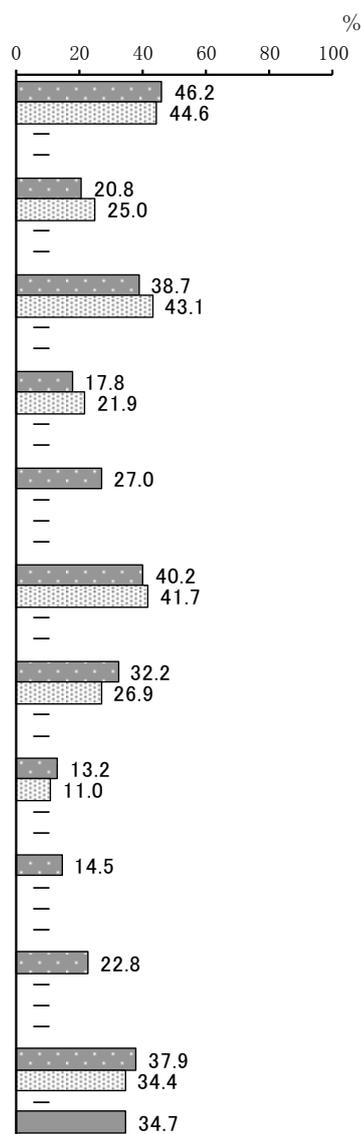
【 内容認知度 】

「内容までよく知っている」と
「内容も少しは知っている」の合計



【 認知度 】

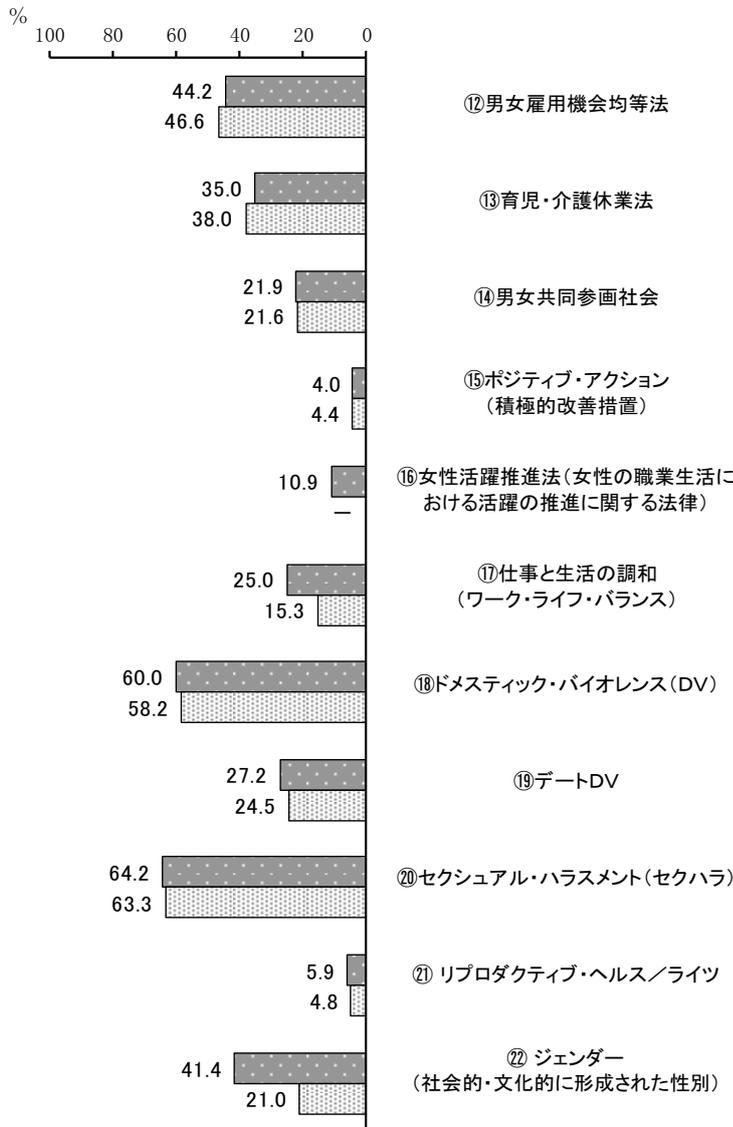
「内容までよく知っている」、「内容も少しは知っている」、「聞いたことはある」の合計



- 令和2年度調査 (回答者数 = 1,384)
- ▨ 平成27年度調査 (回答者数 = 1,458)
- ▩ 県調査 (回答者数 = 1,714)
- ▧ 国調査 (回答者数 = 2,645)

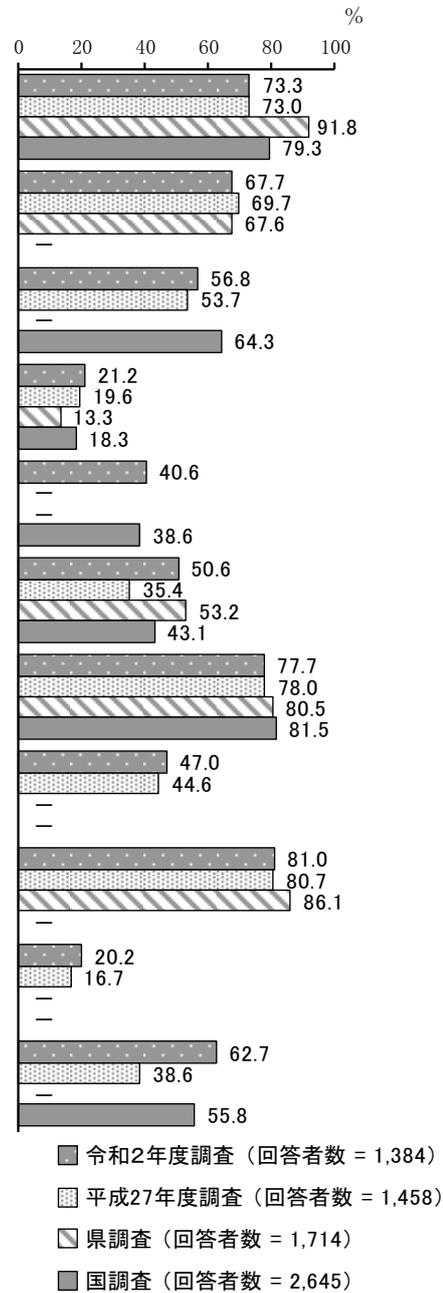
【 内容認知度 】

「内容までよく知っている」と
「内容も少しは知っている」の合計



【 認知度 】

「内容までよく知っている」、「内容も少しは
知っている」、「聞いたことはある」の合計



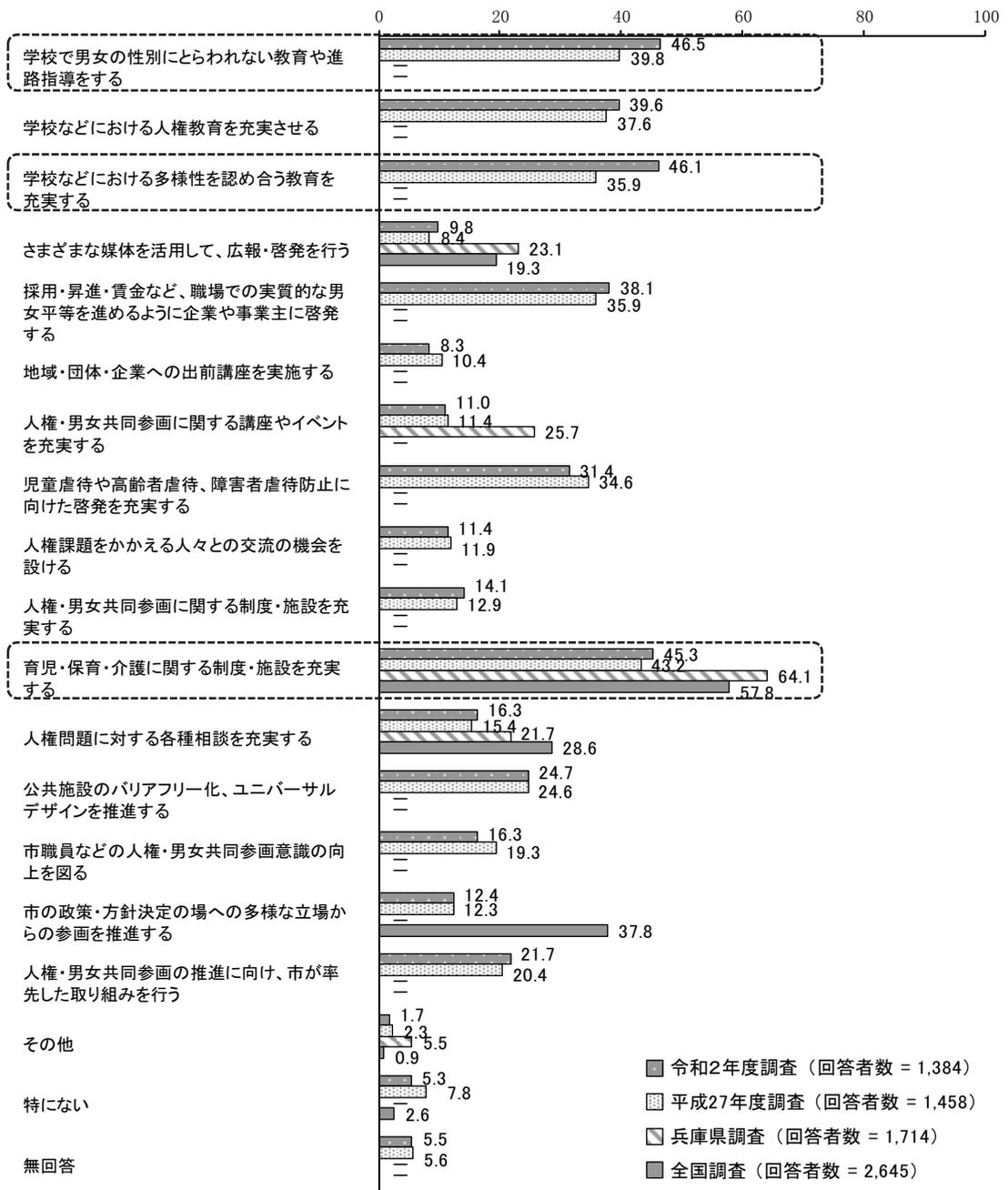
■ 令和2年度調査 (回答者数 = 1,384)
 ■ 平成27年度調査 (回答者数 = 1,458)
 ■ 県調査 (回答者数 = 1,714)
 ■ 国調査 (回答者数 = 2,645)

※平成 27 年度調査の項目では「⑤男女共同参画センター ここいろ」「⑨本人通知制度」「⑩伊丹市同性パートナーシップ
宣誓制度」「⑯女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)」の項目はありませんでした。
 ※県調査には、内容認知度の設問はありません。また、県調査には伊丹市の施策の項目、「⑪女性差別撤廃条約」「⑭男女共
同参画社会」「⑯女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)」「⑲デートDV」「㉑リプロダ
クティブ・ヘルス/ライツ」「㉒ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)」の項目はありません。
 ※国調査には、内容認知度の設問はありません。また、国調査には伊丹市の施策の項目、「⑬育児・介護休業法」「⑲デート
DV」「⑳セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)」「㉑リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の項目はありません。

問 52 人権・男女共同参画の実現に向けて今後、市が特に力を入れるべきだと思うものをお答えください。(〇はいくつでも)

「学校で男女の性別にとらわれない教育や進路指導をする」の割合が46.5%と最も高く、次いで「学校などにおける多様性を認め合う教育を充実する」の割合が46.1%、「育児・保育・介護に関する制度・施設を充実する」の割合が45.3%となっています。

平成27年度調査と比較すると、「学校で男女の性別にとらわれない教育や進路指導をする」「学校などにおける多様性を認め合う教育を充実する」の割合が増加しています。



※国、県調査には「学校で男女の性別にとらわれない教育や進路指導をする」「学校などにおける人権教育を充実させる」「学校などにおける多様性を認め合う教育を充実する」「採用・昇進・賃金など、職場での実質的な男女平等を進めるように企業や事業主に啓発する」「地域・団体・企業への出前講座を実施する」「児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実する」「人権課題をかかえる人々との交流の機会を設ける」「人権・男女共同参画に関する制度・施設を充実する」「公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する」「市職員などの人権・男女共同参画意識の向上を図る」「人権・男女共同参画の推進に向け、市が率先した取り組みを行う」の選択肢はありません。

※国調査には、加えて「人権・男女共同参画に関する講座やイベントを充実する」の選択肢はありません。

【性・年齢別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「学校などにおける人権教育を充実させる」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実する」「育児・保育・介護に関する制度・施設を充実する」の割合が高くなっています。

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の15～19歳で「学校で男女の性別にとられない教育や進路指導をする」の割合が高くなっています。また、男性の50～59歳、70歳以上で「学校などにおける人権教育を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

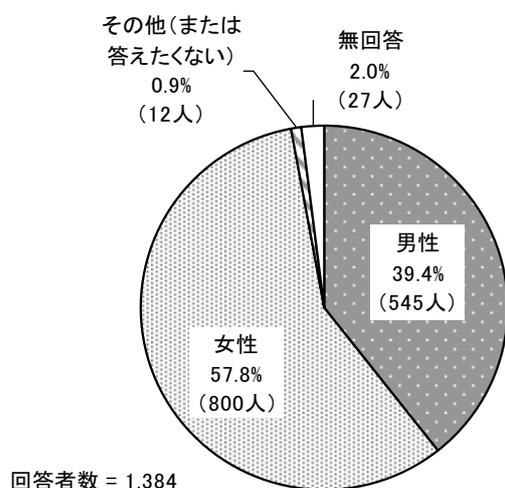
区分	回答者数(件)	学校で男女の性別にとられない教育や進路指導をする	学校などにおける人権教育を充実させる	学校などにおける多様性を認め合う教育を充実する	さまざまな媒体を活用して、広報・啓発を行う	採用・昇進・賞金など、職場での実質的な男女平等を進めるように企業や事業主に啓発する	地域・団体・企業への出前講座を実施する	人権・男女共同参画に関する講座やイベントを充実する	児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実する	人権課題をかかえる人々との交流の機会を設ける
男性	545	46.4	45.9	45.7	14.3	39.8	8.8	14.3	28.4	13.6
15～19歳	21	61.9	38.1	42.9	9.5	23.8	9.5	9.5	14.3	4.8
20～29歳	39	43.6	43.6	46.2	7.7	41.0	5.1	17.9	12.8	15.4
30～39歳	62	41.9	37.1	43.5	12.9	32.3	6.5	12.9	17.7	6.5
40～49歳	75	48.0	46.7	53.3	14.7	38.7	8.0	13.3	22.7	17.3
50～59歳	80	43.8	51.3	47.5	13.8	36.3	10.0	13.8	28.8	12.5
60～69歳	93	46.2	43.0	48.4	16.1	47.3	11.8	14.0	26.9	19.4
70歳以上	175	47.4	49.1	41.1	16.0	42.3	8.6	15.4	40.6	12.6
女性	800	47.4	36.4	47.5	7.1	37.6	8.1	9.1	34.5	10.4
15～19歳	28	78.6	46.4	64.3	7.1	28.6	7.1	21.4	17.9	17.9
20～29歳	67	47.8	41.8	49.3	7.5	47.8	6.0	7.5	34.3	11.9
30～39歳	98	43.9	37.8	48.0	4.1	38.8	7.1	7.1	27.6	9.2
40～49歳	137	50.4	34.3	51.8	5.8	36.5	8.8	4.4	26.3	9.5
50～59歳	134	44.8	29.9	52.2	9.7	37.3	7.5	7.5	28.4	11.2
60～69歳	125	45.6	42.4	54.4	7.2	38.4	7.2	8.0	42.4	8.8
70歳以上	208	45.2	35.1	34.6	7.7	35.6	10.1	13.9	44.2	10.6
その他	12	41.7	8.3	41.7	—	33.3	8.3	8.3	16.7	—

区分	人権・男女共同参画に関する制度・施設を充実する	育児・保育・介護に関する制度・施設を充実する	人権問題に対する各種相談を充実する	公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する	市職員などの人権・男女共同参画意識の向上を図る	市の政策・方針決定の場への多様な立場からの参画を推進する	組みを行う	その他	特になし	無回答
男性	17.2	42.0	18.3	23.5	18.3	15.2	22.6	2.9	5.3	4.2
15～19歳	19.0	23.8	9.5	28.6	4.8	9.5	9.5	—	9.5	—
20～29歳	17.9	30.8	10.3	30.8	7.7	10.3	15.4	2.6	5.1	—
30～39歳	21.0	33.9	6.5	25.8	8.1	14.5	16.1	4.8	6.5	1.6
40～49歳	14.7	49.3	20.0	24.0	16.0	17.3	20.0	2.7	6.7	2.7
50～59歳	16.3	41.3	18.8	28.8	16.3	18.8	22.5	5.0	2.5	5.0
60～69歳	17.2	48.4	23.7	24.7	17.2	17.2	26.9	5.4	3.2	2.2
70歳以上	17.1	43.4	21.7	17.1	28.6	13.7	26.9	0.6	6.3	8.0
女性	12.4	49.0	15.6	26.5	15.0	10.9	21.3	0.9	4.9	4.8
15～19歳	25.0	39.3	10.7	32.1	7.1	14.3	28.6	—	—	—
20～29歳	19.4	59.7	19.4	34.3	14.9	7.5	19.4	—	3.0	1.5
30～39歳	11.2	53.1	11.2	23.5	11.2	9.2	10.2	—	5.1	2.0
40～49歳	13.9	46.7	13.1	29.2	13.1	7.3	18.2	2.2	4.4	2.9
50～59歳	11.2	50.0	17.9	26.9	15.7	10.4	20.1	—	2.2	2.2
60～69歳	8.0	56.0	17.6	28.0	18.4	10.4	27.2	2.4	5.6	2.4
70歳以上	11.5	41.8	16.3	22.1	16.8	15.4	25.5	0.5	7.7	12.0
その他	8.3	41.7	8.3	—	41.7	—	33.3	—	25.0	—

(5) 回答者属性

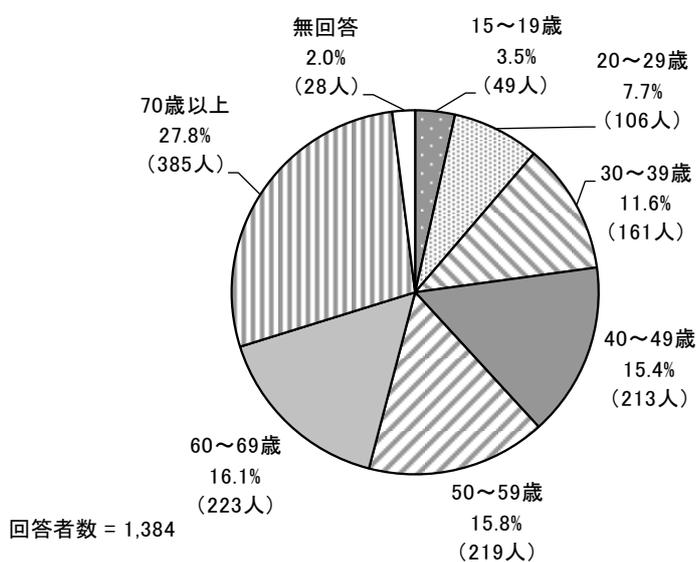
F 1 あなたの自認する性別は。(〇は1つ)

「女性」の割合が57.8%と最も高く、次いで「男性」の割合が39.4%となっています。



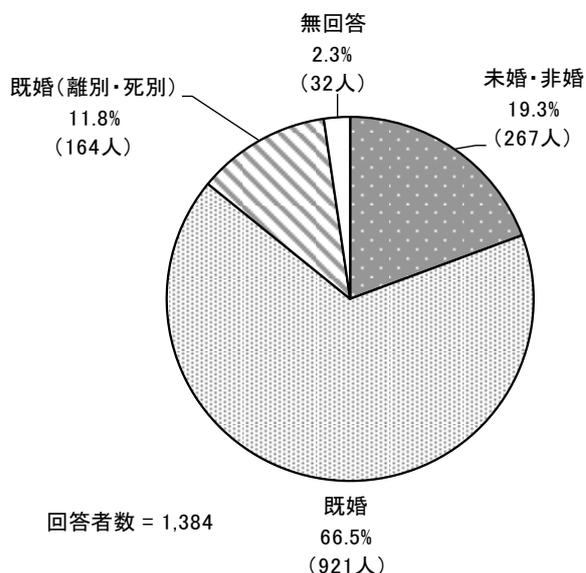
F 2 あなたの年齢は。(2020年8月末現在) (〇は1つ)

「70歳以上」の割合が27.8%と最も高く、次いで「60～69歳」の割合が16.1%、「50～59歳」の割合が15.8%となっています。



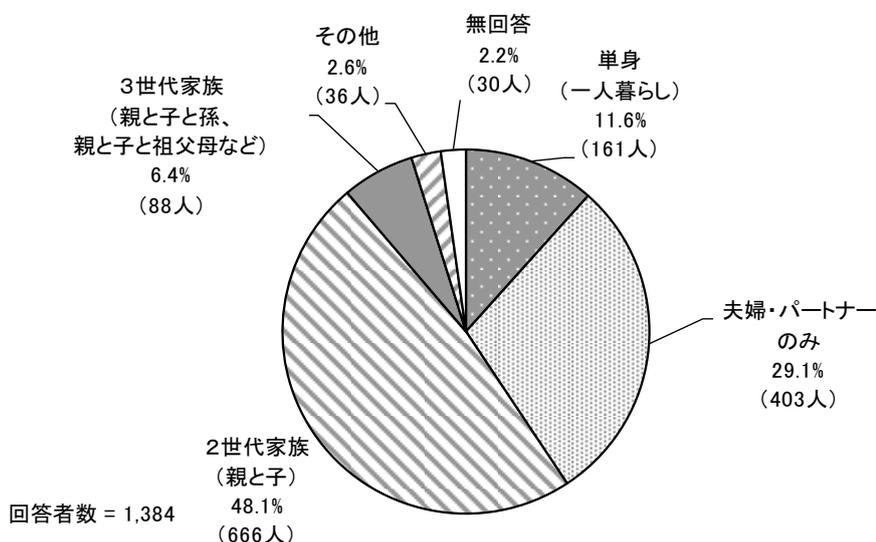
F 3 あなたは、結婚（法律上の婚姻は問わない）していますか。（○は1つ）

「既婚」の割合が66.5%と最も高く、次いで「未婚・非婚」の割合が19.3%、「既婚（離別・死別）」の割合が11.8%となっています。



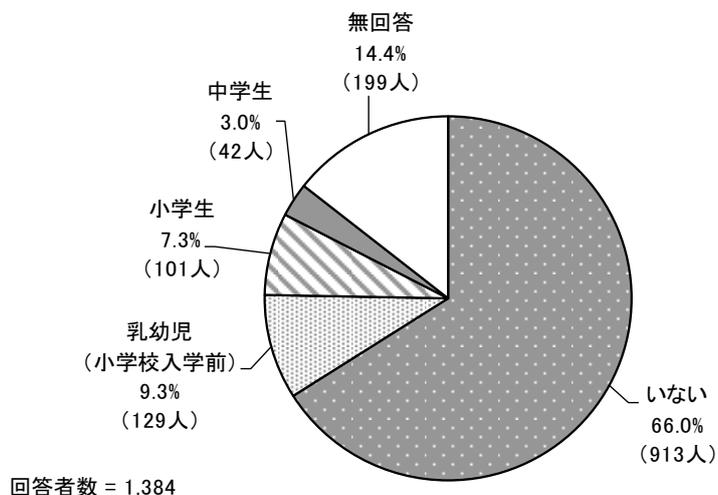
F 4 あなたのご家族（同居）の構成は次のどれですか。（○は1つ）

「2世代家族（親と子）」の割合が48.1%と最も高く、次いで「夫婦・パートナーのみ」の割合が29.1%、「単身（一人暮らし）」の割合が11.6%となっています。



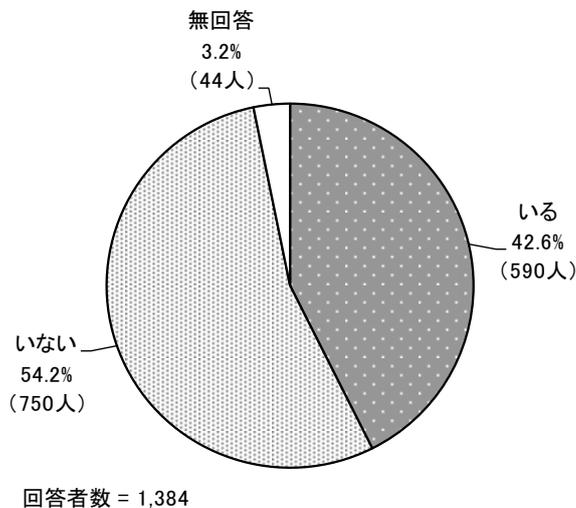
F 5 中学生以下のお子さん（同居）がいますか。いる場合、一番年齢の小さなお子さんはどれにあてはまりますか。（〇は1つ）

「いない」の割合が66.0%と最も高くなっています。



F 6 あなたを含めて、同居家族に65歳以上の方がいますか。（〇は1つ）

「いる」の割合が42.6%、「いない」の割合が54.2%となっています。



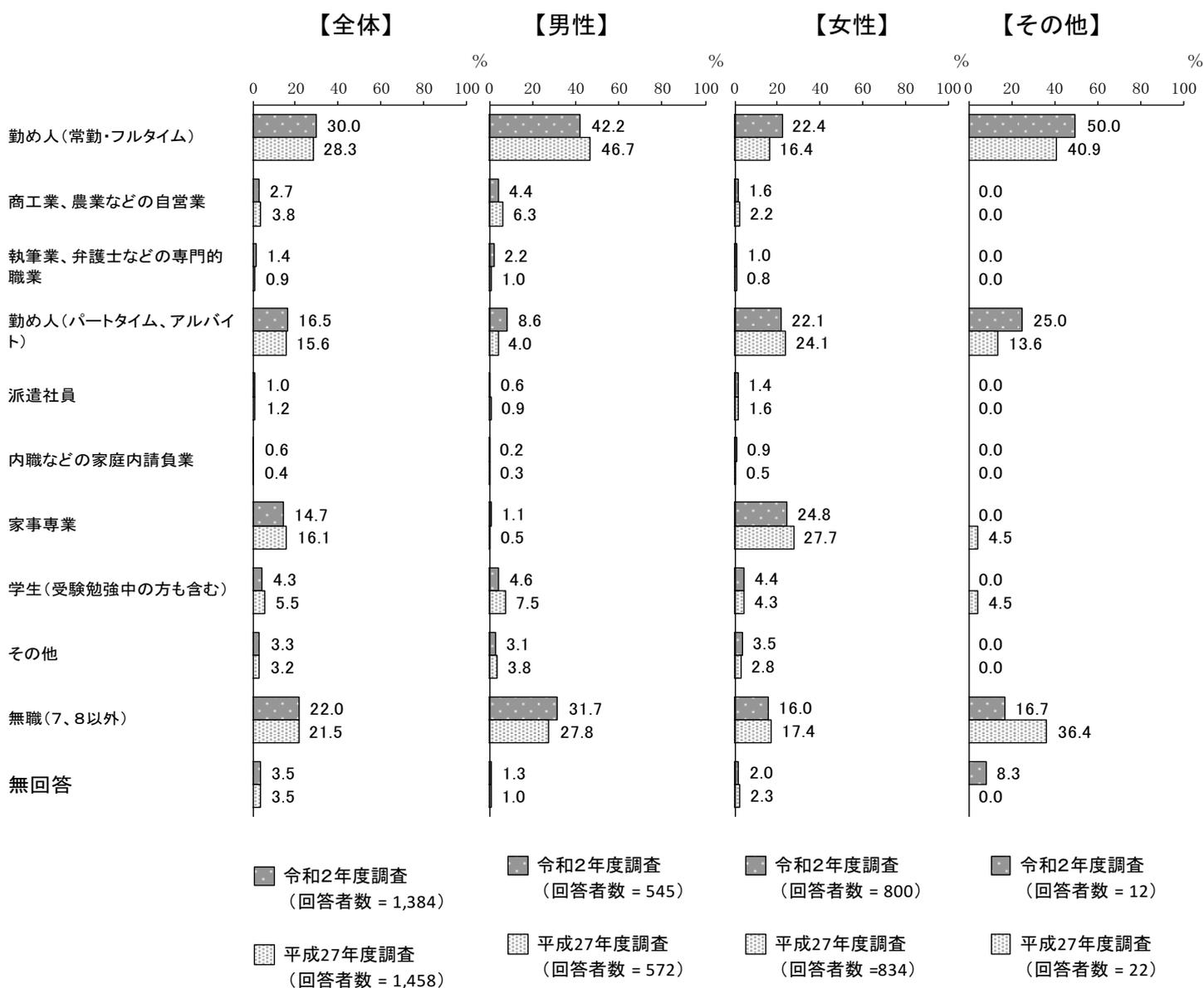
F7 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

「勤め人（常勤・フルタイム）」の割合が30.0%と最も高く、次いで「無職（7、8以外）」の割合が22.0%、「勤め人（パートタイム、アルバイト）」の割合が16.5%となっています。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「勤め人（パートタイム、アルバイト）」「家事専業」の割合が高くなっています。

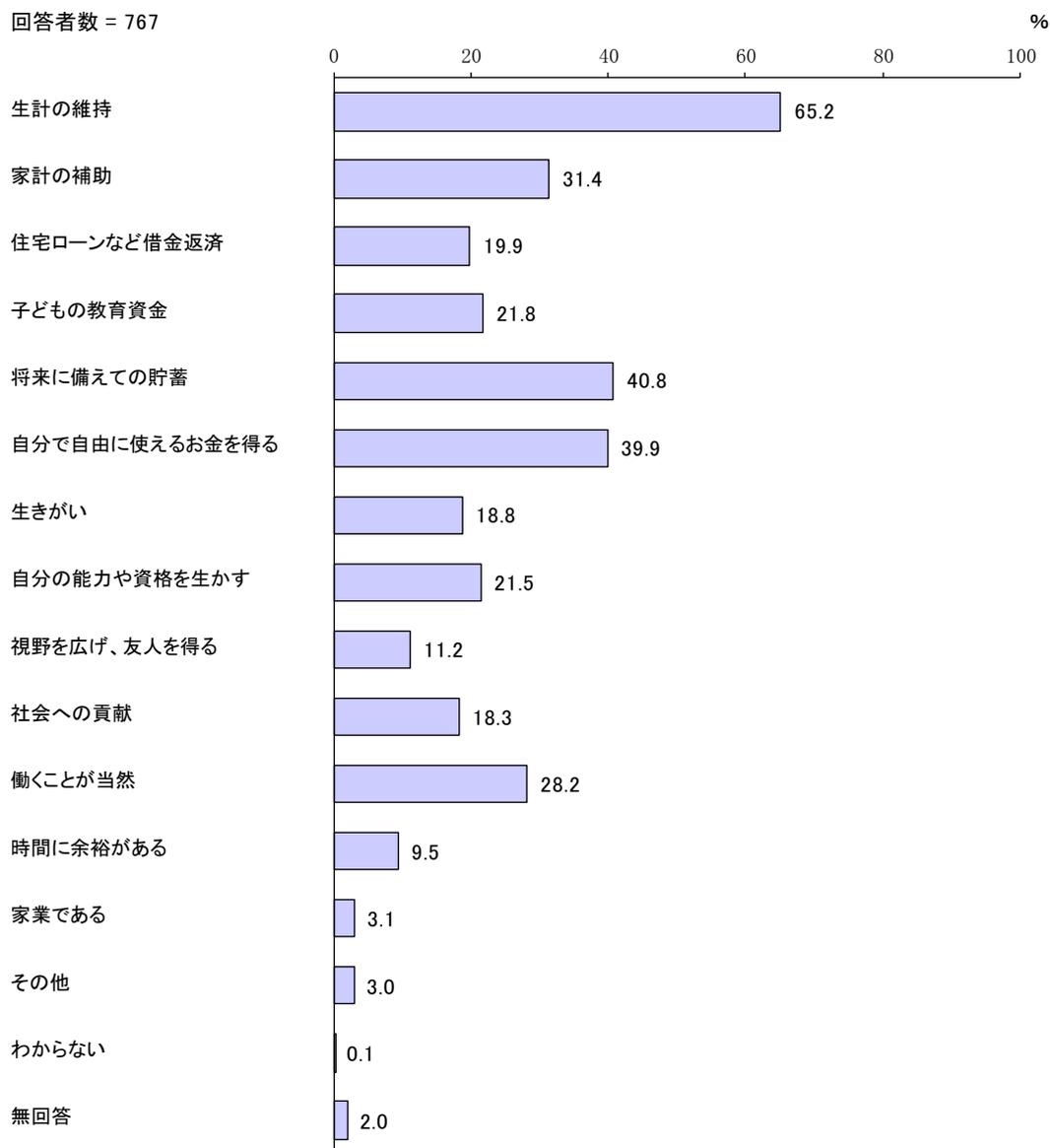
平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別では、男性では平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。女性では、平成27年度調査と比較すると、「勤め人（常勤・フルタイム）」の割合が増加しています。



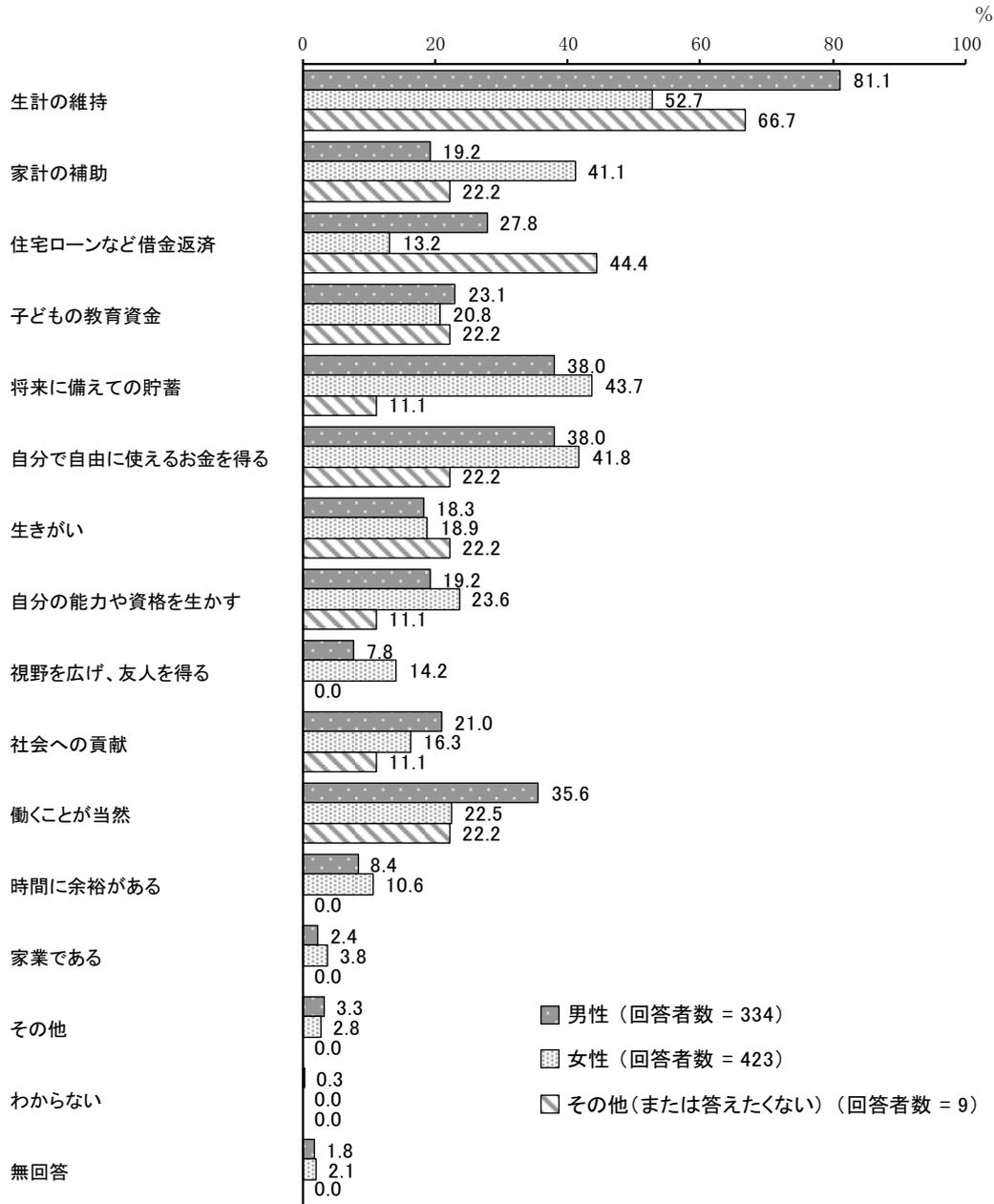
F 8 現在働いている方におうかがいします。あなたが働いているのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

「生計の維持」の割合が65.2%と最も高く、次いで「将来に備えての貯蓄」の割合が40.8%、「自分で自由に使えるお金を得る」の割合が39.9%となっています。



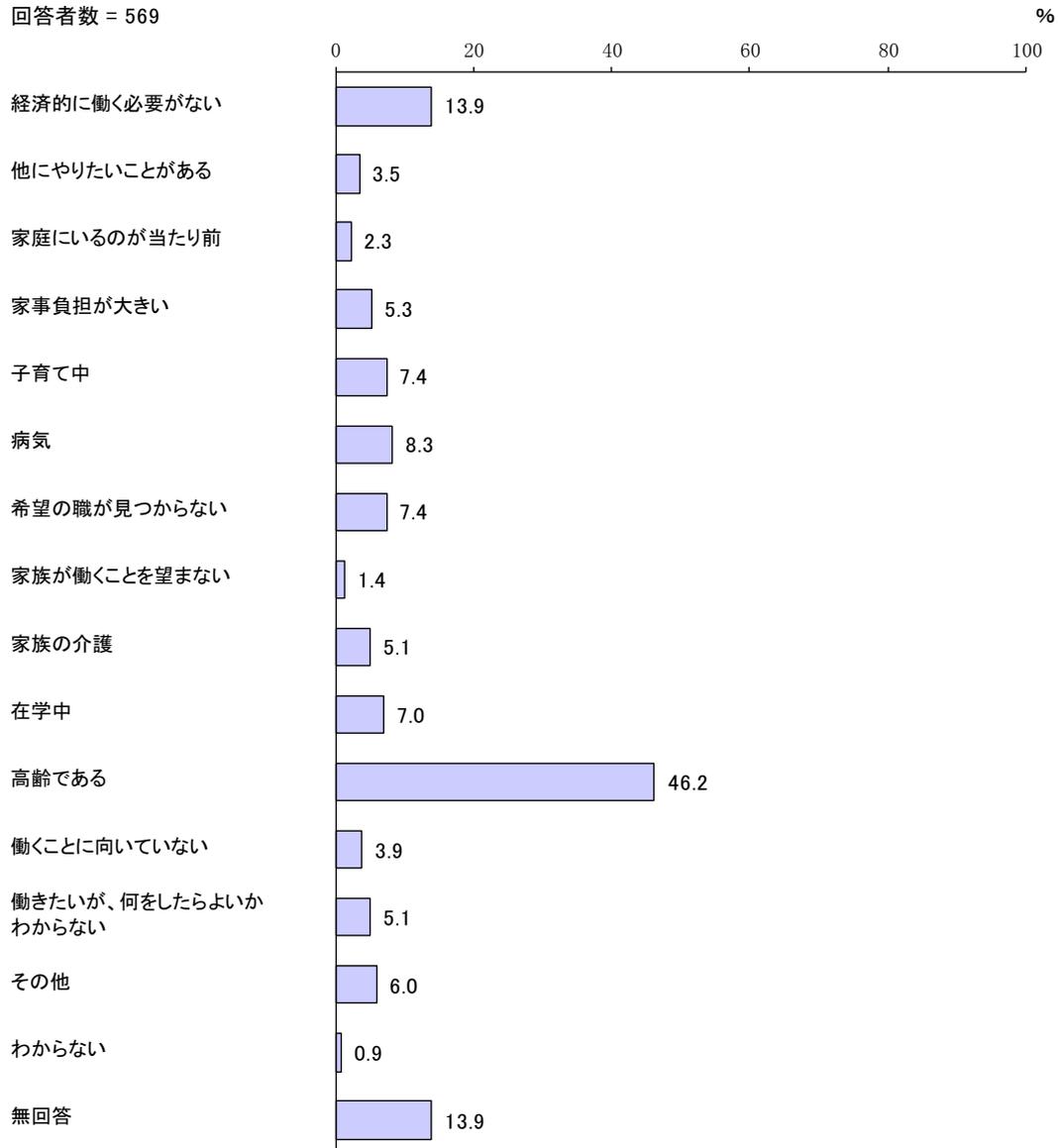
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「働くことが当然」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家計の補助」の割合が高くなっています。



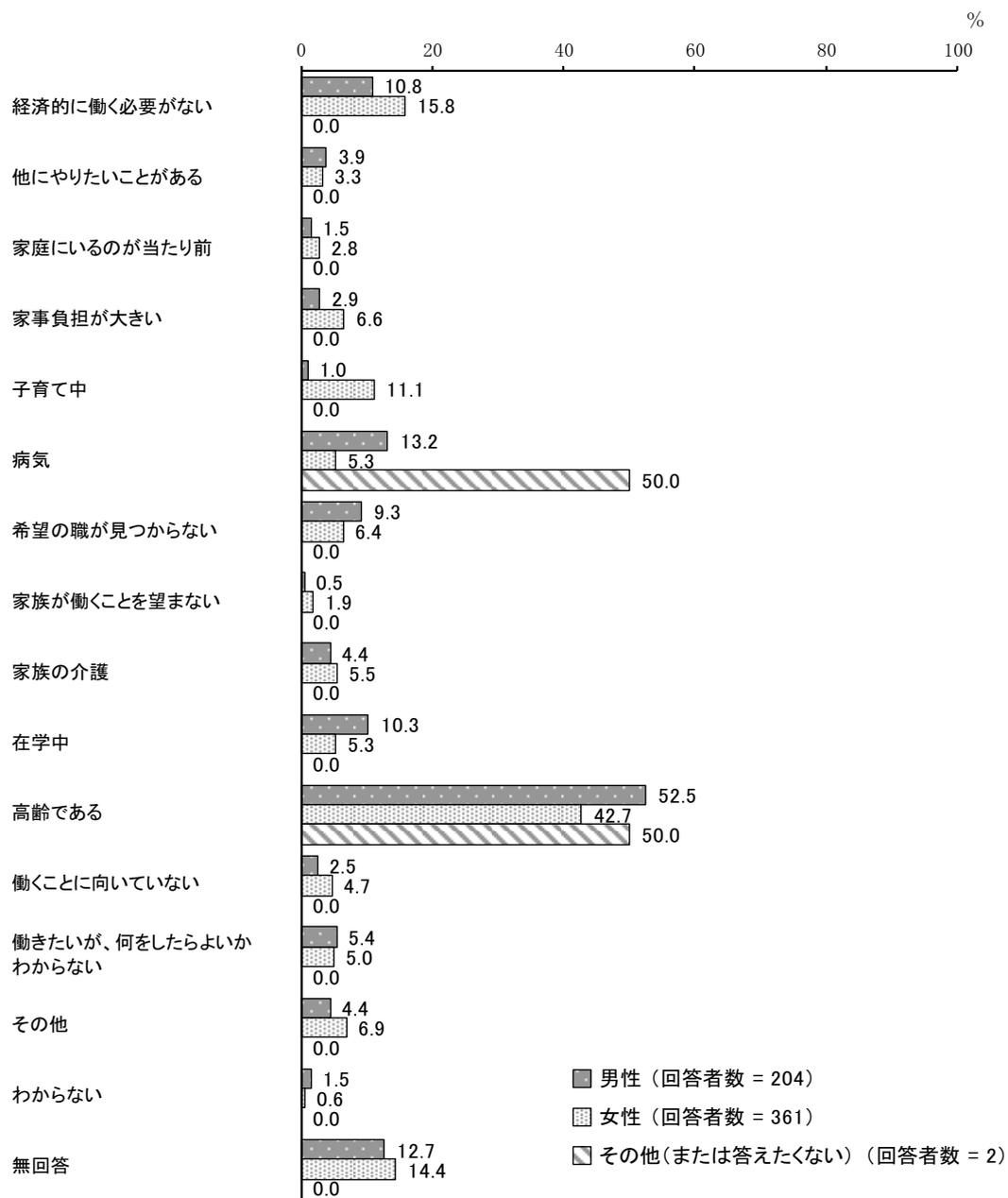
F 9 現在働いていない方におうかがいします。あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

「高齢である」の割合が 46.2%と最も高く、次いで「経済的に働く必要がない」の割合が 13.9%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「高齢である」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「子育て中」の割合が高くなっています。

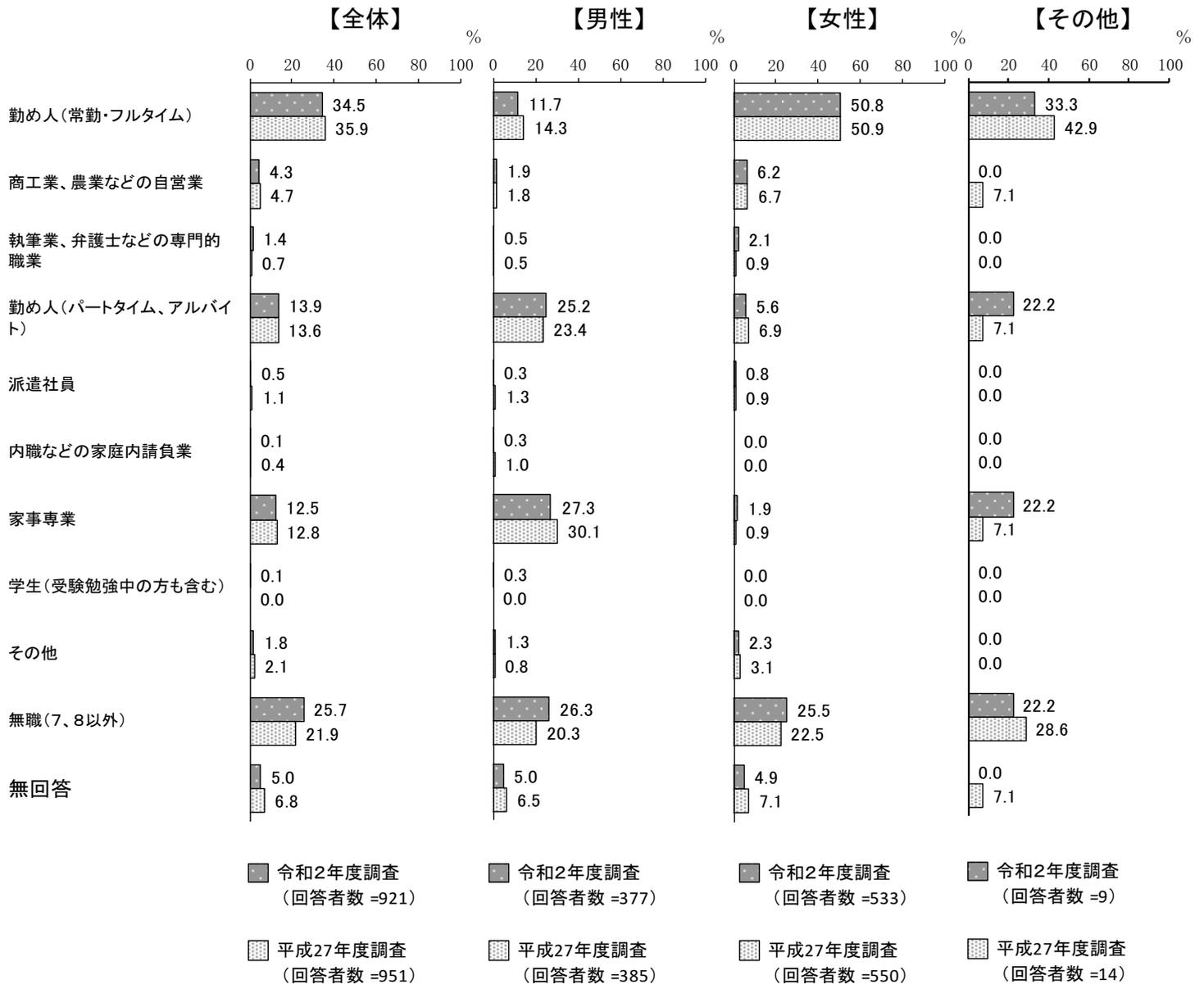


F10 配偶者・パートナーのいる方におうかがいします。あなたの配偶者の現在のご職業に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

「勤め人(常勤・フルタイム)」の割合が34.5%と最も高く、次いで「無職(7、8以外)」の割合が25.7%、「勤め人(パートタイム、アルバイト)」の割合が13.9%となっています。

平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

性別でみると、男性では平成27年度調査と比較すると、「無職(7、8以外)」の割合が増加しています。女性では、平成27年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



V 自由記述

今回の「人権・男女共同参画に関する市民意識調査」の回答の中で、自由記述について158件の記述がありました。これらの意見については、今後の人権・男女共同参画を推進する際の参考として活用します。

内容別件数

1 人権意識全般に関する意見	27件
2 個別の人権課題に関する意見	8件
3 子ども人権に関する意見	2件
4 同和問題に関する意見	4件
5 性的マイノリティに関する意見	2件
6 男女共同参画社会に関する意見	14件
7 子育てに関する意見	8件
8 介護などに関する意見	4件
9 仕事に関する意見	6件
10 人権・男女共同参画の取り組みに関する意見	25件
11 意識調査全体に関する意見	25件
12 その他の意見	33件

問3-2 問3で「1. ある」を選ばれた方におうかがいします。
人権侵害を受けたとき、あなたはどうしましたか。(〇はいくつでも)

1. 家族や友人など信頼できる人に相談した
2. 警察に相談した
3. 弁護士に相談した
4. 公的機関(法務局・労働局・労働警察センターの相談窓口など)に相談した
5. 地域の自治会や民生委員、児童委員、児童相談員に相談した
6. NPO法人など民間団体に相談した
7. 職場の相談窓口で相談した
8. 相手に抗議した
9. 何もできなかった
10. どのようにしたらいいかわからなかった
11. その他()

問4 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。(〇は1つ)

1. ないと思う
2. 自分では気づかなかつたが、あるかもしれない
3. あると思う
4. わからない

問5 日本の社会には、あなたにわかるさまざまな問題がありますが、あなたが特に関心をお持ちのものはどのようなことですか。(〇は5つまで)

1. 女性に関する問題
2. 子どもに関する問題
3. 高齢者に関する問題
4. 障がいのある人に関する問題
5. 部落差別などの同種問題
6. アイスの欠乏に関する問題
7. 自衛隊に在籍している外国人に関する問題
8. エイズ患者・HIV(エイズ・ウイルス)感染者等に関する問題
9. ハンセン病患者・回復者などに関する問題
10. 新型コロナウイルス感染症に関する問題
11. 刑を繰り出して出所した人に関する問題
12. 犯罪被害者などに関する問題
13. インターネットによる人権侵害の問題
14. 北朝鮮当局によって拉致された被害者に関する問題
15. ホームレスの人に関する問題
16. 性的指向(同性愛・同性愛など)を理由とした人権侵害の問題
17. 性同一性障害(心と体の性が一致しない人)に関する人権侵害
18. 人身取引(性的搾取・強制労働などを自覚とした人身取引)に関する問題
19. 軍日本企業等とそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による人権問題
20. 働く人の権利に関する問題
21. 環境と人にかかわる問題
22. その他の問題()
23. 知らない

※「人権」の表記について：「人権」の字には否定的な意味があるため、好ましくないという意見があり、この調査では、障がいのある人、性的指向が異なる人、性的指向が異なる人など、表記しています。ただし、法律・制度の名前や障害者(児童)虐待や障がいのある人の生活を支える場合は、「障害」及び「障害者」と表記しています。

人権問題についておたずねします。

問1 あなたは、「人権」を、どのくらい身近な問題として感じていますか。(〇は1つ)

1. 非常に身近に感じる
2. かなり身近に感じる
3. どちらとも言えない
4. あまり身近に感じない
5. まったく身近に感じない
6. わからない

問2 次の①～③のそれぞれについて、あなたはどのように思っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

- ① 今の日本は、人権が尊重されている社会である
1. そう思う
 2. どちらかといえばそう思う
 3. どちらとも言えない
 4. どちらかといえばそう思わない
 5. そうは思わない

② 市民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そうは思わない

③ 5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そうは思わない

問3 あなたは、今までに、自分の人権が侵害されたことがありますが、(〇は1つ)

1. ある
2. ない
3. わからない

問3-1 問3で「1. ある」を選ばれた方におうかがいします。
それは、どのような人権侵害でしたか。(〇はいくつでも)

1. あらゆる働きや通口による、若者・信用などの侵害
2. 公務員や企業・団体による不当な扱い
3. 差別待遇(結果・性別・社会的身分・心身の障がいなどによる不利な扱い)
4. ドメスティック・バイオレンス(DV・配偶者やパートナーからの暴力)
5. インターネット(パソコン、スマートフォンなど)による人権侵害
6. セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)
7. 地域での暴力・脅迫、無理じい、仲間はずれ
8. 職場でのいじめやいやがらせ
9. 家庭での暴力や虐待
10. プライバシーの侵害
11. 学校でのいじめやいじめ
12. わからない
13. その他()

問6 女性に關する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 男女の役割による固定的意識（「男は仕事、女は家庭」など）
2. 男尊・男進の格差など、職場での男女の待遇の違い
3. 女性の社会進出のための支援制度の未備
4. 女性の就業や労務などの決起・参加（女性の政治家や管理職が少ないなど）
5. マタニティ・ハラスメント（職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど）
6. ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者やパートナーからの暴力・暴言など）
7. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
8. ストーカー行為
9. 売春・買春、援助交際
10. アダルトビデオ・ポルノ雑誌における女性のヌード写真や映像の過度化
11. 女性の犯罪に被害を及ぼす古い考え方や社会意識、慣習・しきたりが残っていること
12. 痴漢やわいせつ行為などの性犯罪
13. わからない
14. その他（ ）

問7 子どもに關する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 保護者がいうことを聞かない子どもにもしつけのつもりで体罰を加えること
2. 子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄したりすること
3. 子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをしたりすること
4. いじめをしている人や、いじめられている子を見ても見ぬふりをすること
5. インターネットを使っている人が増えていて、大人が子どもの意見を無視すること
6. 学校や児童館の選別などについて、大人が子どもの意見を無視すること
7. 教師が体罰を加えること
8. デアオ、インターネットなどでの子どもの取り巻く性情報のほんらん
9. 親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること
10. 児童買春や子どもヌード写真・映像を過度化する事
11. 貧困のために産学や就職が困難になったり、健康な生活ができなかつたりすること
12. わからない
13. その他（ ）

問8 高齢者に關する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 道徳の浸透解消、エレベーターの設置など、高齢者が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと
2. 働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分保障されていないこと
3. 高齢者法や許容などによる被害が多いこと
4. 高齢者法や許容などによる被害が多いこと
5. 家族だけで介護する負担が重くなるなどへの対策が難しいこと
6. 家族が介護する負担が重くなるなどへの対策が難しいこと
7. 病院や福祉施設において労働者待遇や賃金を受けること
8. 病院や福祉施設での介護を支える制度が十分でないこと
9. 高齢者が介護者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと
10. 情報や高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
11. その他（ ）

問9 障がいのある人に關する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 道徳の浸透解消、エレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりへの配慮が足りないこと
2. 働く意欲や能力が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと
3. 学校や職場で不利な扱いを受けたり待遇を受けたりすること
4. 障がいのある人の賃金などへの対策が難しいこと
5. 家族が介護することを受けたり、家族から虐待を受けたりすること
6. 病院や福祉施設において労働者待遇や賃金を受けること
7. スポーツ活動や文化活動など、企業に参加するための受入態勢が十分でないこと
8. 社会復帰や社会参加のための受入態勢が十分でないこと
9. 障がいのある人の意見や行動が尊重されないこと
10. 情報をおろそかにし、形にして伝える配慮が足りないこと
11. 障害者差別解消法(※)の対応や目的が十分理解されていないこと
12. 障がいのある人の生きる権利を認めようとしないうつた優生思想のような考え方が残っていること
13. わからない
14. その他（ ）

※障害者差別解消法：「障害者差別解消法」を理由とする差別の解消の推進に関する法律。2016（平成28）年4月施行

問10 同和問題について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 差別的な言動
2. 差別的な落書き
3. 冤・職場での差別・不利な扱い
4. 結婚問題での偏見からの反対
5. 身元調査を実施すること
6. 結婚差別など同和問題を知らない
7. 部落差別解消推進法(※)の教育や自らが十分理解されていないこと
8. インターネットを應用した差別的な情報掲載
9. 地域の活動やつきあいで差別・不利な扱い
10. いわゆる同和地区への居住の促進
11. 轉にない
12. わからない
13. その他 ()

※部落差別解消推進法：「部落差別の解消の推進に関する法律」2016(平成28)年12月施行

問10-1 同和問題が生じる原因や背景として、特に思い当たるのはどれですか。(Oは3つまで)

1. 家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)、親せきから影響られた偏見・差別意識
2. 地域の人から伝えられる偏見・差別意識
3. 偏見や先入関係などで伝えられる偏見・差別意識
4. 社会全体に流れる差別意識
5. 個人の理解不足
6. 学校での入籍教育の十分分さ
7. 行政の入籍問題の啓発の十分分さ
8. わからない
9. その他 ()

問10-2 結婚についてお聞きします。

(1) たとえば、あなたが結婚しようとする相手がいわゆる同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうかされますか。(Oは1つ)

1. 自分の意思を貫いて結婚する
2. 家族や親せきの反対があっても説得に空方を覆け、できるだけ理解を得て、自分の意思を貫いて結婚する
3. 家族や親せきの反対があれば、結婚しない
4. 絶対に結婚しない
5. わからない
6. その他 ()

(2) たとえば、あなたのお子さんの結婚しようとする相手がいわゆる同和地区の人であるとわかった場合、あなたはどうかされますか。(Oは1つ)

1. 子どもの意思を尊重する
2. ためらつたら勇氣つける
3. 親として反対するが、子どもの意志が強ければしかたない
4. 家族や親せきの反対があれば、結婚を認めない
5. 絶対に結婚を認めない
6. わからない
7. その他 ()

問11 日本に居住している外国人に関する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 大学・学校で不利な扱いを受けること
2. 冤・職場での不利な扱いを受けること
3. 住宅の申し込みや入居で不利な扱いを受けること
4. 結婚問題で偏見から反対されること
5. 結婚問題で偏見から反対されること
6. 文化や生活習慣の違いを受け入れられなかったり、その違いからいやがらせを受けること
7. 外国語の表記にするなど、情報をわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
8. 政治に意見が十分反映されないこと
9. 差別的な言動や差別的な落書きがあること
10. インターネットを應用した差別的な情報が掲載されること
11. ヘイトスピーチ(※)によるいやがらせなどがあること
12. ヘイトスピーチ解消法(※)の内容や自らが十分理解されていないこと
13. わからない
14. その他 ()

※ヘイトスピーチ：特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動

※ヘイトスピーチ解消法：「本邦外出身に対する不当な差別言動の解消に向けた取組みの推進に関する法律」2016(平成28)年6月施行

問12 エイズ患者・HIV感染者やその家族について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 結婚問題で偏見の反対を受けること
2. 冤・職場での不利な扱いを受けること
3. 治療や入院を断られること
4. 無断でエイズ検査等をされること
5. 差別的な言動をされること
6. アパート等への入居を拒否されること
7. 宿泊施設、店舗等への入居や施設利用を拒否されること
8. その他 ()
9. 轉にない
10. わからない

問13 ハンセン病患者・回復者やその家族に關する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 結婚前などで周囲の反対を受けること
3. 就職・結婚で不利な扱いを受けること
4. 結婚や入院を断られること
5. ハンセン病治療費の外で自立した生活を支えるのが困難なこと
6. 差別的な言動をされること
7. アパート等の入居を拒否されること
8. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
9. じろじろ見られたり、避けられたりすること
10. その他 ()
11. 特になし

問14 インターネット(パソコン、スマートフォンなど)を悪用した人権侵害について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 他人へのひどい悪口(誹謗中傷)や差別的な表現などを掲載すること
2. 第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること
3. 犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること
4. ボルノ画像など有害なホームページがあること
5. 悪質商法によるインターネット取引での被害があること
6. いったん流れた情報の訂正や撤回が難しいこと
7. 差別を助長するような情報や画像を掲載・流布すること
8. 他人のプライバシーに關する情報を掲載すること
9. リベンジポルノ(元交際相手の性的な画像などを、相手の同意を停ることなく、任意のためにインターネットの掲示板に公表する行為)が行われていること
10. わからない
11. その他 ()

問15 アイスの欠けに關する人権について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 結婚前などで周囲の反対を受けること
3. 就職・結婚で不利な扱いを受けること
4. 差別的な言動をされること
5. 独自の文化や伝統の喪失、伝承が平券園られていないこと
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. その他 ()
8. わからない
9. 特になし

問16 誹や非行を犯した人が、謝をきくなくって社説を掲載を断ろうとした場合について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 更生した人たちに對する理解や偏見があること
2. インターネットなどで差別的な書き込みや嫌がらせが行われること
3. 社説を容赦に傷めることができず、不利な扱いを受けること
4. 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受けること
5. 結婚に際し周囲に反対されること
6. 差別的な発言を受けること
7. 特に問題があるとは思わない
8. わからない
9. その他 ()

問17 犯罪被害者の方やその家族の人権侵害について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと
2. 警察に相談しても必ずしも納得とおり結果が得られないこと
3. 過剰な取付などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること
4. 事件に關して周囲からの偏見や差別があること
5. 捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいにも関わらず、こちらのケアがされないこと
6. 刑事裁判手続に犯罪被害者や家族の音がまだ十分反映されないこと
7. 加害者が裁判所から命じられた賠償金を支払わないこと
8. わからない
9. その他 ()

問18 北朝鮮当局によって拉致された被害者などについて、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 被害者の情報が多たたく得られないこと
2. 家族と情緒に生活をするという当然の権利を奪われていること
3. 身体や居住移転の自由を奪われ、帰国できないこと
4. 帰国など、納得とおり結果が得られないこと
5. 被害者及びその家族に對し得つけるような取組があること
6. 拉致問題に關する国民の理解が足りないこと
7. わからない
8. その他 ()

問19 異性愛、同性愛などといった性的指向について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること
2. 職場・職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な言動をされること
4. 賃貸住宅などへの入居を拒否されること
5. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. わからない
8. その他()

問20 生物学的な性どころの性が一致しない性同一性障害者について、あなたが、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 職場、学校などでいやがらせやいじめを受けること
2. 職場・職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な言動をされること
4. 賃貸住宅などへの入居を拒否されること
5. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. わからない
8. その他()

問21 ホームレスについて、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 近隣住民や通行人等から嫌がらせを受けること
2. 近隣住民や通行人等から暴力をふるわれること
3. 職場・職場で不利な扱いを受けること
4. 差別的な言動をされること
5. アパート等への入居を拒否されること
6. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
7. じろじろ見られたり、避けられたりすること
8. 籍籍地に自立が困難なこと
9. その他()
10. 知らない
11. わからない

問22 入籍取引の問題について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 女性や子どもなどの弱い立場の人が被害にあうこと
2. 原産国/ノや原産国/者などにより、子どもに対する性的搾取が行われていること
3. 営利目的で産器の輸出や先着が行われていること
4. 不当に高い資金で強制的に働かされている労働環境にあること
5. 人身取引についての理解や認識が十分でないこと
6. わからない
7. その他()

問23 東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故による被災者について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 職場、学校でいやがらせやいじめを受けること
2. 差別的な言動をされること
3. 生まれ育った土地での生活環境が難しいこと
4. 被災地に関する風評被害があること
5. 家族が離ればなれに暮らさなければならぬこと
6. 避難している人の健康被害が増えていること
7. 震災の記憶が風化し、忘れられること
8. 遺族や遺児のこころのケアが十分でないこと
9. わからない
10. その他()

問24 働く人の人権について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 長時間労働が深刻化して、仕事と生活の調音(ワーク・ライフ・バランス)が保たれないこと
2. 休暇制度があっても取れないような実態があること
3. 非正規雇用の割合が高くなり、待遇の差が狭くなっていくこと
4. 無理なノルマを課したり賃金不払い残業やパワーハラスメントが横行したりといった職場が存在すること
5. わからない
6. その他()

問25 新型コロナウイルス感染症について、あなたが、現在、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(Oは3つまで)

1. 近隣住民やその家族への不当な扱いがあること
2. 感染者やその家族への不当な扱いがあること
3. 外国からの帰国者への不当な扱いがあること
4. 日本に居住する外国人への不当な扱いがあること
5. 悪い噂や感傷情報などが他人に伝えられること
6. 小中学校でのいじめ
7. わからない
8. その他()

問26 あなたが、人権計算の考えについて強く影響を受けたと思われるものは次のどれですか。当てはまるものを選んでください。(Oは3つまで)

1. 小学校教育時代の人権教育
2. 家族でのふれあいの時から
3. 中学校時代の人権教育
4. 友人とのふれあいの時から
5. 職場でのふれあいの時から
6. 職場でのふれあいの時から
7. 高等学校時代の人権教育
8. 幼少期の人権教育
9. 職場での人権研修会
10. 地域の自治会・婦人会主催の講演会や研修会
11. 大学・短大・専門学校時代の人権教育
12. 青年や若年主催の講演会や研修会
13. 市民団体主催の講演会や研修会
14. 関心がない

問27 人材登用を運めるために、あなたに對してどのような登用活動が効果的と思われるかを、(○は3つまで)

1. アレンジ、ラジオ
2. 県・市の広報紙
3. 軍用マスクなどを持ち出した陣がいのある人や高齢者などの疑似体験
4. 公開講座やテーマとしたイベント(講演会、コンサート、展示会などを複合的に実施)
5. 映画、ビデオ
6. 新聞広告や記事
7. SNS(ツイッター、フェイスブックなど)、メールマガジン、ホームページなどのインターネット
8. 講演会や講義形式の研修会、学習会
9. 相互の理解を深めるための交流会
10. ワークショップ形式(専門家や人材登用の被害者などをまじえた少人数の討議・活動)の研修会、学習会
11. パンフレット・ポスター
12. 人材問題に関する小説、作文、漫画などの募集
13. 人材問題をテーマとした展示会
14. その他()
15. 特になし
16. わからない

問28 次の○から⑨にあげる考え方について、あなたはどうかと思われるか。直感で○をつけてください。(①~⑨について○はそれぞれ1つ)

強く思う	思う	どちらでもない	思わない	全く思わない	わからない
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6

男女共同参画についておたずねします。

◆男女共同参画とは？

男女共同参画とは、社会のあらゆる分野に女性と男性が共に参画する機会が保障され、すべての人が、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができることともに、責任を分かち合うことを言います。

問29 日常的な家事・仕事などの役割分担についておたずねします。

「A. 理想」は全員の方がお答えください。
 「B. 現状」は配偶者(法律上の婚姻は問いません)のいる方のみお答えください。また、子育て、高齢者の介護に関する項目は、該当する方のみお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	A. 理想(全貴回答)		B. 現状(該当する方のみ回答)	
	主に夫がやる	主に妻がやる	主に夫がやる	主に妻がやる
①生涯学習の確保	1	2	3	4
②家事・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4
③近所とのつきあい	1	2	3	4
④子育て	1	2	3	4
⑤高齢者の介護	1	2	3	4

問30 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に賛成しますか。(○は1つ)

1. 賛成する
2. どちらかといえば賛成する
3. どちらかといえば賛成しない
4. 賛成しない

問31 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」という考え方がありますが、あなたは、この考え方に賛成しますか。(○は1つ)

1. 賛成する
2. どちらかといえば賛成する
3. どちらかといえば賛成しない
4. 賛成しない

問32 あなたが問30と問31で回答したお考えになったと思われる理由をお答えください。(○は2つまで)

1. 親や祖父母から言われたから
2. 配偶者やその親がそのような考えだから
3. 学校で教わったから
4. 職場(の人)がそのような考えだから
5. 知人・友人がそのような考えだから
6. 新聞・テレビ・インターネットなどメディアの影響
7. 行政の講座、イベント、研修
8. 生活しやむをえないから
9. その他(具体的に)
10. わからない

問33 あなたは、今の日本社会を見た場合、男性と女性の地位は平等になっているかと思いませんか。
(○はそれぞれ1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が非常に優遇されている	わからない
①学校教育では	1	2	3	4	5
②雇用の機会や職場での賃金・待遇では	1	2	3	4	5
③家庭生活では	1	2	3	4	5
④地域、ボランティア活動では	1	2	3	4	5
⑤社長の慣習やしきたりでは	1	2	3	4	5
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5
⑦政治(政策決定)・経営活動の場では	1	2	3	4	5
⑧全体として、男女の地位は	1	2	3	4	5

問34 あなたは、一般的に女性が仕事をもちことについて、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

1. 女性は仕事をもちない方がよい
2. 結婚するまでは、仕事をもち方がよい
3. 子どもができるまでは、仕事をもち方がよい
4. ずっと仕事を続ける方がよい
5. 子どもができたら仕事をやめ、大きくならなければ仕事をもち方がよい
6. その他(具体的に)
7. わからない

問35 生活の中での「仕事」と「家庭生活や地域活動」の優先度について、あなたの希望と現状に最も近いものをお答えください。(○はA列とB列とそれぞれ1つ)

	A 希望	B 現状
①「仕事」を優先している	1	1
②どちらかといえば「仕事」を優先している	2	2
③「仕事」と「家庭生活や地域活動」のパラバランスをうまくとっている	3	3
④どちらかといえば「家庭生活や地域活動」を優先している	4	4
⑤「家庭生活や地域活動」を優先している	5	5
⑥わからない	6	6

問36 小学校入学前のお子さんがいる方におうかがいします。
育児に關わる時間は、週平均で1日どれくらいですか。(○は1つ)

1. 30分未満
2. 30分以上1時間未満
3. 1時間以上2時間未満
4. 2時間以上3時間未満
5. 3時間以上

問37 育児、収入をもとめな仕事をしている方におうかがいします。
現在就業も兼ねて通あたり何時間くらい仕事をしていますか。(○は1つ)
※通あたりの目安：1日8時間、週5日勤務の方で40時間勤務となります。

1. 20時間未満
2. 20時間以上30時間未満
3. 30時間以上40時間未満
4. 40時間以上50時間未満
5. 50時間以上60時間未満
6. 60時間以上

問38 育児、介護、介護作業を取るとしたら、どうするのがよいと思いませんか。あなたの考えに1番近いものをお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	A 育児	B 介護
①夫のみ取る方がよい	1	1
②どちらかといえば夫が取る方がよい	2	2
③妻のみ取る方がよい	3	3
④どちらかといえば妻が取る方がよい	4	4
⑤夫も妻も取る方がよい	5	5
⑥夫の親族は夫が、妻の親族は妻が取る方がよい	6	6
⑦介護を受けるものと同性のものが取る方がよい	7	7
⑧その他()	8	8

問39 男性が育児、介護、介護作業を取ることについてどう思いますか。
「2. 賛成だが現実的には難しいと思う」「3. 反対」は理由もご記入ください。
(○は1つ)

1. 賛成
2. 賛成だが現実的には難しいと思う(その理由:)
3. 反対(その理由:)

問40 小学校入学前のお子さんがいる方(本人またはパートナーが妊娠中の方も含む)、または5年以内に介護の必要を懸念している方(いた方)におうかがいします。
あなたは、育児、介護、介護作業を取られましたか。また、その予定はありますか。
(○はそれぞれ1つ)

	取得した/取得する予定	取得していない/取得しない予定
①育児	1	2
②介護	1	2

問40-1 問40で「取得していない/取得しない予定」とお答えの方におうかがいします。
取得しなかった理由について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。
(〇はそれぞれ1つ)

	A 育児休業	B 介護休業
①配偶者(パートナー)が取得した(する)ので	1	1
②収入の少ない男が取るのがよいから	2	2
③育児・介護は、妻が行う男が適しているから	3	3
④育児・介護は、実が行う男が適しているから	4	4
⑤育児・介護休業を取るも昇進に基盤があるから	5	5
⑥職場が育児・介護休業を取る雰囲気ではないから	6	6
⑦仕事に支障がでるから	7	7
⑧職場に育児・介護休業制度がないから	8	8
⑨育児・介護をしたくないから	9	9
⑩育児・介護の仕方がわからないから	10	10
⑪親や祖父母がみてくれるから	11	11
⑫その他	12	12

問41 女性が専業主婦や起業、地域活動、地域貢献など様々な活動に参画するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 育児・介護や地域活動などに関する相談の充実
2. 講座など、学習機会の提供・充実
3. 家族の支援
4. 育児に関する支援
5. 介護に関する支援
6. 活動に関する補助金など、金銭的支援
7. 女性の参画に対する理解・支援
8. 女性が専業主婦で参画することはあまり多いという風潮
9. 女性自身の自立
10. その他()

問42 女性が出産などを理由に離職せず、同じ職場で働きつづけるために、必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 保育所や学童保育(児童くらぶ)など、子どもを預けられる環境の整備
2. 介護支援の充実
3. 育児支援の充実
4. 男性の家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革
5. 女性が働きつづけることへの雇用の理解・意識改革
6. 働きつづけることへの女性自身の意識改革
7. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革
8. 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
9. 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
10. 育児や介護による仕事への理解を理由とした昇進への不利益な取り扱いの禁止
11. その他()
12. 特になし
13. わからない

問43 出産などでいったん離職した女性が、再び社内で活躍する形として、あなたがいいと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

1. これまでの知識・経験を生かして働けるよう、正社員として再就職する
2. 仕事と生活の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する
3. これまでの知識・経験を生かして、かつ働く時間を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
4. 働く時間を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する
5. 自宅で仕事を行う在宅ワークやテレワーク、在宅勤務などで働く
6. 家事・育児・介護の経験を生かし、資格を取って働く
7. これまでの経験を生かしてボランティアや地域活動で地域に貢献する(育児・介護ボランティア、自営会、防災活動、グループ活動など)
8. これまでの経験を生かして企業やNPOの立ち上げを行う(小売店経営、IT企業設立、ボランティア団体設立など)
9. その他()
10. 特になし
11. わからない

問44 あなたは政策や方針決定の場において女性の参画をすすめるには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 女性議員が増えること
2. 男女の比率が偏らないように積極的に女性に参画してもらうこと
3. 市、区、各関係機関、関係などが女性の参画を推進すること
4. 女性の人材に関する情報の収集・整備・提供に努めること
5. 女性自身が自覚し、政策、方針決定の場へ参画できる力をつけること
6. 女性が参画しなくても特に問題はないので、参画する必要はない
7. その他()

問45 男性の育児や介護、地域活動への参加が進んでいないといわれていますが、男性がそれらに関わるためには、何が有効だと思いますか。有効だと思うものをすべてお答えください。(〇はいくつでも)

1. 男性も育児や地域活動に参加するはあたりまえという風潮をつくる
2. 男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する
3. 長時間労働を抑制する
4. 男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座を開催する
5. 男性同士が交流できる場・機会を提供する
6. 男性が地域活動に積極的に参加できるように支援する
7. 男性のための相談体制の充実を図る
8. 男性が仕事をもち、経済力を高める
9. その他()

セクハラ・DV (配偶者・恋人などからの暴力) についておたずねします。

◆セクシュアル・ハラスメント (セクハラ・性的いやがらせ) とは？

職場、学校、地域活動などにおいて、相手の意に反して強制的に性的な言動や行動を強要することにより、仕事などをしていくうえで、一定の不利益を与えたり、環境を悪化させたりすることを言います。

(立ち入った質問になりますが、調査へのご協力をお願いいたします。)

※この調査は無記名で実施しており、個人が特定されることは一切ございません。

問46 あなた自身や周りの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。
(○はい、それだけ 1つ)

	ある	ない
①自分自身	1	2
②友だちや職場の仲間など、自分の周りの人	1	2

問47 あなたは、次のようなことが配偶者間や交際相手間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。(○はい、それだけ 1つ)

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたることは思わない
①互手で打つ	1	2	3
②笑聲でどなる	1	2	3
③いやがっているのに強引に行為を強要する	1	2	3
④誰のおかげで生活しているかと思っているのか、口を悪くする、罵倒などと言う	1	2	3
⑤交友関係や電話を細かく監視、制限する	1	2	3

問48 あなたは、配偶者や交際相手から次にあげるような暴力を1つでも受けたことがありますか。(○はい、それだけ 1つ)

	何度もあった	1、2度あった	ない
①なぐる、けるなどの身体的暴力	1	2	3
②のしる、おどすなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神虐待	1	2	3
③性行為の強要、嫌いな相手と性交渉を強要するなどの性的暴力	1	2	3
④生活費を渡さない、仕事に就くことを禁じるなどの経済的暴力	1	2	3
⑤実家や友人とのつきあいや某々の行動を監視、制限する社会的暴力	1	2	3

問48-1 問48で「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におうかがいします。
暴力があった時点であなたと相手との関係を改善してください。(○はい、それでも)

1. 配偶者
2. 元配偶者
3. 交際相手
4. 元交際相手

問48-2 問48で「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におうかがいします。
暴力を受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○はい、それでも)

1. 伊丹市配偶者暴力相談支援センター (伊丹市DV相談室)
2. 元の配偶者暴力相談支援センター
3. 女性のなやみ相談、安産のためのカウンセリング、安産のための法律相談など
4. 市役所の相談窓口
5. 警察
6. 法務局・地方公務局、労働委員会
7. 民間の専門家や専門機関 (弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)
8. 医療関係者 (医師、看護師など)
9. 学校関係者 (教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)
10. 民生委員・児童委員
11. 家族や親戚
12. 友人、知人
13. その他 (具体的に)
14. どこ (だれ) にも相談しなかった → 問48-3へ

問48-3 問48-2で「どこ (だれ) にも相談しなかった」とお答えの方におうかがいします。
あなたがどこにも相談しなかったのはなぜですか。(○はい、それでも)

1. どこに (誰に) 相談したらよいかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると伝達しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
5. 自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った
6. 相談先の担当者の言動により不快な思いをされた
7. 誰か体が悪い
8. 他人を巻き込みたくない
9. そのことについて悪い出しにくい
10. 自分にも悪いところがある
11. 相談するほどのことではないと思った
12. その他 (具体的に)

問49 あなたの周囲 (知人、近隣、被害者) で、問48であげているような暴力が起きているのを見た、聞いたことがありますか。(○はい、1つ)

1. ある
2. ない

問50 あなたは、被害者や加害者などからの暴力の防止や被害者支援のために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 被害を受け、悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実させる
2. 暴力の早期発見・対応に向けた地域におけるネットワークの構築と啓発の実施を図る
3. 危機対応制度などの法的支援の情報提供や手続などの支援を行う
4. 被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実させる
5. 避難した被害者の移動先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する
6. 被害者が任意で滞在を確保できるように支援する
7. 生活費などの資材・給付制度を設ける
8. 被害者の心身の回復のためのカウンセリング事業を充実させる
9. 被害者の自立を自覚し、被害支援を充実させる
10. 家庭や地域、職場において、男女共同参画社会の推進に向けた啓発や積極的に行う
11. 学校などで人権や、デートDV防止、性に関する教育を充実させる
12. メディアなどで暴力シミュレーションの露出をひかえる
13. 加害者更生のための有効な方策を研究する
14. その他(具体的に)
15. 他にない



伊丹市マスコット たみまる

問51 あなたは、次のような言葉や名称についてご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

内容	知っている	知っているが詳しくない	知らない	
①伊丹市男女共同参画計画	1	2	3	4
②伊丹市産調音等からの暴力対策基本計画	1	2	3	4
③伊丹市入籍被害・啓発推進に関する基本方針	1	2	3	4
④伊丹市男女共同参画施策市民オンブード	1	2	3	4
⑤男女共同参画センター、ここいろ	1	2	3	4
⑥伊丹市立入籍啓発センター、ふらつと	1	2	3	4
⑦伊丹市DV相談室(伊丹市産調音暴力相談支援センター)	1	2	3	4
⑧男女共同参画推進事業所(伊丹市)	1	2	3	4
⑨本人通知制度	1	2	3	4
⑩伊丹市同性パートナーシップ宣誓制度	1	2	3	4
⑪女性差別撤廃条約	1	2	3	4
⑫男女共同参画法	1	2	3	4
⑬育児・介護休業法	1	2	3	4
⑭男女共同参画社会	1	2	3	4
⑮ホジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3	4
⑯女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3	4
⑰仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	1	2	3	4
⑱ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3	4
⑳デートDV	1	2	3	4
㉑セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)	1	2	3	4
㉒リアロダクティブ・ヘルズ/ハラスメント(セクハラ)	1	2	3	4
㉓ジェンダー(性役割・文化的に形成された性別)	1	2	3	4

※リアロダクティブ・ヘルズ/ハラスメント：子どもの親、出産前編、出産する時節を、自らの意思で決定するなど、性と生殖に関する権利・権利のこと

問52 入籍・男女共同参画の実績に向けて今後、市が特に力を入れるべきだと感じるものをお答えください。(〇はいくつでも)

1. 学校で男女の性別にとらわれない教育や進路指導をする
2. 学校などにおける入籍教育を充実させる
3. 学校などにおける多様性を認め合う教育を充実させる
4. さまざまな団体を活用して、広範・段階を踏んで(具体的に)
5. 採用・昇進・賞与など、職務での実質的な男女平等を進めるように企業や事業主に啓発する
6. 地域・商店・祭典・祭典への出前講座を実施する
7. 入籍・男女共同参画に関する講座やイベントを充実させる
8. 児童虐待や高齢者虐待、障害者虐待防止に向けた啓発を充実する
9. 入籍講座をかねて入籍者の交流の機会を設ける
10. 入籍・男女共同参画に関する制度・施設を充実させる
11. 育児・保育・介護に関する制度・施設を充実させる
12. 入籍問題に対する各種相談を充実させる
13. 公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進する
14. 市職員などの入籍・男女共同参画意識の向上を図る
15. 市の政策・福祉施策の場への多様な立場からの参画を推進する
16. 入籍・男女共同参画の推進に向け、市が率先した取り組みを行う
17. その他(具体的に)
18. ()



あなたご自身のことについておたずねします。

- F 1 あなたの自認する性別は。(〇は1つ) ※継続上必要ですのでおたずねしています。
1. 男性
 2. 女性
 3. その他(または答えたくない)
- F 2 あなたの年齢は。(2020年8月末現在) (〇は1つ)
1. 15～19歳
 2. 20～29歳
 3. 30～39歳
 4. 40～49歳
 5. 50～59歳
 6. 60～69歳
 7. 70歳以上
- F 3 あなたは、結婚(法律上の婚姻は問わない)していますか。(〇は1つ)
1. 未婚・非婚
 2. 既婚
 3. 既婚(離別・死別)
- F 4 あなたのご家族(同居)の構成は次のどれですか。(〇は1つ)
1. 単身(一人暮らし)
 2. 夫婦・パートナーのみ
 3. 2世代家族(親と子)
 4. 3世代家族(祖と子と孫、親と子と孫と子と孫など)
 5. その他()
- F 5 中学生以下のお子さん(同居)がいますか。いる場合、一番年齢のお子さん(〇は1つ)にあてはまりますか。(〇は1つ)
1. いない
 2. 乳幼児(小学生未満)
 3. 小学生
 4. 中学生
- F 6 あなたを含めて、同居家族に65歳以上の方がいますか。(〇は1つ)
1. いる
 2. いない
- F 7 あなたの現在の職業に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)
1. 勤め人(労働・フルタイム)
 2. 自営業、農業などの自営業
 3. 派遣業、派遣士などの専門的職業
 4. 勤め人(パートタイム、アルバイト)
 5. 派遣社員
 6. 内職などの家庭内請負業
 7. 家事専業
 8. 学生(受験勉強中の方も含む)
 9. その他(具体的に)
 10. 無職(7、8以外)

F 8 現在働いている方におうかがいします。
あなたが働いているのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 言語の維持
2. 家語の補助
3. 住宅ローンなど借入金返済
4. 子どもの教育資金
5. 将来に備えての貯蓄
6. 自分で自由に使えるお金を得る
7. 生きがい
8. 自分の能力や資格を生かす
9. 視野を広げ、収入を得る
10. 社会への貢献
11. 働くことが当然
12. 商間に余裕がある
13. 家業である
14. その他(具体的に)
15. わからない

F 9 現在働いていない方におうかがいします。
あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 経済的に働く必要がない
2. 他にやりたいことがある
3. 家庭にいたるのが当たり前
4. 家事負担が大きい
5. 子育て中
6. 病気
7. 希望の職が見つからない
8. 家族が働くことを望まない
9. 家族の介護
10. 在学中
11. 高齢である
12. 働くことに向いていない
13. 働きたいが、荷をしただけでいいかわからない
14. その他(具体的に)
15. わからない

F 10 配偶者・パートナーがいる方におうかがいします。
あなたの配偶者の現在の職業に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

1. 勤め先(常勤・フルタイム)
2. 自営業・農業などの自営業
3. 執筆業・弁護士などの専門的職業
4. 勤め先(パートタイム、アルバイト)
5. 派遣社員
6. 内職などの家庭内請負業
7. 家事専業
8. 学生(受験勉強中の方も含む)
9. その他(具体的に)
10. 無職(7、8以外)

○ 入籍・男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
記入もれがないか、もう一度確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、封をして、
切手を貼らずに11月12日(木)までにポストにご投函ください。

令和2（2020）年度伊丹市人権・男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

発行 伊丹市市民自治部共生推進室同和・人権推進課
〒664-8503 伊丹市千僧1丁目1番地
電話 072-784-8077（直通）

令和3年（2021年）2月

